

日本国憲法

大嶽 浩

【授業の概要】

日本国憲法について、その成立の事情や明治憲法との比較を通じ、現行憲法の内容と主要な問題点を講義する。憲法問題における具体的事例にもふれる。

【授業計画】

1. 憲法と理想
2. 憲法と法律
3. 憲法と憲法典
4. 国民の司法参加
5. 憲法の最高法規性
6. 憲法の改正

【評価方法】

試験とレポートによる評価。

【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

民主主義と人権

初谷良彦

【授業の概要】

民主主義の根本原則は人権（人間としての権利）の尊重にある。人権の理想と実現が民主主義のあり方と人間の生き方に大きく影響する。民主主義の制度と仕組みについて、人権を保障する法律やその実態にふれながら、現代の課題として講義する。

【授業計画】

- 第1～2回 近代民主主義の思想と制度
- 第3～4回 民主主義と選挙制度
- 第5～6回 民主主義の諸問題
- 第7～8回 民主主義と議会制
- 第9～10回 死刑制度の運用（罪、罰、人権、国家）
- 第11～12回 高齢者の人権と障害者の人権
- 第13回 障害者の国務請求権
- 第14回 21世紀の平和と民主主義をめざして

【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

概説 デモクラシーと国家（初谷良彦他 成文堂）

【参考文献・資料】

講義の際、随時紹介する。

日本国憲法

初谷良彦

【授業の概要】

法と国家は人間のためにある。憲法は、このような法の目的と国家の責務を明らかにしようとするものである。なるべく具体的な現実の問題と関連させて説明したり、裁判例などにも触れ、憲法はわれわれの生活の中に入り込んでいる身近な、確かな存在であることを実感できるようにしたい。

【授業計画】

- 第1回 日本国憲法制定の経緯
- 第2回 プライバシー権
- 第3～4回 自己決定権
- 第5～6回 法の下での平等
- 第7～8回 信教の自由と政教分離
- 第9～10回 情報公開、言論・出版の自由、報道の自由
- 第11～12回 生存権、教育権、労働基本権
- 第13回 国会・内閣
- 第14回 裁判所
- 第15回 地方分権

【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

憲法講義 I（第2版）（初谷良彦著 成文堂）

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

民主主義と人権

本秀紀

【授業の概要】

日本国憲法は民主主義と人権を保障しているが、その制度と仕組みについて、人権を守る法律やその実態にふれながら、現代の課題として講義する。

【授業計画】

新聞報道などから、できるかぎり身近で具体的な素材を取り上げつつ、まずは現実を知り、その上で諸問題への対応を考える力を養う。

基本的には講義形式で行うが、受講生の問題関心を高めるため、適宜質疑をしたり、ビデオを観る予定である。

授業内容は現在のところ、以下の項目から適宜選択する予定だが、そのときどきのトピックによって変更もありうる。

- 1 はじめに：「民主主義と人権」って？
- 2 企業社会と人権：過労死、育児休業、労働者差別
- 3 女性と人権：ドメスティック・ヴァイオレンス、労働と女性差別
- 4 マスメディアと人権：プライバシー侵害、メディア規制立法
- 5 子どもと人権：校則・体罰、少年法、いじめ・体罰・児童虐待
- 6 医療と人権：インフォームド・コンセント、安楽死・尊厳死、代理出産
- 7 外国人と人権：参政権、出入国管理、外国人差別、難民問題
- 8 ゴミ問題と民主主義：廃棄物処分場と環境、住民投票
- 9 政治の仕組みと民主主義：選挙制度、国会・内閣、憲法改正

【評価方法】

学期末の筆記試験（受講者数によってはレポート）を基本とし、ビデオへの感想などを加味する。

【参考文献・資料】

テキストブック現代の人権〔第3版〕（川人博編著 日本評論社 2004年刊行予定）
人権ウォッチング（前田朗 凱風社 2000年）
ハンドブック国際化のなかの人権問題〔第3版〕（上田正昭編 明石書店 2002年）
それぞれの人権〔第2版〕（憲法教育研究会編 法律文化社 2002年）
など。なお、必要に応じて、講義の際に資料・レジュメ等を配布する。

哲学的人間論

高畑祐人

【授業の概要】

東西の著名な哲学者の古典的な哲学論にふれながら、現代社会がかかえる諸課題についていかに対応し、対処すべきかについて講義をする。

【授業計画】

今日の環境問題や生命・医療をめぐる問題は、われわれの自然への関わり方の問題でもある。自然への関わり方（実践）は「自然」の捉え方（理論）によって規定されている。自然の捉え方から、自然を捉えている人間自身のあり方を照らし出すことが出来る。そこで、この講義では西洋哲学の歴史の中の主な哲学者の思想を「自然」の概念を手がかりにして通覧する。

1. 神話的自然観—ギリシャ神話におけるプロメテウス—
2. ソクラテス以前の自然哲学
3. ソフィストとソクラテス
4. プラトン
5. アリストテレス
6. デカルト
7. カント
8. 進化論的自然観
9. エコロジー的自然観

【評価方法】

学期末の筆記試験あるいはレポート、授業への参加態度などで総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

西洋哲学史上・下（シュベグラー 岩波文庫）
野生の歌が聞こえる（レオポルド 講談社学術文庫）
エマソン論文集 上（エマソン 岩波文庫）

生命倫理学

加藤太喜子

【授業の概要】

現代医学の進歩と発達によって、今や人間の生命の誕生と死は医学よりも倫理の問題になりつつある。「生命」を倫理や哲学の面から講義する。

【授業計画】

次の主な項目に従って授業を展開する。

1. 生命倫理学の成り立ち
2. インフォームド・コンセント
3. 脳死と移植医療
4. 生殖医療
5. 代理母
6. 人工妊娠中絶
7. 出生前診断
8. 優生思想とは
9. よりよい自己決定に向けて

【評価方法】

レポート及び期末に行う筆記試験により評価する。

【テキスト】

授業中に指示する

【参考文献・資料】

優生学と人間社会（米本昌平他著 講談社現代新書）
クローン人間（粥川準二著 光文社新書）

宗教的人間論

梅村敏郎

【授業の概要】

世界には数多くの宗教があるが、現在、さまざまな問題を起こしている。宗教の持つ本来の役割と意味について、人間の生きざまという観点から講義する。

【授業計画】

- 1 神の「似姿」としての人間
- 2 人間と世界との関わり
- 3 礼拝と祈り—シナゴグ、教会、モスク
- 4 人類共同体
- 5 信仰と「倫理徳」
- 6 神による人間の「救済」

【評価方法】

評価方法は、履修者数がおおよそ判明した段階で決めるため、第1回目の授業で発表する。出席率は成績には反映させない。

【テキスト】

教科書は使用しない。

【参考文献・資料】

参考書・資料等は授業中に適宜紹介する。

現代社会と倫理

大野波矢登

【授業の概要】

民主主義社会と自由主義社会は人々に多くの権利を保障しているが、それは人々がモラルや義務を守ることを前提としている。現代社会の守るべき倫理と課題について講義する。

【授業計画】

授業はおもに講義形式で行なう。

1. 倫理的視点から見た現代の社会問題
2. 倫理学の概念と理論に関する若干の考察
3. 倫理学理論の応用（道徳的意思決定の方法）
4. 社会の安全性と科学技術者の責任
5. 環境倫理の主張
6. インターネット時代の倫理
7. 内部告発と社会の浄化

【評価方法】

期末試験と小レポート（3、4回授業時に書いてもらう予定）の成績によって評価する。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献・資料】

入門講義 倫理学の視座（新田孝彦著 世界思想社）
先端技術と人間 21世紀の生命・情報・環境
（加藤尚武著 NHKライブラリー）
環境と倫理 自然と人間の共生を求めて（加藤尚武編 有斐閣アルマ）

ジェンダーと社会Ⅰ

國信潤子 星山幸子 佐藤光 林かぐみ 生江明

【授業の概要】

この講義は、まずジェンダーとは何かについて解説し、それらが日本社会において、また開発途上国においてどのように現象化しているかを紹介するオムニバス講座である。4名の開発協力の現場で活躍する講師によって日本、フィリピン、トルコ、バングラデシュ、ネパールなどでの現場の開発協力活動を基礎にジェンダー関係の多様性を紹介する。

持続可能な開発、基本的生活ニーズの確保、参加型開発、地域住民の意識化など、近年の開発論の理論的展開をもとにジェンダー関係の変容を考察する。

【授業計画】

まず、本講座のコーディネーターである國信（本学教授）がジェンダーとは何か、日本社会におけるジェンダー関係の実態、国際開発におけるジェンダー視点の展開について講じる。次に生江明（日本福祉大学教授）による国際統計にみるジェンダー格差の意味を参加型小グループ討議で読み取り、発表、討議する。第三番目の講師は星山幸子（金城学院大学教授）によってトルコ南東部アナトリア地方の綿摘み女性労働者の生活実態とイスラム農村社会にみるジェンダー規範を紹介する。第四番目の講師はアジア保健研修所（AHI）の佐藤光医師および、林かぐみ研究員によって愛知県日進市にある国際的なNGOであるAHIの活動、つまりアジア諸国で実施されている保健リーダーの参加型学習による医療・保健、ジェンダー平等化の促進活動を紹介します。

各講師が3・4回ずつ講義を行うリレー講義である。大半は講義形式である。必要に応じて、小グループ討議、ビデオ視聴なども取り入れる。

【評価方法】

期末レポート、出席状況、履修態度、感想カード内容などの総合評価による。

【テキスト】

資料配布

【参考文献・資料】

開発とジェンダー（田中他 国際開発事業団出版 刊 2001年）

女性学・男性学

井深淳子

【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって生まれた役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、事例や理論を紹介して講義する。

【授業計画】

- 第1回 はじめに
- 第2～5回 家族・結婚
- 第6～9回 子育て
- 第10～11回 現代の病巣
- 第12～13回 女性が働き続けること

【評価方法】

期末試験、講義時に行う課題や、受講態度等、総合的に評価する。

【テキスト】

女性学への招待〔新版〕（井上輝子著 有斐閣）
テキストとともに、講義中に適宜配布する関連資料を用いてすすめる。

ジェンダーと社会Ⅱ

中島美幸 山下智恵子

【授業の概要】

ジェンダーの観点から文学作品を分析することによって、〈女/男〉の規範がどのようにテキストにおりこまれていたかを読み解き、さらにテキストがどれほど現実の女と男の生と性を規定してきたかを検証する。（オムニバス方式）

（中島美幸兼任講師）「女性の表現」の観点から日本文学を歴史的に跡づける。特に近代以降の女性表現については外国の女性文学と比較しつつ読み解いていく。
（山下智恵子兼任講師）現代の文学作品を中心に、家族、母娘などの人間関係を、ジェンダーの視点から検証する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 〈ことば〉とジェンダー
 - 第3回 〈書く女〉の登場（1）
 - 第4回 〈書く女〉の登場（2）
 - 第5回 女性を描く男性作家のまなざし（1）
 - 第6回 女性を描く男性作家のまなざし（2）
 - 第7回 母と娘の物語（1）
 - 第8回 母と娘の物語（2）
 - 第9回 家族の物語
 - 第10回 文学の政治性
 - 第11回 文学と映像文化
 - 第12回 まとめ
- *内2回は山下智恵子担当。他は中島美幸担当。

【評価方法】

出席状況、毎回の感想、学期末のレポートを総合して評価する。

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

女性学・男性学

中村 正

【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって生まれた役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、事例や理論を紹介して講義する。

【授業計画】

- 一日3コマを4日間にわたりおこなう。担当者の専門が社会病理学・臨床社会学・男性研究なので、そうした領域での主題をとりあげることが多い。
- 第1日目 男性学研究の背景・現実・課題
ー日本社会の現実とかがわってー
 - 第2日目 男性学研究の方法・内容・理論
ー国際的な研究動向ともかがわってー
 - 第3日目 男性学研究の応用・展開
ードメスティック・バイオレンス問題を素材にー
 - 第4日目 ジェンダー研究と男性学研究の今後（最終コマにレポート）

【評価方法】

最終日のレポートで評価する。

【テキスト】

第1日目のテーマについては、「男らしさ」からの自由（中村 かもがわ出版）、第3日目のテーマについては、ドメスティック・バイオレンスと家族の病理（中村 作品社）。

【参考文献・資料】

講義で配布したり、具体的に紹介したりする。

女性学・男性学

竹信三恵子

【授業の概要】

男女についての定説化した知識やその内面化が日本の戦後の経済政策や働き方に及ぼした影響を、新聞記者としての体験やマスメディアの検証から明らかにし、これらが産んだ社会病理をどう克服するかを考える。

【授業計画】

下記テキスト、当日配布の記事の切り抜きなどの資料、ビデオを利用しつつ、グループ討議も交えて講義する。

1. 戦後経済政策を男女分業はどう支えたか（前半）～高度経済成長から男女雇用機会均等法
2. 戦後経済政策を男女分業はどう支えたか（後半）～バブル経済の崩壊から男女共同参画社会基本法
3. 男女分業主義の浸透とマスメディアの役割～戦後経済政策の背骨となった男女分業主義に新聞報道はどう関わったかを検証。
4. 戦後の男女分業の乗り越え～マスメディア報道からは見えにくい現実の男女関係の変化とこれに見合った新しい働き方の展望。

【評価方法】

出席状況と簡単なレポートなどによる。

【テキスト】

『家事』の値段とは何か
(久場嬉子・竹信三恵子著 岩波ブックレット 1999年)

【参考文献・資料】

ジェンダーから見た新聞のうら・おもて～新聞女性学入門 (田中和子・諸橋泰樹著 現代書館 1996年)、ワークシェアリングの実像～雇用の分配か、分断か (竹信三恵子著 岩波書店 2003年)

大衆文化論

鈴木 互

【授業の概要】

現在は大衆化社会と言われ、文化にもまた大衆に愛され、大衆に浸透したものが社会で高い地位を占めている。大衆化社会の中で流行しているさまざまな文化について考察し講義する。

【授業計画】

記号空間論に基づいて、自然・身体・言語・制度の観点から大衆文化についてアプローチしたい。

- 1 自然：野球、パチンコなど。
- 2 身体：舞踊、ライブ、ロックなど。
- 3 言語：コマーシャル、落語、漫才、小説、マンガ、メールなど。
- 4 制度：演劇、映画、ゲームなど。

なお、最初に記号分析に慣れるために、コマーシャルの分析から始めたい。

【評価方法】

出席、受講態度、提出物によって総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

必要に応じて、授業中に指示する。

暮らしの法律

辻田芳幸

【授業の概要】

日本は法治国家であり、したがって国家は法律によって運営され、身近な生活も法によって守られている。本講義では日常生活の中で法律がどのように働いているか、具体例をあげて講義する。

【授業計画】

- 第1回 導入
- 第2回 Web上の著作物利用と著作権
- 第3回 Webへの写真掲載と肖像権
- 第4回 インターネット上の名誉毀損(1)
- 第5回 インターネット上の名誉毀損(2)
- 第6回 オンラインショッピングと契約法(1)
- 第7回 オンラインショッピングと契約法(2)
- 第8回 インターネット犯罪(1)
- 第9回 インターネット犯罪(2)
- 第10～12回 その他の問題点

【評価方法】

出席状況、試験の結果などを総合的に考慮する

文化人類学

三木 誠

【授業の概要】

人間は無意識のうちに自然に生れ育った文化からさまざまな影響を受けている。世界中の社会に見られるさまざまな文化的事象を、できるだけ多くの事例をあげて講義する。

【授業計画】

以下のようなテーマで講義を行う。それぞれのテーマを総合的に理解するのに不可欠な概念や用語の解説と、テキスト、プリント等を利用した事例研究が主になる。異文化に対する興味や好奇心を喚起するためにVTR資料なども活用する。

1. 文化
2. 性別と社会
3. 婚姻と家族
4. 交換と人間関係
5. 宗教と信仰
6. 民族と国家

【評価方法】

定期試験により評価する。ノートは持ち込み可とする。

【テキスト】

指定せず。

【参考文献・資料】

興味を持った学生にはそのつど指示する。

文化人類学

水口千里

【授業の概要】

人間の生活や行動様式は、帰属する社会の固有の文化から多くの影響を受けている。本講義では、さまざまな分野にわたる国内外の事例を取り上げ、その文化的背景を学ぶ。

【授業計画】

講義形式による。デジタル画像、VTRなど視聴覚教材を併用する。時間中に適宜プリントを配布する。

1. 概論 文化人類学の調査、研究方法
2. 精神文化をひも解く
(異界からのメッセージ/願い・占い・おまじない/幽霊と妖怪)
3. 食文化を読む
(飲酒の意味/宴会の型/外食の発展/行事食のあり方)
4. 贈答文化を探る
(ギフトとプレゼント/贈与交換)
5. 海外の日本文化を知る
(外国人が見たニッポン/ヨーロッパの博物館の日本コレクション)
6. 総論 異文化理解と自文化理解

【評価方法】

おもに単位認定試験(論述形式)で評価する。講義時間中に小レポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない

【参考文献・資料】

参考文献リストを講義時間中に配布する

比較文化論

星山幸子

【授業の概要】

国際化が進み、世界の異文化が日本に入り、日本の文化も世界に伝わるようになった。世界の文化の特徴をあげ、日本の文化との比較を考察しながら、異文化交流についても講義する。

とくに、イスラームの文化を事例として取り上げ、異文化に対する視座について検証する。この授業をととして、多様な文化や価値観を学ぶことにより自分自身の社会や文化を見つめ直すことを目標とする。

【授業計画】

1. 文化と文明
2. 文化の理解
3. 民族と国家と文化
4. 南北問題と発展途上国の文化
5. 人の移動と異文化接触
6. イスラームの文化
7. イスラームとジェンダー
8. 文化摩擦と国際問題
9. 中央アジアの人びと
10. トルコの人びとの暮らしと文化
11. 日本社会における異文化交流

【評価方法】

出席、授業中の提出物、討論と質疑応答 30%
期末レポート 70%

【テキスト】

テキストは使用しない。授業中にプリント等を配布する。

【参考文献・資料】

授業のなかで参考文献リストを配布する。また、ビデオなどの視聴覚資料を使用する。

比較文化論

文 嬉眞

【授業の概要】

国際化が進み、世界の異文化が日本に入り、日本の文化も世界に伝わるようになった。世界の文化の特徴をあげ、日本の文化との比較を考察しながら、異文化交流についても講義する。

【授業計画】

本講義では、主に「日本の文化」に焦点を当て考えることにする。特に、外国人(見る側)が日本という異文化(見られる側の文化)と直接接触した際、どのように評価(表現方法)・認識したかを考察し、その考察からなぜそのような評価・認識があらわれるかを分析する。そして、得られた分析によって外国人(見る側)がもつ「文化」を再分析する。すなわち、外国人(見る側)が「異文化」(見られる側の文化)を見るまなざしに関して考察することによって、自文化(見る側の文化)を再認識するだろう。

1. 異文化との理解・誤解に関する一般的な概論
2. 異文化交流史における本講義の位置付け
3. 前近代の外国人(見る側)における「日本認識」および外国人(見る側)がもつ「文化」に関する考察
4. 近・現代の外国人(見る側)における「日本認識」および外国人(見る側)がもつ「文化」に関する考察
5. 異文化としての「日本文化論」

【評価方法】

1. 出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50%を評価する。
2. 学期末レポートで残る50%を評価する。

【テキスト】

講義の中で随時、配布する。(必ず事前に読んでおくこと)

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

国際政治論

草間秀三郎

【授業の概要】

前半では冷戦終結後の国際政治の特徴と課題を検討していく。唯一の超大国となったアメリカの新しい外交・経済・軍事政策を分析し、新世紀における役割を展望する。後半では国連の組織と活動、EUとASEANという地域国際協力機関を比較的に分析し、最後にグローバル化と「人間の安全保障」の諸問題も検討する。

【授業計画】

1. 21世紀初頭の国際政治—特徴と課題—
2. アメリカの新しい外交・経済・軍事政策
3. 冷戦終結と激動の世界
4. 同時多発テロと対アフガン・イラク戦争
5. ベトナム戦争後のアメリカ外交
6. 現代アメリカ政治外交の源流
7. 国連の組織と活動
8. 国連平和維持活動(PKO)
9. 欧州連合(EU)と東南アジア諸国連合(ASEAN) — (1) —
10. 欧州連合(EU)と東南アジア諸国連合(ASEAN) — (2) —
11. グローバル化の諸問題
12. ロシア型と中国型
13. 「人間の安全保障」—国連と日本の対応—

【評価方法】

期末試験により評価する。出席を重視する。

【テキスト】

世紀転換期の国際政治史(福田茂夫他 ミネルヴァ書房)

【参考文献・資料】

毎回、テキストの内容に関するレジュメと資料を配布する。

国際政治論

瀬戸裕之

【授業の概要】

国際関係は冷戦時代の東西対決時代から、協力時代へと変化し、グローバル化が進んでいる。しかし、民族・宗教・地域などの対決と紛争は今も絶えない。国際政治の実情を具体的事象にふれながら講義する。

【授業計画】

1. 国際関係の基本概念
2. 国際関係理論
3. 冷戦構造の展開と終焉
4. 国際経済と地域統合
5. 核兵器と安全保障
6. 南北問題と開発
7. 地球環境問題
8. 地域紛争、テロリズム
9. 第二次世界大戦と日本
10. 戦後日本と安全保障
11. 日本の国際協力
12. アジア太平洋のなかの日本

【評価方法】

成績評価は、期末試験（筆記）により行う。出欠は考慮しないが、中間試験を受験しないものは、期末試験の受験資格を失う。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。

【参考文献・資料】

国際関係学講義 新版（原彬久編 有斐閣）

外国の言語と文化1（朝鮮半島）

伊 大辰

【授業の概要】

韓国・朝鮮語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ハングルの文字と発音への関心を高める。朝鮮半島の歴史・文化・風土についても学び、アジアの隣国としての共通性や異質性を理解し、違いを共に生きる認識を深める。

【授業計画】

- 第1回 訓民正音について
- 第2回 ハングルの文字と発音（1）
- 第3回 ハングルの文字と発音（2）
- 第4回 基本的な日常会話（1）
- 第5回 基本的な日常会話（2）
- 第6回 基本的な日常会話（3）
- 第7回 言語と文化（1）－衣・食・住
- 第8回 言語と文化（2）－社会的構造
- 第9回 言語と文化（3）－漢言語比較
- 第10回 朝鮮半島の風土
- 第11回 朝鮮半島の歴史と文化
- 第12回 まとめ－言語表現から見た文化比較

【評価方法】

期末試験とレポート、出席率を加味して評価する。

【テキスト】

プリント教材を使用する。

【参考文献・資料】

韓国（金両基監修 新潮社）
韓国と日本の比較文化論（金漢著 明石書店）

国際交流論

松本一子

【授業の概要】

国際化時代といわれる現代社会は、さまざまな形で国際交流や国際協力が行われている。最近ではNGOやNPOの活躍がめざましい。国際交流の歴史を概観しながら、主として日本に滞在する多くの外国人との異文化接触を通しての国際交流のあり方について講義する。

【授業計画】

1. 国際交流とは
2. 国際交流の歴史
3. 国際交流活動の現状
 - ・自治体と国際交流
 - ・地域の国際化と多文化共生
 - ・地球市民教育
4. 実践国際交流
 - ・国際文化交流と草の根交流
5. 国際交流活動の課題

【評価方法】

レポート及び平常点で評価する

【テキスト】

草の根の国際交流と国際協力（毛受敏浩編著 明石書店 2003年）

【参考文献・資料】

実践国際交流（国際交流基金・大阪国際交流センター編 1997年）

外国の言語と文化2（ドイツ）

藤井たぎる

【授業の概要】

ドイツ語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ドイツ語への関心を高める。ヨーロッパの中でも独特なものを持つドイツの歴史・文化について学び、地理的な位置付けや風土を理解し、違いを共に生きる認識を深める。

【授業計画】

ドイツ・オーストリアの生活文化とその言語。現代のドイツ・オーストリア事情の一端を紹介しながら、ドイツ・オーストリアのいろいろな「顔」を発見してもらおう。具体的には下記のような日常的なテーマをもとに、ドイツ・オーストリアの事情を日本のそれと比較しながら、両者の類似性と差異をみてゆく。また初歩的なドイツ語会話の練習もあわせておこなう。

- 1) ドイツ・オーストリアの風土
- 2) ドイツ・オーストリアの近現代史
- 3) ドイツ・オーストリアのマス・メディア
- 4) ドイツ・オーストリアの衣食住
- 5) ドイツ・オーストリアの消費生活
- 6) ドイツ・オーストリアの芸術文化

講義形式ではあるが、授業中にいろいろ意見を求め、各自の考えるところを発言してもらおう。必要に応じてプリントを配布する。

【評価方法】

筆記試験。

【テキスト】

適宜、プリントを配布する。

外国の言語と文化3 (フランス)

清水ベアトリックス

【授業の概要】

ヨーロッパの文化や近代精神の発祥の地ともいわれるフランスの歴史や文化を学び、地理的な位置付けや風土を理解し、違いを共に生きる認識を深める。

【授業計画】

毎回、担当教員が指定したテキストの章について議論し、テレビや新聞で報道されたフランスに関する時事問題の中で特に学生の関心を引くようなものを選んで、解説したい。

【評価方法】

定期試験を重視するが、宿題(テキストや映画についての感想文)、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

変貌するフランス(西永良成 日本放送出版協会)

外国の言語と文化4 (ロシア)

丹邊文彦

【授業の概要】

ロシア語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ロシア語への関心を高める。ヨーロッパとアジアにまたがるロシアの風土と文化について学び、その歴史や日本とのかかわりなども理解し、違いを共に生きる認識を深める。

【授業計画】

第1回～3回 文字と発音

以下1限に2課の割合で下記教科書を一応通読することを目標に授業をすすめる。1期終了・完結の授業で時間が限定されていることを考慮したものである。したがって練習問題(解答付)は自習に任せ、最小限の文法解説に止めて、本文中心に音読と文字への習熟に重点を注ぐことによって、運用力の土台を養成するのが眼目である。その際付属のCDを活用した予・復習は欠かせない。発音教材の補助としてロシア民謡も紹介し、ロシアの風土・歴史・文化への理解を深める。

【評価方法】

a.朗読 b.聴取り c.ペーパーテスト の総合

【テキスト】

エクспレス ロシア語(桑野隆著 白水社)

【参考文献・資料】

ロシア語のすすめ(講談社現代新書)

外国の言語と文化4 (ロシア)

杉本一直

【授業の概要】

ロシア語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ロシア語への関心を高める。ヨーロッパとアジアにまたがるロシアの風土と文化について学び、その歴史や日本とのかかわりなども理解し、違いを共に生きる認識を深める。

【授業計画】

みなさん、知っていますか?日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができるのは本当に少ないんですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです!「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか?映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしてくださいませ。

初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を覚え、発音を覚え、そのあとは辞書で遊び(?)ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人!

辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。

- キリル文字と発音
- 大きな声であいさつしよう
- 買い物に行ってみよう
- 乗り物に乗ろう
- おなかがいっぱいなら...
- 自分について話してみよう

【評価方法】

定期試験の成績による。

【テキスト】

ロシア語ミニ辞典(白水社)

外国の言語と文化5 (スペイン)

木下まりあ

【授業の概要】

スペイン語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、スペイン語への関心を高める。世界でも屈指の言語圏を持つスペインの歴史と文化的影響について学び、独特の風土について理解し、違いを共に生きる認識を深める。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

- スペイン語とスペイン語圏の世界
- スペインの歴史と文化の特色
- スペイン語のアルファベット、音節、アクセント
- 挨拶、自己紹介の仕方
- 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞
- 形容詞(性数の一致)
- 人称代名詞、serとestar動詞
- 数詞と時刻の表現
- スペイン語の手紙の書き方
- 旅行に役立つスペイン語会話
- まとめ

【評価方法】

筆記試験またはレポートに出席状況を加味して評価。

【テキスト】

授業中に指示。

日本と外国の歴史1 (日本)

岩口和正

【授業の概要】

アジア世界の東辺に位置する日本の歴史は、もっぱら中国や朝鮮半島諸国との交渉の中で展開してきました。にもかかわらず、現代にいたってなお、このような点についての基礎的史実ですら、よく知られていないどころか、しばしば誤解されているのが現実です。そこで、主として、日本国家自身の世界認識と中国や朝鮮半島諸国側からの日本認識とを対比させつつ、東アジア史の一部としての日本史の特徴を考えます。

【授業計画】

- 1) 日本近代のアジア認識 <明治維新と征韓論>
- 2) 朝鮮通信使と朝鮮出兵
- 3) 日本中世における朝鮮半島の交渉
- 4) 蒙古襲来と日本朝廷
- 5) 日宋貿易と平氏政権
- 6) 蕃国としての新羅・渤海
- 7) 大唐皇帝と日本天皇
- 8) 遣隋使と遣唐使
- 9) 日本国家と列島内住民 <蝦夷・卑人>
- 10) 日本古代の世界像

【評価方法】

成績評価は学期末の試験でおこないます。

【テキスト】

使用しません

【参考文献・資料】

授業の中で別途で紹介いたします

日本と外国の歴史3 (東洋)

土屋 洋

【授業の概要】

東洋、特に中国を中心とした東アジア地域やその歴史を概説し、通史を学ぶ。日本は中国や朝鮮半島と歴史的・文化的に関係が深く、相互に影響を強く受けていることについても認識を深めたい。

【授業計画】

1. 期間計画指示・授業内容の説明
2. 歴史学とは何か? : 歴史リテラシーを身につけよう
3. アジアを考えるということ : 日本においてアジアの歴史を学ぶとは?
4. 東アジアの伝統秩序 : 中華帝国という世界
5. 中国近現代史への眼差し : 歴史観の諸相
6. 中国の近代 : 「近代」という時代をどう考えるか?
7. 中国の近代と日本 : 東アジアの近代を日本との関係から考える
8. 日中戦争を考える : 南京事件をめぐる歴史認識の溝
9. 新中国の誕生 : 共産党の政権奪取は日本のおかげ?!
10. 「文革」、「改革開放」、「六四」 : 東西冷戦構造の狭間で
11. 「台湾」という問題
12. 現代中国と日本 : 特に歴史認識をめぐって
13. 21世紀の日本、中国、東アジア

【評価方法】

学期末に課すレポートの内容、ならびに授業で随時課す感想・意見等の提出状況によって評価する。

【テキスト】

基本的に毎回レジュメを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に提示する。

日本と外国の歴史2 (郷土)

秦 達之

【授業の概要】

東海地方が戦国統一の舞台になったのは周知の事実だが、その後の歴史については意外に知られていない。東西の文化を巧みに吸収した近世・近代について、一見地味だが、重要な事件や人物を取上げ、受験時の暗記的歴史から脱皮し、考え、愉しみ、哀しみつつ、生きるための歴史を目指したい。

【授業計画】

一回一話の読み切り、いや、語り切りで、さまざまなテーマ・内容を取上げる。通史ではないので、時代の前後を往き来する。その時代を生きた人びとの鼓動が聞こえてくるようなものにしたいが、果してうまくいきますか、どうか?

内容は、「元禄名古屋の世相」「伊勢湾の漂流民たち」「江戸時代の農民運動」「名古屋とその周辺の山車(だし)」「渡辺華山とその周辺」「お札降りと「ええじゃないか」」「高山における明治維新」「戦争と女性」「モルフィと廃娯運動」「新聞記者・市川房枝」「シーメンス事件と太田三次郎海軍大佐」その他。私自身の研究と共に、他の地道な研究成果も積極的に取上げたい。

こちらで一回毎の史料を用意し、それにもとづいて講義する。必要に応じてビデオ、スライドも使用。出席票に感想を書いて貰い、受講者の声を聞く工夫をしている(受講者もぜひご協力を)。

【評価方法】

出席状況(特に厳しいので注意!)と単位認定試験の成績などによるが、毎時間最後に感想を書いて貰い、参考にしている。

【参考文献・資料】

愛知県の百年(塩沢君夫・斎藤勇・近藤哲生共著 山川出版社)

愛知県の歴史(三鬼清一郎編 山川出版社)

東海・近代へのまなざし(都築亨・大嶋光義編 中部日本教育文化会)

日本と外国の歴史4 (西洋)

北村陽子

【授業の概要】

ヨーロッパ、アメリカ合衆国を中心とした西洋の歴史を概説する。近代以降の日本にも影響を与えた「国民国家」が形成される過程を追い、「国民意識」とは何かについて理解を深める。

【授業計画】

1. はじめに—国民国家とは何か
2. 近代国民アイデンティティ形成の前段階
 - (1) 「個人」の覚醒 : ルネサンス
 - (2) 「他者」の認識 : 大航海時代
 - (3) 普遍性の否定 : 宗教改革
3. イギリスの国民国家
 - (1) イギリス国教会の成立と絶対主義国家
 - (2) 二つの市民革命—「イングランド」から「イギリス」へ
 - (3) バクス・プリタニカー・ジェントルマンが支える「大英帝国」の時代
4. アメリカ合衆国の国民国家
 - (1) 対イギリス独立革命
 - (2) フロントニア開拓時代の「他者」認識
 - (3) 奴隷制と南北戦争
5. フランスの国民国家
 - (1) ルイ14世治下における絶対主義の確立
 - (2) フランス革命とナポレオン
 - (3) 「国民」の創出—「単一にして不可分のフランス」成立
6. ドイツの国民国家
 - (1) 三十年戦争とプロイセン・オーストリアの絶対主義
 - (2) 対ナポレオン解放戦争と諸国民の春
 - (3) ビスマルクによる「ドイツ」統一
7. おわりに—20世紀のナショナリズムと国民国家

【評価方法】

成績評価は、出席と学期末テストにより総合的に行う。

【テキスト】

とくに定めない。

【参考文献・資料】

○国民国家とナショナリズム(谷川稔 山川出版社)

○国民国家を問う(歴史学研究会編 青木書店)

その他講義中に指示する。

地域コミュニティ論

安藤純子

【授業の概要】

現代社会は都市化が進み、地域社会と人々のかかわりが希薄になっている。人々の生活にとって地域社会の果たす役割と問題点について具体例にふれて講義する。

【授業計画】

- 1 イントロダクション
- 2 地域社会の歴史と構造1
- 3 地域社会の歴史と構造2
- 4 コミュニティの概念
- 5 コミュニティの組織論
- 6 地方分権とコミュニティ
- 7 コミュニティとネットワーク1
- 8 コミュニティとネットワーク2
- 9 コミュニティ活動と実践例
- 10 環境・福祉とコミュニティ
- 12 少子・高齢化とコミュニティ
- 13 まとめ

【評価方法】

定期試験と出席率など総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

ビジネスの世界

伊藤義明

【授業の概要】

90年代の「バブルの崩壊」の後遺症である長期にわたる経済の低迷から脱するため日本の企業経営は政府の保護規制から離れ、市場競争をベースとするいわゆるFree, Fair, Globalな経営を構築する新たな時代に入った。

学生諸君が専門課程に進む前段階で理解しておくべき、「新しい市場環境」と「企業活動の実際」及び「社会から評価される企業経営」の基本的なスキームを講義する。

【授業計画】

- 第1講：Introduction；ビジネスモデルによる企業活動の概説
- 第2講：日本の国際競争力（IMDサーベイ他）
- 第3講：制度変革と企業活動
Free, Fair, Global；規制緩和と市場競争；自己責任とリスク管理
- 第4講：企業をとりまく社会システムの変化——金融；IT；環境
- 第5講：企業の組織——会社とは何か？ビジネス（商行為）とは何か？（法的要件）
- 第6講：企業のマネジメント
- 第7講：主要産業の特色——どのように変化に対応してきたか。
- 第8講：マーケットの機能——金融、外国為替、株式の各市場について
- 第9講：経営品質について——社会に評価される企業経営とは？
Malcolm Baldrige National Quality ProgramとISO及び日本経営品質賞
- 第10講：日本経営品質賞基準（その1）リーダーシップと社会的責任
- 第11講：日本経営品質賞基準（その2）市場と顧客の理解；戦略の構築と展開
- 第12講：日本経営品質賞基準（その3）人材；プロセス；情報
- 第13講：第9～12講の総括及びQ & A；テスト

【評価方法】

3回のテストの総合評価

【テキスト】

レジメ 使用

【参考文献・資料】

新聞の経済記事を読むこと

東アジアの生活と文化

楊 衛平

【授業の概要】

日本は東アジアに位置し、歴史的にも東アジアの影響を強く受けている。日本と関係の深い近隣の国を中心にその生活や文化について講義する。

【授業計画】

1. 中国の少数民族の構成
2. 儒教、仏教と道教の相異
3. 中国の年中行事
4. 南北食文化の比較
5. 中医学と西洋医学
6. 気の文化と気功術
7. 飲茶の文化と歴史
8. 伝統武術と映画
9. 少数民族の音楽
10. 少数民族の服装
11. 中国人の姓の色々
12. 中国の名勝物語
13. 中国人と日本人の考え方の相異

【評価方法】

出席状況とレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

中国人・文字・暮らし（李順然 東方書店）
中国仏・道・儒教史話（劉克蘇 河北大学出版社）
中国伝統文化導論（劉栄興 河北大学出版社）

ビジネスの世界

小池弘道

【授業の概要】

現在、いわゆる日本型の雇用システムや商慣習は崩壊しつつあるが、ビジネスの世界には企業を維持・発展させるための企業の倫理や厳しい現実がある。企業の現実を具体例にふれて講義する。

【授業計画】

- ビジネス社会におけるビジネスの種類
会社組織について
仕事の遂行・・・リーダーシップ、創意と工夫、責任と権限、縦系・横系（指示命令系統、部署間の連携）
日本のビジネス社会が現在抱えている問題点
企業の業績不振、終身雇用・年功序列の崩壊、グローバル化
世界経済が抱えている問題点
ビジネス社会で役立つ個人の能力・知識

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

【テキスト】

使用しない（必要に応じ資料配布）

【参考文献・資料】

日本の常識は、どこまで通じるか
（ジョリー佐々木幸子・小池弘道 風媒社）

暮らしの経済

村上貴美子

【授業の概要】

生活に密着した経済学の基礎と入門を学ぶとともに、現在の経済社会はグローバル化しているため、国際経済の流れや経済用語についても講義する。

【授業計画】

1. 最近の経済状況と用語解説
生活と経済の関わり
2. やさしい経済用語の説明
3. 消費者の権利と意思決定
4. 生活をとりまく環境変化
5. 本当の「豊かさ」とは何だろうか
6. 「労働」と「生活」
7. 余暇の為に働く「余暇とはなんだろう」
8. 国際化と生活
毎回、最近の経済ニュースの紹介と解説を予定している。

【評価方法】

宿題のレポート・単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。プリント配布

【参考文献・資料】

2004年版くらしの豆知識（国民生活センター 編集・発行）

健康と医学

渡邊一功

【授業の概要】

日本はますます高齢化社会に入っているが、長生きするための健康は自分で管理し、自立自助が必要である。健康を保ち、命を守るためにどうすればよいか、医学の立場から講義する。

【授業計画】

- 1) 性感染症
感染症とは 性感染症の現状と予防 後天性免疫不全症候群
- 2) 免疫とアレルギー
免疫のメカニズム、アレルギー反応の分類
アレルギー疾患
- 3) 嗜好品と健康
アルコール タバコ 薬物依存
- 4) 生活習慣病の予防
糖尿病 がん 高脂血症 高血圧
- 5) 生殖の医学
性機能 避妊 妊娠 分娩
- 6) 胎児からの子育て
母子相互作用 母と子の絆 小児虐待
- 7) 子どもの成長と発達
身体的発育 生理機能の発達 精神的発達
しつけ
- 8) 乳幼児期の主な病気
一般的症状 主な病気 障害児
染色体と遺伝子異常

【評価方法】

主に筆記試験による。

【テキスト】

健康と保健の科学（坂口他著 日本小児医事出版社）

健康とくすり

永井慎一

【授業の概要】

現在の日本は飽食の時代といわれ、運動不足やストレス過多のため、薬品の助けがなければ健康の維持が難しい。病気と薬品について正しい知識を学び、薬品の効き方と副作用について理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 受講生に「病気とくすりについて」アンケート調査後、創業の歴史から新薬開発まで、動物実験や治験の評価法も含めて解説
- 第2～3回 くすりの基礎知識として、くすりの投与法と生体内運命、くすりの効くメカニズムと受容体、危険なくすりの飲み合わせと副作用など2回にわたり解説
- 第4回 くすりの正しい知識のすべてを、イラスト入りの質問形式でわかりやすく教える
- 第5～6回 近年発売されたビルなどの生活改善薬をはじめ、繁用される一般用医薬品（OTC）500種と医者が処方する医療用医薬品200種を薬効別に解説
- 第7回 頭痛、生理痛の原因と治療薬のメカニズム
- 第8回 アトピー性皮膚炎や花粉症の発症メカニズムとくすりの効き方
- 第9回 病気の早期発見に役立つ成人病検査値の見かたと最新の画像診断法を解説
- 第10～13回 検診で見つかる生活習慣病を中心に、高血圧、ガン、糖尿病、エイズなどの発症原因と最先端治療薬の作用機作

【評価方法】

配布したプリントからテーマを出題し、レポートの内容で成績評価する。

【テキスト】

プリントを毎回配布し講義する。なお、何時でも「病気とくすりに関する質問」をメールで受け付け、プライバシーを守って返答する。

メンタルヘルス

太田龍朗

【授業の概要】

今や子供から大人まで、多くの人々が心を病んでいるといわれている。心の病は少年期や青年期に特有のものから、時代や社会に要因のあるものもある。臨床的事例をふまえてメンタルヘルスを考える。

【授業計画】

- 概論：1. 心の病：その歴史
2. 精神症状のとらえ方
3. 精神障害の種類と分類
4. ライフサイクルと心：性格、発達と加齢
- 各論：1. 青年期、思春期にはじまる統合失調症
2. 感情の障害としての躁うつ病（気分障害）
3. ストレスとその反応：神経症と心身症
4. やまらない、止まらない：薬物依存
5. 眠りと食と性の偏り：睡眠、摂食、性障害
6. 大人とは異なる児童・小児の障害
7. 老人と高齢者の病：器質性障害
- 総論：1. 病を前にして：治療、面接、カウンセリング
2. 心の健康に向けて：地域社会、制度と活動
- 終講：単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

大学生のための精神医学（高橋俊彦・近藤三男著 岩崎学術出版社）

【参考文献・資料】

精神を病むということ（秋元波留夫・上田敏著 医学書院）
図解雑学 心の病と精神医学（景山任佐著 ナツメ社）

ライフサイクルと健康

松田秀子

【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題を取りあげて講義する。

【授業計画】

1. ライフサイクルと健康とは
2. 姿勢
3. プロポーション（理想と現実）
4. 肥満とやせ
5. 隠れ肥満
6. 骨密度・体脂肪測定
7. 自分のからだを判定しよう
8. 体脂肪を正しく落とす方法
9. 筋肉と運動神経
10. 健康づくりのための運動
11. Walking
12. 性への理解
13. 学生生活と健康

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。
必要に応じて参考資料を配付する。

スポーツ科学

杉山 和

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔テニス〕

1. ガイダンス
2. ラケットとボールに慣れる
3. ボールをコントロールする
4. サービスを練習する
5. ルールとマナーを身につける
- 6～8. ミニゲーム・スキルテスト

〔バドミントン〕

1. ガイダンス
2. ラケットとシャトルに慣れる
3. シャトルをコントロールする
4. ルールとマナーを身につける
- 5～8. ミニゲーム・スキルテスト

〔バレーボール〕

1. ガイダンス、競技の概略
2. パスワーク（オーバーハンド・アンダーハンド）
3. サーブとレシーブ（サーブレシーブ・パスアタックレシーブ）
4. トス・アタック・ブロック（アタックカバー・ブロックフォロー）
- 5～7. ゲームと審判（ルール）、テスト（スキル）

【評価方法】

70点＝（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

スポーツ科学

杉山 和 山本啓子 松田秀子 寺田邦昭 門間 博

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・原則として、半期間に2種目を行います。（天候によって種目を変更する場合があります。）
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。
- ・ゴルフについては、実習費（300円）を必要とします。

月曜日	2限	杉山	テニス・バドミントン
	3限	杉山	テニス・バドミントン
火曜日	2限	松田	テニス・ゴルフ
	3限	山本	卓球・バレーボール
	3限	松田	バドミントン・ゴルフ
	4限	山本	卓球・バレーボール
	4限	松田	バドミントン・ゴルフ
水曜日	1限	門間	テニス・バスケットボール
	2限	門間	テニス・バスケットボール
	3限	山本	バレーボール・卓球
	3限	門間	テニス・バドミントン
	4限	山本	バレーボール・卓球
	4限	門間	テニス・バドミントン
木曜日	1限	寺田	スキルトレーニング
	2限	寺田	スキルトレーニング
	3限	杉山	バドミントン・テニス
	3限	山本	卓球・バレーボール
	4限	山本	卓球・バレーボール
金曜日	2限	杉山	テニス・バドミントン
	3限	杉山	テニス・バレーボール
	4限	杉山	テニス・バレーボール

【評価方法】

70点＝（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

スポーツ科学

山本啓子

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔卓球〕

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットのグリップと打法
3. フォアハンド・バックハンド
（ロング・ショート・カット・スマッシュ）
4. サービスとレシーブ
5. シングルスゲーム（審判）
- 6～7. ダブルスゲーム（審判とスコア）、テスト（スキル）

〔バレーボール〕

1. ガイダンス、競技の概略
2. パスワーク（オーバーハンド・アンダーハンド）
3. サーブとレシーブ（サーブレシーブ・パスアタックレシーブ）
4. トス・アタック・ブロック
（アタックカバー・ブロックフォロー）
- 5～7. ゲームと審判（ルール）、テスト（スキル）

【評価方法】

70点＝（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

スポーツ科学

松田秀子

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・ゴルフについては、実習費（300円）を必要とします。

〔テニス〕

1. ガイダンス
2. ラケットとボールに慣れる
3. ボールをコントロールする
4. サービスを練習する
5. ルールとマナーを身につける
- 6～8. ミニゲーム・スキルテスト

〔ゴルフ〕

1. クラブに慣れる
2. フォーム作り（回転運動のイメージ作り）
- 3～6. スイングの基本を身につける
7. 学外の練習場にてスキルテスト

〔バドミントン〕

1. ガイダンス
2. ラケットとシャトルに慣れる
3. シャトルをコントロールする
4. ルールとマナーを身につける
- 5～8. ミニゲーム・スキルテスト

【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

スポーツ科学

寺田邦昭

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔スキルトレーニング〕

オールラウンドプレーヤーを目指し、下記のスポーツスキルを週毎に種目を変えながら練習し、その基本的な動きのコツの獲得を目指す。

打つ技術の獲得

- バットイング（ソフトボールでの打つスキル）
- ショット（ゴルフ・バスケットボールでの打つスキル）
- ストローク（卓球・テニス・バドミントンでの打つスキル）
- スマッシュ（卓球・テニス・バドミントンでの打つスキル）
- アタック（バレーボールでの打つスキル）
- キック（サッカー・ラグビーでの蹴るスキル）

投げる・送る技術の獲得

- スローイング及びパス（ソフトボール・バレーボール・バスケットボール・フライングディスク・サッカー・ラグビーでの投げる・送るスキル）

捕る技術の獲得

- キャッチング（ソフトボール・バスケットボール・ラグビー・フライングディスクでの捕るスキル）

1. ガイダンス
- 2～7. 主にアウトドア種目を中心に実施する。
- 8～13. 主にインドア種目を中心に実施する。
- 14～15. テスト（各種スポーツにおけるスキルテスト）

【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

スポーツ科学

門間博

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔テニス〕

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットとボールに慣れる
3. ボールをコントロールする
4. サービスを練習する
5. ルールとマナーを身につける
- 6～8. ミニゲーム・スキルテスト

〔バスケットボール〕

1. ガイダンス、競技の概略
2. ボールに慣れる
3. 基本的な個人技能の確認
4. チームでの基本的な練習
5. ルールとマナーを身につける
- 6～8. ゲーム・スキルテスト

〔バドミントン〕

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットとシャトルに慣れる
3. シャトルをコントロールする
4. ルールとマナーを身につける
- 5～8. ミニゲーム

【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

健康と運動

杉山和 山本啓子 松田秀子 寺田邦昭 門間博

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。
- ・ゴルフについては、実習費（600円）を必要とします。

月曜日	2限	杉山	ゴルフ
	3限	杉山	ゴルフ
火曜日	2限	松田	バドミントン
	3限	山本	バドミントン
	3限	松田	テニス
	4限	山本	バドミントン
	4限	松田	テニス
水曜日	1限	門間	バドミントン
	2限	門間	ソフトボール
	3限	山本	バドミントン
	3限	門間	サッカー
	4限	山本	バドミントン
	4限	門間	サッカー
木曜日	1限	寺田	ニュースポーツ
	2限	寺田	ニュースポーツ
	3限	杉山	ゴルフ
	3限	山本	バドミントン
	4限	山本	バドミントン
金曜日	2限	杉山	バレーボール
	3限	杉山	バドミントン
	4限	杉山	バドミントン

【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

健康と運動

杉山 和

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・ゴルフについては、実習費(600円)を必要とします。

〔ゴルフ〕

1. ガイダンス
2. グリップ、スタンス、アドレス
- 3～6. アイアン練習(ショート・ミドルアイアン)
- 7～8. ウッド練習(1、3ウッド)
9. 学外のゴルフ練習場にて練習
- 10～14. 総合練習
15. 学外のゴルフ練習場にて練習

〔バレーボール〕

1. ガイダンス
2. ボールに慣れる、構え、動きの基本姿勢
3. サーブの種類と打ち方
- 4～6. パス、トス、レシーブ、スパイク、ブロック
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ゲーム

〔バドミントン〕

1. ガイダンス
- 2～3. ラケットワーク
4. ストローク練習(アンダーハンドを中心に)
5. ストローク練習(サイドハンドを中心に)
6. ストローク練習(オーバーヘッドを中心に)
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ダブルスゲーム

【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

健康と運動

松田秀子

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕

1. ガイダンス
2. バドミントンの特徴・歴史的ゲームの追体験
3. ラケットワーク・フットワーク
- 4～6. 各ストローク練習(軸回転運動を中心に)
7. ゲームの進め方、ルールとマナー
8. ハーフコートでのミニゲーム
- 9～最終授業. ダブルスゲーム、スキルテスト

〔テニス〕

1. ガイダンス
2. ラケットとボールに慣れる(グリップ、スタンス)
3. グランドストローク(フォアハンドを中心に)
4. グランドストローク(バックハンドを中心に)
5. サーブ、レシーブ
6. ボレー、スマッシュ
7. ゲームの進め方、ルールとマナー
8. ダブルスゲーム(フォーメーションを中心に)
- 9～最終授業. ダブルスゲーム、スキルテスト

【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

健康と運動

山本啓子

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕

1. ガイダンス
2. 歴史的ゲームの追体験(シングルスゲーム)
3. ラケットワーク
4. ストローク練習(アンダーハンドを中心に)
5. ストローク練習(サイドハンドを中心に)
6. ストローク練習(オーバーヘッドを中心に)
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム(フォーメーションを中心に)
- 9～15. ダブルスゲーム

【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

健康と運動

寺田邦昭

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・毎週、40名の受講生を2グループに分け、2種目を交代で履修する。
- ・2～8週までのうち、雨天の場合には、9～12週に予定しているインドア種目に変更して実施する。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔ニュースポーツ〕

1. ガイダンス
- 2～6. フライングディスク
- 7～8. ベタンク、ターゲット・バード・ゴルフ
- 9～10. インディアカ、ミニテニス
- 11～12. ダーツ、ソフトバレー
- 13～15. グループによる遊びの創作と発表会

【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

健康と運動

門間 博

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕

1. ガイダンス
- 2～3. ラケットワーク
4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ダブルスゲーム

〔ソフトボール〕

1. ガイダンス
2. キャッチボールの基本、練習、ゲーム
- 3～5. バッティングの基本、練習、ゲーム
- 6～8. 守備の基本、練習、ゲーム
- 9～11. リーグ戦 1
- 12～15. リーグ戦 2、まとめ（記録整理・レポート）

〔サッカー〕

1. ガイダンス
2. 個人技能の確認
- 3～5. ボールコントロールの正確性、巧みに運ぶための基本技術、基本技術を生かしたミニゲーム
- 6～7. 個人技能をもとにチーム編成をし、ミニゲーム
- 8～10. ミニゲームのリーグ戦
- 11～15. リーグ戦、まとめ（記録整理・レポート）

【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

ボランティア論

矢島洋子

【授業の概要】

ボランティアは今や新しい時代を生きて行くための行動様式のひとつになっている。ボランティア先進国アメリカの実例にふれながら、ボランティアの成り立ち、その存在意義や方法論などについて講義する。

【授業計画】

1. ボランティアの思想
2. アメリカのボランティア活動（1）
3. アメリカのボランティア活動（2）
4. アメリカのボランティア活動（3）
5. ヨーロッパのボランティア活動
6. 日本のボランティアの変遷
7. 特定非営利活動促進法（NPO法）
8. 日本のボランティア活動（1）災害とボランティア
9. 日本のボランティア活動（2）高齢者とボランティア
10. 日本のボランティア活動（3）障害者とボランティア
11. 日本のボランティア活動（4）開発とボランティア
12. 日本のボランティア活動（5）難民とボランティア
13. ボランティアの課題

ビデオの活用や当事者による講義も予定している。ボランティアを具体的に理解できる授業を心がけたい。

【評価方法】

おもに期末試験により評価する。期中にレポートなどを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。なお、出席率は受験資格にはしない。

【テキスト】

使用しない。適宜、資料などを配布する。

【参考文献・資料】

- ボランティア学を学ぶ人のために（内海成治他編 世界思想社）
- フィランソロビーの思想：NPOとボランティア（林雄二郎他 日本経済評論社）他

現代社会と福祉

見平 隆

【授業の概要】

多くの人々が人間らしい生活を営むには、社会的な福祉は避けられない問題である。しかし、「福祉はいかにあるべきか」という課題と解決策は難しい問題でもある。現代社会の福祉について具体的事例にふれて講義する。

【授業計画】

1. 現在の生活から社会の現状を知る
2. 福祉とは何かを考える
3. ライフサイクルと福祉の関わりを考える
4. 日本と世界の福祉の現状を知る
5. 現代社会の福祉をめぐる問題を考える
6. これからの福祉の課題を考える

一つのテーマについて1回から数回講義するが、授業についての質問などを適宜書いてもらい、次の授業に反映したい。できるだけプリントを配布する。

【評価方法】

定期試験の結果および授業で指示した課題提出により評価する。出席率は受験資格にはしない。

【テキスト】

社会福祉キーワード 補訂版（平岡公一・平野隆之・副田あけみ著 有斐閣）

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

手話・点字

堀 正和

【授業の概要】

手話・点字について聴覚障害者や視覚障害者のコミュニケーションや文化におけるその役割や歴史と実践的技術・方法論を講義する。

【授業計画】

1. 視覚障害概要
2. 視覚障害者のコミュニケーション方法
3. 点字の概要
4. 点字演習
5. 聴覚障害概要
6. 聴覚障害者のコミュニケーション方法
7. 手話の概要
8. 手話演習

【評価方法】

点字や手話の読み取りや表現のテストにより行う。

【テキスト】

点訳のしおり・点字器付き（日本点字図書館）及び手話教室入門（全日本ろうあ連盟出版局）

スポーツ文化論

勝部篤美

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発し、技能を追求する。
2. スポーツは競争と協力の両面をもち、フェアプレイの精神によって成り立つ。
3. スポーツには富と閑暇が関係し、社会生活と関係が深い。
4. スポーツには教育、政治、科学が関係する。
5. スポーツは地理的環境に影響されることが大きい。
6. スポーツは「強いもの」から「弱いもの」へと対象を拡げつつある。
7. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある。
8. スポーツは今や人間性の復権へ向って進む。

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況によって評価する。

【テキスト】

使用せず。参考図書は授業のとき指示する。

生き物の世界

石崎宏矩

【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生きているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

【授業計画】

次のような項目について講義する。○カイコはどうしてクワしか食べないのか○モンシロチョウの雄はどのようにして雌を見分けるか○生物がもっている時計（生物時計）とはどういうものか、時差ボケはどうして起こるか○モンシロチョウの蛹はどのようにして寒い冬をのりこえるか○アヒルのひなは生まれて初めて見た生き物を親として認識し、終生変わらない（刷り込み）。刷り込みの起こる機構は？○生命が地球上に生まれてから40億年、さまざまな生物はどのようにして進化してきたのか、DNAの性質、遺伝子の突然変異、自然淘汰とは。

他に、NHKスペシャル「生命-40億年はかな旅」他のVTRを放映し、解説を加える。

全体として、生物の進化、近未来における地球上の生命-人間を含めての危機について、正しく理解してもらえるようにつとめる。

【評価方法】

出欠、レポート、試験によって総合評価する。欠席した時は、友人のノートを見せてもらって、内容を理解しておくこと。試験問題が、たまたま欠席した日の授業内容だったからといって白紙であれば、特に区別はしない。

【テキスト】

進化とはなんだろう（長谷川真理子著 岩波ジュニア新書）。これを読んで要約をレポートとして提出してもらうことを単位修得のための必須作業として課する。

【参考文献・資料】

随時、授業で指示する。図書館に備えつけてあるので、自主的に勉強してほしい。

スポーツ文化論

松田秀子

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発する
2. スポーツは技能を追求する
3. スポーツは競争と協力の両面をもつ
4. スポーツはフェアプレーの精神によって成り立つ
5. スポーツは自己実現を志向させる
6. スポーツは舞踊とともに祭礼と結びついていた
7. スポーツには富と閑暇が関係する
8. スポーツは社会生活と関係が深い
9. スポーツには教育が関係する
10. スポーツには政治が関係する
11. スポーツには科学が関係する
12. スポーツには地理的環境に影響されることが大きい
13. スポーツには民族性が反映される
14. スポーツには商業主義がつきまとう
15. スポーツにはジャーナリズムがつきまとう
16. スポーツはガス抜き装置としての役割を果たす
17. スポーツのルールは法の体系に似た構造をもつ
18. スポーツは「強いもの」から「弱いもの」へと対象を拡げつつある
19. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある
20. スポーツは今や人間性の復権へ向って進む
21. スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場面と同じである

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。
必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

生き物の世界

服部一三

【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生きているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

【授業計画】

- 第1回 1. 生物界の分類
- 第2-6回 2. 生物の進化
3. 植物と人の関わり
 - 1) 農耕の始まり
 - 2) 世界の農耕文化
 - 3) 日本農耕文化の起源と発展
4. 人が手を加えた植物-作物
 - 1) 作物とは？
 - 2) 世界の作物の起源
- 第7-8回 5. 作物改良の原理と方法
 - 1) 作物改良の原理
 - (1) メンデルの法則-遺伝学
 - (2) 遺伝の物質的基礎
 - 2) 作物の改良方法
- 第9回 6. バイオテクノロジー
- 第10回 1) バイオテクノロジーとは？
- 第11-12回 2) 作物の改良とバイオテクノロジー
 - (1) 細胞・組織培養
 - (2) 遺伝子操作
 - (3) バイオテクノロジーで得られた作物をいかに考えるか？
 - (1) 倫理
 - (2) 安全性

【評価方法】

受講資格についてはあえて問わないが、成績評価には出席点を重視し、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

下記の書籍を参考書籍として使用するが、テキストなどを作成して講義を進めるので、特に買い求める必要はない。
生物的自然と人間（平田豊著 開成出版）

人類と宇宙

安野志津子

【授業の概要】

宇宙観の始まり、星の生と死、地球の生成と進化など、日進月歩の宇宙の科学の課題をふまえつつ、人類にとっての宇宙についても考察する。

【授業計画】

一地球のまわり、太陽系、銀河系を知り、宇宙を身近に引き寄せるために一

1. 宇宙観の変遷
2. 宇宙を観測する手段
3. 太陽系を探る
4. 星の世界
5. 銀河から宇宙へ
6. 宇宙の始めと未来

毎回プリントを配布し、講義を主とするがその内容を中心としたOHP、ビデオ等も利用する。また、講義に関連した質問を出してもらい次回に解答する。なお、随時ホットな話題も取り入れたい。

【評価方法】

基本的には、期末テスト（配布プリント、ノート持ち込み可）によるが、出席状況も考慮して判定する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

- (1) 宇宙論のすべて（池内了 新書館）
- (2) 星と宇宙の物理学読本（並木雅俊 丸善）
- (3) 見えてきた宇宙の神秘（野本陽代 草思社）
- (4) 太陽 ーその素顔と地球環境との関わりー（ケネス.R.ラング著 渡辺 亮・桜井邦朋訳 シュプリンガー・フェアラク東京）

環境保護論

田部一史

【授業の概要】

現代は地球規模で自然の環境破壊が進んでいる。自然を守り環境を保護する立場から、生物とそれをとりまく外的環境の問題点を、身近な例をあげて講義する。

【授業計画】

- 第1講 序論：自然に学ぶ
- 第2講 森林破壊：森はいのちの母である
- 第3講 砂漠化：世界は水を失いつつある
- 第4講 地球温暖化と異常気象：人為による地球の異常
- 第5講 大気汚染と酸性雨：自然も文明も溶かし去る
- 第6講 フロンとオゾンホール：降りそそぐ有害紫外線
- 第7講 いのちのしくみ1：細胞レベル
- 第8講 いのちのしくみ2：個体レベル
- 第9講 環境汚染とがん：人工化学物質の氾濫
- 第10講 環境ホルモン：いのちのつながりを絶つ
- 第11講 生態系のバランス：人の手で壊される自然
- 第12講 生命の多様性：大量絶滅
- 第13講 環境保護：いのちと自然を守る

【評価方法】

出席状況、レポートおよび単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

生命の科学

林 博司

【授業の概要】

動物の生命の誕生、生体を構成する物質の生殖と遺伝の仕組み、生命の維持や変異するためのメカニズムと機能などについて講義する。

【授業計画】

1. 命の惑星地球
2. 命の理解に必要な物理と化学のエッセンス
3. 命を支える器官
4. 器官を作る細胞。
5. 細胞の仕組み
6. 分子機械としての生命
7. 分子機械の設計図：遺伝子
8. 遺伝子の働き
9. 遺伝子を操作する
10. 細胞を操作する
11. 器官を操作する
12. 遺伝子と環境のかかわり

以上12講を実験・映像資料も用いておこなう。

【評価方法】

出席点と小テストの得点で総合的に評価する

【テキスト】

指定しない

【参考文献・資料】

講義中に適宜触れる

食品の科学

千葉善根

【授業の概要】

基礎的な科学と食品の科学とのかかわり、食品の持つ機能や性質、貯蔵などを学び、食品と酵素の関係や科学物質としての理解を深め、多様化した食生活や加工食品の氾濫の中で生活に役立つ講義をする。

【授業計画】

1. 現代食生活の問題点
食生活の変化と食糧資源について。
2. 糖質と食品
デンプンの機能と利用、食物せんい、最近の甘味料について。
3. たんぱく質と食品
変性と加工・調理との関係、加工食品と食物性たんぱく質の利用。
4. 脂質と食品
脂肪の性質と脂肪酸、油脂の劣化、乳化と乳食品。
5. 無機質と食品
骨粗鬆症等。
6. ビタミン
食品加工・調理との関係、生物学的触媒としての働き。
7. 発酵食品
食品と酵素・微生物との関係。

【評価方法】

定期試験にて評価。

【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

暮らしの化学

八代 有

【授業の概要】

健康で豊かな生活を維持していくには、化学の知識と活用は必要不可欠からざるものである。身近な生活に拘わる化学的な要素について事例をあげて学ぶ。

【授業計画】

1. 栄養のバランスと健康増進を考える
2. 食品成分の化学と食品の安全性
3. ビタミンの化学的性質と疾病とのつながり
4. 生活習慣の改善と疾病予防
5. 薬についての正しい認識
6. 薬が生体に影響を与える因子
7. 尿・血液成分のしくみ
8. 暮らしのなかの酵素の働き
9. 話題となった環境公害
10. 生活のなかでの不思議

【評価方法】

テストおよび出席状況により総合的に判定する。

【テキスト】

テキスト使用せず、プリントを適宜配布する。

文学1（日本）

堀尾幸平

【授業の概要】

日本の文学史について概説し、日本文学の特徴や外国文学の影響などについてもふれる。古典から近・現代までの著名な作品や名作も鑑賞し、日本文学への興味と関心を高める。

【授業計画】

1. 文学とは何か
2. 明治期の文学
3. 坪内逍遙、二葉亭四迷
4. 三輪弘忠、巖谷小波
5. 大正期の文学
6. 小川未明、鈴木三重吉
7. 千葉省三、浜田廣介
8. 少年詩、童謡、金子みすゞ
9. 昭和期の文学
10. 佐藤紅緑、江戸川乱歩
11. 宮澤賢治
12. 新美南吉、坪田謙治
13. 平成期の文学
14. 創作方法理論
15. 試験

【評価方法】

定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】

新日本児童文学論（堀尾幸平著 中日文化 2,200円）

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

文学2（中国）

寺尾 剛

【授業の概要】

中国の歴史と文化は古く、その影響は世界に与えているが、特に日本文学が受けたものは大きい。中国の代表的な古典を中心に紹介し、鑑賞するとともに、中国文学への興味と関心を高めたい。

【授業計画】

毎回、一つのテーマを取り上げ、それにまつわる文学作品を鑑賞していく。

1. 男装の麗人・木蘭の物語
2. 和蕃公主・王昭君の物語
3. 亡国の美女・西施の物語
4. 万里の長城秘話・孟姜女の物語
5. 詩仙李白と酒の歌
6. 詩聖杜甫とそのヒューマニズム
7. 南宋の詩人・陸游～その愛の悲劇
8. 中国の詩人とその妻～悼亡詩の系譜
9. 『封神演義』～中国小説の世界
10. 中国の笑い話～下ネタは下品か？
11. 『論語』の世界～孔子、人生を語る

などを予定している。

【評価方法】

出席、平常点と試験。

【テキスト】

プリント

【参考文献・資料】

教場で指示する。

文学3（欧米）

小野迪雄

【授業の概要】

西洋の文学史や文学思潮を概説し、特にイギリス文学・アメリカ文学を中心に代表的な作品について紹介し、鑑賞して、外国の文学への興味と関心を高める。

【授業計画】

本年度はアメリカ文学を中心に講義をする。アメリカは移民の国として、先進国の中では非常に遅い出発をした国であるが、それだけに歴史の古い国にみられる伝統に欠ける面があるものの、他の先進国にみられない文学の活力や著しい特徴がある。アメリカの文学作品には、どんな特質や問題があるのか考えていく。時間の制約上、個々の作品を細かく扱うことが難しいので、中心は作品を生みだした社会的背景や文学思潮におく。話の展開の中でイギリス文学や日本文学にもふれる。

【評価方法】

レポートや受講態度を加味するが、評価の中心は定期試験による。

【テキスト】

未定。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

現代の芸術 1 (書道)

森美恵子

【授業の概要】

現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書作し、技法の向上をはかり、書道への関心を高める。

【授業計画】

楷書・行書・草書の古法帖を拡大臨書コピーし、その手本に基づき書作した清書作品を提出する。

書写中心であるが、中国の書論に則り、古法帖の概略等も講ずる。

【評価方法】

授業内で提出する平素の成績物及び出席状況等にて総合的に評価する。

【テキスト】

書の鑑賞と学び方 (上田桑鳩 教育図書研究会)

現代の芸術 1 (書道)

小川晃治

【授業の概要】

現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書作し、技法の向上をはかり、書道への関心を高める。

【授業計画】

講義、実技を一日の時間内に進める。前後期共通の為、各時代の書美、他の美術、文学の対比についての講義は概論とする。現代社会に於ける書美と、日本人の美意識を探究することを基準として進める。

【評価方法】

レポート三種、実技作品、学習態度、出欠状況などによる。

【テキスト】

担当者の小文、古典法帖。

現代の芸術 2 (音楽)

志水博子

【授業の概要】

現代芸術としての音楽の意味と意義について概説し、洋楽・邦楽の名曲についても鑑賞する。音楽に関する基礎や知識を学び、歌唱力や鑑賞力の向上をはかり、音楽への関心を高める。

【授業計画】

- 第1回 名演奏家によるオペラのビデオ鑑賞
- 第2回 声の出るしくみを知る
- 第3回 腹式呼吸と身体のつかい方の練習
- 第4回 ビデオ鑑賞
- 第5回 発声練習と歌唱
- 第6回 ビデオ鑑賞
- 第7・8回 ピクニックや集会でのやさしいハーモニーの楽しみ方練習
- 第9～12回 各自の課題による実技発表とアドバイス

【評価方法】

授業内での実技演奏（各自の得意とする歌唱又は楽器の演奏、アンサンブル可）と出席状況

【テキスト】

楽譜プリントは配布

現代の芸術 2 (音楽)

浅田まり子

【授業の概要】

現代芸術としての音楽の意味と意義について概説し、洋楽・邦楽の名曲についても鑑賞する。音楽に関する基礎や知識を学び、歌唱力や鑑賞力の向上をはかり、音楽への関心を高める。

【授業計画】

- 第1講 音楽について
- 第2講 発声のしくみ
- 第3講 ヴォイストレーニング1 (自然体)
- 第4講 音楽療法 1 (歴史と機能)
- 第5講 ヴォイストレーニング2 (呼吸法)
- 第6講 サウンドスケープ (音の風景)
- 第7講 音楽療法 2 (受容性)
- 第8講 音のしくみ1 (メロディーとリズム)
- 第9講 ヴォイストレーニング (楽器の確保)
- 第10講 音のしくみ2 (コードなど)
- 第11講 音楽と旅
- 第12講～発表

*音楽の機能を健康的に活かし、自己満足的な音楽ではなく、人とコミュニケーションができる音楽を目指します。

*発表は、個人・またはグループでジャンルを問わない演奏の発表。
(歌・ギター・ピアノ・コンピューターミュージックなど)

【評価方法】

実技・感想・出席状況・授業態度

【テキスト】

授業中に指示

現代の芸術 3 (美術)

横山萬里

【授業の概要】

現代芸術としての美術の意味と意義や東西の流派を概説し、西洋や日本の名画についても鑑賞する。美術や絵画への興味と関心を高める。

【授業計画】

国宝に指定されている古い絵画あるいは日本の伝統的な絵巻のなかから鳥獣人物戯画を取りあげて日本画の表現、色彩方法を講義する。他、筆ペンにて墨線の模写をしてみる。

また、授業の中で名古屋市内の美術館を訪問し、古画現代画にふれる。

- ・日本画の特徴
- ・鳥獣人物戯画の説明
- ・鳥獣人物戯画における線の強弱と動き
- ・日本画の模写について
- ・日本画の鑑賞

美術館入場料 500円程

筆ペン 500円

費用計 1,000円

【評価方法】

出席状況と感想文レポート(2回提出)線描の模写10種を総合的に評価。

【テキスト】

日本の絵巻6「鳥獣人物戯画」

コピーした図を見る。

【参考文献・資料】

無料、用意有

現代の芸術 4 (映画)

吉村英夫

【授業の概要】

現代芸術としての映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。ヨーロッパやアメリカ映画などの比較の視点から日本映画の特徴などを講義し、映画への興味と関心を高める。

【授業計画】

映画の楽しさを知ろう! セミ・クラシック映画の魅力を考える。モノクロ映画は見えない学生もいる。黒澤明は誰もが知っているが、彼のダイナミックな映像を見ていない学生が意外に多い。欧米、日本を通じて、かつて素晴らしい映画が生まれ、その伝統の上に現代映画が出来上がったことを知りたい。現在の大学生が生まれる以前の映画をセミ・クラシックと考え、優れた映画を参考上映し、その魅力を満喫しながら、映画芸術への理解を深める。古い映画がすばらしいことを知る入門講座としての役割を果たしたい。

参考上映する作品として検討中のもの(予定)

- * 世界最初の映画、無声映画とチャップリン映画
- * 『用心棒』(『七人の侍』)黒澤明監督作品
- * 『砂の器』野村芳太郎
- * 『幸福の黄色いハンカチ』(『男はつらいよ』)山田洋次
- * 『生れてはみたけれど』小津安二郎
- * 『十二人の怒れる男』シドニー・ルメット
- * 『シエーン』ジョージ・スティーヴンス
- * 『OK牧場の決闘』ジョン・スタージェス
- * 『北北西に進路を取れ』アルフレッド・ヒッチコック
- * 『ウエスト・サイド物語』ロバート・ワイズ
- * 『ダーティ・ハリー』ドン・シーゲル
- * 『ロッキー』ジョン・G・アビルドセン
- * その他

【評価方法】

*学期末のテスト *随時提出のレポート *出席 *テキストは使用しない

現代の芸術 4 (映画)

HIGH, Peter B.

【授業の概要】

映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。アメリカ映画を題材として使って、映画芸術とは何かを考察

【授業計画】

授業のやり方としては、映画(全体又は部分)を見終わってから教室で、ディスカッションを行った後、各自、次の授業までに自分の分析を短い文章(原稿用紙2・3枚程度)にまとめて提出する。

課題:「古典ハリウッド映画」の表現手法

今学期、四つの映画を分析対象とする:

- 1) 「駅馬車」(STAGECOACH, 1939年作品、監督: John Ford)
- 2) 「マルタの鷹」(MALTESE FALCON, 1941年作品、監督: John Huston)
- 3) 「市民ケーン」(CITIZEN KANE, 1941年作品、監督: Orson Welles)
- 4) 「第三の男」(THE THIRD MAN, 1949年作品、監督: Carol Reed)

現代の芸術 4 (映画)の学期末評価は3つの宿題に基づく(学期末試験はない):

- 宿題1: 「マルタの鷹」の対極的分析の図(文章化する必要はない)
- 宿題2: 「市民ケーン」の対極的分析(原稿用紙3-4枚の文章)
- 宿題3: 「第三の男」の対極的分析(原稿用紙3-4枚の文章): この三つの宿題は学期末試験として扱われる

*今学期学ぶこと:

- 1) 映画分析のための技術:
 - a. セグメンテーション (SEGMENTATION=映画を見ながら、ノーツの取り方)
 - b. 対極的分析法(映画ドラマにおける対立。競争、衝突などに焦点を絞って、ドラマの構造を分析すること)
- 2) 典型的なハリウッド映画(1930年代から現在の「スター・ウォーズ」や「ターミネーターIII」等にいたるまで)のスタイルとストーリーの語り方:
 - a. 「因果の関係」とドラマの盛り上げ方
 - b. FABULA (ファビュラ)=観客が頭の中で作る「映画のストーリーの世界」対SUZHET (シュージェット、つまり「プロット」)=画面から与えられた「映画のストーリーの世界」を作るための「材料」「やヒント
 - c. ハリウッド映画はどうやって「リアリズム」の感覚を作り上げるのか
 - d. ハリウッド映画を見ている時に、どうして観客は「自分が映画を見てるんだ」ということを忘れるのか
- 3) ハリウッド映画におけるGENRE (ジャンル)の役割

【評価方法】

出席と宿題によって、評価される

【テキスト】

テキストはありません。教材は適時配布します。

現代の芸術 5 (演劇)

海上宏美

【授業の概要】

現代芸術としての演劇の意味と意義について概説し、ヨーロッパや日本の演劇の歴史についてもふれる。内外の代表的な演劇について解説し、演劇への興味と関心を高める。

【授業計画】

1. 現代芸術としての演劇は多様であるため、演劇を軸としながら国内外のダンス、パフォーマンス、アートを重要な参照項として見ていく。
2. 身体を用いる表現であるため現代の思想やジェンダーとも切り離して考えることはできないので、その関わりを探っていく。
3. 戯曲=テキストの存在が演劇にとって大きな要素なので、演劇における戯曲=テキストの位置の変遷を概説する。
4. 演劇が行われる「劇場」というものがどのような時代思潮を具現しているものなのかを、ヨーロッパと日本の劇場を比較しつつ検討する。
5. 演技というものを身体と言語の関係から見直し、演技というものの在り方を歴史的視点から批評的に見ていく。

授業は上演ビデオや参考スライドを鑑賞しながら進めていく。

【評価方法】

レポートの提出と出席状況で評価する。また、実際に劇場等で上演される現代の上演芸術(演劇に限定しない)を見ることを求める。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

伝統芸能

林 和利

【授業の概要】

国際化が進み、さまざまな異文化にふれる機会も多くなったが、日本の伝統文化にも目を向けることが大切だ。伝統文化の中でも芸能・演劇を中心に講義する。舞楽・能・狂言・歌舞伎・文楽など、実際の舞台をビデオ等で確認しつつ、その歴史や演技・作品などについて講じる。

【授業計画】

1. 授業の目的と方針を提示。
2. 日本芸能演劇史概説
3. 芸能の発生について
4. 神楽について
5. 伎楽・舞楽・散楽について
6. 田楽について
7. 猿楽について
8. 能について
9. 狂言について
10. 歌舞伎について
11. 文楽について

また、学外の舞台芸術を有料で鑑賞することもありうる。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

日本文化論序説（林和利著 青山社）

現代マナー論

近藤乃美子

【授業の概要】

人間関係の円滑な親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. マナーの基本
2. 会話と傾聴
3. 身だしなみとおしゃれ
4. 服装 フォーマルとカジュアル
5. 訪問と応接 和風
6. " " 洋風
7. 茶葉のマナー
8. 贈答のマナー
9. 冠婚のマナー
10. 葬祭のマナー
11. 食事のマナー
12. パブリックマナー

【評価方法】

出席状況、授業態度、期末試験等により総合的に評価する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。

【参考文献・資料】

参考文献・資料はなし。

文章表現

青木 健

【授業の概要】

マルチメディアの発達で文章を書く機会が少なくなっているため、自らの意思を文章で表現することが苦手な人も増えている。文章を作り、書くために必要な基礎知識や構成について具体例を示しながら講義する。

【授業計画】

- 第1回 人は言葉の織物である。(伝達と表現1)
- 第2回 現代の口語表現について。(伝達と表現2)
- 第3回～9回
例文をテキストに、文章の構成、語法、リズム、形容修辭法など具体的に講義。
- 第10回～12回
課題を3回提出し、短文(2～5枚、400字詰)を書かせ、そこから文章表現についての共通の問題点を抽出する。

【評価方法】

出席状況、3回の提出原稿などを基準として評価する。

【テキスト】

当方にて用意します。参考書籍は授業中に数冊指示します。

言語表現

三久保角男

【授業の概要】

マルチメディアの発達で人と人とが直接的な会話することが少なくなり、話すことが苦手な人が増えている。人前で話すことや自分の意志を言葉で伝えるための基礎的な技術を身につける講義をする。

【授業計画】

1. 話し言葉概論
ことばの機能 話し言葉の特徴 共通語と方言
2. 日本語の音声 1 (発声)
呼吸法 音声器官 発声法
3. 日本語の音声 2 (発音)
音素 子音 母音 アクセント
4. 話し言葉の表現
スピード ポーズ イントネーション プロミネンス
5. 話し言葉の実践
敬語 スピーチ ディベート
6. 朗読

講義が中心になるが、可能な限りの実践を伴う授業にする。

【評価方法】

レポート。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

メディア表現

鎌田基子

【授業の概要】

情報化社会の発達と技術の進歩で、さまざまなメディアが新しい表現を生み、文化を形成している。現在あるメディアの構造と伝達の仕組みやかかわりについて、講義と実践をまじえながら考察する。

【授業計画】

1. どこからどこまでがメディアなのか
2. 「編集」がもつ創造力
3. 「伝える」と変化する
4. 人を動かす力
5. 自分との対話
6. 「コンセプト」の功罪
7. 共感する/させる
8. 心を開かなければならないとき

ほぼ毎回WORK SHOPを行なう。一項目に関する講義が複数回にわたる場合もあるので、極力遅刻、欠席のないよう注意してもらいたい。状況により、可能であればゲストを招いての授業も計画する。

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

テキストは使用せず、資料を配布する。

生涯学習論

五島敦子

【授業の概要】

現代は生涯学習の必要性和重要性が強く説かれている。社会の構造が複雑になるとともに高齢化社会も進む中で、生涯学習の意義と学び方について、身近な事例をふまえて講義する。

【授業計画】

1. 生涯学習とは何か
 - (1) 生涯学習の提唱
 - (2) 生涯学習の理念
2. 生涯学習の機会
 - (1) ライフサイクルと生涯学習
 - (2) 社会教育施設の意義
 - (3) 高等教育機関の役割
 - (4) 地域づくりへの参加
 - (5) 子どもの生活と生涯学習
 - (6) 高齢者の学習機会
 - (7) 職場における学習機会
 - (8) 情報化社会における学習情報
3. 現代生涯学習の課題
 - (1) 生涯学習政策の動向
 - (2) 教育改革と生涯学習体系化への移行

【評価方法】

レポート、授業内小テスト、出席状況による総合評価

【テキスト】

テキストとしては使用しない

【参考文献・資料】

生涯学習と社会参加—おとなが学ぶことの意味
(佐藤一子 東京大学出版会 1998年)
社会教育と学校シリーズ・生涯学習社会における社会教育
(鈴木 真理・佐々木 英和 学文社 2003年)

職業と人生

伊藤義明 江原昭善 中村 薫 都築久義 山脇正雄 伊藤義尚
渡邊一正 高平ゆかり 神谷利徳 石田好江 伊藤健治

【授業の概要】

将来の職業選択に当たっての必要事項や現代の企業社会の実態、企業へ就職するための基礎知識などをガイダンスする。

【授業計画】

5年～10年先の社会発展を展望したとき、学生に求められる資質、即ち「職業人としての心構え」「学識」「専門的スキル」などを社会の第一線で活躍中の学識経験者とプロフェッショナルによるオムニバス形式の連続講演により、具体的に語ってもらいます。

第1講：動物の社会と人間の社会	4月14日
講師：江原昭善 京都大学名誉教授 日本福祉大学コミュニティースクール校長	
第2講：仕事をすることの意味（勤労の意味を考える）	21日
講師：中村 薫 文学博士 同朋大学大学院教授	
第3講：趣味と仕事	28日
講師：都築久義 愛知淑徳大学教授	
第4講：この道一筋（職人の生き方—ものづくりのための人づくり）	5月12日
講師：山脇正雄 岐阜大学客員教授 前デンソー工業技術研修センター 所長（技能オリンピック金メダル選手の指導者）	
第5講：自己発見の試み (自分の思考傾向を知り、他者とのコミュニケーション技法を学ぶ)	19日
講師：伊藤義尚 ブランディングコンサルタント G-Tech.Resource代表	
第6講：多様な働き方（リクルートの専門家が語る）	26日
講師：渡邊一正 リクルート メディアプロデューサー 編集長	
第7講：専門性を身に着ける（文科系のスキル—女性プロが「専門性」を身につけるための経験や社会で活躍する人の行動パターンを熟考）	6月2日
講師：高平ゆかり 株式会社メイフホールディング事業本部副部長	
第8講：専門性を身に着ける（その2—プロフェッショナルの世界）	9日
講師：神谷利徳 住空間デザイナー 有限会社神谷デザイン事務所長 (全国的に著名なフードサービスデザイナーに聞く)	
第9講：生涯教育と働く環境	16日
講師：渡邊一正 リクルート メディアプロデューサー 編集長	
第10講：男女共同参画社会の展望	23日
講師：石田好江 本学現代社会学部教授 本学ジェンダー・女性学研究所所長	30日
第11講：国際化と職業選択（外資系企業の特長）	
講師：伊藤義明 ACCJ在日米商工会議所中部支部ディレクター	
第12講：インターンシップ	7月7日
講師：伊藤健治 日本碍子株式会社人事部採用研修マネジャー	
第13講：総括（学生との対話）	14日

【評価方法】

最後に簡単なレポートを提出

【テキスト】

原則使用しない一人によりレジメまたはパワーポイント使用

一般心理学

青柳眞紀子

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業計画】

1. 無意識の世界
2. 動機づけ
3. ストレスとタイプA性格
4. 錯視の不思議
5. 学習
6. 記憶
7. パーソナリティ
8. 対人関係
9. 態度変容
10. 集団の心理

【評価方法】

試験の成績、レポート、出席状況などから総合的に評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

一般心理学

加藤智宏

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業計画】

- a. 知覚と感覚
- b. ノンバーバルコミュニケーション
- c. 愛着
- d. アイデンティティ
- e. 学習と記憶
- f. 忘却と変容
- g. 防衛機制と無意識
- h. 心理療法
- i. 心理テスト
- j. 個人・社会・環境

以上について、それぞれ1～2回の講義を予定しています。

また応用分野として、環境心理学や犯罪心理学についても紹介していく予定です。

【評価方法】

出席状況と試験の成績によって総合的に評価します。

【テキスト】

使用しません。授業中に資料を配付します。

一般社会学

長濱一夫

【授業の概要】

社会学は人間同士の関係に視座を置いて、個人・社会集団、社会事象について研究する学問である。社会学の領域と一般的研究方法や基礎的知識について概説する。

【授業計画】

以下のそれぞれのテーマを主たる切り口とし（順序は入れ替わることがあります）、私たちの社会生活について考えを深めていきたい。

- (1) 社会学とはどんな学問か—個人と社会—
- (2) 都市と農村—地域社会の変容—
- (3) 都市化の進展—その光と陰—
- (4) 人々の暮らし—「出稼ぎ」という暮らし方—
- (5) 現代社会における「豊かさ」と「貧困」
—国際社会を視野に—
- (6) 高齢化社会と家族

授業は講義形式で行いますが、VTRなども随時、利用していきます。また、人数によっては、意見・感想を求めたり、ディスカッションしてもらうこともあります。

【評価方法】

試験（レポートor筆記）および出席状況、平常点によって評価します。

【テキスト】

使用しません。

法律学

大嶽 浩

【授業の概要】

社会生活は「法」という社会規範の中で営まれている。「法」は憲法をはじめ、各種さまざまな領域にわたって制定している。法とは何かという問題を中心に各種の法について概説し、日常生活に関連する法についてもふれる。

【授業計画】

1. 法学の入門書と文学作品
2. 法学学習と文学作品
3. 法学学習の方法
4. 法学と政治と文学
5. 法学と活字
6. 法学と批評

【評価方法】

試験とレポートによる評価。

【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

政治学

西尾林太郎

【授業の概要】

政治体制や政治制度について概括的に学びながら、現実の政治の動態を日本と諸外国と比較しながら学習する。時事問題や日常的話題にもふれつつ講義を進める。

【授業計画】

1. 国内政治と国際政治
 - a 国際社会とは？
 - b 国民国家、ナショナリズム、外国為替
 - c トランス・ナショナル現象、相互依存性の増大
 - d イスラム原理主義とグローバルスタンダード
2. 古典的デモクラシーとマス・デモクラシー
 - a 市民社会と大衆社会
 - b 立法国家と行政国家
3. 現代の政治過程
 - a 政治と利益団体、NPO
 - b 選挙、官僚、議会
 - c マスメディアとマスコミュニケーション
4. 政治権力とは何か
 - a 人間はどうして支配を受け容れるか？
 - b リーダー・シップ、エリート
 - c 支配、被支配の心理
5. 戦後国際社会と日本の政治
 - a 冷戦構造と55年体制
 - b 利権の構造

【評価方法】

試験（配布資料と自筆ノートのみ持込可）と出席状況による。

【テキスト】

暮らしから考える政治（姜尚中著 岩波ブックレットNo.564）

経済学

細野義晴

【授業の概要】

経済の仕組みと役割について、マクロ経済とミクロ経済の双方の視点から基礎的知識を学ぶ。日常生活や時事問題としての経済学的事象についてもふれ、経済学を身近なものにする。

【授業計画】

1. 経済のしくみの全体像
マクロの経済とミクロの経済、GDP統計のしくみ、など。
2. 日本の経済と景気
日本経済の発展と構造変化、日本の景気変動、など。
3. 個人の暮らしと経済
個人の消費行動、消費と貯蓄、など。
4. 企業の経済活動
企業の投資活動、モノの値段とインフレ・デフレ、など。
5. 政府の経済活動
財政のしくみと役割、財政事情の悪化と財政再建、など。
6. 金融のしくみと経済
お金と金融機関の役割、中央銀行の役割と金融政策、金融のビッグバン、など。
7. 日本と世界の経済
経済のグローバル化と国際収支、外国為替市場と外国為替相場の変動、国際機関の役割、欧州の通貨統合、など。

【評価方法】

単位認定試験の成績に出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

使用しない

【参考文献・資料】

- (1) 入門の入門 経済のしくみ (大和総研著 日本実業出版社)
- (2) 図解雑学 マクロ経済学 (井堀利宏著 ナツメ社)

物理学

坂井貞彦

【授業の概要】

人間の生命に関する分野を除く、自然現象を、数量的、法則的に把握し、普遍的法則や原理を見つけ出すという物理学の基礎を学ぶ。身近な現象の中から物理学的な観察や視野を持てる力を涵養する。

【授業計画】

講義方式による。実験は行わない。テキスト及び授業中に配布するプリントの記述のうち基本的なものを説明し、物理学への関心を高める。

- 1 はじめに
- 2 運動と力
- 3 振動と波動
- 4 光と電磁波
- 5 かたちと流れ
- 6 熱とエネルギー
- 7 電気と磁気
- 8 相対性理論
- 9 量子力学
- 10 素粒子

【評価方法】

おもに期末試験(筆記)による。(毎回欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。) 期中にレポートを提出させた場合は、成績評価に反映させる。

【テキスト】

入門ビジュアルサイエンス・物理のしくみ (小暮陽三 日本実業出版社)

数学

岡田克彦

【授業の概要】

数学は膨大な体系を持つ学問体系であるが、主要な分野の入門的、基礎的な事項を解説する。日常生活はさまざまな数学の恩恵を受けて成り立っているため、暮らしの中の数学といったことにもふれてみたい。

【授業計画】

以下の各項目について説明し、演習を行う。

- 1 確率
- 2 統計、偏差値
- 3 ベクトル
- 4 微分
- 5 積分
- 6 物理学への応用

【評価方法】

課題及び試験で評価する。

【テキスト】

特に使用しない。随時プリントを配布する。

統計学

鈴木有美

【授業の概要】

さまざまな情報が氾濫している現代社会は、情報処理の手段として統計学は不可欠である。統計学の基本的な概念と手法を講義し、社会統計が現代社会にどのようにかかわっているか、いかに必要かを講義する。

1. 変数の性質
2. 度数分布
3. 基礎統計量—代表値・散布度・尖度・歪度
4. 正規分布
5. 2変量の関係—相関・回帰・連関
6. 母集団と標本
7. 統計的推定—点推定・区間推定
8. 統計的検定—母平均検定・母分散検定
9. 平均値の差の検定—t検定・分散分析
10. ノンパラメトリック検定

【授業計画】

講義の内容については、基本的に上記の順に進めるが、受講者の理解・興味に応じて構成していく予定である。また、講義で学んだことについて理解を深めるための課題を随時設ける。

【評価方法】

課題の提出とその結果、および定期試験の結果をあわせて評価する。

【テキスト】

本当にわかりやすいすぐく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本 (吉田寿夫著 北大路書房)

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

下記の科目は、本年度開講しません。

生物学

【授業の概要】

生物の発生、生命、形態、生態、生理、分類など、生物学の各分野の基礎を概説する。身近な生物学的諸問題についてもふれ、生活に役立つ生物学を講義する。

英語コミュニケーション1 (TOEIC I)

山田久美子 NORRIS, Harry T. 他

【授業の概要】

就職などで考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての基礎的な能力を、文法や語彙など基本事項に重点を置いて身につける。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、文法や語彙などの基本事項の整理を行うのがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー)の「初級・中級コース」を活用して、文法や語彙などの基本事項を再確認し、その定着を図る。具体的には、以下のよう

1. 受講生による演習問題への解答
 2. 授業担当者による問題解説
 3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーウィング、ペア・プラクティスなど
 4. Speed ListeningとSpeed Reading機能を活用した速聴・速読練習
 5. 確認テストの実施
- 「初級・中級コース」のうち、「TOEICテスト演習コース」(10ユニット)と「TOEICテストパート演習コースpart V」(20ユニット)の合計30ユニットを修了させることが目標である。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

〈長久手キャンパス〉

13 Grammatical Keys to the TOEIC Test: TOEICテスト頻出文法13ポイント (西谷敦子著 朝日出版社)

TOEIC Test: Grammatical Trainer (大学生のためのTOEICテスト英文法) (高山芳樹著 南雲堂)
以下未定

〈星が丘キャンパス〉

掲示・配布物にて指示する。

英語コミュニケーション2 (Listening I)

山田久美子 NORRIS, Harry T. 他

【授業の概要】

短いフレーズを中心とした英語を正確に聞き取れるようになるための基礎的な能力を、LL教材を用いて演習形式で身につける。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、基礎的なリスニング力を養成することがこの授業の目標である。この目標を達成するために、音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. ディクテーション
4. シャドーイング
5. 短文・長文の暗唱
6. ペア・プラクティス

様々な場面における対話や応答、状況説明などの聞き取りを通じて、語彙の増強と基本的な英語表現の習得も図る。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

〈長久手キャンパス〉

A New Approach to Natural English:

ShadowingによるTOEIC, TOEFL制覇 (矢作三蔵著 開文社出版)

リスニング・トレーナー: TOEIC対応レベル別練習

(千田潤一著 朝日出版社)

Work Sheets for Compact English Listening:

ワークシート方式リスニングの基本演習 (船田秀佳著 北星堂書店)

以下未定

〈星が丘キャンパス〉

掲示・配布物にて指示する。

英語コミュニケーション3 (Listening II)

石橋千鶴子 NORRIS, Harry T. 他

【授業の概要】

英語をより正確に聞き取り、パラグラフや会話文の要点を把握できるようになるための発展的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、会話文・説明文などの内容を正確に把握できるリスニング力を養成することがこの授業の目標である。

この目標を達成するために、さまざまな音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. 数字・地名の聞き取りと、日本人英語学習者が発音・聞き取りを不得手としている音の練習
4. ディクテーション
5. シャドーイング
6. 短文・長文の暗唱
7. ペア・プラクティス

授業で取り上げた教材を、何度も繰り返し声に出して発音する練習を通じて、英語らしいリズムとイントネーションの習得とともに、語彙力と表現力も身につける。英語を頭の中で日本語に置き換えるのではなく、英語を英語として聞き理解できるようにするために、大量・高速の英語を聞く。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

掲示・配布物にて指示する。

英語コミュニケーション4 (Reading I)

横関美津紀 DYCUS, David C. 他

【授業の概要】

英文の内容を早く、正確に読みとれる能力を身につけるために、さまざまなタイプの英文を多読・速読する。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、英文の内容を早く、正確に読みとれるようになることがこの授業の目標である。具体的には、1分あたり150語以上のスピードで英文を読み、英語を日本語に訳すのではなく、英語を英語として読み、分からない単語があっても前後の文脈から意味を推測し、パラグラフとの要点を把握するための訓練を行う。速読の訓練には、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー)のSpeed Reading機能も活用する。授業は以下の内容で進める。

1. 社会・経済、世界の情報、自然科学、文化、広告文などの実用的な英文などさまざまな分野の英文の読解
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

〈長久手キャンパス〉

Exploring Cultural Issues: Practice in the TOEIC Test Format

(異文化で学ぶTOEICテスト総合演習) (清水義和他著 成美堂)

5-Minute Quizzes for TOEIC: Reading (TOEICのリーディング対策)

(木村恒夫他著 マクミラン ランゲージハウス)

以下未定

〈星が丘キャンパス〉

掲示・配布物にて指示する。

英語コミュニケーション5 (TOEIC II)

松本一喜 DYCUS, David C. 他

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての発展的な能力を身につけ、英語の総合力を高めることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) の「スタンダードコース」を活用して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 「スタンダードコース」の「レベル診断テスト」の受験 (学生の習熟度にきめ細かく対応するため)
2. 受講生による演習問題への解答
3. 授業担当者による問題解説
4. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
5. 確認テストの実施

「スタンダードコース」のうち、「リスニング力強化コース」(50ユニット)と「リーディング力強化コース」(50ユニット)の全100ユニットを修了させることが目標である。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

掲示・配布物にて指示する。

英語コミュニケーション7 (Oral Communicaton II)

LONG, Jonathan E.B. 他

【Course Content】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の応用的な力を身に付ける。

This pre-intermediate course, aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and roll plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

【Schedule】

Topics will include such things as: Leisure and Recreation, The Weather, Advertising, Commuting and Transportation, Banking and Shopping.

【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション6 (Oral Communicaton I)

WILLIAMS, Allen D. 他

【Course Content】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の基礎的な力を身に付ける。

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and roll plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

【Schedule】

Topics will include such things as: Office Conversations, Travel Situations, Talking about Occupations, On the Telephone, Eating out and other TOEIC type situational conversations.

【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション8 (Reading II)

石橋千鶴子 DYCUS, David C. 他

【授業の概要】

さまざまなタイプの英文の内容を正しく把握できるように、英文精読のトレーニングを行う。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、目的に応じた英文の読み方があることを知り、ある程度のまとまった長さの英文を読みとれるようになることがこの授業の目標である。長い文章は、全体のテーマに行き着くまでに、いくつかのパラグラフが組み合わされてできている。このため、英文の内容を正しく把握するためには、パラグラフごとの要点を把握し、異なるパラグラフが論理的にどのような関係にあるのか、筆者の主張・論点・メッセージは何かを理解する必要がある。授業は以下の内容で進める。

1. 長文の大意把握
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

掲示・配布物にて指示する。

ASU TOEIC I E

天野純子 太田晶子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
 - ・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
 - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- *宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC II E

STEPHENSON, Brett DUNKLEY, Daniel

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
 - ・演習（リスニング・Reading）（30分）
 - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- *宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC I F

天野純子 太田晶子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
 - ・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
 - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- *宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC II F

STEPHENSON, Brett DUNKLEY, Daniel

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
 - ・演習（リスニング・Reading）（30分）
 - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- *宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

上級英語セミナー 2004A

WRINGER, Paul

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

【Schedule】

Topics will be covered over a two to three week period and will include a variety of interesting and motivating themes selected mostly by the teacher.

First semester (AESa)
Personal information
Travel & vacations
Strange phenomena
Entertainment
Crime & capital punishment
Controversy

【Assessment】

Assessment will be continual and based on the following criteria:

ATTENDANCE
CLASS PARTICIPATION / EFFORT
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
END OF SEMESTER REPORTS
TOEIC SCORES

【Textbooks】

To be announced.

「上級英語セミナー2004A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。WRINGER, Paul先生(木曜日1限)、CURRAN, Beverley先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004A

CURRAN, Beverley

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

【Schedule】

Each week, in my class, a different student will be responsible for selecting a topic and introducing a discussion about it in English. The other students will listen with attention and then continue the discussion through their own questions and comments. The goal in each class is to engage in animated discussion for 90 minutes, giving each student an opportunity to grow more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation or discussion in English. Special guests will also be invited to the class to talk about themselves with the students in a relaxed and supportive atmosphere.

【Assessment】

Assessment will be based on participation and effort.

【Textbooks】

No text required.

「上級英語セミナー2004A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。WRINGER, Paul先生(木曜日1限)、CURRAN, Beverley先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004B

WRINGER, Paul

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

【Schedule】

Topics will be covered over a two to three week period and will include a variety of interesting and motivating themes selected mostly by the teacher.

Second semester (AESb)
The past
Current events in the news
Relationships
Food & Health
Fashion
The world of work

【Assessment】

Assessment will be continual and based on the following criteria:

ATTENDANCE
CLASS PARTICIPATION / EFFORT
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
END OF SEMESTER REPORTS
TOEIC SCORES

【Textbooks】

To be announced.

「上級英語セミナー2004B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。WRINGER, Paul先生(木曜日1限)、CURRAN, Beverley先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004B

CURRAN, Beverley

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

【Schedule】

In the second semester, discussions will continue, and students will be encouraged to take more responsibility for engaging in discussion and offering support to the speaker through a thoughtful consideration of the topic. Each week will be a chance to grow closer as a group of engaged language learners whose communal energy will motivate individual student growth in English ability and self-confidence. Special guests will also be invited to the class to talk to the students in English in a relaxed but lively atmosphere.

【Assessment】

Assessment will be based on participation and effort.

【Textbooks】

No text required.

「上級英語セミナー2004B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。WRINGER, Paul先生(木曜日1限)、CURRAN, Beverley先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004C

横山綾子

【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Timesからの記事使用(テープ)

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2004C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(水曜日3限)、Long, Jonathan E.B.先生(木曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004D

横山綾子

【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Timesからの記事使用(テープ)

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2004D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(水曜日3限)、Long, Jonathan E.B.先生(木曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004C

LONG, Jonathan E.B.

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

In this course the students will use all four language skills to explore the similarities and differences between Japanese and North American cultures. The class activities will include some TOEFL test preparation.

【Schedule】

Not yet determined.

【Assessment】

This will be a combination of attendance, class participation and homework.

【Textbooks】

To be announced.

【Reference】

To be announced.

「上級英語セミナー2004C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(水曜日3限)、Long, Jonathan E.B.先生(木曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004D

LONG, Jonathan E.B.

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

In this course the students will use all four language skills to explore the similarities and differences between Japanese and North American cultures. The class activities will include some TOEFL test preparation.

【Schedule】

Not yet determined.

【Assessment】

This will be a combination of attendance, class participation and homework.

【Textbooks】

To be announced.

【Reference】

To be announced.

「上級英語セミナー2004D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(水曜日3限)、Long, Jonathan E.B.先生(木曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004E

WOODMAN, Jo-Anne

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:

- teacher presented materials - (ie. CNN and BBC news broadcasts, as well as a wide gamut of newspaper articles)
- student research - (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article)
- TOEIC vocabulary text / materials

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask questions and participate in discussions.

【Schedule】

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

【Assessment】

Assessment will include the following components:

- Vocabulary tests - 3 types
- Preparation for (and participation in) class discussions
- Listening comprehension activities
- Attendance

「上級英語セミナー2004E」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。WOODMAN, Jo-Anne先生(水曜日4限)、横山先生(火曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004E

横山綾子

【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか...等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Timesからの記事使用(テープ)

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2004E」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(火曜日3限)、WOODMAN, Jo-Anne先生(水曜日4限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004F

WOODMAN, Jo-Anne

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:

- teacher presented materials - (ie. CNN and BBC news broadcasts, as well as a wide gamut of newspaper articles)
- student research - (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article)
- TOEIC vocabulary text / materials

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask questions and participate in discussions.

【Schedule】

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

【Assessment】

Assessment will include the following components:

- Vocabulary tests - 3 types
- Preparation for (and participation in) class discussions
- Listening comprehension activities
- Attendance

「上級英語セミナー2004F」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。WOODMAN, Jo-Anne先生(水曜日4限)、横山先生(火曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004F

横山綾子

【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか...等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Timesからの記事使用(テープ)

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2004F」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(火曜日3限)、WOODMAN, Jo-Anne先生(水曜日4限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

中国語読解 1 A

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

身近な実用読解文を多くとりあげた教材を通じて中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の2級に受かることを目標に定め、〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された400~900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、中国語の平易な文面の読解が可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである〈HSK基礎コースA〉〈HSK基礎コースB〉の履修が可能になる。

【授業計画】

- 1、オリエンテーション
- 2、母音、数字、挨拶
- 3、疑問文、形容詞述語文
- 4、子音、声調、曜日表現、
- 5、省略疑問文、疑問詞疑問文
- 6、音節、勧誘表現
- 7、動詞述語文、指示代名詞
- 8、我姓松本。自己紹介
- 9、介詞“和”、副詞“也”“都”
- 10、我的家庭。所有・存在の“有”、名詞述語文
- 11、部分否定文、感嘆表現、変調と轻声
- 12、我們的大学。介詞“給”“在”
- 13、名詞の修飾表現
- 14、我的一天。時の表現、方向補語
- 15、まとめ

【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

中国語会話 1 A

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

分かりやすい実用会話文を多くとりあげた教材を通じて中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の音声面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の2級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された400~900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、一般的な挨拶・自己紹介などが可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである〈HSK基礎コースA〉〈HSK基礎コースB〉の履修が可能になる。

【授業計画】

初めて中国語を学ぶ学生を対象に日常会話表現の習得を目指す。

- 第一課 発音 (1)
- 第二課 発音 (2)
- 第三課 発音 (3)
- 第四課 発音 (4)
- 第五課 あいさつ表現
- 第六課 時間の表し方
- 第七課 年齢を言う
- 第八課 家庭を語る
- 第九課 自分の家を語る
- 第十課 学校について語る
- 第十一課 趣味について語る
- 第十二課 中国へ行く

【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語会話 1 A・2 (中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

教場で指示する。

中国語読解 1 B

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

講義の内容等とカリキュラム上の位置づけは〈中国語読解 1 A〉と大同小異であるが、中国語学習に対して特別に関心を示す学生に対して週2回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が〈中国語読解 1 A〉と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広げること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにするを図る。

【授業計画】

読解に必要な、基礎的な表現や文法事項を、特に日本人の苦手な部分に重点を置いて、半期にわたって講義する。

- 第一課 発音 (1)
- 第二課 発音 (2)
- 第三課 発音 (3)
- 第四課 発音 (4)
- 第五課 人称代名詞・“是”
- 第六課 指示代名詞・数詞・量詞
- 第七課 形容詞と形容詞述語文
- 第八課 動詞述語文
- 第九課 “有”・年月日
- 第十課 場所・時間・数量
- 第十一課 前置詞 (介詞)・“了”
- 第十二課 能願動詞

【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語読解 1 B (中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

教場で指示する。

中国語会話 1 B

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは〈中国語会話 1 A〉と大同小異であるが、中国語学習に対して特別に関心を示す学生に対して週2回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定などが〈中国語会話 1 A〉と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広げること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにするを図る。

【授業計画】

- 1、オリエンテーション
- 2、今天星期幾？ 曜日と疑問詞利用の疑問文
- 3、我很高興。省略疑問文、形容詞述語文
- 4、我學習中文專業。能願動詞“能”
- 5、現在幾點？ 時間表現、語氣助詞“了”
- 6、我的家庭。介詞“在”
- 7、談天氣。天氣表現、選擇疑問文、感嘆文、
- 8、邀請。假定文、反復疑問文、部分否定文
- 9、中間テスト
- 10、我的大学。伝聞の表現
- 11、找手機。目的語位置換えの“把”、結果補語“到”
- 12、喜歡甚麼？ 過去の経験表現「V+“過”」
結果や程度表現「V+“得”」
- 13、幫我。能願動詞“會”
- 14、假期做甚麼？ 結果補語“好”
- 15、まとめ

【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

中国語読解2

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

読解学習を通じて中国語の全体像がつかめる基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級に受かることを目標に定め、〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。HSK試験対策のためには〈HSK基礎コースA〉か、〈HSK基礎コースB〉と並行した履修が望ましく、基礎能力の深度を深めるためには〈中国語会話2〉と並行した履修が望ましい。

【授業計画】

1. 就要放暑假了。語気助詞“了”、介詞“和”
2. 伝聞の表現、能願動詞“想”“要”
3. 暑假回家的一天。完了の表現、結果補語“到”
4. 使役の表現“讓”
5. 鈴木一家。能願動詞“会”“能”
6. 過去の経験表現「V+“過”」
7. 我家的照片。動作の進行・状態の持続などの表現「V+“着”」
8. 介詞“離”、連動文
9. 終於習慣了。感嘆表現2
10. 自己の意見表示
11. 我做了一個夢。動作の進行表現の「“在”+V」、程度補語と可能補語
12. 副詞用法の“地”
13. 我太幸福了。目的語位置換えの“把”、比較の表現、受身文
14. 春暇の計画。未完了の表現、許諾の表現
15. まとめ

【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

中国語会話2

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

主として、身近で分かりやすい実用例文を多くとりあげた会話学習を通じて、中国語の音声面・文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。履修後は、旅先での中国語による買い物などが可能になる。

【授業計画】

中国語会話1をクリアした学生が、さらに深く生きた中国語を話せるようになることを目指す。学生が、中国に留学している気分で学習できるように配慮した。

- | | |
|------|------------|
| 第一課 | 部屋を借りる |
| 第二課 | 換金する |
| 第三課 | 道を尋ねる |
| 第四課 | 交通機関を利用する |
| 第五課 | 市場での買い物の仕方 |
| 第六課 | デパート |
| 第七課 | ホテル |
| 第八課 | 郵便局 |
| 第九課 | 電話 |
| 第十課 | 中国人宅に訪問する |
| 第十一課 | レストラン |
| 第十二課 | スピーチの仕方 |

【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語会話1A・2（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

教場で指示する

HSK基礎コースA ※聴解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

履修後、HSK基礎試験の2級か3級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される400～1500前後の語彙量とその語彙量に相応する文法力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “了”や“过”の使い方など
2. “时点”の言い方や“时段”の言い方など
3. “小时”や“钟头”の使い方など
4. “方位词表”について
5. “多会儿”や“哪会儿”の使い方など
6. “该”や“应该”の使い方など
7. 介詞の“朝”、“向”と“往”の使い方
8. 比較表現について
9. “是字句”について
10. “愿意”や“想”の使い方など
11. “趋向补语”について
12. “复合趋向补语”である“下来”や“下去”などの意味について
授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

【テキスト】

HSK基礎A

HSK基礎コースB ※読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは〈HSK基礎コースA〉と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が〈HSK基礎コースA〉で用いる教材と異なっている教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “我”と“你”；“左右”と“前后”など
2. “是”；“语气助词”の“吗”と“呢”など
3. “了”；“形容词谓语句”など
4. “动词+过”と“形容词+过”；“在”など
5. “数量补语”；“头”と“面”など
6. “有字句”；结构助词“地”など
7. “量词的重叠”；“把字句”など
8. “从”と“离”；“一边～一边～”など
9. “都”と“一共”；“程度补语”など
10. “被字句”；“在・正・正在”など
11. “趋向补语”；“多么”など
12. “复合趋向补语”；“是～还是～”など
授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

【テキスト】

HSK基礎B

下記の科目は、本年度開講しません。

中国語読解 3

【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み中国語文の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の4級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。HSK試験対策のためには<HSK初等コースA>か、<HSK初等コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには<中国語会話3>と並行した履修が望ましい。

HSK 初等コースA ※聴解中心

【授業の概要】

履修後、HSK初等試験の4級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

中国語読解 4

【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙量とそれに相応する文法力を身につける。HSK試験対策のためには<HSK中等上級コースA>か、<HSK中等上級コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには<中国語会話4>と並行した履修が望ましい。

HSK 中等上級コースA ※聴解中心

【授業の概要】

履修後、HSK初・中等試験の5級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される2000～2500前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

中国語会話 3

【授業の概要】

第二外国語として一年間ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取り上げられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の4級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。履修後は家族生活・大学生活などについて語るができる。

HSK 初等コースB ※読解中心

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK初等コースA>と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK初等コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

中国語会話 4

【授業の概要】

1. 5年間ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取り上げられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙量とそれに相応する文法力を身につける。履修後は趣味生活・地域社会などについて語るができる。

HSK 中等上級コースB ※読解中心

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等上級コースA>と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK初等コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

中国語作文 1

【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心に習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、みずから平易な中国語文章が書けることにねらいをさだめる。さらに、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標にし、2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

HSK 中等高級コース 1 B ※読解中心

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等高級コース1A>と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK中等高級コース1A>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることによって理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

中国語作文 2

【授業の概要】

2. 5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心に習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、中国語の一般的な文章が書けることにねらいを定める。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標にし、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。履修後は、友人・知人への略式手紙、中国官公署向けの書類作成、中国語による日記・メモの作成などが可能になる。

HSK 中等高級コース 2 B ※読解中心

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等高級コース2A>と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK中等高級コース2A>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることによって理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

HSK 中等高級コース 1 A ※聴解中心

【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

同時通訳入門 1

【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心に習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、初歩的な同時通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。さらに、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標にし、2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

HSK 中等高級コース 2 A ※聴解中心

【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

同時通訳入門 2

【授業の概要】

2. 5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心に習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、平易な同時通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標にし、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。HSK試験対策のためには<HSK中等高級コース2A>か、<HSK中等高級コース2B>と並行した履修が、中国語表現の深度を深めるためには<中国語作文2>と並行した履修が望ましい。

情報技術基礎Ⅰ

西荒井学 他

【授業の概要】

情報技術に関する基礎的かつ実践的な知識ならびに技法を習得する。このため、基本的なハードウェア構成および各周辺機器の機能や特徴をはじめ、ソフトウェアの役割、情報社会の特質や問題点にも触れながら、一般的な情報関連知識ならびに情報倫理観を育てる。特に、情報技術の基礎として不可欠なネットワーク利用技術ならびにデータ処理操作技術について、コンピュータ実習を通じて学習する。

【授業計画】

1. コンピュータの歴史、原理
2. 情報の表現（2進数、16進数）
3. ハードウェアの仕組みとソフトウェアの役割
4. 情報社会と情報倫理1（ネットワーク犯罪）
5. 情報社会と情報倫理2（情報セキュリティ、知的所有権）
6. 情報収集と分析
7. 情報ツールとマナー
8. インターネット基本操作1（電子メール）実習
9. インターネット基本操作2（WWW）実習
10. EXCEL基本操作1 実習
11. EXCEL基本操作2 実習
12. EXCEL基本操作3 実習
13. EXCEL基本操作4 実習

当該科目については、科目履修前に情報技術に関するテストを実施し、受講者を初級クラスと上級クラスに分け、授業を実施していく。また、講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。コンピュータ実習を伴うため、授業への出席は不可欠な要素である。また、実習の際にはフロッピー・ディスク（またはMO）を必ず持参すること。

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

未定

情報技術基礎Ⅲ

梅田敏文 他

【授業の概要】

情報技術基礎Ⅰ、情報技術基礎Ⅱを踏まえ、Windowsの高度操作、WORD、EXCELの高度操作、ACCESSの基本操作を学び、より高度で広範囲な情報技術の知識とスキルを習得する。当授業では、レポートや論文作成、ビジネス文書や表作成などを想定して、実践的なノウハウをコンピュータ実習によって学習する。

【授業計画】

1. デスクトップの高度操作
2. ファイルの高度操作
3. ネットワークの操作
4. 学術文書、ビジネス文書の操作（WORD）
5. ビジネス情報処理（EXCEL）
6. マクロ操作（1）
7. マクロ操作（2）
8. ACCESSの概要
9. ACCESSの基本操作（1）
10. ACCESSの基本操作（2）
11. ACCESS総合演習（1）
12. ACCESS総合演習（2）
13. まとめ

【評価方法】

コンピュータ実習を中心に授業を進行する。授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。出席状況、学期末試験、課題内容によって評価する。

【テキスト】

未定

情報技術基礎Ⅱ

西荒井学 他

【授業の概要】

情報技術の基礎となる基本ソフトウェアならびに応用ソフトに関する知識ならびに技法を習得する。また、情報の処理能力や創造力を培うだけでなく、情報の表現方法や表現手段について、コンピュータ実習授業を通して学習していく。このため、基本的な文書書式、文書表現の方法や特徴をはじめ、実際にプレゼンテーション・ツールを利用した発表の手段や方法についても学習する。情報技術基礎Ⅰと同様、今後のより専門的な情報技術に関する知識ならびに技能習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。

【授業計画】

1. Windows基本操作1（キー・タイピングを含む）実習
2. Windows基本操作2 実習
3. WORD基本操作1 実習
4. WORD基本操作2 実習
5. WORD基本操作3 実習
6. WORD基本操作4 実習
7. プレゼンテーションの概要
8. POWERPOINT基本操作1 実習
9. POWERPOINT基本操作2 実習
10. POWERPOINT基本操作3 実習
11. 総合課題（プレゼンテーション資料作成1）実習
12. 総合課題（プレゼンテーション資料作成2）実習
13. 情報発信の管理と運用

当該科目については、情報技術基礎Ⅰと同じく、受講者を初級クラスと上級クラスに分け、授業を実施していく。また講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。コンピュータ実習を伴うため、授業への出席は不可欠な要素である。また、実習の際にはフロッピー・ディスク（またはMO）を必ず持参すること。

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

未定

ネットワーク技術入門

三和義秀 他

【授業の概要】

ネットワーク（network）という言葉は、人間を中心とする情報交換の仕組みとして使われたり、コンピュータを中心とする情報通信の仕組みにおいて使われたりしているが、両者には「情報のやり取り」という一義的な目的が存在し、ネットワークを流れるデータは人間の行動を左右する必要不可欠な情報となっている。本授業では、コンピュータネットワークに関する理論と技術の両側面における基礎知識を習得し、ホームページの作成、およびCGIプログラミングの実習によって、ネットワークの基本的な考え方、意義、活用方法、有効性を体得する。

【授業計画】

1. ネットワーク理論の基礎知識（1）：ネットワークの仕組みとその意義
2. ネットワーク理論の基礎知識（2）：情報量と通信速度、プロトコル
3. ネットワーク技術の基礎知識（1）：LANの仕組み
4. ネットワーク技術の基礎知識（2）：サーバの種類と仕組み
5. ネットワーク技術の基礎知識（3）：IPアドレスとファイアウォール
6. HTMLとホームページ（1）：HTMLの仕組み
7. HTMLとホームページ（2）：基本タグの設定、ハイパーリンクの設定、画像の表示
8. HTMLとホームページ（3）：サウンドの再生と動画の再生、ファイルの管理方法
9. CGIプログラミング（1）：CGIの仕組みとPerlプログラミングの基礎知識
10. CGIプログラミング（2）：エディタとFTP、パーミッションの設定
11. CGIプログラミング（3）：formタグによるデータ入力フォームの作成
12. CGIプログラミング（4）：環境変数、関数、文字列変換
13. セキュリティと情報倫理：セキュリティ対策と情報倫理の意味と必要性

【評価方法】

出席回数、課題提出、期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

ネットワークリテラシ ―ユビキタス社会におけるネットワーク活用のテクニック―
（三和義秀著 共立出版）

情報処理技術特殊 I

中野雅晴

【授業の概要】

基本情報技術者試験合格のための教育科目である。

情報技術全般の基礎知識を活用し、情報システム開発においてプログラムの設計・開発を行うとともに、将来高度な技術者を目指す者として、以下の知識・能力を身につける。

- 1) 情報技術全般に関する基本的な用語・内容の知識
- 2) 上位技術者の指導のもとにプログラム設計書を作成する能力
- 3) プログラミングに必要な論理的思考能力
- 4) プログラムのテスト手法を理解し実施する能力

【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎
- ステップ2 データベース技術
- ステップ3 コンピュータシステムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 情報と経営
- ステップ6 セキュリティと標準化

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊 II

中野雅晴

【授業の概要】

ソフトウェア開発技術者試験合格のための教育科目である。

情報システム開発のソフトウェア開発技術者として、外部仕様に基づいて内部設計・プログラム設計・プログラム開発を行い、高品質なソフトウェアを開発するための、以下の知識・能力を身につける。

- 1) ネットワーク、データベース、システム構成などの情報技術に関する一般的な知識と、上位技術者の指導のもとに情報システムの設計ができる能力
- 2) 内部設計書・プログラム設計書の作成能力
- 3) プログラミングに必要な高度の論理的思考能力
- 4) ネットワーク、データベースなどに関する実装技術と知識
- 5) プログラムのテスト手法を熟知し、単体テスト・結合テストの計画と管理が行え、テストの実施についてはプログラム開発要員を指導できる能力

【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎上級
- ステップ2 コンピュータシステム上級
- ステップ3 システムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 データベース技術
- ステップ6 セキュリティと標準化

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊 III

黒部晃一

【授業の概要】

「画像情報技能検定試験 CG 部門 (CG 検定)」の 2 級合格を目標として、その対策を会得する。2 級問題は、3 級レベルの CG に関する総合的な知識の他に、厳密な理論的知識をも要求されるので、VC による CG プログラミングのサンプルを解説することでそれを理解する。

【授業計画】

配布するサブテキストに基づいて、講義方式で行う。

1. CG 概論、CG 検定試験 2 級対策
2. 各種 CG ツールの紹介、そのデモンストレーションと作例紹介
3. VisualC++ による GUI プログラミング
4. VisualC++ によるインターフェースの設計
5. 平成15年度前期 CG 検定 2 級試験問題の検証と分析
6. 平成15年度前期 CG 検定 2 級試験問題の検証と分析
7. 平成15年度後期 CG 検定 2 級試験問題の検証と分析
8. 平成15年度後期 CG 検定 2 級試験問題の検証と分析
9. 平成14年度前期 CG 検定 2 級試験問題の検証と分析
10. 平成14年度後期 CG 検定 2 級試験問題の検証と分析
11. 演習
12. まとめ

【評価方法】

出席状況で評価

【テキスト】

技術編 CG 標準テキストブック (画像情報教育振興協会)
平成16年度版 CG 検定 2 級問題集 (画像情報教育振興協会)

【参考文献・資料】

- 入門コンピュータグラフィックス (画像情報教育振興協会)
- 基礎から学ぶ VisualC++ プログラミング (山岡祥 CQ 出版社)

情報処理技術特殊 IV

黒部晃一

【授業の概要】

「画像情報技能検定試験 CG 部門 (CG 検定)」の 1 級合格を目標として、その対策を会得する。1 級問題は、CG プログラミングのスキルを要求されるので、自ら発案するテーマに基づいたプログラミングの実習を行う。

【授業計画】

前半は講義方式で、後半は主に実習形式で行う。

1. CG 検定試験 1 級の概要と対策
2. VisualC++ による GUI プログラミング
3. 平成15年度 CG 検定 1 級試験問題 (マークシート) の検証と分析
4. 平成15年度 CG 検定 1 級試験問題 (記述式) の検証と分析
5. 平成15年度 CG 検定 1 級試験問題 (二次試験) の検証と分析
6. 平成15年度 CG 検定 1 級試験問題 (二次試験) の検証と分析
7. 平成15年度 CG 検定 1 級試験問題 (三次試験) の検証と分析
8. 平成15年度 CG 検定 1 級試験問題 (三次試験) の検証と分析
9. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習
10. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習
11. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習
12. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習、まとめ

【評価方法】

出席状況で評価

【テキスト】

技術編 CG 標準テキストブック (画像情報教育振興協会)
平成16年度版 CG 検定 1 級問題集 (画像情報教育振興協会)

【参考文献・資料】

- コンピュータグラフィックス理論と実践
(J.D.Foley, A.v.Dam, S.K.Feiner F.Hughes オーム社)
- 基礎から学ぶ VisualC++ プログラミング (山岡祥 CQ 出版社)

下記の科目は、本年度開講しません。

プログラミング入門

【授業の概要】

システム開発における基本技術であるプログラミング技術について、その基礎知識を習得する。このため、プログラミング言語が持つ特徴ならびに機能の学習からはじめ、データ処理におけるアルゴリズムについての考え方、ならびに最終的なコーディング作業に至るまでの一連のプログラミング工程について学習する。なお、プログラミングに関する理解は、実際のプログラミング作業を経験していくことが不可欠であることから、コンピュータ実習を並行して行う。

CG 入門

【授業の概要】

コンピュータグラフィックス (CG) に関する基礎知識と基礎技術を習得する。CG を効果的に使用した画像・映像は、産業、科学、映画、ゲーム、芸術、教育など多くの分野にみられる。各分野での応用例を紹介した上で、画像・映像についての知識を身につけ、モデリング・レンダリングについての技術を学び、最後にCG作成に必要なハード/ソフトについて概説する。

情報数学入門

【授業の概要】

情報の整理、分析、加工といった処理には、基本的な数学的技術の習得が不可欠である。この講義では、高等学校での数学の復習から始めて、情報処理プログラミングに必要な論理数学、情報量と計算量評価、グラフィック処理で必要となる代数幾何の基礎を学ぶ。

人工知能入門

【授業の概要】

人工知能とは何か、その基本的な考え方ならびに基本技術および情報処理について、その基礎知識を習得する。知識工学という言葉から類推されるように、工学的色彩が高い分野であることから、最も基礎的な内容に範囲を絞り、出来る限り理解しやすい形で授業を進行していく。そのため、システム事例や技術応用例に触れていくと共に、今後の技術展開や今後の応用分野についても触れていくこととする。

コミュニケーション心理学概論Ⅰ

斎藤和志 二宮 昭 吉崎一人

【授業の概要】

コミュニケーション行動、心理学に関わるいくつかの問題をオムニバス形式で概観する。コミュニケーション心理学概論Ⅰでは、認知心理学の領域については吉崎が、発達心理学の領域については二宮が、社会心理学の領域については斎藤が担当する。

【授業計画】

1. ヒトの情報処理を支える生理学的基礎
2. 知覚：視覚情報の処理を中心に
3. 記憶：2つの箱の謎
4. 注意と意識
5. 子どもとおとな：人が発達するとは
6. 世界を知る：「表象」の形成
7. コミュニケーションの拡がり：「ことば」の獲得
8. ことばで考える：「思考」の展開
9. 社会心理学の研究対象とそのアプローチ
10. 自分の心と自分の姿
11. 他人とのつきあい
12. 集団の中の人間

【評価方法】

各担当者の評価に基づき総合的に評価する。具体的には各担当者の指示による。

【テキスト】

共通したテキストは使用しない。

【参考文献・資料】

各担当者の指示による。

英語論文講読入門Ⅰ

鈴木哲至

【授業の概要】

英語論文読解の基礎を養成する。コンピュータ活用、インターネット活用においても、また、3年次以降の研究論文の講読においても、英語読解能力は不可欠であり、この能力の個人差を無くすように、理解度をチェックしながら基礎トレーニングを行う。

【授業計画】

- 主なトピックは以下のとおりである。
- Two Related Crises
 - The Paradox of Culture
 - Man as Extension
 - Culture as an Irrational Force
 - Culture as Identification

【評価方法】

出席状況・授業態度・クイズ30%、定期試験70%の割合で総合的に評価する。

【テキスト】

Beyond Culture 『文化を超えて』(Hall, Edward T. 著)

コミュニケーション心理学概論Ⅱ

古井 景 米倉 五郎 後藤 秀爾

【授業の概要】

臨床心理学全般を基礎的領域に限定して講義する。まず、古井が乳幼児期、少年期、思春期、青年期、成人、老人の精神病理、及び発達障害について論じる。後藤は臨床心理学が対象とする臨床の様々な領域（教育、医療、福祉、産業、司法、開業、行政など）、人生周期における課題、そして扱う方法論（個人心理療法、集団心理療法、様々な心理療法技法、心理査定の基本、コミュニティ援助、生活臨床的アプローチなど）について論じる。米倉は精神分析理論を中心に理論と技法の関連性、そして臨床心理査定投影法を中心に講義する。

【授業計画】

- 1～4 (古井)
精神医学的疾患の説明と精神力動論（自我心理学）的理解について言及する。不登校・引きこもり・適応障害・自閉症・ADHD・摂食障害・うつ病・躁鬱病・統合失調障害などについて論ずる。
- 5～8 (後藤)
臨床心理学が対象とする様々な領域、例えば教育、医療、福祉、産業、司法、開業、行政における臨床心理士の業務について紹介する。次に人生周期における発達課題やその挫折した形態のあり方を講義し、最後に臨床心理士が用いる方法論に言及する。例えば個人心理療法と集団心理療法の違いについて、様々な心理療法技法、心理査定の基本、コミュニティ援助、生活臨床的アプローチ等について論ずる。
- 9～12 (米倉)
精神分析理論では人間の行動・心理・パーソナリティを、意識と無意識との心理力動的な相互関係性をみていく。また、精神的な治療面接の技法では、面接構造（場所、時間、料金、ルール）について説明し、面接途中で発生する抵抗と転移・逆転移および明確化と解釈などの技法についてフロイトの事例を紹介しつつ解説する。そして、投影法を中心とする心理検査法の組み合わせ全体から、クライアントの心理病理、心理力動を総合的に解釈し、面接方針と治療面接についての予測と見立てる心理アセスメントの技法についても講義する。

【評価方法】

それぞれの担当者が講義を終えた段階でレポート課題を出し、それによって評価する。授業中の積極的質問等も成績に加味するので、主体的に授業に参加すること。

【テキスト】

テキストは使用しない。その都度、レジュメを配付する。

【参考文献・資料】

なし。

英語論文講読入門Ⅱ

鈴木哲至

【授業の概要】

講読入門Ⅰに続いて、平易な科学論文の講読を通して、学生個々の英語読解能力の向上に努める。語彙の習得、重要な語句・文の構造に対する理解を深めながら授業を進める。

【授業計画】

- 主なトピックは以下のとおりである。
- Apart from the Animals
 - The Trouble with Love
 - Some Thoughts about Thought
 - Personality's Part and Parcel
 - Mother's Day
 - I'm OK, You're a Bit Odd
 - Fast Track to Puberty
 - Knock Wood
 - Got a Minute
 - A Neat Gift Idea
 - Seeing is Believing
 - The Other 90%

【評価方法】

出席状況・授業態度・クイズ30%、定期試験70%の割合で総合的に評価する。

【テキスト】

We're Only Human 『人間の心理と行動に関する12章』
(Paul Chance 著)

心理統計基礎

齋藤和志

【授業の概要】

コミュニケーション行動、心理学に関する実証的研究を進めていく場合、さまざまな種類の資料・データを集めて分析を進めていくことになる。多くの場合、得られた資料・データは数値として扱われる。この数値はどのような特徴をもち、そこからどのようなことが読みとれるのであろうか。こうした数値を扱う際に必要となる統計的な考え方、方法の基礎について講義する。

【授業計画】

講義を行うが、必要に応じて小テスト、レポートを課す場合がある。また、調査や実験の被験者としての体験も重視する。

1. 統計とは何か、そして、統計はなぜ必要か？
2. 変数とデータ
3. Σ の記号の意味
4. 度数分布表とは
5. 量的変数における度数分布表の表わし方
6. 質的変数における度数分布の表わし方
7. 量的変数に関するデータの数値要約
8. 質的変数に関するデータの数値要約
9. 線形変換
10. 非線形変換
11. 2つの変数の関係についての分析
12. 統計的検定の基礎
13. 試験

【評価方法】

定期試験による。また、前述の小テスト、レポート、調査・実験の被験者体験を成績に加味する場合には事前に通告する。

【テキスト】

本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本
(吉田寿夫著 北大路書房)

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

心理学基礎実習Ⅱ

坂田陽子 松尾貴司

【授業の概要】

心理学的研究をおこなう上で必要不可欠な技能の基礎を習得する事を目的としています。具体的には、1) ワードプロソフト (WORD) を使って指定された書式のレポートが作成できる、2) 表計算ソフト (EXCEL) を使って心理学的データの整理をすることができる、3) 統計解析ソフト (SPSS) を使って心理学的データの基礎的な分析ができる、ことを目標とします。

【授業計画】

- 1-2回 図表入りレポート、2段組レジュメ、スケール付き質問紙の作成
- 3-4回 ビボットテーブルを使ったデータの整理
- 5回 科学レポートのためのグラフの作成
- 6回 <中間試験>
- 7-8回 SPSSの操作方法、データの入力、記述統計
- 9-10回 χ^2 検定~1変量の場合/2変量の場合(クロス集計)
- 11-12回 t検定~対応の無い場合/ある場合、相関
- 13回 データの操作(合成得点の作成)
- 14回 <期末試験>

【評価方法】

出席、試験、課題の提出等で総合的に評価する。

【テキスト】

SPSSでやさしく学ぶ統計解析 第2版(室淳子・石村貞夫著 東京出版)

心理学基礎実習Ⅰ

新美明夫 西出隆紀 松尾貴司 小川一美

【授業の概要】

心理学的研究を行うにあたって必要な基礎的スキルを習得する。各種の課題に取り組みレポートを作成していく中で、研究テーマの設定、資料の検索、実証データの収集・分析、論理の構成、文章表現、図表の作成などの要点を講義と実践によって学習する。

【授業計画】

全体構想として、授業4コマ分を1セッションとし、3セッションの課題と冬休みの宿題から講義を組み立てる。

◎オリエンテーション(第1回)

「心理学的研究とは」と題して講義を行い、同時にグループ分け等、今後の準備作業を行う。

◎第1セッション(2~5回)

課題図書を読み熟読吟味した上で、指定された視点からの討論を行い、それを記録に残し、最終的には客観性の高いまとめに仕上げるまで推敲する作業を行う。

◎第2セッション(6~9回)

ミュラー・リヤーの錯視実験を行い、そのデータに基づきレポートを作成する。

◎第3セッション(10~13回)

信号無視行動というテーマを設定し、そうした行動が起こる原理をあれこれ仮説を立ててみる。次にそれらの仮説を実証するための方法論を組み立て、実際に観察を実施して、結果を考察するまでのレポート作成を行う。

◎冬休みの課題

「子どもの生活実態についてのインタビュー・レポート」を作成する。

【評価方法】

評価は、出席および提出されたレポートに基づいて行う。

【テキスト】

未定。

生理心理学(2004年度以降入学者対象)

清水 遼

【授業の概要】

ヒトや動物の行動を生物学的観点から説明する心理学の一分野(生理心理学)の概説をする。本講義では脳の構造と機能に関する基礎的知識の習熟に続いて、喜怒哀楽の感情や学習、記憶などの高次精神、更には精神障害の発現メカニズムなどについて考察する。

【授業計画】

1. 生理心理学とは
2. 中枢神経系の構造と機能
 - ・ 大脳皮質の機能局在
 - ・ 大脳辺縁系と大脳基底核
 - ・ 視床と視床下部
 - ・ 脳幹と小脳
3. 自律神経系の構造と機能
4. ニューロンの電氣的伝導と化学的伝達
5. 心の異常と脳内化学伝達物質
6. ストレスと脳
7. 記憶と脳
8. 言葉と脳
9. まとめ

【評価方法】

学期末試験の成績で評価する。

【テキスト】

使用しない。講義時に適宜プリントを配布する。

社会心理学 (2004 年度以降入学者対象)

植村勝彦

【授業の概要】

人間の社会的な場面での行動を研究するのが社会心理学であるが、それを「実験」という方法によって明らかにしようとする「実験社会心理学」で得られた興味深い知見を数多く紹介することによって、入門としての社会心理学の面白さを味わってもらいたい。

【授業計画】

- 第1講 社会心理学とは何か
- 第2講 同調行動のメカニズム
- 第3講 実験室のナチズム
- 第4講 模擬監獄実験
- 第5講 冷淡な傍観者
- 第6講 社会的手抜き
- 第7講 認知的不協和理論
- 第8講 対人交渉：要請と承諾
- 第9講 類は友を呼ぶ
- 第10講 相互魅力のゲイナーロス効果
- 第11講 情動二要因理論
- 第12講 偽薬効果と逆偽薬効果
- 第13講 割引かれた罪悪感
- 第14講 実験社会心理学における倫理的問題

【評価方法】

学期末の単位認定試験の成績で評価する。

【テキスト】

社会心理学ショート・ショート—実験でとく心の謎—
(岡本浩一著 新曜社)

臨床心理学 (2004 年度以降入学者対象)

西出隆紀

【授業の概要】

「臨床心理士」という名称が社会に認知されはじめ、「心理学を学ぶイコール臨床心理学」を学ぶという誤解も多く見られるようになった。この講義では心理学初学者である1年生を対象とするものであることを考慮し、臨床心理学は多くの心理学的・医学的知見に支えられている心理学の一分野であるということを確認しつつ、巷にある臨床心理学のイメージとその実際との乖離を埋めていけるような説明をしていきたい。

【授業計画】

1. 臨床心理学とは
心理学と臨床心理学の歴史、応用心理学としての臨床心理学
2. カウンセリングと心理療法
カウンセリングとは、心理療法とは、さまざまな心理療法
3. 心理アセスメント
診断と見立て、心理検査、心理アセスメントの理論と実際
4. こころのしくみと発達
パーソナリティ、適応と不適応、こころの構造、こころの発達
5. こころの病
こころの正常と異常、発達障害、精神病、うつ、人格障害、不安障害
6. 臨床心理学の現場
病院臨床、学校臨床、施設臨床、行政機関、産業領域、新しい領域
7. 心理臨床家の訓練と倫理

【評価方法】

成績は出欠を考慮してテストで評価する。テストは手書きのノートのみ持ち込み可（コピーを持ち込んだ場合は失格）とするので、毎回出席しないとテストの時に慌てることになる。

発達心理学 (2004 年度以降入学者対象)

坂田陽子

【授業の概要】

乳児期から児童期までの時期におこる特有の発達や年齢に応じた認知の変化を概説する。特に、実際に行われた実験を紹介しながら、乳幼児の驚くべき能力や表象・概念の発達、および社会性の発達について述べる。

【授業計画】

1. 発達心理学とは？
2. 乳児の能力1 知覚
3. 乳児の能力2 模倣
4. 乳児の能力3 運動
5. 表象の発達1 対象物の永続性
6. 表象の発達2 イメージ
7. 表象の発達3 描画
8. 表象の発達4 3つの山問題
9. 概念の発達1 数概念
10. 概念の発達2 素朴理論
11. 社会性の発達1 心の理論
12. 社会性の発達2 感情の理解

【評価方法】

定期試験による。その他、講義中の発表や質問など、積極的な授業参加態度も評価に加える場合がある。

【テキスト】

実験で学ぶ発達心理学 (杉村伸一郎・坂田陽子編 ナカニシヤ出版)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業中に紹介・配布する。

政治学

西尾林太郎

【授業の概要】

政治体制や政治制度について概括的に学びながら、現実の政治の動態を日本と諸外国と比較しながら学習する。時事問題や日常的な話題にもふれつつ講義を進める。

【授業計画】

1. 国内政治と国際政治
 - a 国際社会とは？
 - b 国民国家、ナショナリズム、外国為替
 - c トランス・ナショナル現象、相互依存性の増大
 - d イスラム原理主義とグローバルスタンダード
2. 古典的デモクラシーとマス・デモクラシー
 - a 市民社会と大衆社会
 - b 立法国家と行政国家
3. 現代の政治過程
 - a 政治と利益団体、NPO
 - b 選挙、官僚、議会
 - c マスメディアとマスコミュニケーション
4. 政治権力とは何か
 - a 人間はどうして支配を受けられるか？
 - b リーダー・シップ、エリート
 - c 支配、被支配の心理
5. 戦後国際社会と日本の政治
 - a 冷戦構造と55年体制
 - b 利権の構造

【評価方法】

試験（配布資料と自筆ノートのみ持込可）と出席状況による。

【テキスト】

暮らしから考える政治 (姜尚中著 岩波ブックレットNo.564)

国際政治論

草間秀三郎

【授業の概要】

前半では冷戦終結後の国際政治の特徴と課題を検討していく。唯一の超大国となったアメリカの新しい外交・経済・軍事政策を分析し、新世紀における役割を展望する。後半では国連の組織と活動、EUとASEANという地域国際協力機関を比較的に分析し、最後にグローバル化と「人間の安全保障」の諸問題も検討する。

【授業計画】

1. 21世紀初頭の国際政治―特徴と課題―
2. アメリカの新しい外交・経済・軍事政策
3. 冷戦終結と激動の世界
4. 同時多発テロと対アフガン・イラク戦争
5. ベトナム戦争後のアメリカ外交
6. 現代アメリカ政治外交の源流
7. 国連の組織と活動
8. 国連平和維持活動 (PKO)
9. 欧州連合 (EU) と東南アジア諸国連合 (ASEAN) - (1) -
10. 欧州連合 (EU) と東南アジア諸国連合 (ASEAN) - (2) -
11. グローバル化の諸問題
12. ロシア型と中国型
13. 「人間の安全保障」―国連と日本の対応―

【評価方法】

期末試験により評価する。出席を重視する。

【テキスト】

世紀転換期の国際政治史 (福田茂夫他 ミネルヴァ書房)

【参考文献・資料】

毎回、テキストの内容に関するレジュメと資料を配布する。

ビジネスとコミュニケーション (2003年度以前入学者対象)

大塚英揮

【授業の概要】

ビジネスにおいて「コミュニケーション」が果たす役割、重要性について理解を深めるのが当授業の目的である。

この目的を達成するために、当授業では、(1) 会社という「組織」の中で行われる個人対個人のコミュニケーション、(2) 会社間でなされる企業間コミュニケーション、(3) 会社対消費者でなされるコミュニケーションという3つの側面から、ビジネスとコミュニケーションの問題にアプローチしていきたい。

【授業計画】

1. 3つのコミュニケーション―組織内、組織間、対消費者
2. なぜ組織が必要なのか
3. 組織におけるコミュニケーションの必要性
4. 組織においてコミュニケーションはどんな機能を果たすか
5. 組織におけるコミュニケーションの阻害要因と対策
6. 企業間コミュニケーションとは何か
7. ケース：流通における企業間コミュニケーション
8. 企業間コミュニケーションと情報化
9. グローバル企業におけるコミュニケーション
10. 企業対消費者のコミュニケーション
11. ケース：口コミで商品をヒットさせよう!
12. 消費者との双方向コミュニケーション
13. ケース：サイバー・マーケティング
14. ビジネスとコミュニケーション
15. まとめ

【評価方法】

通常の小テスト (40%) と期末レポート (60%) にて評価します。

【テキスト】

使用しない。随時必要ときにプリントを配布します。

【参考文献・資料】

参考書は授業中に指示します。

国際政治論

瀬戸裕之

【授業の概要】

国際関係は冷戦時代の東西対決時代から、協力時代へと変化し、グローバル化が進んでいる。しかし、民族・宗教・地域などの対決と紛争は今も絶えない。国際政治の実情を具体的事象にふれながら講義する。

【授業計画】

1. 国際関係の基本概念
2. 国際関係理論
3. 冷戦構造の展開と終焉
4. 国際経済と地域統合
5. 核兵器と安全保障
6. 南北問題と開発
7. 地球環境問題
8. 地域紛争、テロリズム
9. 第二次世界大戦と日本
10. 戦後日本と安全保障
11. 日本の国際協力
12. アジア太平洋のなかの日本

【評価方法】

成績評価は、期末試験 (筆記) により行う。出欠は考慮しないが、中間試験を受験しないものは、期末試験の受験資格を失う。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。

【参考文献・資料】

国際関係学講義 新版 (原彬久編 有斐閣)

プレゼンテーション

松田照美

【授業の概要】

一般社会人として、コミュニケーションを円滑に行なうに必要な対人接遇の在り方について、自己表現の基本技術と面談の効果的な仕方、文書などによる演出について実践的に学習する。

【授業計画】

- 第1回 プレゼンテーションを学ぶにあたって
- 第2回 ノンバーバル・コミュニケーション (1)
- 第3回 ノンバーバル・コミュニケーション (2)
- 第4回 効果的な言語表現 (1)
- 第5回 効果的な言語表現 (2)
- 第6回 対人接遇における印象管理
- 第7回 対人接遇のスキル―自己紹介―
- 第8回 コミュニケーションにおける資料提示の技術
- 第9回 対人接遇としてのプレゼンテーション
- 第10回 3P分析と戦略
- 第11回 企画と構成
- 第12回 プレゼンテーションの演出法
- 第13回 ビジネスプレゼンテーションの実践

【評価方法】

出席状況・小テスト・実習課題などによって総合的に評価する。

【テキスト】

プレゼンテーション (関根健夫監修 一橋出版)

【参考文献・資料】

パーフェクト・プレゼンテーション (八幡紘史・生産性出版)

異文化トレーニング

寺本史子

【授業の概要】

グローバル化の進む現代において異文化コミュニケーションの重要性は明白である。このコースでは、異文化コミュニケーション関連の基本的な語彙や概念を理解するとともに異文化理解のために必要な知識・態度について考察する。さまざまな資料の分析やコミュニケーションワークを通して適切な異文化コミュニケーション能力を養成する。

【授業計画】

1. なぜ今異文化コミュニケーションか
2. 文化・異文化とは
3. コミュニケーションのメカニズム
4. コミュニケーション・スキル
5. 言葉によるコミュニケーション
6. 言葉のないメッセージ
7. 見えない文化
8. 異文化のとらえ方・接し方
9. 異文化との出会い
10. 世界に見る異文化コミュニケーション
11. コンフリクト・マネジメント
12. 多文化への道
13. 学期末試験

【評価方法】

レスポンスペーパー、レポート、学期末試験の成績、出席状況などから総合的に判断する。

【テキスト】

異文化トレーニング (八代京子他著 三修社)
必要な関連資料については適宜授業中に配布

【参考文献・資料】

異文化コミュニケーション・ワークブック (八代京子他著 三修社)
日本の常識はどこまで通じるか:異文化交流で失敗しないために
(ジョリー幸子・小池弘道著 風媒社)
Culture, Communication, and Conflict
(Gary R. Weaver編 Simon・Schuster Publishing)

国際交流論

榎田勝利

【授業の概要】

経済大国となった日本は、国際社会の有力な一員として責任ある行動をとることが求められる。近年の「国際化」に伴い、政治、経済、学術、芸術、スポーツなどの分野でも、盛んに国際交流が行われているが、果たして真の交流が実現しているのだろうか。主に日本に滞在する多くの外国人との異文化接触を通しての国際交流のありかたについて論ずる。

【授業計画】

1. ガイダンス、国際交流に関わる用語解説
2. 国際交流活動とは
3. 国際交流活動の領域
 - (1) 海外との交流
 - ・姉妹都市交流
 - ・青少年交流
 - ・文化・芸術交流
 - ・NGOの国際協力活動
 - ・自治体の国際協力活動
 - (2) 多文化共生
 - ・自治体の外国籍住民
 - ・NPOと外国籍住民
 - (3) 異文化理解
 - ・国際理解セミナー
 - ・地球市民教育
4. 国際文化交流と草の根交流
5. 国際交流活動の新展開
 - ・事業評価
 - ・IT戦略

【評価方法】

課題レポートおよび出席状況等により評価する。

【テキスト】

国際交流・協力活動入門講座I「草の根の国際交流と国際協力」
(毛受敏弘編著 明石書店)

異文化コミュニケーション

高井次郎

【授業の概要】

異文化の相手との相互作用を円滑に運ぶために必要な知識、態度および対人行動技術について、言語および非言語行動を中心に考察する。日本の対人行動パターンの自覚を通じて、異文化コミュニケーションの障壁となり得る要因を考察する。

【授業計画】

1. コミュニケーションの定義
2. 文化とコミュニケーション
3. 言語コミュニケーション
4. 言語コミュニケーション
5. 非言語コミュニケーション
6. 非言語コミュニケーション
7. 対人認知
8. ステレオタイプ
9. 人種偏見
10. 人種差別
11. 異文化間能力
12. 異文化間トレーニング
13. コミュニケーション研究
14. コミュニケーション理論
15. 期末試験

【評価方法】

出席および期末試験をもって成績の評価を実施する。

【テキスト】

未定

メディア論

遠藤雄久

【授業の概要】

本講の目的は、マルチメディア時代といわれる現代のメディア状況をよりよくとらえるために、歴史社会的視点に立ってメディアと人間・社会の関わり方を振り返って見ようというものである。十九世紀後半に出現した電信、電話から始めテレビジョンそしてパーソナルコンピュータに至る電子メディアの発展の過程を、人間や社会がどのようにメディアをデザインしてきたかという観点からたどっていく。

【授業計画】

- 第1回 総論
- 第2回 電信技術の実用化
- 第3回 電話の発明の父はだれ?
- 第4回 ラジオのような電話
- 第5回 ラジオ放送の開始
- 第6回 写真技術の開発
- 第7回 映画の誕生
- 第8回 ハリウッド映画の成立
- 第9回 映画ソフトの多様化 (1)
- 第10回 映画ソフトの多様化 (2)
- 第11回 テレビ放送の誕生と発展
- 第12回 メディアの境界領域
- 第13回 まとめ

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績を総合判断する

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

国際関係論

瀬戸裕之

【授業の概要】

本講義においては、現代の国際社会と日本の関係について基本的理解を深めることを目的とする。国際関係を分析していくために必要な概念や理論、冷戦、グローバル化および地域統合など国際関係の基本構造や諸課題を学んだ後、第二次世界大戦、戦後安全保障、国際協力の諸側面から日本と国際社会の間の歴史的關係と現在の課題を考察する。

【授業計画】

1. 国際関係の基本概念
2. 国際関係理論
3. 冷戦構造の発展と終焉
4. 国際経済と地域統合
5. 核兵器と安全保障
6. 南北問題と開発
7. 地球環境問題
8. 地域紛争、テロリズム
9. 第二次世界大戦と日本
10. 戦後日本と安全保障
11. 日本の国際協力
12. アジア太平洋のなかの日本

【評価方法】

成績評価は、期末試験（筆記）により行う。出欠は考慮しないが、中間試験を受験しないものは、期末試験の受験資格を失う。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。

【参考文献・資料】

国際関係学講義 新版（原彬久編 有斐閣）

比較教養論

柳澤幾美

【授業の概要】

「教養」に関する各国の思想史を概説する。このクラスでは特に「結婚」についての各国の思想史を紹介する。諸国における結婚のありようを見渡し、その文化の比較を行う。

【授業計画】

1. イントロダクション（統計上の各国の比較）
2. アメリカにおける結婚
3. 中国の婚姻
4. 韓国における結婚
5. フランスの結婚
6. 移民たちの結婚—アメリカにおける「写真結婚」観

【評価方法】

レポート40%、試験60%にて評価する。

【テキスト】

特に使用しない。

【参考文献・資料】

その都度紹介する。

異文化教育論

霜田一敏

【授業の概要】

日本においても国際化が進展し、さまざまな国の人たちが急速に増大している。私たちは益々異なった文化と言語を持った人たちと共存して生きていかなければならない。世界の人々との平和的な交流を図る上で、異文化理解はこれからの教育の重要な問題である。この問題を国際理解教育の観点から具体的に論究する。

【授業計画】

異文化とは何かを自らが体験した個人内異文化状況をもとに下記の項目で学生参加で行う。

1. 大学生活の異文化状況—中高との対比—
2. 一人暮らしの異文化状況
3. 方言と風習の違い
4. 地域生活の違い
5. アルバイトの世界の異文化状況
6. 世代間・家族間の異文化状況
7. いじめの世界・ひきこもりの世界、障害者の世界
8. インターネットの世界（メールや携帯電話の姿が見えない世界）

【評価方法】

毎回行うミニテストと授業への参加度、期末の定期テストで総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。その都度プリント資料を配布する。

【参考文献・資料】

講義のなかで紹介する。

比較文化論 I（日・米）

松本青也

【授業の概要】

集団が共有する価値観や規範の体系としての文化について、日本とアメリカを比較対照して、それぞれの文化の特質を浮き彫りにするとともに、異文化理解を深める方法についても考察する。

【授業計画】

アメリカのテレビ番組や新聞雑誌の分析を加えながら講義と意見交換で進行するこの授業は、いわば自国文化に縛られた自分の姿を映し出す鏡。覗いてみると、もっと自由に伸びやかな生き方が目の前に広がります。

1. 文化論
- 2～9. 文化変形規則（CTR）
10. システムとしてのCTR
11. 研究対象としてのCTR
12. 日本語の衝突とCTR
13. CTRと学校英語教育
14. これからの日米文化

【評価方法】

レポート、学習態度、出席状況による総合評価

【テキスト】

日米文化の特質（松本青也 研究社）

比較文化論Ⅱ（日・欧）

TODOROVIC, Thomas

【授業の概要】

西ヨーロッパの主な諸国（フランス、イギリス、ドイツ、イタリア、スペイン）と日本におけるさまざまな文化様相の状況と問題点に関する最新のデータを利用して比較を行ない、ヨーロッパ文化への理解と関心を深める。

【授業計画】

- 1) 生活様式と生活様
- 2) 人口問題
- 3) 消費社会文化
- 4) 暴力、犯罪といじめの問題
- 5) ヨーロッパの匂いと味、しぐさと音
- 6) 家族制度
- 7) フランス人の結婚
- 8) 自由時間
- 9) 教育制度
- 10) メディア
- 11) 環境問題
- 12) 地域文化

【評価方法】

テストによる評価する。

【テキスト】

使用せず。

比較文化論Ⅳ（日・中東）

澤江史子

【授業の概要】

現代世界に生きる私たちにとって理解が不可欠となっている中東イスラーム世界について、文明、歴史、国際政治、宗教という多様な側面から理解することを旨とする。事例としてはトルコを中心に取り上げる。

【授業計画】

1. 導入
 - * 「中東」とオリエンタリズムの問題
 - * 中東の文化とアイデンティティの重層性
2. 近世から近代へ
 - * オスマン帝国における近代化の歴史と問題
 - * 明治期の日本とオスマン帝国
3. イスラーム世界と国際政治
 - * イスラーム世界とヨーロッパ
 - * 冷戦後のイスラーム世界
 - * 「原理主義」と「文明の衝突」論
4. イスラーム復興運動
 - * イスラームとは何か
 - * イスラーム復興運動とは何か

【評価方法】

授業中の課題および試験によって評価する。

【参考文献・資料】

オスマン帝国—イスラーム世界の「柔らかな専制」
（鈴木董 講談社現代新書 1992年）
イスラームとは何か（小杉泰 講談社現代新書 1994年）
イスラームの日常世界（片倉もところ 岩波新書 1991年）
その他、授業中に適宜指示する。

比較文化論Ⅲ（日・アジア）

馮 富榮 尹 大辰

【授業の概要】

（概要）アジア諸国の中でも、特に日本と深い関わりのある中国と韓国を取り上げ、歴史認識や政治までを含めた広範囲な文化を日本と比較する。

（オムニバス方式）

（馮富榮教授）日本と中国の文化・習慣の違いについて説明する。主として、両国の食文化、風俗習慣、建築文化、漢字文化、交流文化及びお茶とお酒の文化などをテーマにし、講義し、比較する。

（尹大辰兼任講師）「日韓両国の歴史認識への接近」をテーマに韓国近代史に焦点をあて、まず自らを点検し、共有する歴史認識の確立をめざし、今後のあるべき姿を模索していこうとするものである。

【授業計画】

学生のアジア諸国に対する真の理解を深めることを目的としているので、中国や韓国の文化習慣を多面的に紹介する。具体的に以下の内容となる。

1. 中国文化の原点である“天人合一”について
2. 何千年の歴史を持つ中国の漢字文化
3. 世界でも大変評判になっている中国の食文化
4. 中国の祝日と風俗習慣
5. 中国の古都の紹介
6. 中国の文化習慣がいかにして中国人の日本語学習に影響を及ぼすか
7. 中国に関する全体的なまとめ
8. 日本と朝鮮半島との文化交流（古代）
9. 日本と朝鮮半島との文化交流（中世）
10. 日本と朝鮮半島との文化交流（近代）
11. 朝鮮半島の自然と文化・風土
12. 韓国の家族制度と姓・本貫
13. 韓国の社会生活から見た文化比較

【評価方法】

レポート及び平日の出席状況などを考えて、総合的に判断する。

【テキスト】

自作教材

【参考文献・資料】

金函基監修図説「韓国の歴史」（河出書房新社）

英語論文講読Ⅰ

坂田陽子 新美明夫 西出隆紀 小川一美

【授業の概要】

3年生以降の専門教育を受けるのに必要な英語読解力の基礎を養成することをめざす。心理学を中心とするやさしい科学論文をテキストとしてとりあげ、論文英語に固有の表現や学術用語に慣れることが目標となる。

【授業計画】

予めプリントを配布し、毎回、定められた範囲の英文を講読する。

【評価方法】

読解力の平常点、出席状況、テストなどによる。

【テキスト】

プリント配布。

英語論文講読Ⅱ

坂田陽子 新美明夫 西出隆紀 小川一美

【授業の概要】

講読Ⅰに続いて、心理学を中心とする研究論文を読みこなす力の養成をめざす。比較的新しいトピックスをとりあげている実験論文や調査論文をテキストとして、そのスタイルに慣れるとともに読解スピードをあげることが目標になる。

【授業計画】

予めプリントを配布し、研究論文の内容を理解しながら講読する。

【評価方法】

英文理解力の平常点、出席状況、テストなどによる。

【テキスト】

プリント配布。

研究法実験演習Ⅰ・Ⅱ

清水 遼 吉崎一人 遠山智子 赤嶺亜紀

【授業の概要】

- I：生理心理学の領域で扱われる生理学的測定法を学習する。種々の心理事象での脳波や自律神経ポリグラフの測定や分析法について習得する。
II：認知心理学の領域で扱われる心理学実験の手法を学習する。記憶研究等の基礎的実験を通じて実験の計画と実施法データの分析法、結果のまとめ方等を習得する。

【授業計画】

実習は小グループ単位でローテーションしながら行い、総実習回数のうち半数を生理心理学、残りの半数を認知心理学の学習に充てる。生理心理学ではさらに事象関連電位と自律神経ポリグラフに分かれて実習する。

【評価方法】

生理心理学、認知心理学のそれぞれでレポートの課題が与えられる。それらのレポートの評点に遅刻、欠席などを考慮した総合評価を行う。

【テキスト】

使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

研究法観察演習Ⅰ・Ⅱ

斎藤和志 松尾貴司 中藤 淳 荒川礼行

【授業の概要】

- I：コミュニケーション行動、心理学に関する実証的研究を進めていく場合、さまざまな種類の資料・データを集めて分析を進めていくことになる。その研究法の一つである観察法の基礎技法（自然的観察、参加的観察、実験的観察など）を実際に体験しながら学ぶ。演習Ⅰでは問題設定、データ収集について学習する。
II：研究法観察演習Ⅰで得られたデータについて、分析し、報告書を作成するといった一連の研究プロセスを学習する。

【授業計画】

IとIIは連続して受講すること。単独の履修は認められない。前半は観察法の基礎技法を広く学習する。後半はグループ単位に分かれ、具体的なテーマに沿って個別研究を行い、その中で観察法の実践について理解を深める。必要に応じてビデオなどの視聴覚機器の使用法の実習を行ったり、コンピュータを使用しての分析を行う。

1. 授業全体のオリエンテーション、諸注意
2. 観察法概説
3. 観察法基礎実習
4. 問題の設定
5. データ収集法の検討
6. データ収集
7. データ分析
8. 報告書の作成と研究発表

【評価方法】

授業への参加態度と、数本のレポートによる総合的評価。

【テキスト】

使用せず。

研究法調査演習Ⅰ・Ⅱ

新美明夫 石田靖彦 小平英志 遠山智子

【授業の概要】

コミュニケーション行動などの実証的研究を進めていく際の研究法の一つである、質問紙調査法の演習を行う。調査テーマの検討から始まり、質問紙の作成と印刷、調査の実施を行う。さらに得られた調査データを元に、データ入力・集計・分析・調査レポートの作成の一連のプロセスを少人数のグループ単位で行い、質問紙調査法の科学的的方法論を身につける。

【授業計画】

- I、IIは一体の授業であり、連続して受講すること。
1. 調査計画の立案
 - (a) 演習計画とグループ分け
 - (b) 調査テーマの決定・文献の収集
 - (c) 調査目的の明確化・研究仮説の設定
 2. 質問紙の作成
 - (a) 調査項目・尺度の作成
 - (b) 質問紙の作成・印刷
 - (c) 調査の実施
 3. データの整理と分析
 - (a) データのコーディングと入力
 - (b) データの集計と分析
 - (c) 分析結果の整理
 4. 調査報告書の作成
 - (a) 研究のまとめ方
 - (b) 報告書の作成
 - (c) 研究成果のプレゼンテーション

【評価方法】

報告書の内容および演習への参加態度を評価の対象とする。

【テキスト】

使用しない。必要な資料は随時配布する。

研究法面接演習 I・II

西出隆紀 清滝裕子 具志堅伸隆 難波久美子

【授業の概要】

心理学的な研究方法の一つである「面接法」の基礎を学び、実習を行う。Iでは研究史から問題意識を明確に構成し、厳密な方法でデータを収集した上で、統計的な手法を中心に分析を進め、考察を加える。IIでは臨床面接法について心理臨床現場で行われるカウンセリングをはじめとする心理療法の基本的態度と基礎知識を身につけていくことを学習する。

【授業計画】

- 第1回 演習計画（今後の予定） グループ分け・調査テーマの討議
- 第2回 調査テーマの決定（要旨提出）
- 第3回 文献収集・調査目的の明確化
- 第4回 質問項目の検討
- 第5回 予備面接と項目の再検討
- 第6回 面接実施
- 第7回 評定・コード化基準の検討
- 第8回 「問題」「方法」の下書き提出・データ入力
- 第9回 データ分析法の検討および分析処理
- 第10回 データ分析処理（続）および結果の検討（解釈）
- 第11回 報告書作成（「結果」「考察」）
- 第12回 報告書作成（続）（「結果」「考察」下書き提出）
- 第13回 報告書作成（修正）
- 第14回 臨床面接法について（その1）
- 第15回 臨床面接法について（その2）
（グループ研究の進み具合で14、15の内容が変更されることもある）

【評価方法】

成績評価はグループレポートの出来による。その他、個人のグループへの参加態度や出欠を考慮する。

データ解析II

吉崎一人

【授業の概要】

データ解析Iに引き続き、統計パッケージソフト（SPSS等）を利用したデータの分析について、実際にデータを処理しながら学ぶ。主に実験計画法に基づいて収集されたデータを分析する分散分析の扱い方について取り上げる。

【授業計画】

- 授業の内容は以下のようであるが、各単元に複数時間を当てることもある。
1. 研究計画の進め方・実験計画法について
 2. データの収集とその整理、データ入力について
 3. SPSSの基本操作の確認
 4. 被験者間1要因計画
 5. 被験者内1要因計画
 6. 多要因計画と交互作用の意味
 7. 被験者間2要因計画
 8. 被験者内2要因計画
 9. 2要因混合計画
 10. その他の分析法

【評価方法】

授業への参加態度と複数回のレポート提出による

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

心理学マニュアル要因計画法〔再版〕（後藤宗理他編著 北大路書房）
SPSSにおける分散分析の手順〔改訂版〕（遠藤健治著 北樹出版）
心理学のためのデータ解析テクニカルブック（森敏昭・吉田寿夫編著 北大路書房）

データ解析I

新美明夫 小川一美

【授業の概要】

統計パッケージソフトを利用して、複雑で冗長なデータを適切に集約し、そこに含まれる情報について正しく解釈・推論する能力を身につける。具体的にはデータ解析の基礎的技法を習得することを目標とし、質的データと量的データのそれぞれについて、a) データの集約を適切に行えること、b) 変数の連関を数量的に検討できること、の2点を主な目標とする。

【授業計画】

1. イントロダクション
(1) データの概念とデータ解析の流れ
(2) データのコーディングと入力
2. 基本集計
(1) 度数分布を知る
(2) 基本統計量の算出：度数分布の数値要約
3. 2つの変数の関係
(1) 質的変数どうし（ χ^2 検定）
(2) 量的変数と質的変数（t検定、一元配置分散分析）
(3) 量的変数どうし（相関係数）
4. SPSSによるファイル操作
(1) 新しい変数の作成
(2) 値の再割当
(3) 合成得点の算出

【評価方法】

単位認定試験の成績で評価する。

【テキスト】

未定

心理検査法I・II

清滝裕子 具志堅伸隆 難波久美子

【授業の概要】

- I：各種の心理検査についての基礎知識と実施方法を学ぶ。扱う心理検査は病院や公的機関で使われやすいものを予定している。
- II：心理検査法Iで習得した基礎知識と実施方法に基づいて実際に検査を実施し、結果を解釈し、臨床レポートを作成することで、心理診断の基礎を身につける。

【授業計画】

全体的オリエンテーションと心理検査の基礎について講義した後、以下の心理検査について学ぶ。3グループのローテーションで指導するため、以下に示した順番通りに進まないグループもある。

1. 知能検査 (1) WAIS-R知能検査
2. 知能検査 (2) 全訂版田中ビネー式知能検査
3. 人格（性格）検査 (1) MMPI（ミネソタ多面人格目録）
4. 人格（性格）検査 (2) PFスタディ、YG性格検査
5. 精神作業検査 内田クレベリン精神作業検査
6. 津守・稲毛乳幼児発達診断検査、遠城寺式乳幼児分析的発達検査法

【評価方法】

出欠・授業態度とレポートで成績評価する。レポートは各検査毎に提出しなければならない。また、1回でも欠席したりレポート提出を怠ったりした場合は単位を認めない。

心理学概論 I

松尾貴司

【授業の概要】

心理学の研究対象および研究方法の特徴を明らかにすることによって、行動科学としての心理学を展望する。心理学概論Iでは、心理学の一般的方法論、行動の生物学的基礎、社会的行動、学習行動などの領域について、実験心理学に基づく知見を中心に講義する。

【授業計画】

1. 心理学の対象と研究方法
2. 行動の発生と形成
3. 動機づけ
4. パーソナリティ
5. 社会的行動
6. 学習行動

各トピックスについて2～3回の講義をおこない、最終講に試験をおこなう。

なお、授業は座席を指定しておこなう。

【評価方法】

学期末におこなう筆記試験により評価する。レポートの提出を課した場合はこれを加算する。授業への出席状況および受講態度が不良の者は減点する。

【テキスト】

テキスト心理学——心の理解を求めて——
(橋本憲尚編著 ミネルヴァ書房)

心理学概論 II

坂田陽子

【授業の概要】

心理学概論Iに引き続き、心理学の研究対象および研究方法の特徴を明らかにすることによって、行動科学としての心理学を展望する。心理学概論IIでは、心理学史、知覚心理学、発達心理学、認知心理学などの領域における基礎的な知見を概観する。

【授業計画】

講義を行うが、必要に応じてレポートを課す場合がある。また、調査や実験の被験者としての体験も重視する。

1. 心理学史
2. 生理心理学
3. 知覚心理学
4. 発達心理学
5. 思考心理学
6. 記憶心理学
7. 試験

【評価方法】

試験による。レポートや調査・実験の被験者体験を成績に加味する場合には事前に通告する。

【テキスト】

テキスト心理学 心の理解を求めて (橋本憲尚編著 ミネルヴァ書房)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業中に紹介・配布する。

発達心理学 (2003年度以前入学者対象)

坂田陽子

【授業の概要】

乳幼児期から高齢期までヒトの生涯にわたる、知覚・運動、認知、社会性の発達の変化を概説する。特に多数の実験を紹介しながら、乳幼児の驚くべき能力や、高齢期の認知能力の維持と衰退について論じる。

【授業計画】

1. 発達理論と発達研究法
2. 身体・運動機能の発達
3. 知覚の発達
4. 認知の発達
5. 記憶の発達
6. 学習の発達
7. ことばの発達
8. 知能と創造性の発達
9. 高齢期の発達
10. 試験

【評価方法】

定期試験による。その他、講義中の発表や質問など、積極的な授業参加態度も評価に加える場合がある。

【テキスト】

実験で学ぶ発達心理学 (杉村伸一郎・坂田陽子編 ナカニシヤ出版)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業中に紹介・配布する。

組織心理学

齋藤和志

【授業の概要】

組織における人間行動を質問紙や面接、観察に基づく調査などから得られた実証的データを用いて、一定の仮説に基づき説明しようとする行動科学的アプローチとしての組織心理学の領域から、いくつかのテーマを取り上げ、考察する。仕事への動機づけと満足の問題、組織におけるリーダーシップの問題、組織内キャリア発達の問題などを取り上げる。

【授業計画】

(社会)心理学の基礎知識があることを前提とした講義を行う。必要に応じて、レポートを課す場合がある。また、調査や実験の被験者としての体験も重視する。

1. 職場の人間関係と社会心理
2. 職場における個人と集団
3. 集団の特性
4. 集団の効果
5. 仕事へのかかわり
6. 職務と適性
7. 仕事への動機づけと職務満足
8. 職務充実と職務再設計
9. 組織のリーダーシップ
10. 集団とリーダーシップ
11. リーダーシップ・スタイル
12. 最近の組織心理学研究
13. 試験

【評価方法】

試験による。レポートや調査の被験者体験を成績に加味する場合には、事前に通告する。

【テキスト】

使用しない。

生活ストレス論

植村勝彦

【授業の概要】

現代人の最新の関心事となっている「ストレス」について、心理学の立場から考察する。コミュニケーション行動との関連については、コミュニケーション行動がストレスを引き起こすストレス源（ストレス源）となる場合もあれば、ストレスをもつ人へのソーシャル・サポート（社会的支援）としてコミュニケーション行動を有効に用いることも可能である。

【授業計画】

- 第1講 序・導入
- 第2講 1. ストレス研究の歴史 1) 医学におけるストレスの概念
- 第3講 2) 心理学におけるストレスの概念
- 第4講 2. 心理的ストレスの測定 1) 生活ストレスの研究
- 第5講 2) 生活ストレスの測定
- 第6講 3) 心理的ストレス反応の測定
- 第7講 3. ストレス対処行動 1) 対処の概念
- 第8講 2) 対処の規定因
- 第9講 4. ソーシャル・サポート 1) ソーシャル・サポートの概念
- 第10講 2) ソーシャル・サポートの測定
- 第11講 3) ストレスとソーシャル・サポート
- 第12講 5. ストレス・マネージメント 1) パーンアウト現象
- 第13講 2) ストレス・マネージメント

【評価方法】

学期末の単位認定試験により評価する。

【テキスト】

毎回配布するプリントにより講義・解説する。

視聴覚論

松尾貴司

【授業の概要】

人の知覚のメカニズムを理解すると同時に、視聴覚メディア、マルチメディア等と呼ばれるさまざまなコミュニケーションメディアの技術的特性を理解することによって、視聴覚メディアが人のコミュニケーションに及ぼす影響、およびその可能性について考える。

【授業計画】

- 1. 視覚のメカニズム
 - 2. 聴覚のメカニズム
 - 3. さまざまなメディアとその発達
 - 4. 映像メディアの特質
 - 5. 視聴覚機器の特徴とその活用
 - 6. 行動研究における視聴覚機器の利用
- 各トピックスについて2～3回の講義をおこない、最終講に試験をおこなう。なお、受講者が少数の場合は、視聴覚機器の操作に関する実習をおこなうことがある。

【評価方法】

授業への出席状況および学期末におこなう筆記試験により総合的に評価する。レポートの提出を課した場合はこれを加算する。

【テキスト】

使用しない。

社会心理学（2003年度以前入学者対象）

小川一美

【授業の概要】

社会心理学における主要な理論・研究について概説する。これを通して社会的な行動や現象を理解するための基礎的知識を身につける。また、研究は1つの論文を発表して完結するものではなく、様々な研究者が問題点を指摘しあい、その問題点を解消するためにさらなる実験や調査を行うことで、蓄積されていくものである。本授業ではそうした研究の蓄積を意識しながら概説するため、研究の思考プロセスを理解することも目的とする。

【授業計画】

- 1. 社会心理学の方法
- 2. 社会の中の自己（1）
- 3. 社会の中の自己（2）
- 4. 対人認知（1）
- 5. 対人認知（2）
- 6. 対人関係の展開（1）
- 7. 対人関係の展開（2）
- 8. 社会的影響過程（1）
- 9. 社会的影響過程（2）
- 10. 集団行動（1）
- 11. 集団行動（2）
- 12. まとめ
- 13. 試験

【評価方法】

試験および受講態度により評価する。

【テキスト】

社会心理学キーワード（山岸俊男編 有斐閣双書）

尺度構成法

斎藤和志

【授業の概要】

心理学の領域では質問紙によってデータを収集することが少なくない。社会的態度や性格特性を測定するための尺度や心理テストを構成する際には信頼性と妥当性の検討が必要となり、そのために因子分析といった統計的処理を行うことになる。本授業では、こうした尺度構成を行う場合に必要となる統計的な考え方とその技法、その後の尺度得点の扱い方と分散分析について学習する。

【授業計画】

講義とコンピュータを使用した実習を行う。各単元に複数時間をあてることがある。

- 1. オリエンテーション
- 2. 心理統計基礎の確認
- 3. SPSSの基本操作の確認
- 4. 尺度構成の基本的考え方と手続き
- 5. 因子分析と信頼性分析の考え方
- 6. 因子分析と信頼性分析の実際
- 7. 尺度得点の扱い方
- 8. 分散分析の考え方
- 9. 分散分析の実際

【評価方法】

授業への参加態度とレポート課題（複数回）および単位認定課題（試験）による。

【テキスト】

未定。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

脳とコミュニケーション

杉本助男

【授業の概要】

コミュニケーション場面における心理的諸現象を脳の機能から説明することを目的とする。特に左右脳半球と対人行動、感覚刺激の受容個人差、大脳扁桃系機能と情動行動、生体リズムと脳活性などについて詳しく解説する。

【授業計画】

1. 睡眠と覚醒（何故人は眠るか）
脳波とは何か
アルファとは何か
脳波で何がわかるか
2. 香りと情動（香りは何故感情を喚起するか）
脳波トポグラフィで脳の活動部位を知る
3. 刺激希求の個人差（刺激強度の受容に個人差がある）
脳の情報処理過程は脳誘発電位によって分析する
感覚刺激の欠乏は脳を無能にする
4. 左脳と右脳（左脳人間と右脳人間はいるか）
分離脳患者は2つの心をもっている
右脳障害と左脳障害のコミュニケーション
5. 生体リズム（脳に時計がある）
サーカディアンリズム（約24時間のリズム）
ウルトラディアンリズム（約90分のリズム）

【評価方法】

単位認定試験と出欠状況によって評価する。

【テキスト】

毎時間資料を配布する。

精神生理学

清水 遼

【授業の概要】

ヒトの行動の生理学的指標に関する基礎知識について概説した後、現代社会で特に問題となっている情動やストレスをテーマにして、これらの問題に対する精神生理学のアプローチについて論ずる。

【授業計画】

1. はじめに
2. 自律神経系の電気生理学的指標
心電図・皮膚電気活動・呼吸・脈波
眼電図・筋電図
3. 中枢神経系の電気生理学的指標
自発脳波・事象関連電位
脳のイメージング
4. 精神内分泌指標と精神神経免疫指標
5. 感情の精神生理学的研究（1）
6. 感情の精神生理学的研究（2）
7. 感情の精神生理学的研究（3）
8. ストレスの精神生理学的研究（1）
9. ストレスの精神生理学的研究（2）
10. バイオフィードバック（1）
11. バイオフィードバック（2）
12. まとめ

【評価方法】

定期試験の評点に基づき評価する。

【テキスト】

使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

脳のエイジング

杉本助男

【授業の概要】

胎児から老年期までの脳の生涯発達と人間行動との関係を解説する。特に、脳の発達に関わる環境の問題、個人の生活史と左右脳の発達、脳の老化と高齢者のコミュニケーションの問題などについて考察する。

【授業計画】

1. 胎児の脳（胎児は学習するか）
2. 生後の環境と脳の発達（子供の環境によって脳の発達が違う）
3. ヒトとネコとネズミの脳（どこが違う）
ヒトとウマとワニの脳（脳の進化）
4. 成人の生活環境と脳（仕事の種類によって脳の形態が変わる）
5. 脳の老化（元気老人とボケ老人の脳の違い）
6. 老人性痴呆の脳（アルツハイマー型痴呆）
7. 70歳でも脳は成長する

【評価方法】

単位認定試験と出欠状況によって評価する。

【テキスト】

毎時間資料を配布する。

生理心理学（2003年度以前入学者対象）

清水 遼

【授業の概要】

ヒトや動物の行動の諸側面を脳を中心とする中枢神経系や自律神経系の構造や機能とに対応づけて考察することで心理的側面と生理的側面間の相互関係の理解をめざす。また、これまでになされてきたモデル動物の行動と脳内物質の関連からヒトの種々の疾患との対応関係についても考察する。

【授業計画】

1. はじめに
2. 中枢神経系の構造と機能
3. 自律神経系の構造と機能
4. ニューロンとグリアの構造変化
5. ニューロンの電氣的伝導と化学伝達
6. 記憶と脳
7. ストレスと脳
8. 心の異常と脳内物質
9. 左右の脳（言葉と感情）
10. 脳のリズム
11. 脳のエイジング
12. まとめ

【評価方法】

学期末試験の成績で評価する。

【テキスト】

使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

認知心理学

吉崎一人

【授業の概要】

認知心理学の概説をする。人間を一つの情報処理系とみなして、人間が外界の情報をもどのように取り入れて処理し、出力するのかについて学ぶ。具体的には、知覚、記憶活動、知識構造やその利用、思考、意識と無意識の情報処理、日常生活の認知活動等に関する情報処理モデルについて紹介する。

【授業計画】

1週に2コマ続きで講義する。開講日は9月27日、10月4日、18日、25日、11月1日、8日、15日で、22日は予備日とする。9/27だけは2限目からとする。

1. 記憶のボックスモデル (1) (トップダウン、ボトムアップ処理・感覚記憶)
2. 記憶のボックスモデル (2) (短期記憶、長期記憶)
3. 中間テスト (予定)
4. 処理水準と情報の精緻化
5. 符号化と検索の関係
6. 知識と表象 (1) (意味記憶の構造と語の処理)
7. 知識と表象 (2) (イメージ)
8. 潜在記憶と顕在記憶
9. 注意と自動制御
10. 日常生活の認知 (1) 目撃者証言と偽りの記憶
11. 日常生活の認知 (2) 推論
12. 日常生活の認知 (3) メタ認知
13. 期末テスト

【評価方法】

期末テスト、中間テスト、さらには実験への参加によって行われる。

【テキスト】

使用せず。授業ごとにプリントを配布する。

記憶と思考

川口 潤

【授業の概要】

認知心理学の基本となる「記憶」と「思考」を中心に講義する。「記憶」においては、情報の貯蔵システムおよびそのモデル、注意・意識と記憶、記憶の区分などについて最近のトピックを含め議論するとともに、日常生活でのこころの働きとの関連を考えたい。「思考」においては、人の推論の基本的問題について論じる。具体的研究例を挙げながら理解を深める。

【授業計画】

1. 心のイリュージョン：認知の歪みについて
2. 認知心理学の成り立ち・研究法
3. 物体の認知
4. 注意
5. 記憶のモデル・作動記憶
6. 長期記憶：符号化と検索
7. 長期記憶：知識と意味
8. 潜在記憶：意識と記憶
9. 記憶の歪み：フォルスメモリー
10. 記憶と感情
11. 日常場面における認知と思考
12. まとめ

【評価方法】

随時のレポートおよび単位認定試験を総合的に評価する。

【テキスト】

認知心理学2：記憶 (高野陽太郎 (編) 東京大学出版会)

【参考文献・資料】

情報処理の心理学 (多鹿・川口・池上・山 サイエンス社)
現代の認知研究 (梅本勉夫監修・川口潤編培風館)
認知のエイジング
(D. パーク・N. シュワルツ著 ロノ町・坂田・川口監訳 北大路書房)
その他、授業中に指示をする。

神経心理学

吉崎一人

【授業の概要】

「脳と行動」の関係の解明を目指す神経心理学の概説をする。特に、認知心理学的な視点から考察を中心とする。まず、基礎的な知識として (1) 脳、特に大脳の基本構造論じ、(2) さらに神経心理学の研究法を論じ、(3) 最後に大脳半球機能差 (ラテラルリティ) について論じる。次に、重要な認知活動ごとに脳との関連について論じる。具体的には、脳とことば、脳と記憶、脳と物体の認知、脳と注意、脳と情動、脳と運動である。

【授業計画】

1. 認知を支える生理学的基礎
2. 神経心理学の研究法
3. ラテラルリティ：中間テスト
4. 物体認知と脳
5. 記憶機能と脳
6. 言語機能と脳
7. 注意機能と脳
8. 情動と脳
9. 脳機能の発達と可塑性
10. 脳と運動：期末テスト

【評価方法】

期末テスト、中間テストさらには実験への参加 (被験者) 回数によって行われる。

【テキスト】

使用しない。授業毎にB4版の資料を配付する。

生体情報学

田丸政男

【授業の概要】

生体は外界の情報を感覚刺激として受容し処理する。これらの生体情報処理の中核として、脳は最も重要な働きを担っている。生体情報学では脳に入力された情報が如何なるメカニズムで知覚・認識・学習・記憶・情緒などの反応を生じるかについて、神経生理学および神経化学的手法で明らかにする。

【授業計画】

- 第1回 脳の情報処理の概要
- 第2回 神経の興奮伝導とシナプス伝達
- 第3回 脳の構造 I 大脳皮質
- 第4回 脳の構造 II 大脳辺縁系
- 第5回 脳の構造 III 視床・視床下部
- 第6回 反射
- 第7回 意識と睡眠
- 第8回 情動行動
- 第9回 学習と記憶
- 第10回 言語機能
- 第11回 視覚の情報処理
- 第12回 聴覚の情報処理
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

ここまでわかった脳と心 (集英社)

【参考文献・資料】

わかる脳と神経 (羊土社 99年)

空間認知の発達

坂田陽子

【授業の概要】

人間と環境とのコミュニケーションの基本にある空間認知の基本的諸能力が誕生から大人になるまでにどのように発達していくか（個体発生）を論ずるとともに、大人の日常生活空間の分節化が時間とともにどのように変わるか（微視発生）についても考察する。移動空間のイメージ形成、年齢にともなう地理的知識の増大、都市のイメージを規定する諸要因の検討、などが具体的に取り上げるテーマである。

【授業計画】

1. 空間認知とは
2. “目”で空間を認知する
3. “耳”で空間を認知する
4. 乳児の空間認知1 —乳児の空間のとらえ方—
5. 乳児の空間認知2 —視知覚の発達と空間認知—
6. 幼児の空間認知1 —2次元空間の認知—
7. 幼児の空間認知2 —探索行動—
8. 幼児の空間認知3 —他者視点獲得—
9. 成人の空間認知1 —方向感覚—
10. 成人の空間認知2 —生活空間と空間認知—
11. 成人の空間認知3 —空間認知とイメージ—
12. 障害および加齢と空間認知
13. 試験

【評価方法】

定期試験による。その他、講義中の発表や質問など、積極的な授業参加態度も評価に加える場合がある。

【テキスト】

テキストは使用しない。必要な資料を授業中に配布する。

【参考文献・資料】

空間に生きる—空間認知の発達の研究—
(空間認知の発達研究会編 北大路書房)

表現行為の発達

坂田陽子

【授業の概要】

コミュニケーションを成り立たせる表現の問題に焦点を当てて、その発達を論ずる。ことばによる表現、ことばによらない身振りや手振りの表現、絵による表現の発達をそれぞれ取り上げ、子どもの豊かな表現行為の獲得を保障する条件とは何かについて考察を深める。また生涯にわたる表現行為の変化についても概説する。

【授業計画】

1. 生涯発達の变化を説明する理論
2. 「注意」をともなう表現行為1 乳児期
3. 「注意」をともなう表現行為2 幼児期
4. 「注意」をともなう表現行為3 成人～高齢期
5. 「記憶」をともなう表現行為1 乳幼児期
6. 「記憶」をともなう表現行為2 成人～高齢期
7. 「知識」をともなう表現行為1 乳幼児期
8. 「知識」をともなう表現行為2 成人～高齢期
9. 「言語」をともなう表現行為1 乳幼児期
10. 「言語」をともなう表現行為2 乳幼児期
11. 「言語」をともなう表現行為3 成人～高齢期
12. 日常生活の表現行為の変化

【評価方法】

定期試験による。その他、講義中の発表や質問など、積極的な授業参加態度も評価に加える場合がある。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

必要に応じて授業中に紹介・配布する。

言語行動

二宮 昭

【授業の概要】

人間にとって最も重要なコミュニケーション手段となっていることばについて、どのような特性を有しているのか、他のコミュニケーション手段と比較しながら検討し、また、日常の様々な場面における言語行動について、その実態を明らかにするための分析の枠組みについて考察する。

【授業計画】

- 第1～6回 「ことば」とは何か
- 1) 「ことば」のもつ特性—一人の「ことば」と動物の「ことば」
 - 2) シンボルとしての「ことば」
- 第7～10回 日常の言語行動の分析
- 1) 日常の使用語彙—からだことば
 - 2) 「ことば」の機能—伝言板のメッセージ分析
- 第11～12回 思考・行動調整の道具としての「ことば」
- 第13回 試験

【評価方法】

学期末に行う筆記試験による。

【テキスト】

使用しない。適時参考資料を配付する。

ことばの発達と障害

二宮 昭

【授業の概要】

人間のことばによるコミュニケーション行動に関して、それは一体どのような過程を経て発達してくるのか、また、その障害はそのような場合にどのようなかたちで現れ、それを改善していくにはどういうことが重要であるか、ということを通して、人間にとってことばのもつ意義を考える。

【授業計画】

- 第1～6回 「ことば」の発達
- 1) 原初的コミュニケーション—「ことば」の発達の基盤
 - 2) 語と文の発達
 - 3) 言語的現実の自覚の発達—3歳児はなぜしりとりができないのか
- 第7～12回 「ことば」の障害
- 1) 自閉症児の「ことば」
 - 2) 知的障害児の「ことば」
- 第13回 試験

【評価方法】

各学期末に行う筆記試験による。

【テキスト】

使用しない。適時参考資料を配付する。

ノンバーバル行動

松尾貴司

【授業の概要】

ジェスチャー、表情、視線、接触などのヒトのコミュニケーションにおける非言語的なシグナルの諸相について概説し、個々のノンバーバル行動について、発達、因果、機能、進化といった行動学的な視点から論ずる。

【授業計画】

- 1) ノンバーバル行動とは
- 2) ノンバーバル行動の研究手法
- 3) ジェスチャーの分類と文化的変異
- 4) 表出としての表情と制御された表情
- 5) 視線の機能と規定因
- 6) パーソナルスペースと空間行動
- 7) ノンバーバルコミュニケーション

各トピックスについて1～2回の講義をおこない、最終講に試験をおこなう予定。

【評価方法】

学期末におこなう筆記試験により評価する。レポートの提出を課した場合これを加算する。授業への出席状況および受講態度が不良の者は減点する。

【テキスト】

使用しない。

動物のコミュニケーション

松尾貴司

【授業の概要】

ヒト以外の動物が示す様々なコミュニケーション行動の特徴を動物行動学の知見を基に概観し、ヒトにおけるコミュニケーションと比較しながら、コミュニケーションの生物学的な基礎について論じる。

【授業計画】

1. 運動パターンと動機づけ
2. 動物のコミュニケーションとは
3. コミュニケーションの研究手法
4. コミュニケーションと情報
5. コミュニケーションと環境
6. コミュニケーションの進化

各トピックスについて1～2回の講義をおこない、最終講に試験をおこなう。

【評価方法】

学期末におこなう筆記試験により評価する。レポートの提出を課した場合はこれを加算する。授業への出席状況および受講態度が不良の者は減点する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

動物のコミュニケーションー行動のしくみから学習の遺伝子まで
(T.R.ハリディ、P.J.B.スレイター編 西村書店)

ビジュアルコミュニケーション

後藤倬男

【授業の概要】

現代社会において重要度を増してきている「視覚的なコミュニケーション」について、「人間の視知覚」への追究を通して解説する。本講では、視覚的環境の知覚が、いかに人間の側の諸条件に依存しているかを論じ、コミュニケーションにおける望ましい視覚情報の利用について理解を深める。

【授業計画】

講義方式による。随時OHPやプリントを利用し、また、授業中に供覧実験や調査を行って、授業内容理解の補助とする。

1. ビジュアルコミュニケーションの意味について
2. 視覚情報受容（視知覚）の生理的基礎
3. 視環境（視覚情報の発信・受信空間）の成立
4. 視環境の基点（輪郭）
5. 視環境の反転（図と地）
6. 視環境のまとまり（形）
7. 視環境の広がり（奥行き）
8. 視環境の安定性（恒常現象）
9. 視環境の振れ-1（形の錯視）
10. 視環境の振れ-2（色の錯視）
11. 視覚情報の統合（視覚モデルの説明）
12. ビジュアルコミュニケーションの意義と利用
13. まとめ

【評価方法】

期末試験（筆記）により評価する。また、授業への意欲的な出席を重視し、授業時間に求めたショートレポートを成績評価に反映させる。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。

【参考文献・資料】

- 脳と視覚（グレゴリー著 近藤倫明他訳 プレーン出版）
- 視覚の文法（ホフマン著 原淳子・望月弘子訳 紀伊國屋書店）

福祉社会心理学

植村勝彦

【授業の概要】

今日ほど家族と地域が福祉の問題と密接に関わり合っている時代はない。こうした現代社会の問題を、コミュニティ心理学および社会心理学の視点を導入して、福祉社会心理学という発想で考察する。

【授業計画】

- 第1講 序章 福祉社会心理学（コミュニティ心理学）とは
 - 1) 歴史的背景
- 第2講
 - 2) コミュニティ心理学の理念と目標
- 第3講 1章 高齢者とコミュニティ心理学
 - 1) 高齢者の幸福な老い：クオリティ・オブ・ライフ（QOL）
- 第4講
 - 2) 高齢者の自立：エンパワーメント
- 第5講
 - 3) 高齢者のヘルスケア：予防
- 第6講 2章 障害者とコミュニティ心理学
 - 1) 障害とは：ラベリング理論とスティグマ
 - 2) 知的障害者と社会：多様性の尊重
- 第8講
 - 3) 知的障害者と地域社会：コミュニティ感覚
- 第9講
 - 4) 知的障害者の支援：セルフヘルプ・グループ
- 第10講 3章 子どもとコミュニティ心理学
 - 1) 子どもと生育環境：人-環境適合
- 第11講
 - 2) 子育て支援と社会資源の活用：ソーシャルサポート・ネットワーク
- 第12講
 - 3) 学校不適応と子ども：コンサルテーション
- 第13講 終章 再び、福祉社会心理学（コミュニティ心理学）とは
 - 1) まとめにかえて
 - 2) 応用問題：心理・社会問題とコミュニティ心理学

【評価方法】

各章ごとの課題レポートと応用問題レポートによる総合評価

【テキスト】

毎回配布するプリントにより講義・解説する。

対人行動論

齋藤和志

【授業の概要】

現実の対人関係にはさまざまな問題が存在する。それらの中にみられる共通した特徴や法則性を、社会心理学的観点から考察する。社会の中で暮らす個人がどのように自己や環境をとらえているかといった社会的認知の問題、社会的な事象や他者に対してどのような心の姿勢をもっているかという態度の問題や対人的欲求の問題などを取り上げる。

【授業計画】

講義を行うが、必要に応じてレポートを課す場合がある。また、調査や実験の被験者としての体験も重視する。

1. 対人行動・対人関係への社会心理学的接近
2. 社会的認知と対人認知
3. 対人関係と帰属過程
4. 帰属過程と帰属理論
5. 達成行動と原因帰属
6. 態度変化と認知的斉合性
7. 説得と態度変化
8. 社会的態度から対人的態度へ
9. 社会的交換と対人関係
10. 社会的交換と公平理論
11. 他者への志向と対人行動
12. 社会への志向と対人行動
13. 試験

【評価方法】

試験による。レポートや調査・実験の被験者体験を成績に加味する場合には事前に通告する。

【テキスト】

使用しない。

パーソナルメディア論

新美明夫

【授業の概要】

個人が手軽に情報を受発信できるパーソナルメディアの浸透は、既存の人的ネットワークと重なりつつも、新たな人的ネットワークを形成している。各種のパーソナルメディアが既存のネットワークに及ぼす影響や、それらを介して形成される新たなネットワークにおいて展開される人間関係やコミュニケーションについて考察する。

【授業計画】

1. パーソナルメディアとコミュニケーション
メディアの歴史/メディアコミュニケーションの広がり/パーソナルメディアの特徴
2. ワープロとコミュニケーション
活字(印刷)文字の変化/手書き文字の変化/ワープロ文字と手書き文字の与える印象
3. 電話とコミュニケーション
電話の歴史と利用形態の変化/電話利用と人間関係
4. モバイルメディアとコミュニケーション
モバイルメディアの歴史/ケータイ前史としてのポケベル/音声メディアとしての携帯電話/文字メディアとしての携帯メール/モバイルメディアと日常生活
5. コンピュータとコミュニケーション
CMC (Computer Mediated Communication) の現状/自己表現とパーソナルホームページ/ネットワークのインパクト/デジタル・デバイド

【評価方法】

単位認定試験の成績で評価する。

【テキスト】

使用しない。

集団行動論

小川一美

【授業の概要】

われわれの生活は、様々な集団や社会の中で営まれている。われわれが多くの人と付き合い、社会生活を営むうえで、欠くことのできない重要な行動の1つが、対人コミュニケーションである。集団や社会の中で行われている多様な行動の基礎とも言える対人コミュニケーションについて、様々な観点から心理学的に考察する。

【授業計画】

1. 対人コミュニケーションとは(1)
2. 対人コミュニケーションとは(2)
3. 送り手に着目して対人コミュニケーションを考える(1)
4. 送り手に着目して対人コミュニケーションを考える(2)
5. 受け手に着目して対人コミュニケーションを考える
6. 対人コミュニケーションの捉え方(1)
7. 対人コミュニケーションの捉え方(2)
8. 対人コミュニケーションと親密化過程
9. 関係と対人コミュニケーション
10. 現代日本人が抱えるコミュニケーションの問題(1)
11. 現代日本人が抱えるコミュニケーションの問題(2)
12. まとめ
13. 試験

【評価方法】

試験および受講態度により評価する。

【テキスト】

使用しない。

マン・マシン・インタラクション

新美明夫

【授業の概要】

コンピュータテクノロジーの浸透は個人のまわりにあるさまざまな機器を知的化し、人間との疑似的コミュニケーションを可能にした。現代において人々はさまざまな場面でこれらの機器と向き合わざるをえない。本講義では個人がこれらの知的機器と対面する際の諸問題について考察する。

【授業計画】

1. 人間と機械の関係
人間のもつ機能の延長としての機械/機械の用途の変遷/機械との情報交換の歴史/2つのインタフェース
2. 機械を使ったコミュニケーション
コミュニケーション・チャンネル/対面コミュニケーションとメディア・コミュニケーション/インタフェースとしてのメディア
3. コンピュータの発達とユーザ層の拡大
コンピュータの歴史/ユーザの構成の変化/ヒューマン・インタフェース
4. 見えないコンピュータとのインタラクション
個人所有の機械とのインタラクション/公共の機械とのインタラクション
5. 見えるコンピュータとのインタラクション
OSのユーザインタフェース/出力インタフェース/入力インタフェース/日本語とコンピュータ

【評価方法】

単位認定試験の成績で評価する。

【テキスト】

使用しない。

マスコミュニケーション

遠藤雄久

【授業の概要】

マスコミュニケーションの機能、マスメディアの利用、マスの送り手と受け手、ジャーナリズムと世論などについて概説する。また、日本のテレビ放送の歩みをたどり、21世紀の映像メディアの将来像を考える。

【授業計画】

- 第1講 マスメディアの効果理論－弾丸効果理論
- 第2講 マスメディアの効果理論－限定効果理論
- 第3講 マスメディアの効果理論－強力効果理論（1）
- 第4講 マスメディアの効果理論－強力効果理論（2）
- 第5講 カルチュラル・スタディーズ（1）「エンコーディング」
- 第6講 カルチュラル・スタディーズ（2）「デコーディング」
- 第7講 テレビドラマの分析
- 第8講 テレビドラマの分析
- 第9講 新聞記事の内容分析
- 第10講 新聞記事の内容分析
- 第11講 メディアイベントの考察
- 第12講 メディアイベントの考察
- 第13講 まとめ

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合判断する

【テキスト】

使用せず

分析心理学

後藤秀爾

【授業の概要】

心理療法の理論のひとつにC.G.Jungの分析心理学があり、ここではFreudの精神分析学と同様、無意識の存在を仮定している。しかし分析心理学では個人無意識の深層に普遍的無意識を仮定し、その世界を意識化する技法として夢分析や箱庭、芸術療法等イメージを介在させることが特徴である。

S.FREUDとともに精神分析を発展させてきたJUNGがFREUDから決別して独自の心理学をうち立てたのである。理論的にはそれほど複雑ではないものの、その知見を実際に自分のものとするには体験を通さないと分かったことにならないのが特徴と思われる。講義では受講者の日常的な体験に即して説明を行うつもりである。

【授業計画】

1. 導入
 - 1) エゴグラムで出会う知らない自分
2. 基礎知識
 - 2) 意識・前意識・無意識
 - 3) 自己と自我
 - 4) フロイトとユング
 - 5) ユングとエリクソン
3. 時代の病理とその背景・1
－『千と千尋の神隠し』－
 - 6) 思春期モーニング
 - 7) 母性原理と父性原理
 - 8) 愛することと働くこと
4. 時代の病理とその背景・2
－『ハリウッド・ポッター』－
 - 9) P.T.S.D.
 - 10) 子どもにとっての家庭と学校
5. 関係の病理を見る視点
－虐待事例を通して－
 - 11) 赤ちゃん部屋のゴースト／葛藤の世代間伝達
 - 12) エディプス葛藤とアジャセ葛藤
6. まとめ
 - 13) 『ビッグOとのであい』

【評価方法】

出席状況と期末試験結果による。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業内で紹介する。

放送メディア論

遠藤雄久

【授業の概要】

多メディア化、多チャンネル化、更には国際化の趨勢のなかで、放送システムとりわけテレビ放送の地位は大きく揺らぎ、新しい対応を迫られている。本講義は、テレビ放送の「過去・現在・未来」を具体的な事実、データに基づいて考察し、情報化社会のなかでのテレビ放送の新しい可能性を探る。

【授業計画】

- (1) 放送とナショナルリズム
- (2) ラジオ放送前史
- (3) ラジオ放送の誕生
- (4) ラジオ体操
- (5) 戦争とラジオのニュース
- (6) テレビ放送の開始（日本の特殊性）
- (7) ナショナルな語りのメディアとしてのテレビ
○大河ドラマ○朝のテレビ小説○紅白歌合戦
- (8) ナショナルなメディアの揺らぎ。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績を総合して判断する

【テキスト】

使用せず

カウンセリング

江口昇勇

【授業の概要】

人の話を傾聴するとき、我々はその話の中から自分に都合の良い部分だけを切り取って聞いていたり、反対に自分に都合の悪い部分を切り捨てているというのが実際である。そうした現実を体験的に理解するために傾聴の6パターンを学習し、自分の傾聴における癖を学ばせたい。カウンセリング・マインドにおいては従来、ロジャースのいう受容、共感に力点が置かれ過ぎていてと思われるので、授業では自己一致の重要性を伝えたい。

【授業計画】

- 1) 臨床心理学における方法論（事例研究法、関与観察法、臨床心理学と統計）研究方法の問題；主観性の克服と現象学的接近、調査法における資料の信頼性；「倫理綱領」臨床心理学的接近の危険性
- 2～4) 臨床心理学の理論と「人間論」について
 - <a> 行動理論（パプロフ・ハル・スキナー・ワトソン）
 - ロジャース（ジェンドリン）の人間中心療法
 - <c> 精神分析（自我心理学と対象関係論、自己心理学）
 - <d> 分析心理学（ユング派）の人間論
- 5) グロリアと3人のカウンセラー（1）；ロジャース
- 6) グロリアと3人のカウンセラー（2）；パールズ
- 7) グロリアと3人のカウンセラー（3）；エリス
- 8) 傾聴の6パターンを実践する（1）
- 9) 傾聴の6パターンを実践する（2）
- 10) 傾聴の6パターンを実践する（3）
- 11) 個人心理療法からコミュニティへ；時代の要請の中で自分の臨床活動をたえず組み立てる。スクールカウンセラー体験、虐待のコミュニティ・アプローチ
- 12～13) 臨床心理士をめざす学生へ；自我の野心と魂の野心、傷つきの体験、傷つき易さ、傷の深さ、トラウマと癒す力との相関性、深い傷つきが癒す力を深くする、しかし、そのためには傷の癒しが完了していることが前提となる

【評価方法】

レポート課題により評価する。

【テキスト】

なし。必要な資料をその都度、授業中に配布する。

心理療法

西出隆紀

【授業の概要】

数多く存在する心理療法の基礎理論について講義をする。精神分析各学派、現象学的人間学派、家族療法・短期療法など各学派の発達論、治療論、症候論、人格論などを具体的な事例も交えながら紹介し、心理療法というもののイメージをつかめるように説明していきたい。

【授業計画】

1. 心理臨床入門 心理臨床とは、心理臨床と人間関係
2. 古典的精神分析 夢、心的構造論、精神性発達論、神経症総論、治療論
3. 対象関係論 Klein, M., Fairbairn, W.R.D., Guntrip, H., Winnicott, D.W., Bion, W.R. などの理論
4. 自我心理学 (主に Freud, A.) と自己心理学 (Kohut, H. の理論)
6. 現象学的人間学派 Rogers, C.R. の来談者中心療法、Gendlin, E.T. の体験過程療法
7. 家族療法 家族システム論、Erickson, M. の影響、二重拘束理論、構造派、戦略的家族療法、解決志向型短期療法

【評価方法】

成績は出欠を考慮してテストで評価する。テストは手書きのノートのみ持ち込み可 (コピーを持ち込んだ場合は失格) とするので、毎回出席しないとテストの時に慌てることになる。

臨床心理学 (2003 年度以前入学者対象)

古井 景

【授業の概要】

臨床心理学の基礎として、様々な治療理論とその背後にある基本的な人間観の差異を明確化する。次に臨床心理学が対象とする人々のアウトラインを示したい。発達の観点から乳幼児から児童期、思春期、青年期、成人期から熟年期までの発達課題とそれが挫折した場合の障害、そして、障害の種類の違いによる臨床心理学的アプローチの違いを提示していく。

【授業計画】

資料配付により講義をすすめる。

- ・精神力動とストレス
 - ・意識的行動と無意識的行動、身体症状化
 - ・自我機能と防衛機制
 - ・乳幼児期の母子関係、父親の関わり (分離個体化理論)
 - ・錯覚と脱錯覚: 空想と現実
 - ・前エディプス期からエディプス期へ (二者関係から三者関係へ)
- <事例>
- ・幼児期不適応: 夜尿、夜驚、自家中毒、チック
 - ・学校生活不適応: 不登校、心因性視力障害・頭痛腹痛
 - ・家庭内暴力
 - ・摂食障害: 拒食症・過食症
 - ・児童虐待: 子供を虐待する母親、虐待される子供
 - ・職場不適応: 長期欠勤、うつ病
 - ・更年期うつ病、老年期うつ病
 - ・薬物依存: 有機溶剤、麻薬・覚醒剤、アルコール
 - ・役割と責任を考える:
 - 女児として・女性として・妻として・母親として、
 - 男児として・男性として・夫として・父親として

【評価方法】

レポート提出によって判定する。資料・参考図書などをそのまま写したものは評価に値しない。授業を通して理解した、知識に基づき自分の言葉で文章を作成すること。レポートに関しては厳しく評価し、内容が不十分な者に対しては再提出を課す。

【テキスト】

使用せず。参考図書はその都度提示する。

児童臨床

西出隆紀

【授業の概要】

不登校をはじめとする情緒障害、自閉症や学習障害などの発達障害、低出生体重児などハイリスク児の発達の問題やひきこもり・摂食障害など、思春期までの心の問題を取り上げ、そのような子どもたちをどう理解し、彼らとどう関わっていくかを解説したい。

【授業計画】

1. 子どもと症状・問題行動
2. 発達障害 自閉症、学習障害、精神発達遅滞など
3. 情緒障害 神経性習癖、非社会的行動、反社会的行動、心身症
4. 児童精神病 (子どもの抑鬱を含む)
5. 思春期の問題行動
6. ハイリスク児の心理臨床
7. 遊戯療法について Klein, M. の遊戯分析、Freud, A. の児童分析 Axline, V.M. の児童中心療法、Allen, F. の関係療法、Moustakas, C.E. の制限設定

【評価方法】

成績は出欠を考慮してテストで評価する。テストは手書きのノートのみ持ち込み可 (コピーを持ち込んだ場合は失格) とするので、毎回出席しないとテストの時に慌てることになる。

臨床心理学 (2003 年度以前入学者対象)

米倉五郎

【授業の概要】

臨床心理学の基礎として、様々な治療理論とその背後にある基本的な人間観の差異を明確化する。次に臨床心理学が対象とする人々のアウトラインを示したい。発達の観点から乳幼児から児童期、思春期、青年期、成人期から熟年期までの発達課題とそれが挫折した場合の障害、そして、障害の種類の違いによる臨床心理学的アプローチの違いを提示していく。

【授業計画】

臨床心理学全般について、体系的、概説的な知識を得ることを目的とする。臨床心理学の基本理論と、こころの問題と障害に対する臨床心理学の人間理論 (心理アセスメント技法) と臨床心理学的援助の方法 (心理療法の技法) について学ぶ。授業では、単なる理論的考察に終始しないように、ライフサイクルでの発達課題で挫折し、こころの問題と人格の障害を呈したさまざまな事例 (不登校、児童虐待、いじめ、神経症、うつ病、心身症、摂食障害、人格障害、統合失調症、非行と犯罪) をとり上げる。そして現代社会のさまざまな領域における臨床心理学的問題と課題を具体的に講義する。

【評価方法】

レポート提出により判定する。

【テキスト】

臨床心理学への招待 (野島一彦編著 ミネルヴァ書房)

【参考文献・資料】

参考文献はその都度提示する。

精神医学

古井 景

【授業の概要】

人間の精神現象を扱い、治療していくために必要な、生物学的・心理学的の方法論を論じ、多角的な視野を持って精神症状を把握する必要性を説く。又、具体的な各精神疾患の事例を織り交ぜながら、力動的精神医学の観点から症状をどう理解し、患者とのコミュニケーションを通してどのように治療をしていくかを解説していく。

【授業計画】

資料配付により講義をすすめる。

- 1 力動的精神医学的理解
 - ・自我機能
 - ・精神力動
 - ・人格構造論
- 2 従来の疾病分類
 - ・内因性精神病
 - 精神分裂病（破瓜型、妄想型、緊張病型、単純型）
 - 躁鬱病、うつ病
 - 非定型精神病（錯乱精神病）
 - ・外因性精神病
 - 器質性精神病
 - 症状性精神病
 - 中毒性精神病
 - ・心因性精神病
- 3 近年の疾病分類
 - ・ICD-10（WHO疾病分類）
 - ・DSM-IV（アメリカ精神医学会）
- 4 大脳生理学的理解
 - ・脳内神経伝達物質
 - ・画像診断
- 5 治療の実際（事例を呈示して）

【評価方法】

レポート提出によって判定する。資料・参考図書などをそのまま写したものは評価に値しない。授業を通して理解した、知識に基づき自分の言葉で文章を作成すること。レポートに関しては厳しく評価し、内容が不十分な者に対しては再提出を課す。

【テキスト】

使用せず。参考図書はその都度提示する。

専門演習 I

植村勝彦

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業計画】

コミュニティ心理学が対象とする社会問題について、ゼミ生の討論に基づいてテーマを決め、共同研究を行う。結果は夏のゼミ合宿でまとめられ、報告書の作成をもって完了する。

また、前期のうちから、各自の研究テーマを模索しておかないと、なかなか卒論のための問題意識が定まらないという経験的現実から、毎回個人発表を行う。

【評価方法】

毎回の演習への出席と、個人発表、さらには授業での取組みの姿勢等を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

特に使用しない。必要なものは資料として配付する。

コミュニケーションの精神病理

北畑英樹

【授業の概要】

- (1) やさしい精神医学入門
- (2) こころの豊かさを求めて

(1) コミュニケーションとは、つまるところ対人関係であり、一方、精神医学で取り扱う疾患も、その症状の中心は対人関係の障害である。それ故に、そこには我々健常者(?)の中に時折みられるコミュニケーションのゆがみの先鋭化したものが認められる。そこで、ノイローゼ、うつ病、統合失調症などの疾患について、やさしくかつ具体例をあげて解説する。

(2) 現代科学の進歩は、テレビをはじめとするマス・メディア、コンピューター、インターネットなど無機質なコミュニケーションの発達をうながした。しかし、それが進めば進むほど、こころの豊かさに基づいた人間的なコミュニケーションの価値がますます高まる時代になるであろう。そこで、こころ豊かに生きるための精神科医からのアドバイスやヒントを提供する。

【授業計画】

“おもしろくて、役にたつ”をモットーに、(1)(2)に関する読みやすい書籍を紹介したり、受講生の質問に答えながら授業を進めたい。

【評価方法】

レポート提出による。

【テキスト】

使用せず。

専門演習 I

小川一美

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業計画】

社会心理学研究の研究手法、分析手法、データの読み取り方、論理的な思考を習熟するために、研究論文などの文献を講読する。各回、レポーターが発表をし、全員で討論を行うという形式である。

【評価方法】

出席状況、レポーターおよび討論時の取り組み態度などから総合的に評価する。

【テキスト】

文献や資料などは、適宜指示する。

専門演習Ⅰ

後藤秀爾

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業計画】

- 1) 自己理解のためのワーク
- 2) ボランティア活動の経験
- 3) 関連の文献講読

この3つの活動が授業の柱となる。

1) は、授業時間内にボディワークを中心に行なう。無意識のうちに身につけてしまっている身構えや、人とかかわり方の癖などについての自己理解を深める。

2) は、各自で心理臨床に関連するボランティア活動に参加した経験を、授業内で交流する。体験したことを文章化して他者に伝える努力は、感情を理性化して内省的自己を育てるための大切な作業である。

3) は、1) 2) の活動を通して生まれる問題意識にそって進める自己学習の成果を、授業内で報告する形をとる。各自に必要な文献を探すためのアドバイスは、個別に行なう。

この授業を通して、「時代のニーズを知ること」「自分自身を知ること」「心理臨床の基本を知ること」を、それぞれに目指してもらえれば幸いである。

【評価方法】

授業への参加状況（出席回数のことではない）と、期末に出す課題レポートの結果による。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業の流れの中で指示する

専門演習Ⅰ

坂田陽子

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業計画】

1. 実験計画法についての講義
2. 各自興味のあるテーマにそった先行研究の講読
3. 興味別班単位による実験計画の構築・発表

【評価方法】

出席状況、論文講読、実験計画、小論文の内容およびグループワークへの積極的協力・参加等から判断する。

【テキスト】

必要な資料を授業中に配布する。

専門演習Ⅰ

斎藤和志

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業計画】

1. 社会心理学的研究法
2. 社会心理学論文講読
3. 研究課題の明確化

【評価方法】

ゼミ形式で行うので、授業への参加が必須である。与えられた課題・レポートおよび参加態度などを考慮した総合的評価を行う。

【テキスト】

未定。使用する場合は、事前に連絡する。

専門演習Ⅰ

清水 遼

【授業の概要】

専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

生体内外の情報のコミュニケーション過程で生じる様々な反応のうち、行動に直接変化をもたらす感情的プロセスを精神生理学的観点から考察していく。

【授業計画】

精神生理学に関する基礎的知識の習熟のため、入門的な内外の書籍を講読し、適宜配布プリント等を用い、解説を加える。

- (1) 精神生理学における実験計画
- (2) 神経系の電気生理学的指標
- (3) 神経内分泌指標
- (4) 精神神経免疫学的指標

【評価方法】

出欠および授業への積極的参加度で評価する。

【テキスト】

特に指定せず、適宜配布するプリント等を用いる。

専門演習Ⅰ

杉本助男

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業計画】

以下の研究テーマのうちいずれかを選択し、これに関わる文献を各自が講読し、毎授業名が発表し、討論する。

脳波、誘発電位を用いた研究

1. 香り、音楽、コーヒーなどのリラクゼーション効果
(アルファ波や脳地図による解析)
2. オグメンターとレデューサーの行動特性
(脳誘発電位と心理テストによる解析)
3. 左脳と右脳の働きの違い
(コンピューターゲームなどを用いた連続脳波記録による解析)
4. 加齢の個人差と脳の働き
(老人の行動特性の個人差と脳波との関連)

神経心理テスト等を用いた研究

5. 加齢現象と各脳領域の働きとの関連
(前頭、頭頂、側頭領域の機能の解明)
6. 老人性痴呆と健常者の比較研究
(知能、情動、脳波による分析)

【評価方法】

毎時間の発表・討論及び出席状況によって総合的に評価する。

【テキスト】

その都度資料を配布する。

専門演習Ⅰ

西出隆紀

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業計画】

1. オリエンテーション 感受性訓練 (運動場で実施)
2. 事例研究論文講読 神経症、不登校、摂食障害、自閉症、統合失調症などの症例の論文を読んでレジメにまとめ、レポーター形式で討論する。各症例の発症メカニズムや治療方針等を検討する。
3. 体験実習 箱庭療法体験、コラージュ療法体験、催眠療法体験などを通じて、心理臨床実践への体験的理解を深める。

なお、2、3の内容は毎週交互に行われる。箱庭療法体験などは授業時間外にも箱庭作成等のための時間が必要となる。

また、授業時間枠とは別に情緒障害児短期治療施設での臨床実習を泊まり込みで行う予定である(5泊6日)。臨床現場の厳しさを肌で感じ、1人の子どもに真剣に関わり、その生き方を考え、ケースレポートをまとめてケースカンファレンスに臨む。それによって、心理臨床の本当の難しさを体験することになる。また、実習に先立って、夏期休業中に事前学習を行う。

【評価方法】

出欠と授業態度を中心にして成績評価する。

《備考》 症例を扱う関係上、受講生には守秘義務が課せられる。

専門演習Ⅰ

新美明夫

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業計画】

社会心理学的な観点からメディアコミュニケーションを扱った基本的な文献の輪読を行う。毎回、指定されたレポーターが発表を行い、参加者全員での討論を通して、互いに知識を深めていく。

【評価方法】

毎回の個人発表の内容、および、適宜提出を求めるレポートにより、総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。授業内で取り上げる文献については、適宜指示する。

専門演習Ⅰ

二宮 昭

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業計画】

ことばの獲得と障害、障害児の発達援助、少数事例からのデータ収集の方法に関する文献を担当者がその内容を報告し、それに基づいて討論するという形式を中心に行う。

【評価方法】

報告の内容、および討論への参加の仕方によって評価する。

専門演習 I

古井 景

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業計画】

力動精神医学、力動的心理療法、心身医学などの立場から、毎回担当者を決め課題発表を行っていく。参加者全員での討論を通して、互いに知識を深めていきたい。

【評価方法】

知識の深さ、理論の構築能力、言語的表現力など総合的に評価する。

専門演習 I

松尾貴司

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業計画】

1. ノンバーバル行動に関する実験実習
2～3のグループに分かれ、ノンバーバル行動をテーマとした実験をおこなう。グループごとに、関連する文献の紹介、実験計画の立案・実施、結果について報告し、全員で討論する。実施した実験については各個人でレポートを作成する。
2. 各自の研究テーマの明確化および研究論文の紹介
4年次の卒業論文に向けて、各自の具体的な研究テーマを報告する。報告にはレジメを用意し、研究テーマの概略と関連する研究論文を紹介する。進行状況によっては、夏期休業中に自主補講をおこなうことがある。

【評価方法】

授業への出席状況、参加度、および準備度（レジメの内容および提出期限の遵守）を平常点とし、課題レポートとあわせて総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じてその都度指示する。

専門演習 I

吉崎一人

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業計画】

1. クリティカルシンキング
2. 実験計画法
3. 実験論文の購読（邦文）
4. 資料収集の方法
5. 実験論文の購読（英文）

【評価方法】

実験レポートの内容と授業へ取り組む姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

心理学実験・研究レポートの書き方
(B・フィンドレイ著 細江・細越訳 北大路書房)

専門演習 I

米倉五郎

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業計画】

心理アセスメントは、クライアントにはどのような問題と苦悩を抱え、どんな心理療法を求め必要としているかを見立て理解する臨床心理学的な面接技法である。また心理面接では、どのような技法を用いようとも、面接と対話による問答法である。すなわち、面接し対話することに治療的な要因があると考える方法である。したがって、心理療法は実践であり、その技法を習得するためには、自分の身体にその技法のコツをのみこませなくてはならない。聴き方、話し方などの言語的コミュニケーションとともに、非言語的コミュニケーションも大切なものである。実習講義では、初回面接のロールプレイング（二人一組の役割演技）による実習により、心理アセスメントや見立てを実際に理解できる体験学習をする。

【評価方法】

作成されたレポートと授業への参加態度から評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

【参考文献・資料】

参考文献はその都度提示する。

専門演習Ⅱ

植村勝彦

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業計画】

各自の卒論のための研究テーマの発表を主体とする。また、夏期休暇を利用して全員で作成した報告書の最終校訂を行い、出版する。

【評価方法】

毎回の演習への出席と、個人発表、さらには授業での取組みの姿勢等を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

特には使用しない。必要なものは資料として配付する。

専門演習Ⅱ

小川一美

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業計画】

下記のような流れで、各自が進行状況を報告し、全員で討論を行う。

1. 各自の関心をもとに、先行研究の講読
2. 研究課題の明確化
3. 研究計画の立案

【評価方法】

出席状況、レポーターおよび討論時の取り組み態度などから総合的に評価する。

【テキスト】

資料などは、適宜指示する。

専門演習Ⅱ

後藤秀爾

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業計画】

- 1) 自己理解のためのワーク
- 2) ボランティア活動の経験
- 3) 関連の文献講読

前期に引き続き、この3つの活動が授業の柱となる。

1) は、心理査定や投影法の基礎的な技法や考え方をを用いて、自己理解と他者理解の表裏一体性への気づきを深める。

2) は、前期のボランティア経験を継続しつつ、個別の事例を理解することに焦点を移していくことを期待したい。

その視点でレポートを作成し、授業内で報告する。

3) は、さらに問題意識を絞り込んで、特定のテーマについての文献学習を進める。2) の活動と結びつような学習ができるとよい。

この授業を通して、「時代のニーズを知ること」「自分自身を知ること」「心理臨床の基本を知ること」をさらに深めることはもとより、年度の終わりには卒業研究につながる論文を完成させる。

【評価方法】

授業への参加状況（出席回数のことではない）と、最終報告論文の結果による。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業の流れの中で指示する

専門演習Ⅱ

斎藤和志

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業計画】

1. 社会心理学論文講読
2. 研究課題の明確化
3. 研究計画の立案

【評価方法】

ゼミ形式で行うので、授業への参加が必須である。与えられた課題・レポートおよび参加態度などを考慮した総合的評価を行う。

【テキスト】

未定。使用する場合は、事前に連絡する。

専門演習Ⅱ

坂田陽子

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業計画】

1. 各自興味のあるテーマにそった先行研究の講読
2. 興味別班単位による実験実施および結果発表
3. 2について的小論文作成
4. 卒業論文の実験計画

【評価方法】

出席状況、論文講読、実験計画、小論文の内容およびグループワークへの積極的協力・参加等から判断する。

【テキスト】

必要な資料を授業中に配布する。

専門演習Ⅱ

清水遼

【授業の概要】

4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

生体内外の情報のコミュニケーション過程で生じる様々な反応のうち、行動に直接変化をもたらす感情的プロセスを精神生理学的観点から考察していく。

【授業計画】

感情体験と深く関係したトピックスについて内外の論文を広く講読し、それらを参考にして各自が選択した研究テーマとそれに関する論文についてレポーター形式で発表、討論を重ねる。3年次終了までには自己の研究テーマを具体化し、生理学的手法を取り入れた実験計画が立案できるよう方向づけを行う。

【評価方法】

授業への積極的参加度、レポート評点など総合的に評価する。

【テキスト】

適宜配布するプリント等を用いる。

専門演習Ⅱ

杉本助男

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業計画】

以下の研究テーマのうちいずれかを選択し、これに関わる雑誌論文（和文、英文）を各自が講読し、毎授業数名が発表し、討論する。また、それを参考にして4年次の卒業論文のための実験計画を立てる。

脳波、誘発電位を用いた研究

1. 香り、音楽、コーヒーなどのリラクゼーション効果（アルファ波や脳地図による解析）
2. オグメンターとレデューサーの行動特性（脳誘発電位と心理テストによる解析）
3. 左脳と右脳の働きの違い（コンピューターゲームなどを用いた連続脳波記録による解析）
4. 加齢の個人差と脳の働き（老人の行動特性の個人差と脳波との関連）

神経心理テスト等を用いた研究

5. 加齢現象と各脳領域の働きとの関連（前頭、頭頂、側頭領域の機能の解明）
6. 老人性痴呆と健常者の比較研究（知能、情動、脳波による分析）

【評価方法】

毎時間の発表・討論、出席状況及び実験計画の発想等によって総合的に評価する。

【テキスト】

その都度資料を配付する。

専門演習Ⅱ

新美明夫

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業計画】

各自の関心テーマにしたがって、いくつかのグループに分かれ、予備的な研究を行うとともに、研究の一連の流れや方法論を身につける。グループによる作業は、おおよそ次のような過程をたどる。授業では、それぞれの段階での成果を発表し、全員で検討を行う。

1. 問題意識の明確化と研究目的の具体化
2. 研究方法の検討
3. データの収集と分析
4. 結果の考察と研究レポートの作成

【評価方法】

毎回のグループ発表の内容と、提出された研究レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。必要な参考文献は適宜指示する。

専門演習Ⅱ

西出隆紀

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業計画】

1. 論文講読

「Family Process」等の家族心理学関係の研究誌に掲載された論文を中心に、広く家族心理学・家族臨床に関わる論文にふれ、研究論文の読み方・書き方を学ぶ。

2. 体験実習

ミニ試行カウンセリング、解決志向型短期療法のロールプレイ等を行い、体験的に心理療法を理解していく。また、実際のケースのビデオを見て、模擬ケースカンファレンスなども行い、症例に対する見立ての仕方などについても学ぶ。

【評価方法】

出欠と授業態度、提出されたレポートをもとに評価する。

【備考】

症例を扱う関係上、受講生には守秘義務が課せられる。

専門演習Ⅱ

二宮 昭

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業計画】

各自が研究テーマおよびそれを具体化するための研究方法について報告し、討論を通して研究テーマの確定の作業を行う。

【評価方法】

報告の内容、および討論への参加の仕方によって評価する。

専門演習Ⅱ

古井 景

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業計画】

力動精神医学、力動的心理療法、心身医学などの立場から、毎回担当者を決め課題発表を行っていく。力動論的見地から様々な出来事の原因を探っていく。このための研究方法を様々な方法論を屈指して見つけていく。

【評価方法】

知識の深さ、理論の構築能力、言語的表現力など総合的に評価する。

専門演習Ⅱ

松尾貴司

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業計画】

1. 各自の研究テーマに基づいて、予備的研究のための具体的な研究方法（実施可能な手続き）を報告し、全員で検討する。

2. 予備研究を実施し、その結果を報告する。この予備研究については、全員が個人で論文形式のレポートを作成し学期末に提出する。レポートの形式・内容について、後期授業終了後に個別に指導する。

【評価方法】

授業への出席状況、参加度、および準備度（レジュメの内容および提出期限の遵守）を平常点とし、課題レポートとあわせて総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じてその都度指示する。

専門演習Ⅱ

吉崎一人

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業計画】

1. 研究テーマの説明
2. 実験の立案
3. 課題の作成
4. 実験実施
5. データ分析
6. レポートの書き方

【評価方法】

プレゼンテーションの内容、授業へ取り組む姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

心理学実験・研究レポートの書き方
(B・フィンドレイ著 細江・細越訳 北大路書房)

専門演習Ⅱ

米倉五郎

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業計画】

心理療法の学習では、フロイトの精神分析的心理療法を中心として、ロジャース、ユング、サリヴァン、クライン、ウイニコットなどの心理治療と人格理論のエッセンスを講義する。また思春期から青年期、成人期の事例を報告しながら、クライエントの人格発達の病理とともに成長の過程、家族療法や集団心理療法についても講義する。実習講義では、心理面接の佳境期でのロールプレイングにおける、転移と抵抗および逆転移と逆抵抗などについてのカウンセリングの技法、態度、自己理解について、体験的な学習をする。

【評価方法】

作成されたレポートと授業での参加態度から評価する。

【テキスト】

必要に応じて指示する。

【参考文献・資料】

参考文献はその都度提示する。

専門演習Ⅲ

植村勝彦

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業計画】

3年次までに確定した各自のテーマに従って、面接や調査の項目を作成し、対象者を得て、実施・分析・論文作成に至るまでの全過程について指導・助言する。

毎回個人発表を行い、進捗状況に応じての助言・指導を行うが、とくに面接調査の質問の構造の完成までの段階に全力を注ぐ。

【評価方法】

毎回の演習への出席と個人発表、さらには授業での取り組みの姿勢等を加味して総合的に評価する。

専門演習Ⅲ

江口昇勇

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

3年次の専門演習では、自己探求と臨床事例検討の二本柱により授業を進めてきた。4年次に入ると卒業論文のテーマを特定することとなる。自己探求を深めていくか、事例をさらに深めて事例研究にまで発展させるか、あるいは調査法、実験法、臨床面接法との組み合わせかなど、様々な方法論を駆使して卒業論文のテーマを選ぶことになる。ある程度グループ化できるならば、グループ毎の発表となることもある。

【授業計画】

例年、授業は月曜日の3時から始まり毎回7時頃までは続くが、時には9時迄及ぶことも稀ではない。それでも検討する時間が不足し、夏の集中合宿以外にも、日曜日、祝日(昨年度は大学祭中)にも開講されるのでそのつもりで準備していただきたい。

もちろん、ほとんどのゼミ生は授業以外に複数の臨床現場(適応指導教室、児童養護施設、知的障害児・者施設、精神障害者小規模作業所、障害児の通所施設、子育て支援ネットワーク)に出向いて臨床的かわりを体験するのでその時間もしっかりと確保することが半ば義務づけられているのでそのつもりで欲しい。

【評価方法】

授業や学外でのボランティア活動の内容により評価する。

専門演習Ⅲ

遠藤雄久

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業計画】

遅くとも5月末までに各自の研究テーマを確立し、併行して文献、資料などの収集、調査などを進行させる。毎回これらを発表しあって各自の研究を深めてゆくようにする。

期末までには研究論文のタイトルを確定するよう指導する。

【評価方法】

平常の研究態度をみて評価する。

専門演習Ⅲ

斎藤和志

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業計画】

1. 研究課題の明確化
2. 研究計画の立案
3. 実証的データの収集

【評価方法】

ゼミ形式で行うので、授業への参加が必須である。与えられた課題・レポートおよび参加態度などを考慮した総合的評価を行う。

【テキスト】

未定。使用する場合は、事前に連絡する。

専門演習Ⅲ

坂田陽子

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業計画】

1. 各自の卒業論文のテーマにそった先行研究の講読
2. 卒業論文の序論および方法部分の作成
3. 実験計画の明確化および実験の実施

【評価方法】

出席状況、発表態度、発表内容の進展等から判断する。

【テキスト】

必要資料を授業中に配布する。

専門演習Ⅲ

清水 遵

【授業の概要】

学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業計画】

以下の研究テーマのうち、同領域のテーマをもつ4～5人を1グループとし、グループ単位で研究指導する。

1. 環境刺激の感情に及ぼす影響
2. パーソナリティ特性がストレス反応に及ぼす影響
4. 高齢者の感情コントロール法の評価
5. その他

【評価方法】

研究に取り組む姿勢により、評価する。

専門演習Ⅲ

杉本助男

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業計画】

専門演習Ⅱにおいて各自が選択したテーマにしたがって、2、3人の研究グループを編成し、まず、実験計画を立て、全員で検討する。次に予備実験を行い、その結果から、本実験の計画を再検討する。実験を実行し、データを得る。

【評価方法】

研究計画の綿密性、実験の着実性などから全体的に評価する。

【テキスト】

資料配付

専門演習Ⅲ

新美明夫

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業計画】

3年次の専門演習Ⅰ・Ⅱを通して検討してきた各自の関心テーマにしたがって、必要十分なデータを収集・分析し、最終的に卒業論文として結実させる。

4年前期に行われる専門演習Ⅲでは、すでに行った予備的な研究の成果をもとに、質問紙調査や面接調査など各自のテーマに適切な研究方法を用いて、データ収集の実施が可能となるまで、各自の研究計画をブラッシュアップする。

授業では、毎回個人発表を行い、各自の進捗状況を報告し、参加者全員での討論を通して、研究計画を完成させていく。

研究計画の完成した者から順次、データ収集の実施を許可する。

【評価方法】

毎回の個人発表の内容と、提出された研究計画により総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

専門演習Ⅲ

西出隆紀

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業計画】

- 卒業論文指導 卒業論文の作成に向けて、各人が興味を持つ内容に関する論文をレポーター形式で発表してもらい、討論をする。その後、各自が卒業論文作成の進行状況をまとめて報告し、参加者全員（3年ゼミ生を含む）で問題点などを討議しつつ、よりよい論文作成を目指す。おおよそ各自の発表は以下の過程をたどることになる。
 - 問題意識と研究目的の検討
 - 研究方法の検討
- 体験実習（投影法実習） 投影法を中心に心理臨床、特に病院臨床分野で必要な検査の実習を行う。扱う投影法は、Rorschach法、TAT（主題統覚検査）、各種描画法（動的家族画、Baum test、風景構成法など）で、まず各自が実際にテストィーとなって検査を受ける。その後、各検査の理論的背景、実施法、解釈法などについて説明し、臨床データをもとにスコアリング、解釈を実践する。そして、最終的には自分のデータをまとめ自己理解を深めることになる。

【評価方法】

出欠と授業態度を中心に成績評価する。

【備考】 症例を扱う関係上、受講生には守秘義務が課せられる。

専門演習Ⅲ

二宮 昭

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業計画】

まず、3年次までに確定した各自の研究テーマに従い、実験や調査などの研究方法を具体化させる。そして、それに基づき、実際にデータを収集し、分析するという作業を進める。原則として、毎回交代で個人発表を行い、全員で討論することを通して、上記の作業をより確実に、より内容あるものとするようにする。

【評価方法】

発表の内容、および討論への参加の仕方によって評価する。

専門演習Ⅲ

古井 景

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業計画】

参加者全員で文献講読・討論をおこない、各自の知識を現実的に応用可能なものへと深めていく。

【評価方法】

各自の参加意欲・態度を中心の評価する。受け身の参加では評価されない。

【テキスト】

使用せず。

専門演習Ⅲ

松尾貴司

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業計画】

1. 各自の研究テーマに関わらず、最新の心理学論文（和文・英文）を紹介し、全員でそのテーマについて論議する。
2. 専門演習Ⅱで実施した予備研究の結果に基づいて、各自の研究テーマおよび具体的な研究方法を修正し、最終的な方法を決定する。これに基づいてデータを収集し、その結果を報告する。

【評価方法】

授業への出席状況、参加度、および準備度（レジュメの内容および提出期限の遵守）を平常点とし、課題レポートとあわせて総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じてその都度指示する。

専門演習Ⅲ

吉崎一人

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業計画】

卒業研究の完成をめざし、個々に指導する。
実験計画、並びに結果についてプレゼンテーションの行い、その内容について議論する。

【評価方法】

プレゼンテーションの内容、授業への取りくむ姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

未定

専門演習Ⅲ

米倉五郎

【授業の概要】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

【授業計画】

4年次の前期では学年各自が卒業論文のテーマを特定することになる。卒業研究の対象と方法では、臨床面接法による事例研究を中心としながらも、自己分析法、調査法、文献、資料、およびそれらを組み合わせたものなど、さまざまなアプローチを選択できる。臨床事例研究（精神障害、不登校、虐待、非行、児童期・思春期・青年期）および研究方法（臨床面接法、調査法、文献など）において共通する3-4名のサブグループを作り、グループ別での検討と発表も活用しながら、各自の研究テーマを決定していく。

【評価方法】

発表の内容や討論への参加態度、および学外での心理臨床のボランティア活動の内容のより評価する。

【テキスト】

その都度指定する。

【参考文献・資料】

必要な文献と資料を配布する。

専門演習Ⅳ

植村勝彦

【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。とくに、面接、調査などで得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

【授業計画】

夏休みに提出を求めた卒業論文の「問題」および「方法」の下書きに対して、個別に指導することを皮切りに、適宜個別および全体指導を行い、11月中旬の中間発表、12月初旬の論文全部の下書き提出に基づく個別添削指導、と順序を踏んで卒業論文の完成・提出に導く。

【評価方法】

毎回の演習への出席と個人発表、さらには各段階での下書き内容などの取組への姿勢等を加味して、総合的に評価する。

専門演習Ⅳ

遠藤雄久

【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

【授業計画】

各自の研究の進行状況を発表しあい、論文作成を進めてゆく。
遅くとも10月半ばから各自が論文執筆にかかるよう指導する。

【評価方法】

平常の研究態度をみて評価する。

専門演習Ⅳ

江口昇勇

【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

4年次後期の専門演習では、前期に決定した自己探求グループ、臨床事例検討グループ、あるいは臨床のテーマ別（思春期病理・青年期の問題、不登校・引きこもり、虐待、情緒障害、精神障害、知的障害、幼児・母子、学校・幼稚園・保育園の問題）、さらに方法論別（調査法、実験法、臨床面接法との組み合わせ）にサブグループを作り、グループ毎の発表となる。

【授業計画】

授業は月曜日の3時から始まり原則的には毎回7時頃までは続く。時には9時～10時迄及ぶことも稀ではない。それでも検討する時間が不足し、夏の集中合宿以外にも、日曜日、祝日（昨年度は大学祭中）にもゼミの召集がかかるのでそのつもりでゼミを選んで欲しい。

ゼミ生は授業日以外にも各自、複数の臨床現場（適応指導教室、児童養護施設、知的障害児・者施設、精神障害者小規模作業所、障害幼児の通所施設、子育て支援ネットワーク、その他のボランティア体験の場）に出向いて日常的に臨床的にかかわり体験を行い、その記録を元にグループスーパービジョンを行うので、そうしたボランティア体験の時間、記録の時間もしっかり確保することが半ば義務づけられている。4年の後半では学生自身の逆転移についても言及することになり、かなりハードな内容となることを覚悟すること。

【評価方法】

授業や学外でのボランティア活動の内容により評価する。

専門演習Ⅳ

斎藤和志

【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

【授業計画】

1. 研究計画の立案
2. 実証的データの収集
3. 研究論文の作成

【評価方法】

ゼミ形式で行うので、授業への参加が必須である。与えられた課題・レポートおよび参加態度などを考慮した総合的評価を行う。

【テキスト】

未定。使用する場合は、事前に連絡する。

専門演習Ⅳ

坂田陽子

【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

【授業計画】

1. 卒業論文のための実験実施
2. データ分析
3. 卒業論文の結果及び考察部分の作成
4. 卒業論文の完成

【評価方法】

出席状況、卒業論文作成における計画性、考察力、完成度等から判断する。

【テキスト】

必要な資料を授業中に配布する。

専門演習Ⅳ

清水 遵

【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

【授業計画】

以下の研究テーマのうち、同領域のテーマをもつ4～5人を1グループとし、グループ単位で研究指導する。

1. 環境刺激の感情に及ぼす影響
2. パーソナリティ特性がストレス反応に及ぼす影響
4. 高齢者の感情コントロール法の評価
5. その他

【評価方法】

研究に取り組む姿勢により、評価する。

専門演習Ⅳ

杉本助男

【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

【授業計画】

専門演習Ⅲで得たデータを分析し、統計的処理等を行う。それらの結果について、全員で討論する。これらの結果に基づき各自が卒業論文作成に着手する。

【評価方法】

データの分析法、統計的処理の適切性等から全体的に評価する。

【テキスト】

資料配付

専門演習Ⅳ

新美明夫

【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

【授業計画】

4年前期の専門演習Ⅲに引き続き、各自の関心テーマにしたがって、必要十分なデータを収集・分析し、最終的に卒業論文として結実させる。

各個人の進捗状況にしたがって、データの収集・コーディング・入力・分析作業を順次行う。

授業では、データの分析方法の解説を行う一方で、各自の進捗状況を毎回報告しあい、励まし合うとともに自己の進捗を客観的に確認する。

11月より、順次中間発表を行い、参加者全員での討論を行う。中間発表を終了した者から、卒業論文の下書き提出を許可し、添削指導を行う。

【評価方法】

毎回の個人発表の内容と、提出された卒業論文により総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

専門演習Ⅳ

西出隆紀

【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

【授業計画】

1. 卒業論文指導 卒業論文の作成に向けて、各人が興味を持つ内容に関する論文をレポーター形式で発表してもらい、討論をする。その後、各自が卒業論文作成の進行状況をまとめて報告し、参加者全員（3年ゼミ生を含む）で問題点などを討議しつつ、よりよい論文作成を目指す。おおよそ各自の発表は以下の過程をたどることになる。
 - a. 結果と考察の検討
 - b. 論文提出前の全体的検討
 - c. 卒業論文の発表
2. 体験実習（投影法実習） 投影法を中心に心理臨床、特に病院臨床分野で必要な検査の実習を行う。扱う投影法は、Rorschach法、TAT（主題統覚検査）、各種描画法（動的家族画、Baum test、風景構成法など）である。最終的には各自がテストィーに対し、投影法を実施し解釈する。

【評価方法】

出欠と授業態度を中心にして成績評価する。

【備考】 症例を扱う関係上、受講生には守秘義務が課せられる。

専門演習Ⅳ

二宮 昭

【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

【授業計画】

卒業研究を論文としてまとめるための個別指導を中心に行う。11月中旬には卒業論文の中間発表会を行う予定である。

【評価方法】

研究論文作成に対する意欲や態度、および作成された論文の内容によって評価する。

専門演習Ⅳ

古井 景

【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

【授業計画】

参加者全員で文献講読・討論をおこない、各自の知識を現実的に応用可能なものへと深めていく。

4年間大学で学んだ知識の総まとめとして、社会で通用するものに仕上げることが目標とする。

【評価方法】

多くの学生にとって最終学歴となる『愛知淑徳大学卒業』および『学士』の資格を得るに相応しい人間性を備えているかどうかを評価する。

社会にでて、『愛知淑徳大学』の名を高める人材でなければならない。

【テキスト】

使用せず。

専門演習Ⅳ

松尾貴司

【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

【授業計画】

1. 専門演習Ⅲに引き続き、各自が研究を進め、その結果について報告する。
2. 研究結果の分析方法、および論文の作成方法について講義をおこなう。その後、各自の研究テーマを論文形式にまとめる。個人の論文については個別に指導する。

【評価方法】

授業への出席状況、参加度、および準備度（レジュメの内容および提出期限の遵守）を平常点とし、課題レポートとあわせて総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じてその都度指示する。

専門演習Ⅳ

吉崎一人

【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

【授業計画】

卒業研究の完成をめざし、個々に指導する。
実験計画、並びに結果についてプレゼンテーションの行い、その内容について議論する。

【評価方法】

プレゼンテーションの内容、授業への取りくむ姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

未定

専門演習Ⅳ

米倉五郎

【授業の概要】

学生による研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、四年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考えさせる。

【授業計画】

専門演習Ⅲで特定した卒業論文のテーマと研究方法に基づいて収集されていく情報について、学生各自がレポーター形式で発表し、参加者全員で討論し検討する。また適宜個別指導を行い、情報についての分析と考察を深めていく。11月中旬には卒業論文の中間発表会を行い、卒業論文の完成・提出へと指導する。

【評価方法】

卒業論文作成に取りくむ意欲や姿勢、作成された論文の内容、および心理臨床のボランティア活動の内容により評価する。

【テキスト】

未定。必要に応じてその都度指示する。

【参考文献・資料】

必要に応じて配布する。

社会言語学Ⅰ

川村陽子

【授業の概要】

本講では、出身地域、社会階級、民族、性別、年齢、価値観など、話し手の社会的属性が、その人の言語使用にどのように反映されるかについて概説する。

全講、講義形式で行う。

【授業計画】

日常のコミュニケーションにおいて、人びとは相手の話し方の特徴から、その人の出身地域、階級、職業、性別、年齢層が分かる場合がよくある。このように、話し手はことばにより、言語的意味だけでなく社会的意味も伝達している。授業では、ことばのもつ社会的意味に焦点をあて、話し手が属する社会グループ（地域、階級、性別、年齢）別に、ことば遣いにどのような特徴がみられるかについて見ていく。

- ・社会のなかのことば
- ・ことばの社会的評価
- ・ことばの地域差
- ・階級方言
- ・階級と言語使用態度
- ・ことばの男女差
- ・男女の会話のスタイル
- ・男女の言語使用態度
- ・ことばの年齢差
- ・若者ことば

【評価方法】

出席状況とレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

社会言語学への招待（田中春美他編著 ミネルヴァ書房）

社会言語学Ⅱ

川村陽子

【授業の概要】

世界の多言語社会の言語事情および多言語社会が抱える言語問題について、マクロの視点とミクロの視点から概説する。

全講、講義形式で行う。

【授業計画】

日常のコミュニケーションにおいて、人びとのことば遣いと対人関係がどのように影響しあうかについて見ていく。たとえば、多言語社会の人びとは、そのなかの一つの言語を使うことにより相手に権力を示し、心理的に相手を遠ざけたり、また別の言語を使うことにより仲間意識や親近感を伝えたりする可能性がある。このように、言語の使い分けによっても、対人関係の情報を伝えることができる。授業では、対人コミュニケーションにおいて、ことばのもつ社会的意味について考える。

- ・対人関係を示すことば
- ・多言語社会における言語の使い分け
- ・ことばにみられる権力関係
- ・ことばと親疎関係
- ・対人関係ネットワークと言語使用
- ・ことばによる丁寧表現

【評価方法】

出席状況とレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

社会言語学への招待（田中春美他編著 ミネルヴァ書房）

社会学概論

長濱一夫

【授業の概要】

現代社会の主要な動向をとりあげ、社会学的手法—個人・集団・社会の相互廻及—と実証的・総合的観点から、検討・分析を加える。すなわち、都市化、情報化、国際化、高度消費化、高齢化などの考察により、現代社会に関する基礎的知識を修得させたい。

【授業計画】

以下のそれぞれのテーマを主たる切り口とし（順序は入れ替わることがあります）、私たちの社会生活について考えを深めていきたい。

- 1) 社会学とはどんな学問か—個人と社会—
- 2) 都市と農村—地域社会の変容—
- 3) 都市化の進展—その光と陰—
- 4) 人々の暮らし—「出稼ぎ」という暮らし方—
- 5) 現代社会における「豊かさ」と「貧困」
—国際社会を視野に—
- 6) 高齢化社会と家族

授業は講義形式で行いますが、VTRなども随時、利用していきます。また、人数によっては、意見・感想を求めたり、ディスカッションしてもらうこともあります。

【評価方法】

試験（レポートor筆記）および出席状況、平常点によって評価します。

【テキスト】

使用しません。

倫理学概論

加藤太喜子

【授業の概要】

社会福祉や環境倫理・生命倫理が例になるように、倫理的なものの人々の関心を集めています。何故なら人間は倫理的な動物であるからです。そこで、本講義では、ソクラテス以降の倫理学を概説しながら、特に、人間の尊厳について考えていきたいと思えます。

【授業計画】

1. 倫理「学」とは
2. 功利主義（1）
3. 功利主義（2）
4. 功利主義批判（1）
5. 功利主義批判（2）
6. 義務論（1）
7. 義務論（2）
8. 義務論批判
9. 正義論
10. 応用倫理（1）
11. 応用倫理（2）
12. 応用倫理（3）

【評価方法】

授業中に課す小レポートと、期末に行う筆記試験により評価する。

【テキスト】

倫理学の視座（新田孝彦著 世界思想社）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

哲学概論

長滝祥司

【授業の概要】

古代から現代にいたる西洋哲学をテーマに沿って概観することによって、哲学的思考力を養う。加えて、現代社会に生きるものとして、そうした思考力を人生に生かす方途を探っていく。

【授業計画】

1. 哲学とはどんな学問か—哲学することについて
2. 心身問題とは何か—ギリシア哲学より
3. 大哲学者デカルトはどこで間違いを犯したのか—心身問題の先鋭化
4. 世界は数学の言葉で書かれているのか—二元論と自然科学的世界観
5. 身体にも心がある—身体の復権と生活世界
6. 眼前の世界を哲学的に考える—世界の存在と構造
7. コンピュータは心をもつのか—チューリングテストと中国語の部屋
8. コンピュータには何ができないか—世界の構造とフレーム問題
9. 心はマトリックスに操られているのか—心と脳の同一性をめぐって
10. 他人の心はロボットの心よりも暖かい—心をめぐる一番難しい問題

【評価方法】

平常点と論述形式を中心とするテスト。

【テキスト】

とくになし。

【参考文献・資料】

知覚とことば（長滝祥司 ナカニシヤ出版）

宗教学概論

川口高風

【授業の概要】

日本には異なった多くの宗教文化が混在している。宗教に関する基礎的知識を習得するため、世界の九種の宗教を概観し、続いて日本の宗教の神道、仏教、キリスト教、諸教に焦点をあてて役割や現代の状況などをながめてみる。祖師の著作や仏教古文書の解説も行う。必要に応じて、ビデオによる視聴覚授業もとり入れる。

【授業計画】

- 1: はじめに
- 2: 宗教の学問的見方
- 3: 宗教教義の構成（1）
- 4: "（2）
- 5: 世界の諸宗教（1）
- 6: "（2）
- 7: "（3）
- 8: 日本の諸宗教（1）
- 9: "（2）
- 10: "（3）
- 11: 祖師の著作の解説（1）
- 12: "（2）
- 13: まとめ

【評価方法】

学期末に行う論述式の試験による。

【テキスト】

著作などのプリントは当方で用意し配布する。

法律学概論

大嶽 浩

【授業の概要】

社会生活は「法」という社会規範が網の目のようにはりめぐらされており、数多くの「法」が日常の生活に関わっているが、この授業では、その日常生活を「民法」の観点からみつめることで、「法」とは何か、を考える。

【授業計画】

1. 日常生活と法、法律と法
2. 公法と私法、民法と法
3. 商法と民法、民法典と民法
4. 行為能力と法、代理と法
5. 法律行為と法、時効制度と法
6. 占有と法、所有と法
7. 担保物権と法
8. 契約と法、保証と法
9. 不当利得と法、不法行為と法
10. 家族と法
11. 相続と法、法と人生

【評価方法】

試験による評価。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

経済学概論 I

立石 寛

【授業の概要】

最初に「経済学とは何か」について述べ、次に「資本主義経済システムの特徴」と「市場経済と政府の役割」について経済学の基礎的知識を与え、さらに「資本主義経済システムの成立と展開」について歴史的視点から考察する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自動車産業と経済学
- 第3回 経済学的な考え方
- 第4回 取引と貿易
- 第5回 需要・供給と価格
- 第6回 需要・供給分析の応用
- 第7回 時間とリスク
- 第8回 公共部門
- 第9回 マクロ経済学と完全雇用
- 第10回 経済成長
- 第11回 失業と総需要
- 第12回 インフレーション

【評価方法】

単位認定試験、成績によって評価する。

【テキスト】

スティグリッツ入門経済学（ジョセフE.スティグリッツ著（数下史郎・秋山太郎・金子能宏・木立力・清野一治訳 東洋経済新報社）

【参考文献・資料】

なし

国際法概論

初谷良彦

【授業の概要】

国際法は、国と国との関係を定める法である。数百年に及ぶ歴史の展開の中で、現代の国際法は地球社会の大変動を反映して、重大な転換期に入っている。地球環境保全、難民の保護、人権保障、安全保障などこれまでに見られなかった新しい問題をできるだけ取り上げ、できるだけ身近なものとして国際法を理解してもらうようにしたい。

【授業計画】

- 第1回 国際法の基本
- 第2回 条約（条約の締結、条約の適用、条約の無効と終了）
- 第3回 国家（国家の種類、国家の承認、国家の基本権）
- 第4回 国際組織（国際連合、その他の国際組織）
- 第5回 国家領域（南極、宇宙、日本の領土問題）
- 第6回 外交（外交関係、外交特権、領事関係）
- 第7～8回 個人・外国人（国籍、難民の保護、犯罪人の引渡し）
- 第9～10回 国際社会における人権保障（1）
（人権法の国際的実施措置、実施のための法と機構）
- 第11～12回 国際社会における人権保障（2）
（女性の人権、子どもの人権）
- 第13回 国際協力（環境の国際規制、経済的国際協力）
- 第14回 紛争の平和的解決（国際裁判）
- 第15回 国際安全保障（国連軍、軍縮）

【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

授業の際、指示する。

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

国際経済事情

真田幸光

【授業の概要】

外国系主要各紙、雑誌等の経済トピックスを毎週取り上げ、世界情勢を分析した上で日本経済がそれにどう対応していくかを考察する。

【授業計画】

- 第1回 年間計画指示・オリエンテーション
- 第2～11回 配布する時事経済トピックスに関する解説を行った上で国際経済情勢について意見交換を行う。
- 第12回 試験
- 第13回 試験解説

【評価方法】

単位認定試験の成績による。

【テキスト】

必要に応じて授業中に配布する。

コミュニケーション入門

寺本史子

【授業の概要】

コミュニケーション・テクノロジーの発達とともに大きく変容しつつある今日のコミュニケーションの世界は広範囲で漠然としているが、このコースではいくつかの方向からアプローチすることによってコミュニケーションについての理解を深める。コミュニケーション論の基礎的な語彙及び概念を理解するとともに、グローバル化の進む現代を生きる人間にとってのコミュニケーションの意味を考察し、よりよいコミュニケーションのあり方を探ることが中心となる。

【授業計画】

1. 現代のコミュニケーション
2. テクノロジーの進歩とコミュニケーション
3. 自己表現のコミュニケーション
4. 集団・組織のコミュニケーション
5. マス・コミュニケーション
6. 言語（非言語）とコミュニケーション
7. コミュニケーションと文化・社会
8. 異文化コミュニケーション
9. 日本人のコミュニケーション
10. 国際コミュニケーション
11. グローバル化とアイデンティティ
12. インターネット・コミュニケーション
13. 学期末試験

【評価方法】

出席状況、レスポンスペーパー、試験の成績等により総合的に評価する。

【テキスト】

コミュニケーション入門 一心の中からインターネットまで
(船津衛著 有斐閣アルマ)

【参考文献・資料】

コミュニケーション最前線 (宮原哲著 松柏社)

ビジネスとコミュニケーション

大塚英揮

【授業の概要】

ビジネスにおいて「コミュニケーション」が果たす役割、重要性について理解を深めるのが当授業の目的である。

この目的を達成するために、当授業では、(1) 会社という「組織」の中で行われる個人対個人のコミュニケーション、(2) 会社間でなされる企業間コミュニケーション、(3) 会社対消費者でなされるコミュニケーションという3つの側面から、ビジネスとコミュニケーションの問題にアプローチしていきたい。

【授業計画】

1. 3つのコミュニケーション—組織内、組織間、対消費者
2. なぜ組織が必要なのか
3. 組織におけるコミュニケーションの必要性
4. 組織においてコミュニケーションはどんな機能を果たすか
5. 組織におけるコミュニケーションの阻害要因と対策
6. 企業間コミュニケーションとは何か
7. ケース：流通における企業間コミュニケーション
8. 企業間コミュニケーションと情報化
9. グローバル企業におけるコミュニケーション
10. 企業対消費者のコミュニケーション
11. ケース：口コミで商品をヒットさせよう!
12. 消費者との双方向コミュニケーション
13. ケース：サイバー・マーケティング
14. ビジネスとコミュニケーション
15. まとめ

【評価方法】

通常の小テスト (40%) と期末レポート (60%) にて評価します。

【テキスト】

使用しない。随時必要なときにプリントを配布します。

【参考文献・資料】

参考書は授業中に指示します。

プレゼンテーション

松田照美

【授業の概要】

一般社会人として、コミュニケーションを円滑に行なうに必要な対人接遇の在り方について、自己表現の基本技術と面談の効果的な仕方、文書などによる演出について実践的に学習する。

【授業計画】

- 第1回 プレゼンテーションを学ぶにあたって
- 第2回 ノンバーバル・コミュニケーション (1)
- 第3回 ノンバーバル・コミュニケーション (2)
- 第4回 効果的な言語表現 (1)
- 第5回 効果的な言語表現 (2)
- 第6回 対人接遇における印象管理
- 第7回 対人接遇のスキル—自己紹介—
- 第8回 コミュニケーションにおける資料提示の技術
- 第9回 対人接遇としてのプレゼンテーション
- 第10回 3P分析と戦略
- 第11回 企画と構成
- 第12回 プレゼンテーションの演出法
- 第13回 ビジネスプレゼンテーションの実践

【評価方法】

出席状況・小テスト・実習課題などによって総合的に評価する。

【テキスト】

プレゼンテーション (関根健夫監修 一橋出版)

【参考文献・資料】

パーフェクト・プレゼンテーション (八幡紘芦史・生産性出版)

異文化トレーニング

寺本史子

【授業の概要】

グローバル化の進む現代において異文化コミュニケーションの重要性は明白である。このコースでは、異文化コミュニケーション関連の基本的な語彙や概念を理解するとともに異文化理解のために必要な知識・態度について考察する。さまざまな資料の分析やコミュニケーションワークを通して適切な異文化コミュニケーション能力を養成する。

【授業計画】

1. なぜ今異文化コミュニケーションか
2. 文化・異文化とは
3. コミュニケーションのメカニズム
4. コミュニケーション・スキル
5. 言葉によるコミュニケーション
6. 言葉のないメッセージ
7. 見えない文化
8. 異文化のとらえ方・接し方
9. 異文化との出会い
10. 世界に見る異文化コミュニケーション
11. コンフリクト・マネジメント
12. 多文化への道
13. 学期末試験

【評価方法】

レスポンスペーパー、レポート、学期末試験の成績、出席状況などから総合的に判断する。

【テキスト】

異文化トレーニング (八代京子他著 三修社)
必要な関連資料については適宜授業中に配布

【参考文献・資料】

異文化コミュニケーション・ワークブック (八代京子他著 三修社)
日本の常識はどこまで通じるか: 異文化交流で失敗しないために
(ジョリー幸子・小池弘道著 風媒社)
Culture, Communication, and Conflict
(Gary R. Weaver編 Simon・Schuster Publishing)

異文化コミュニケーション

高井次郎

【授業の概要】

異文化の相手との相互作用を円滑に運ぶために必要な知識、態度および対人行動技術について、言語および非言語行動を中心に考察する。日本の対人行動パターンの自覚を通じて、異文化コミュニケーションの障壁となり得る要因を考察する。

【授業計画】

1. コミュニケーションの定義
2. 文化とコミュニケーション
3. 言語コミュニケーション
4. 言語コミュニケーション
5. 非言語コミュニケーション
6. 非言語コミュニケーション
7. 対人認知
8. ステレオタイプ
9. 人種偏見
10. 人種差別
11. 異文化間能力
12. 異文化間トレーニング
13. コミュニケーション研究
14. コミュニケーション理論
15. 期末試験

【評価方法】

出席および期末試験をもって成績の評価を実施する。

【テキスト】

未定

メディア論

遠藤雄久

【授業の概要】

本講の目的は、マルチメディア時代といわれる現代のメディア状況をよりよくとらえるために、歴史社会的視点に立ってメディアと人間・社会の関わり方を振り返って見ようというものである。十九世紀後半に出現した電信、電話から始めテレビジョンそしてパーソナルコンピュータに至る電子メディアの発展の過程を、人間や社会がどのようにメディアをデザインしてきたかという観点からたどっていく。

【授業計画】

- 第1回 総論
- 第2回 電信技術の実用化
- 第3回 電話の発明の父はだれ?
- 第4回 ラジオのような電話
- 第5回 ラジオ放送の開始
- 第6回 写真技術の開発
- 第7回 映画の誕生
- 第8回 ハリウッド映画の成立
- 第9回 映画ソフトの多様化(1)
- 第10回 映画ソフトの多様化(2)
- 第11回 テレビ放送の誕生と発展
- 第12回 メディアの境界領域
- 第13回 まとめ

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績を総合判断する

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

国際交流論

榎田勝利

【授業の概要】

経済大国となった日本は、国際社会の有力な一員として責任ある行動をとることが求められる。近年の「国際化」に伴い、政治、経済、学術、芸術、スポーツなどの分野でも、盛んに国際交流が行われているが、果たして真の交流が実現しているのだろうか。主に日本に滞在する多くの外国人との異文化接触を通しての国際交流のありかたについて論ずる。

【授業計画】

1. ガイダンス、国際交流に関する用語解説
2. 国際交流活動とは
3. 国際交流活動の領域
 - (1) 海外との交流
 - ・姉妹都市交流
 - ・青少年交流
 - ・文化・芸術交流
 - ・NGOの国際協力活動
 - ・自治体の国際協力活動
 - (2) 多文化共生
 - ・自治体の外国籍住民
 - ・NPOと外国籍住民
 - (3) 異文化理解
 - ・国際理解セミナー
 - ・地球市民教育
4. 国際文化交流と草の根交流
5. 国際交流活動の新展開
 - ・事業評価
 - ・IT戦略

【評価方法】

課題レポートおよび出席状況等により評価する。

【テキスト】

国際交流・協力活動入門講座I「草の根の国際交流と国際協力」
(毛受敏弘編著 明石書店)

国際関係論

瀬戸裕之

【授業の概要】

本講義においては、現代の国際社会と日本の関係について基本的理解を深めることを目的とする。国際関係を分析していくために必要な概念や理論、冷戦、グローバル化および地域統合など国際関係の基本構造や諸課題を学んだ後、第二次世界大戦、戦後安全保障、国際協力の諸側面から日本と国際社会の間の歴史的關係と現在の課題を考察する。

【授業計画】

1. 国際関係の基本概念
2. 国際関係理論
3. 冷戦構造の発展と終焉
4. 国際経済と地域統合
5. 核兵器と安全保障
6. 南北問題と開発
7. 地球環境問題
8. 地域紛争、テロリズム
9. 第二次世界大戦と日本
10. 戦後日本と安全保障
11. 日本の国際協力
12. アジア太平洋のなかの日本

【評価方法】

成績評価は、期末試験(筆記)により行う。出欠は考慮しないが、中間試験を受験しないものは、期末試験の受験資格を失う。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。

【参考文献・資料】

国際関係学講義 新版(原彬久編 有斐閣)

異文化教育論

霜田一敏

【授業の概要】

日本においても国際化が進展し、さまざまな国の人たちが急速に増大している。私たちは益々異なった文化と言語を持った人たちと共存して生きていかなければならない。世界の人々との平和的な交流を図る上で、異文化理解はこれからの教育の重要な問題である。この問題を国際理解教育の観点から具体的に論究する。

【授業計画】

異文化とは何かを自らが体験した個人内異文化状況をもとに下記の項目で学生参加で行う。

1. 大学生生活の異文化状況—中高との対比—
2. 一人暮らしの異文化状況
3. 方言と風習の違い
4. 地域生活の違い
5. アルバイトの世界の異文化状況
6. 世代間・家族間の異文化状況
7. いじめの世界・ひきこもりの世界、障害者の世界
8. インターネットの世界（メールや携帯電話の姿が見えない世界）

【評価方法】

毎回行うミニテストと授業への参加度、期末の定期テストで総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。その都度プリント資料を配布する。

【参考文献・資料】

講義のなかで紹介する。

比較文化論Ⅰ（日・米）

松本青也

【授業の概要】

集団が共有する価値観や規範の体系としての文化について、日本とアメリカを比較対照して、それぞれの文化の特質を浮き彫りにするとともに、異文化理解を深める方法についても考察する。

【授業計画】

アメリカのテレビ番組や新聞雑誌の分析を加えながら講義と意見交換で進行するこの授業は、いわば自国文化に縛られた自分の姿を映し出す鏡。覗いてみると、もっと自由で伸びやかな生き方が目の前に広がります。

1. 文化論
- 2～9. 文化変形規則（CTR）
10. システムとしてのCTR
11. 研究対象としてのCTR
12. 日本語の衝突とCTR
13. CTRと学校英語教育
14. これからの日米文化

【評価方法】

レポート、学習態度、出席状況による総合評価

【テキスト】

日米文化の特質（松本青也 研究社）

比較教養論

柳澤幾美

【授業の概要】

「教養」に関する各国の思想史を概説する。このクラスでは特に「結婚」についての各国の思想史を紹介する。諸国における結婚のありようを見渡し、その文化の比較を行う。

【授業計画】

1. イントロダクション（統計上の各国の比較）
2. アメリカにおける結婚
3. 中国の婚姻
4. 韓国における結婚
5. フランスの結婚
6. 移民たちの結婚—アメリカにおける「写真結婚」観

【評価方法】

レポート40%、試験60%にて評価する。

【テキスト】

特に使用しない。

【参考文献・資料】

その都度紹介する。

比較文化論Ⅱ（日・欧）

TODOROVIC, Thomas

【授業の概要】

西ヨーロッパの主な諸国（フランス、イギリス、ドイツ、イタリア、スペイン）と日本におけるさまざまな文化様相の状況と問題点に関する最近のデータを利用して比較を行ない、ヨーロッパ文化への理解と関心を深める。

【授業計画】

- 1) 生活様式と生活粋
- 2) 人口問題
- 3) 消費社会文化
- 4) 暴力、犯罪といじめの問題
- 5) ヨーロッパの匂いと味、しぐさと音
- 6) 家族制度
- 7) フランス人の結婚
- 8) 自由時間
- 9) 教育制度
- 10) メディア
- 11) 環境問題
- 12) 地域文化

【評価方法】

テストによる評価する。

【テキスト】

使用せず。

比較文化論Ⅲ（日・アジア）

馮 富榮 尹 大辰

【授業の概要】

（概要）アジア諸国の中でも、特に日本と深い関わりのある中国と韓国を取り上げ、歴史認識や政治までを含めた広範囲な文化を日本と比較する。

（オムニバス方式）

（馮富榮教授）日本と中国の文化・習慣の違いについて説明する。主として、両国の食文化、風俗習慣、建築文化、漢字文化、交流文化及びお茶とお酒の文化などをテーマにし、講義し、比較する。

（尹大辰兼任講師）「日韓両国の歴史認識への接近」をテーマに韓国近代史に焦点をあて、まず自らを点検し、共有する歴史認識の確立をめざし、今後のあるべき姿を模索していこうとするものである。

【授業計画】

学生のアジア諸国に対する真の理解を深めることを目的としているので、中国や韓国の文化習慣を多面的に紹介する。具体的に以下の内容となる。

1. 中国文化の原点である“天人合一”について
2. 何千年の歴史を持つ中国の漢字文化
3. 世界でも大変評判になっている中国の食文化
4. 中国の祝日と風俗習慣
5. 中国の古都の紹介
6. 中国の文化習慣がいかにして中国人の日本語学習に影響を及ぼすか
7. 中国に関する全体的なまとめ
8. 日本と朝鮮半島との文化交流（古代）
9. 日本と朝鮮半島との文化交流（中世）
10. 日本と朝鮮半島との文化交流（近代）
11. 朝鮮半島の自然と文化・風土
12. 韓国の家族制度と姓・本貫
13. 韓国の社会生活から見た文化比較

【評価方法】

レポート及び平日の出席状況などを考えて、総合的に判断する。

【テキスト】

自作教材

【参考文献・資料】

金兩基監修図説「韓国の歴史」（河出書房新社）

ビジネスジャーナル講読

上原 衛 小池弘道 大塚英揮

【授業の概要】

日経ビジネス、東洋経済、ダイヤモンドなどの経済誌等から毎週テーマを決め、輪読と質疑応答を通じて現実の経済状況の把握と、経済学の専門用語を学ぶとともに経済学的な解説を加える。

【授業計画】

第1～第12講 経済、金融、ビジネスコミュニケーションなど幅広いテーマを取上げる。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

第1講の開始前に配布する。

比較文化論Ⅳ（日・中東）

澤江史子

【授業の概要】

現代世界に生きる私たちにとって理解が不可欠となっている中東イスラーム世界について、文明、歴史、国際政治、宗教という多様な側面から理解することを目指す。事例としてはトルコを中心に取り上げる。

【授業計画】

1. 導入
 - * 「中東」とオリエンタリズムの問題
 - * 中東の文化とアイデンティティの重層性
2. 近世から近代へ
 - * オスマン帝国における近代化の歴史と問題
 - * 明治期の日本とオスマン帝国
3. イスラーム世界と国際政治
 - * イスラーム世界とヨーロッパ
 - * 冷戦後のイスラーム世界
 - * 「原理主義」と「文明の衝突」論
4. イスラーム復興運動
 - * イスラームとは何か
 - * イスラーム復興運動とは何か

【評価方法】

授業中の課題および試験によって評価する。

【参考文献・資料】

オスマン帝国—イスラーム世界の「柔らかな専制」

（鈴木董 講談社現代新書 1992年）

イスラームとは何か（小杉泰 講談社現代新書 1994年）

イスラームの日常世界（片倉もとこ 岩波新書 1991年）

その他、授業中に適宜指示する。

英文ビジネスジャーナル講読

上原 衛 大塚英揮

【授業の概要】

ビジネスウィークやインターネット上のBBC、ABCの経済ニュース記事等を英文教材として使い、世界でどのような経済問題が起きているのか、海外から見た日本経済の評価などについて英語での理解を深める。

【授業計画】

第1～第12講 経済、金融、ビジネスコミュニケーションなど幅広いテーマを取上げる。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

第1講の開始前に配布する。

経済学概論 I

立石 寛

【授業の概要】

最初に「経済学とは何か」について述べ、次に「資本主義経済システムの特徴」と「市場経済と政府の役割」について経済学の基礎的知識を与え、さらに「資本主義経済システムの成立と展開」について歴史的視点から考察する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自動車産業と経済学
- 第3回 経済学的な考え方
- 第4回 取引と貿易
- 第5回 需要・供給と価格
- 第6回 需要・供給分析の応用
- 第7回 時間とリスク
- 第8回 公共部門
- 第9回 マクロ経済学と完全雇用
- 第10回 経済成長
- 第11回 失業と総需要
- 第12回 インフレーション

【評価方法】

単位認定試験、成績によって評価する。

【テキスト】

スティグリッツ入門経済学（ジョセフE.スティグリッツ著（藪下史郎・秋山太郎・金子能宏・木立力・清野一治訳 東洋経済新報社）

【参考文献・資料】

なし

経営学概論 I

浅井敬一郎

【授業の概要】

経営学の基本的な概念と理念を体系的に学ぶとともに、現代の企業と経営者の役割と意義について考察する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 企業とは何か
- 第3～4回 企業の諸形態
- 第5～6回 株式会社の経営機構
- 第7～8回 日本型株式会社制度の構造と実態
- 第9～10回 会社分割・持株会社制度
- 第11～13回 企業の社会的責任
- 第14回 まとめ

【評価方法】

レポートおよび定期試験によって評価する

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

企業論（三戸浩他著 有斐閣アルマ）
経営のしくみ（青木三十一著 日本実業出版社）
株式会社のしくみがよくわかる本（北條恒一著 PHP）
有力企業の社会貢献度2003（朝日新聞文化財団編 PHP）

経済学概論 II

村上敬進

【授業の概要】

消費、投資、物価、所得などのマクロ経済変数の分析を通じて、景気や経済全体の動きを理論的に考察する。

【授業計画】

- 1 マクロ経済学はどんな学問でしょうか？
- 2 マクロ経済学と日本経済
- 3 GDP
- 4 消費と貯蓄
- 5 企業の投資
- 6 政府の支出
- 7 総需要の経済学

【評価方法】

成績評価は定期試験で行う。

【テキスト】

基礎からわかるマクロ経済学（家森信善著 中央経済社）

【参考文献・資料】

基礎からわかるミクロ経済学（家森信善・小川光著 中央経済社）

経営学概論 II

浅井敬一郎

【授業の概要】

ビジネスは変化する経営環境の中で生存するべく、様々なマネジメント活動を行っている。その中でとくに（1）成長戦略、競争戦略といった経営戦略を立案し、（2）いかに分業し調整するという組織構造、組織形態の選択、（3）インセンティブシステムを確立し、いかに人を動かす仕組みを作り上げるかについての決定がなされなければならない。本講義では、これら3つのついでに概論を具体的な事例を取り上げながら体系的に講義していく。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2～7回 企業の経営戦略
 - ・経営戦略の体系
 - ・戦略の策定
 - ・成長戦略
 - ・PPM
 - ・競争戦略
 - ・ケーススタディ
- 第8～11回 企業の組織形態
- 第12～13回 企業のインセンティブシステム
- 第14回 まとめ

【評価方法】

レポートおよび定期試験によって評価する

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

経営戦略（大滝精一他著 有斐閣アルマ）
新しい人事労務管理（佐藤博樹他著 有斐閣アルマ）
経営管理（塩次喜代明他著 有斐閣アルマ）

基礎数学

石橋善弘

【授業の概要】

情報化社会にあつては、文系理系を問わず、数学の基礎的知識をもつことは必要不可欠である。本授業では、応用を念頭において、数学の基礎的事項について講じ、数学的思考能力の習得、向上をはかる。

【授業計画】

第1回 講義内容および講義計画の提示

第2回～第11回

数（実数、虚数、複素数）と四則演算、初等整数論、代数方程式の解法、三角関数の応用、初等微分積分学等について講義し、理解を促進するため随時コンピュータ実習を行う。

第12回 総括

【評価方法】

出席状況、レポート、期末試験等により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

統計学基礎

石橋善弘

【授業の概要】

何ごとにも科学的なアプローチが求められる情報化社会において、統計学は必須の科目である。本講義では統計学の基礎を習得し、あわせて統計を扱う応用ソフトの活用法について学ぶ。

【授業計画】

第1回 講義内容および授業計画の提示

第2回～第11回

データの分布、統計基本量（平均値、標準偏差等）、相関および相関係数、回帰分析等について講義し、理解を促進するため随時応用ソフトを利用して実習を行う。

第12回 総括

【評価方法】

出席状況、レポート、期末試験等により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

情報システム概論 I

三浦信宏

【授業の概要】

コンピュータのハードウェア、ソフトウェアの知識、およびプログラミングのアルゴリズム、計測・制御など情報処理の基本機能を実習を通して学習する。

【授業計画】

第1回 ガイダンス

第2回 コンピュータの基礎知識

第3回 エンドユーザーコンピューティングとは

第4回 コンピュータの5大装置

第5回 コンピュータの情報表現

第6回 論理演算と論理回路

第7回 コンピュータの基礎知識のまとめ

第8回 ハードウェアの基礎

第9回 補助記憶装置

第10回 入出力装置

第11回 ソフトウェアの基礎

第12回 オペレーティング・システムの役割

第13回 データ管理と記憶管理

第14回 まとめ

第15回 テスト

（毎回、授業中にパソコン演習を含む）

【評価方法】

出席状況、授業中の課題、ミニテスト等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

エンドユーザーコンピューティング（ウイネット）

【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

情報システム概論 II

三浦信宏

【授業の概要】

情報処理システムの各種インターフェース、システム開発、テスト方法、システムの環境整備、運用と管理などについて実習を通して学習する。

【授業計画】

1. システム開発技法

2. ヒューマンインターフェースの設計

3. テスト技法

4. システムの運用と管理

5. プログラム言語と言語処理系

6. CPUの性能計算

7. ネットワークの性能計算

8. システムの構成と評価

9. システムの信頼性

10. コンピュータウイルスとワクチンソフト

11. セキュリティ対策

12. 開発と取引の標準化

13. まとめ

【評価方法】

出席状況、レポートおよび試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

システムの運用と管理（ウイネット）

【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

プログラミングⅠ

石橋善弘

【授業の概要】

コンピュータを道具として問題解決をはかるといふ過程が、諸方面で進展している。プログラミングの基本的な考え方を概説し、Visual BASICを用いて日常生活、社会活動において有用なプログラムを作成する能力を養う。

【授業計画】

- 第1回 本講義の目的と授業計画の提示
- 第2回～第11回 以下の項目について解説する
 - コンピュータの歴史
 - プログラミングの基礎
 - プログラミングに必要な数学的基礎
 - 2進法
 - 算術演算
 - 論理演算
- 第12回 まとめ

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

プログラミングⅡ

石橋善弘

【授業の概要】

プログラミングⅠにおいて習得したプログラミング能力を活用して日常生活、社会活動において有用なプログラムを作成させる。

【授業計画】

- 第1回 本講義の目的と授業計画
- 第2回～第11回 以下の項目について解説する。
 1. 統計学の基礎的概念
 2. 統計解析に必要なプログラムの作成
 3. 乱数
 4. 乱数を用いたシミュレーション (株価変動、車の流れ、人の流れ等)
 5. 簡単なゲーム用ソフトの作成
- 第12回 まとめ

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

システムデザインⅠ

三浦信宏

【授業の概要】

データベースシステムの設計、運用、管理、及び情報検索に関する知識・技能を習得し、関係データベースを利用することによって実践的なスキルを養う。

【授業計画】

1. 情報システムとデータベース
2. データベースシステムの基本概念
3. データベースの種類と特徴
4. 業務フローとデータベースの位置付け
5. 構造化分析 (1)
6. 構造化分析 (2)
7. 構造化分析 (3)
8. 構造化分析 (4)
9. データベース設計 (1)
10. データベース設計 (2)
11. データベース設計 (3)
12. データベース設計 (4)
13. まとめ

【評価方法】

出席状況、レポートおよび試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

システムデザインⅡ

伊東俊彦

【授業の概要】

本授業では、はじめにアプリケーション・システムの設計・開発の過程を学習する。その後、簡単な会計システムのプログラミングを行う。具体的なプログラミングをととして適用業務システムの設計・運用・管理に関する知識を習得し分析ツール、設計ツールを利用することによって実践的なスキルを養う。

【授業計画】

1. アプリケーション設計・開発の概要 (1)
2. アプリケーション設計・開発の概要 (2)
3. 会計システムの概要 (1)
4. 会計システムの概要 (2)
5. Excelによる会計システムの課題練習 (1)
6. Excelによる会計システムの課題練習 (2)
7. Excelによる会計システムの課題練習 (3)
8. Excelによる会計システムの課題練習 (4)
9. 月次処理の基本 (1)
10. 月次処理の作成 (2)
11. 決算処理の基本 (1)
12. 決算処理の作成 (2)
13. まとめ

【評価方法】

出席点およびミニテスト (2～3回実施) により評価する。

【テキスト】

テキストは適宜指示する。

【参考文献・資料】

参考文献は適宜指示する。

金融論

藤井正志

【授業の概要】

資金循環勘定と企業の資金調達、直接金融・間接金融に係る金融仲介機関の機能、金融市場と金利等、金融の役割・仕組みについて論ずる。

【授業計画】

- 第1講 マクロ経済・金融の基礎知識
- 第2講 デフレ経済の問題点
- 第3講 日本の金融の問題点
- 第4講 マクロ金融政策の課題
- 第5講 金融政策 (IS-LM分析)
- 第6講 金融政策まとめ・ミニテスト
- 第7講 金融仲介機関の役割
- 第8講 金利の基本概念
- 第9講 金融商品
- 第10講 金融市場
- 第11講 金融機関・金融市場まとめ・ミニテスト
- 第12講 ブルーデンス政策
- 第13講 金融ビッグバンと金融システム不安
- 第14講 今後の金融監督手法の展望

【評価方法】

期末試験、ミニテストなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

金融入門 (拙著 マナハウス) を使用する。

国際投融資論

森下允之

【授業の概要】

歴史と最新の統計に基づき国際資本すなわち国際投融資の動きとその各国経済発展への影響について論じる。

【授業計画】

- 第1講 国際投融資の目的
- 第2講 国際投融資の形態 (直接投資、証券投資)
- 第3講 証券投資の急増とその功罪
- 第4講 世界の直接投資
- 第5講 日本の対外直接投資
本邦企業の海外進出とグローバル戦略
- 第6講 対外直接投資が国内産業へ及ぼす影響
産業の空洞化問題
- 第7講 日本への対内直接投資
優良企業も外資に狙われる
- 第8講 経済協力の実態と効果
- 第9講 カントリー・リスクとビジネス・リスク
- 第10講 プロジェクトファイナンス
- 第11講 自由貿易協定が投資におよぼす影響
- 第12講 世界主要地域の投資環境概観
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを適時配布する。

【参考文献・資料】

マネー・マーケットの大潮流 (加野忠・砂村賢・湯野勉著 東洋経済新報社)
2003年版ジェトロ貿易投資白書 (日本貿易振興会)

国際金融論

藤井正志

【授業の概要】

国際金融市場、国際証券市場の動向、シンジケートローンに関する実務、デリバティブの動向とリスク管理等、基礎と現実の動きを幅広く考察し、今後の課題についても検討する。

【授業計画】

- 第1講 国際金融とは
- 第2講 信用状と貿易取引
- 第3講 経常収支とそのファイナンス
- 第4講 石油危機と経常収支の不均衡
- 第5講 ユーロ市場の問題点
- 第6講 シンジケートローン
- 第7講 累積債務問題
- 第8講 新しいタイプの通貨・金融危機
- 第9講 国際債券市場
- 第10講 国際金融のリスク
- 第11講 デリバティブ取引1
- 第12講 デリバティブ取引2
- 第13講 国際金融まとめ

【評価方法】

期末試験とミニテストによって総合的に評価する。

【テキスト】

国際金融入門 (拙著 マナハウス) を使用する。

外国為替論

森下允之

【授業の概要】

「国際金融」のExchange (交換、為替) の側面。基礎的な概念・理論から今日の制度・為替政策、さらに経済への影響まで触れる。経済的なできごと、変化が外国為替相場にどう影響するか理解できるようにしたい。

【授業計画】

- 第1講 外国為替の仕組み
- 第2講 外国為替市場
- 第3講 外国為替相場の種類
- 第4講 スワップとアウトライト
- 第5講 外国為替リスクと回避方法
- 第6講 外国為替相場と経済の関係
- 第7講 外国為替相場と国際収支
- 第8講 オプション取引
- 第9講 外国為替相場の決定理論
- 第10講 国際通貨制度
- 第11講 ユーロ
- 第12講 アジアと円の国際化
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

外国為替のしくみ (小口行伸著 日本実業出版社)

銀行ビジネス論

森下允之

【授業の概要】

現在、日本の銀行界は未曾有の危機、再編の渦中であり、日本経済不振の元凶とも非難されている。しかしながら、実際には銀行は加害者でもあり、被害者でもある。金融機関その代表である銀行が再び十分な利益をあげ、日本経済に貢献する方法を論ずる。

【授業計画】

- 第1講 金融システムの基礎知識
- 第2講 金融システムにおける銀行
- 第3講 バブル崩壊と不良資産
- 第4講 間接償却と直接償却
- 第5講 金融再編成
- 第6講 日本の銀行の特徴（なぜ儲からないか）
- 第7講 バイオ問題と中小金融機関
- 第8講 政府系金融機関の功罪
- 第9講 郵政民営化
- 第10講 日本の資金需給の大変化
- 第11講 金融ビッグバン
- 第12講 異種業種からの参入
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じ、プリントを配布

【参考文献・資料】

図説 わが国の銀行（全国銀行協会調査部編 財経詳報社）
日経文庫 ベンシック金融自由化入門（円居総一著 日本経済新聞社）
21世紀日本の金融産業革命（植田・川北・高月著 東洋経済新報社）
銀行収益革命（川本裕子著 東洋経済新報社）

証券ビジネス論

島田舒一

【授業の概要】

日本版ビッグバン後、証券市場、証券会社、証券行政などいずれも変革が進みつつあり、また、グローバル化の中で証券ビジネスは質量とも変わってきている。そこで広範囲にわたる証券ビジネスを具体的に論ずるとともに、金融システムや市場の変化の中でどう変わっていくか、その背景と方向性についても考察する。

【授業計画】

- 第1講 証券市場の機能と役割
- 第2講 証券の種類と内容
- 第3講 証券市場の仕組み
- 第4講 証券会社の業務1 株式業務
- 第5講 証券会社の業務2 債券業務ほか
- 第6講 銀行の証券業務
- 第7講 投資信託業務
- 第8講 資産運用業務と投資計算
- 第9講 証券流通市場関連業務
- 第10講 国際証券業務
- 第11講 日本版ビッグバンと金融・証券市場の変化
- 第12講 規制緩和と新しい証券ビジネス
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布

【参考文献・資料】

証券ビジネスの基礎知識（島田舒一著 中部日本教育文化会）

保険ビジネス論

跡部浩一

【授業の概要】

保険業法の基本事項を学習し、現代の企業経営にとって不可欠な各種保険の意義と役割についての理解を深める。

特に保険業法の法的解釈論よりも、日常の経済活動を通じての保険実務とその意義を中心のテーマに、その法的根拠としての保険業法の基本を解説する。

【授業計画】

- 第1講 保険業法の概要と保険入門
- 第2講 損害保険の基礎1・自動車保険
- 第3講 損害保険の基礎2・自動車保険
- 第4講 損害保険の基礎3・火災保険
- 第5講 損害保険の基礎4・新種保険
- 第6講 保険の募集と保険業法
- 第7講 生命保険と損害保険の違い
- 第8講 生命保険の基礎1
- 第9講 生命保険の基礎2
- 第10講 保険と犯罪
- 第11講 保険とは何か
- 第12講 私たちの生活と保険
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況（毎回出席をとる）と単位認定試験の成績により、総合的に評価する

【テキスト】

テキストは使用しない。毎回レジュメを配布する

【参考文献・資料】

保険の知識（真屋尚生著 日経文庫）
損害保険の知識（玉村勝彦著 日経文庫）
生命保険の知識（ニッセイ基礎研究所著 日経文庫）

金融システム論

石坂綾子

【授業の概要】

中央銀行と金融政策、銀行と証券市場、国際的金融制度（IMF、世界銀行など）など金融システムについての基本的特徴をその機能と歴史的背景から考察する。

【授業計画】

1. 1980・1990年代の金融世界
 - (1) バブルの陶酔と清算（1985-1994年）
 - (2) ボーダーレスマネー（1994年）
—「円・ドル」の事例—
 - (3) 金融異変（メルトダウン）
—国際金融危機の事例—
2. 日本の金融システム
 - (1) 金融システムの発展とその特色・再編と現状・公的金融システム
 - (2) 金融業務にかんする規制・慣行とその変容
 - (3) 金融制度改革
3. ユーロッパ諸国の金融システム
 - (1) イギリス —ロンドン・シティの国際金融市場とビッグ・バン—
 - (2) フランス —実物資産選考と国有化—
 - (3) ドイツ —ユニバーサルバンキングの展開—
 - (4) ユーロッパ連合（European Union: EU）—通貨統合・単一通貨制度への移行—
4. アメリカの金融システム
 - (1) 大恐慌の教訓から構成された競争制限的な金融システム
 - (2) 金融機関の概要
 - (3) アメリカにおける金融システム改革
 - (4) 規制からの逃避 —銀行持株会社のケース—
 - (5) デイスインターメディアエーション
 - (6) 預金保険制度

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。第1回目の授業において資料を配布する。

【参考文献・資料】

ゼミナール現代金融入門（斎藤 精一郎著 日本経済新聞社）
金融システム（酒井良清・鹿野 嘉昭著 有斐閣）
金融政策（酒井良清・榊原 健一・鹿野 嘉昭著 有斐閣）

ファイナンス特論

細野義晴

【授業の概要】

企業経営資金の需要者と供給者との間には、現在多種多様な金融機関が存在している。これらの金融構造を学習し、現在の各種金融機関の特色とその役割を理解する。

【授業計画】

1. 日本の資金循環と各経済主体の金融行動
貨幣の機能と日本の資金循環、家計の金融行動、企業の金融行動、政府の金融行動、経済主体別資金過不足の動向、など。
2. わが国の金融機関とその変化
近代的金融機関の成立、第2次大戦後に確立した金融システムと金融機関の体系、金融の自由化・国際化による金融システムの変化など。
3. 金融機関の業務とその変貌
中央銀行の機能と金融政策、民間金融機関の業務とその変貌、公的金融機関とその役割の変化など。
4. わが国の金融構造と金融機関行政の変化
高度成長時代の金融構造の特色、護送船団方式の金融機関行政、低成長時代への移行に伴う金融構造の変化、市場機能重視の金融機関行政とそこでの金融機関経営、など。
5. 金融ビッグバンと金融機関の将来像
金融ビッグバンの背景とその歩み、金融ビッグバンの金融機関と国民生活への影響、不良債権処理とペイオフ問題、など。

【評価方法】

単位認定試験の成績に出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

1. 金融（貝塚啓明・奥村洋彦・首藤恵著 東洋経済新報社）
2. 図説、わが国の銀行（全国銀行協会連合会調査部編著 財経詳報社）

簿記Ⅱ

遠藤秀紀

【授業の概要】

簿記Ⅰで学習した簿記の基本的原理をふまえて、さまざまな取引の会計処理および株式会社の会計について学ぶ。

【授業計画】

1. 現金・預金の取引
2. 有価証券の取引
3. 手形の取引
4. 特殊売買
5. 繰延資産
6. 長期的に利用する資産の取引
7. 法律上の権利と営業権
8. 投資活動などの取引
9. 社債の発行
10. 株式の発行

授業中、適宜プリントを配布し、各テーマにそった演習問題をおこなう。

【評価方法】

定期試験（70%）、小テストまたはレポート提出（20%）および出席状況（10%）を総合して評価する。

【テキスト】

入門アカウンティング（鎌田信夫編著 創成社）

【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

簿記Ⅰ

遠藤秀紀

【授業の概要】

簿記は、企業の活動を一定の原理にしたがって認識・記録・計算し、さらに報告するための技術である。簿記に基づいて作成される財務諸表は、一般の人々が経済的意思決定を行うために必要な情報を提供している。本講義は、取引の発生から財務諸表を作成するまでの簿記の基本的原理について学ぶ。

【授業計画】

1. 簿記の前提
(1) 会計サイクル、(2) 会計の対象、(3) 会計情報の必要性、
(4) 会計情報の主要な要素、(5) 会計等式、
(6) 勘定における取引の記録
 2. 貸借対照表
(1) 貸借対照表の構成要素、(2) 貸借対照表の形式、
(3) 貸借対照表の作成
 3. 損益計算書
(1) 損益計算書の目的と利益、(2) 損益計算書の形式、
(3) 損益計算書の作成
 4. キャッシュ・フロー計算書
(1) キャッシュ・フローと利益、(2) キャッシュ・フロー計算書の活動区分、(3) キャッシュ・フロー計算書の作成
 5. 取引の勘定記入
(1) 勘定、(2) 勘定科目、(3) 勘定口座への記入、
(4) 取引の分解と勘定への記入
 6. 仕訳と転記
(1) 仕訳、(2) 仕訳帳への記入、(3) 転記と総勘定元帳、
(4) 転記の方法
 7. 帳簿
(1) 証ひょう、(2) 会計伝票、(3) 主要簿と補助簿、
(4) 帳簿の締切り
 8. 決算手続き
(1) 試算表、(2) 決算の意味と手続き、(3) 精算表、
(4) 財務諸表の作成
- 授業中、適宜プリントを配布し、各テーマにそった演習問題をおこなう。

【評価方法】

定期試験（70%）、小テストまたはレポート提出（20%）および出席状況（10%）を総合して評価する。

【テキスト】

入門アカウンティング（鎌田信夫編著 創成社）

【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

会計学概論

森 恒夫

【授業の概要】

会計は、企業の財政状態並びに経営成績を正確に把握するためのものである。一般に公正妥当と認められている企業会計原則をはじめとする諸原則、諸法令、手続等を論じ、財務諸表の作成及び利用についても言及する。

【授業計画】

1. 貸借対照表と損益計算書の仕組み
2. 会計の基礎的考え方とディスクロージャー
3. 企業会計の特徴と役割
4. 財務会計の基礎の原則
5. 一般会計原則
6. 貸借対照表、損益計算書の原則と作成
7. キャッシュフロー計算書の作成
8. 原価計算の基礎
9. 管理会計と監査の基礎
10. 税務会計と経営分析の基礎
11. 外貨換算会計と金融商品会計
12. 税効果会計と退職給付会計

【評価方法】

単位認定試験及びレポートにより評価

【テキスト】

未定

原価計算

林慶雲

【授業の概要】

企業活動の原点であるもの作りと生産物の原価の仕組みを理解するとともに、製品原価の計算方法、目的、手段、利用方法について考察する。

【授業計画】

1. イントロダクション（原価計算の前提）
2. 費目別計算
3. 部門費の計算
4. 個別原価計算
5. 単純総合原価計算
6. 工程別原価計算
7. 組別総合原価計算
8. 等級別総合原価計算
9. 連産品の原価計算
10. 標準原価計算
11. 直接原価計算
12. まとめ

【評価方法】

試験による。日商簿記検定試験2級以上の合格者は、試験の成績に一定の割合で得点を加算する。

【テキスト】

原価計算論（皆川芳輝 創成社）

【参考文献・資料】

日商簿記検定試験用のテキストなど

管理会計

林慶雲

【授業の概要】

現代の企業経営における意志決定には、予測情報と実績情報が必要不可欠である。企業内の各階層の経営管理者は、これらの提供された情報の分析・解明を通じてどのように合理的な企業経営を行っているか、具体例をあげて講ずる。

【授業計画】

1. イントロダクション（会計の経営への応用）
2. CVP分析
3. 特殊原価計算
4. 投資の意思決定
5. ABC/ABM
6. 原価企画
7. 品質原価計算
8. 企業連携のコスト管理
9. 予算管理
10. 業績管理会計
11. まとめ

【評価方法】

試験による。原価計算の知識がないと講義の理解は難しい。

【テキスト】

管理会計（岡本清など 中央経済社）

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

国際会計

山川勝

【授業の概要】

企業の経営活動の国際化に伴い、各国の会計基準の相違が問題になる。特に、米国会計基準、国際会計基準の動向に注目して会計基準の国際的調和について考察する。また、個別の企業会計の問題として、為替レート変動が企業に与える影響に関して、会計的な側面から論じる。

【授業計画】

1. 日本の会計基準の現状と課題
2. 国際会計基準の概要
3. 米国会計基準の概要
4. 会計基準各論
5. 企業の財務情報開示の現状比較（代表的な日本企業のアニュアルレポート（国内向け及び海外向け）の分析）
6. 会計と監査

【評価方法】

課題に対するレポートの提出を求め、出席状況とあわせて総合的に評価する。

【参考文献・資料】

日本の代表的な有力企業の国内向け及び海外向けに開示された財務情報の実例（アニュアルレポート）をケース・スタディとして使用する。

この授業の履修は、会計学概論又は財務会計論を履修していることが望ましい。

国際会計

白木俊彦

【授業の概要】

企業の経営活動の国際化に伴い、各国の会計基準の相違が問題になる。特に、米国会計基準、国際会計基準の動向に注目して会計基準の国際的調和について考察する。また、個別の企業会計の問題として、為替レート変動が企業に与える影響に関して、会計的な側面から論じる。

【授業計画】

- 第1講 総論：国際会計とは
- 第2講 各論1：国際財務報告
- 第3講 各論2：日本
- 第4講 各論3：米国
- 第5講 各論4：連結の範囲
- 第6講 各論5：連結貸借対照表その1
- 第7講 各論6：連結貸借対照表その2
- 第8講 各論7：連結損益計算書
- 第9講 各論8：連結剰余金計算書
- 第10講 各論9：その他の財務諸表
- 第11講 各論10：外貨換算会計その1
- 第12講 各論11：外貨換算会計その2
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況とレポート及び単位認定試験結果によって総合的に評価する。

【テキスト】

講義において指示する。

監査論

前川三喜男

【授業の概要】

近年、都市銀行や大手証券会社等の上場企業の倒産が相続き、会計士監査のあり方が問題とされている。このような現状下における監査の実態と歴史的な考察ならびに今後の発展のための監査理論について考える。

【授業計画】

- 第1回 監査とは？
- 第2回 監査の目的
- 第3回 監査の種類
- 第4回 公認会計士について
- 第5回 企業内容の開示制度（ディスクロージャー）
- 第6回 財務諸表監査
- 第7回 予備調査
- 第8回 監査契約
- 第9回 監査計画
- 第10回 内部統制制度について
- 第11回 内部統制制度の評価
- 第12回 不正と誤謬
- 第13回 監査報告書

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

スタンダード監査論（友杉芳正著 中央経済社）

経営分析

浅野敬志

【授業の概要】

資金を効率的かつ安全に運用するためには、優良な企業・金融機関とそうでない企業・金融機関を見分ける力が必要である。その力を養うために、本講では、具体的な経営分析の技法を学ぶと共に、外部向けに公表されている財務情報を用いて、安全性・収益性・成長性などの面から、企業や金融機関を実際に評価する。

【授業計画】

1. 経営分析の必要性
2. 財務諸表を理解する
3. 成長性の分析（1）
4. 成長性の分析（2）
5. 収益性の分析（1）
6. 収益性の分析（2）
7. 採算性の分析（1）
8. 採算性の分析（2）
9. 安全性の分析（1）
10. 安全性の分析（2）
11. 実例を使つての総合分析（1）
12. 実例を使つての総合分析（2）
13. 実例を使つての総合分析（3）

【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

3ステップ式だから経営分析がらくできる本（増木清行著 あさ出版）

【参考文献・資料】

ゼミナール現代会計入門（伊藤邦雄著 日本経済新聞社）
企業分析入門（パレブ他著 東京大学出版会）

財務会計論

森 恒夫

【授業の概要】

企業が株主や債権者などの外部の利害関係者に対して、経営成績や財政状態を報告する目的で実施している財務会計について、企業会計原則、商法計算規定その他の会計法令などを含め、総合的に考察する。

【授業計画】

- 第1回 財務会計論の課題
- 第2回 財務会計制度
- 第3回 企業会計原則
- 第4回 資産会計の原則
- 第5回 流動資産
- 第6回 固定資産
- 第7回 その他の資産
- 第8回 負債会計
- 第9回 資本金
- 第10回 損益会計
- 第11回 損益会計
- 第12回 キャッシュフロー計算書
連結財務諸表

【評価方法】

単位認定試験及びレポートにより評価する。

【テキスト】

未定

会計学特論 I

杉本典之

【授業の概要】

情報システムとしての企業会計の基本的構造を概観した上で、主として、会計測定のプロセスについて学ぶ。

【授業計画】

下記の事項をそれぞれ複数回に分けて説明し、会計学特論Ⅱへの橋渡しを目指す。

1. 株式会社会計を典型とする企業会計
2. 情報システムとしての企業会計
3. 企業会計の基本的構造
4. 会計測定のための基本的構造
5. 勘定記録と会計情報

【評価方法】

授業中に実施する複数回のテストやレポートの成績と、学期末試験の成績とを総合して評価する予定。

【テキスト】

各種の教材や下記の拙著のコピーを印刷物にして配布する予定。
会計理論の探究—会計情報システムへの記号論的接近—
（杉本典之著 同文館）
キャッシュフロー計算書—その国際的調和化の現状と課題—
（杉本典之・洪慈乙共著 東京経済情報出版）

【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、授業中に具体的に紹介・教示するだけでなく、学生の皆さんからの積極的な問い合わせにも答えたい。

会計学特論Ⅱ

杉本典之

【授業の概要】

情報システムとしての企業会計における会計基準の位置づけと役割について学ぶ。

【授業計画】

会計学特論Ⅰの続きとして、下記の事項をそれぞれ複数回に分けて説明する。

1. 情報システムとしての企業会計
2. 会計情報を搬送する決算財務諸表
3. 決算財務諸表をめぐる会計基準
4. 会計基準の国際的調和化
5. 各国の会計基準と国際会計基準

【評価方法】

授業中に実施する複数回のテストやレポートの成績と、学期末試験の成績とを総合して評価する予定。

【テキスト】

各種の教材や下記の拙著のコピーを印刷物にして配布する予定。

- 会計理論の探究—会計情報システムへの記号論的接近—
(杉本典之著 同文館)
- キャッシュフロー計算書—その国際的調和化の現状と課題—
(杉本典之・洪慈乙共著 東京経済情報出版)

【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようになりたい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、授業中に具体的に紹介・教示するだけでなく、学生の皆さんからの積極的な問い合わせにも答えたい。

国際経済事情

真田幸光

【授業の概要】

外国系主要各紙、雑誌等の経済トピックスを毎週採り上げ、世界情勢を分析した上で日本経済がそれにどう対応していくかを考察する。

【授業計画】

- 第1回 年間計画指示・オリエンテーション
- 第2～11回 配布する時事経済トピックスに関する解説を行った上で国際経済情勢について意見交換を行う。
- 第12回 試験
- 第13回 試験解説

【評価方法】

単位認定試験の成績による。

【テキスト】

必要に応じて授業中に配布する。

日本経済事情

真田幸光

【授業の概要】

日系主要各紙、雑誌等の経済トピックスを毎週採り上げ、日々刻々と変化する日本の経済情勢を金融マンの視野から考察する。

【授業計画】

- 第1回 年間計画指示・オリエンテーション
- 第2～11回 前週に配布した時事経済トピックスに関する資料につき解説を行った上で経済情報に関する意見交換を行う。
- 第12回 試験
- 第13回 試験解説

【評価方法】

単位認定試験の成績による。

【テキスト】

必要に応じて授業中に配布する。

経済交流史

清水 洋

【授業の概要】

国際経済交流の歴史的意義を明らかにし、明治期から今日に至るまでの日本と東南アジアの経済交流を事例として、移民、金融、通商、直接投資、ODAなどの面を多目的に考察する。

【授業計画】

- 講義を主体とするが、ビデオ・OHCなどの視聴覚設備も適宜使用する。
- 1) 国際経済交流の歴史的意義
 - 2) 東南アジアにおける初期日本人移民の経済活動
 - 3) 英領マラヤ（現・シンガポールと西マレーシア）における日本人移民の経済活動 — からゆきさん先導型経済進出
 - 4) アジア内貿易ネットワーク：神戸・横浜の華僑商人とインド人商人
 - 5) 戦前期シンガポールにおける日本人漁業
 - 6) 太平洋戦争期東南アジアにおける日本の経済活動
 - 7) 戦争賠償問題と日本の対東南アジア経済回帰
 - 8) ～12) 東南アジア諸国の経済発展における日本の役割 — 直接投資、観光、自由貿易協定、ODAなど
 - 13) その他

【評価方法】

定期試験が主体となるが、レポート等も考慮に入れる。

【テキスト】

第1回目の講義で指示する。

【参考文献・資料】

- もっと知りたいシンガポール（綾部恒雄・石井米雄編 弘文堂）
- 日本と東南アジア（吉川利治編著 東京書籍）
- 近代日本の東南アジア観（正田健一郎編 アジア経済研究所）
- 「南進」の系譜（矢野暢 中公新書）

ビジネスプレゼンテーション

三浦信宏

【授業の概要】

ビジネスの場面における自己表現の効果的な技法を理論面、実践面から考察する。ビジネスの諸局面で発生する課題を各自で分析し、プレゼンテーションツール（パソコンなど）を使用して実践することにより、プレゼンテーションスキルを取得する。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンスとプレゼンテーション概要
- 第2講 パワーポイントの構成と基本機能
- 第3講 プレゼンテーションシナリオの作成
- 第4講 プレゼンテーション資料の作成（1）
- 第5講 プレゼンテーション資料の作成（2）
- 第6講 プレゼンテーション資料の作成（3）
- 第7講 プレゼンテーション資料の作成（4）
- 第8講 発表（1）
- 第9講 発表（2）
- 第10講 発表（3）
- 第11講 発表（4）
- 第12講 発表（5）
- 第13講 まとめ

【評価方法】

作成されたプレゼンテーション資料、発表内容を総合的に評価する。

【テキスト】

創造するプレゼンテーション（梅田敏文著 弘学出版）

【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

比較文化特論

國信潤子

【授業の概要】

この講座では文化比較をジェンダーの視点から試みる。まず、ジェンダー概念とはどのようなものであるか、また異なる社会にはどのように多様なジェンダー関係があるかについて特に産業社会学の領域から検討する。労働、家族、地域活動、教育などにおけるジェンダー区分の実態を統計などからあきらかにする。また女性管理職の体験事例などを材料に、女性が生涯男性と対等な関係で労働継続するにはどのような問題があるかについて検討する。

【授業計画】

領域としては産業社会学である。雇用関係、組織における人間関係について統計などから明らかにする。まず、学生各自のもつジェンダーについての既成概念を記述してもらい、国内外統計データをジェンダーを切り口として考察する。雇用差別関連の裁判事例なども紹介する。また異文化におけるジェンダー関係を比較検討する。ビジネス・シーンにおけるジェンダー関係の問題点を紹介し、今後の展望を考える。

【評価方法】

履修態度、出席状況、期末レポート、報告内容などの総合評価による。

【テキスト】

特になし、随時資料配付

【参考文献・資料】

授業時に掲示する。

スキルマネジメント

浅井敬一郎

【授業の概要】

工学技術が進展するに伴ってスキルが企業の競争力として重要となっている。企業経営におけるスキルの意味を明らかにした上で、スキルの獲得、移転のプロセスについて論じる。

【授業計画】

- 第1回～2回 スキルの概念
- 第3回～5回 生産システムとスキル
 - ・テイラーシステム
 - ・フォードシステム
 - ・トヨタシステム
- 第6回～8回 日本的生産システムとスキル
- 第9回～10回 IT化によるスキルの変化
- 第11回～12回 新たな生産システム
- 第13回～14回 ポータブルスキル

【評価方法】

出席、講義での発表、レポートおよび定期試験によって評価する

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献・資料】

- ものづくりの技能（小池和男他著 東洋経済新報社）
- 日本のリーン生産システム（石田光男・藤村博之他著 中央経済社）
- 生産マネジメント入門Ⅰ・Ⅱ（藤本隆宏著 日本経済新聞社）
- セル生産システム（岩室宏著 日刊工業新聞社）

異文化コミュニケーション特論

霜田一敏

【授業の概要】

異なったライフ・スタイルや価値観を持った人々との共存が時代の要請であり、異質なものの、異文化的なものを知ることは自国文化の本質を知ることでもある。その意味からも、日本人の常識と社交性の特徴を取り上げ、究明するなかから外国人とのコミュニケーションを良くする方途を考えてみたい。

【授業計画】

文化背景を異にする諸外国の人々の行動を理解し、円滑なコミュニケーションが行えるような基礎的な知識を次のような項目についてテキストにもとづいて学ぶ。

1. 異文化間コミュニケーションの背景
2. 異文化間コミュニケーションの領域
3. 文化とコミュニケーション
4. 非言語コミュニケーション
5. 言語と文化的認識
6. 言葉の中のジグザクとハイド
7. カルチャー・ショック
8. より効果的なコミュニケーション
9. 異文化間コミュニケーションの教育と訓練

【評価方法】

毎回行うミニテストと順次行うレポートとその発表、問題提起と期末の定期テストで総合的に評価する。

【テキスト】

異文化コミュニケーション入門（鍋倉健悦著 丸善）

【参考文献・資料】

講義のなかで紹介する。

社会心理学

北折充隆

【授業の概要】

われわれの生活は、さまざまな集団や社会の中で営まれている。そうした集団や社会で発生するダイナミクスについて、社会心理学的理論をもとに解説し、個人と集団・社会の相互作用過程について考察する。

【授業計画】

社会心理学の諸知見から、具体例をふまえながら紹介する。社会心理学の諸知見を具体例をふまえながら紹介し、対人関係の形成や相互作用について解説する。本講では主に説得方略の観点を絡めて解説する。

【評価方法】

試験により評価する。持ち込みは不可。

【テキスト】

特に使用しないが、プリントを配布する。数回分を単元ごとに配布するので、トピック終了まで毎回持参すること。

【参考文献・資料】

プリント中に記述しておくので、内容に関心を持った場合、購入して読んでおくこと。

組織心理学

松浦均

【授業の概要】

組織の心理学について講義する。授業では、基本的な心理学の内容を踏まえた上で、できるだけ社会の中の現場で実証された理論や知見を紹介する。後半は組織や人間関係の問題と関連づけながらリスクの問題について考える。学生の皆さんには、社会の中の実際の組織をイメージし、また自分で図書雑誌やインターネットを通じて情報を収集するようお願いする。

【授業計画】

1. オリエンテーション 組織の問題に関するビデオ視聴。(第1週)
2. 「集団について」(第2週～第4週)
集団の意義と定義。人間関係と対人関係の定義。集合と集団の相違。集団の機能。公式集団と非公式集団。集団内コミュニケーション構造
3. 「組織について」(第5週～第7週)
組織の定義と概念。現代の組織の特徴。組織の原則。組織内コミュニケーションの特徴と問題点。成員の選別と組織社会化。組織行動の統制。組織の改革。硬直化現象と革新指向性。イノベーションとCI活動。
4. 集団に関する実験研究の紹介(第8週～第9週)
革新の過程：少数者が多数派に及ぼす影響。集団圧力、同調の過程。集団による課題解決、集団浅慮、リスクシフト等。
5. リスクの心理学(第10週～第13週)
リスクの定義、リスク受容行動。リスクのイメージ形成要因とイメージ構造。リスク認知におけるバイアス。リスクに関するマスコミ報道の特質。リスクと災害、緊急時の人間行動等。

【評価方法】

出席状況(30%)とレポート課題(70%)による

【テキスト】

適宜資料を配付する。

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

集団行動論

北折充隆

【授業の概要】

社会心理学における主要な理論・研究の中から、意思決定や課題遂行における集団内の影響過程、集団間の葛藤と協調、個人行動と集合行動の関連などの問題を取り上げて論じる。

【授業計画】

社会心理学の諸知見から、具体例をふまえながら紹介する。社会心理学の諸知見を具体例をふまえながら紹介し、対人関係の形成や相互作用について解説する。内容は進度に応じて調整する。

【評価方法】

試験により評価する。持ち込みは不可。

【テキスト】

特に使用しないが、プリントを配布する。数回分を単元ごとに配布するので、トピック終了まで毎回持参すること。

【参考文献・資料】

プリント中に記述しておくので、内容に関心を持った場合、購入して読んでおくこと。

マスコミュニケーション

遠藤雄久

【授業の概要】

マスコミュニケーションの機能、マスメディアの利用、マスの送り手と受け手、ジャーナリズムと世論などについて概説する。また、日本のテレビ放送の歩みをたどり、21世紀の映像メディアの将来像を考える。

【授業計画】

- 第1講 マスメディアの効果理論－弾丸効果理論
- 第2講 マスメディアの効果理論－限定効果理論
- 第3講 マスメディアの効果理論－強力効果理論(1)
- 第4講 マスメディアの効果理論－強力効果理論(2)
- 第5講 カルチュラル・スタディーズ(1)「エンコーディング」
- 第6講 カルチュラル・スタディーズ(2)「デコーディング」
- 第7講 テレビドラマの分析
- 第8講 テレビドラマの分析
- 第9講 新聞記事の内容分析
- 第10講 新聞記事の内容分析
- 第11講 メディアイベントの考察
- 第12講 メディアイベントの考察
- 第13講 まとめ

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合判断する

【テキスト】

使用せず

放送メディア論

大西 誠

【授業の概要】

マスメディアの中でもデジタル化の波で、厳しい対応を迫られているのが、放送メディアである。現代社会に欠かせない基幹メディアとしての放送の成立から放送現場の実態までをたどりながら、その機能や問題点を探り、現代社会との関わりを展望する。

【授業計画】

講義形式。

1. 放送のなりたちと歴史（電波メディアの発達）
2. 放送の公共性と制作体制（NHKと民放）
3. 放送とビジネス（広告媒体としての放送）
4. 放送と人権
5. 放送と災害
6. 放送と政治
7. 制作現場（1）ニュース/ワイドショー
8. 制作現場（2）ドラマ/ドキュメンタリー
9. 制作現場（3）バラエティ/教養
10. デジタル放送と放送のグローバル化 など
(内容については、変更になる場合がある)

日常のテレビ番組から何かを発見してほしい。授業中は私語厳禁。

【評価方法】

出席状況、小テストと学期末レポートなどによる。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

テレビの教科書（PHP）

消費者行動

大塚英揮

【授業の概要】

みなさんは日々『消費』活動を行っている。TSUTAYAでCDを買う、ユニクロで服を買う、スーパーで食材を買う、そんな普段の生活の中での何気ない1コマの中に、実は深い謎が隠されている。いろいろな商品がある中で人はなぜある特定ブランドの特定商品を選択するのだろうか？一見『ランダム』に見える消費者の買い物行動の背後に、何らかの『規則性』が隠れているのだろうか？この講義はこのような何気ない疑問から出発し、消費者行動に関する理論研究の成果を『おいしいところ』だけ紹介していきます。

【授業計画】

1. 消費者行動論のオーバービュー
2. 新古典派における消費者像
3. 『経済人』的消費者からの脱却
4. コミュニケーションとしての消費
5. 準拠集団と消費者行動
6. 消費者の情報処理プロセス
7. 消費者の学習
8. 消費者の態度
9. 動機付けとパーソナリティ
10. 消費者の購買決定プロセス
11. 新製品の採用と普及
12. 価格意識と価格決定
13. 広告効果分析
14. 復習テスト
15. まとめ

【評価方法】

毎回の小テスト（50%）と期末テスト（50%）の合計で評価します。受講人数によっては、グループに分けての作業も行うことがあります。通常点の評価に占めるウェイトも高いため、休みがちな人にはおすすめできません。

【テキスト】

テキストは使用しない。プリントを毎回配布します。

【参考文献・資料】

参考文献は授業中に随時指示します。

現代マーケティング論

大塚英揮

【授業の概要】

『移り気な消費者が求めるものをいかに見出し、いかに売り込むか。』マーケティング戦略の究極の目標はまさにこの一点にある。激しい販売競争を勝ち抜くために、マーケティング戦略の成功には不可欠であり、そのためには消費者の需要、ライバルとの競争関係といった環境要因を分析し、適切な意思決定を行う能力が求められる。本講義では、先ず現実の企業が行っているマーケティング戦略を紹介し、マーケティングの面白さとは何かについて学習する。そしてケースを随時交えながらマーケティングの「基本的知識」を学習する。

【授業計画】

1. マーケティングとは何か
2. 買い物行動を振り返る（1）
3. 買い物行動を振り返る（2）
4. CMについて考える（1）
5. CMについて考える（2）
6. モノの値段について考える（1）
7. モノの値段について考える（2）
8. 売り場をめぐる闘い（1）
9. 売り場をめぐる闘い（2）
10. 新しい製品を「創る」（1）
11. 新しい製品を「創る」（2）
12. ブランドを「創る」
13. ブランドを「守る」
14. マーケティングミックス—最適な組み合わせを探せ
15. マーケティング戦略—ケース分析

【評価方法】

毎回の小テスト（30%）と期末テスト（70%）の合計で評価します。小テスト以外の出席点はありませんが、連続物の講義なので、休まないで出席してください。

【テキスト】

使用しません。毎回プリントを配布します。

【参考文献・資料】

わかりやすいマーケティング戦略（沼上幹 有斐閣アルマ 1800円）
日経マーケティングジャーナル（旧流通新聞）を時々読んでみることもおすすめです。

Communication Strategies I

JOLLY, James A.

【Course Content】

議論やディベートについて基本的な概念を学びながら、その際の主張や証拠、論理の組立てについて分析し、話し合う。

This course is aimed at providing students with training and practice in English, as used in international business communication, through review of basic English grammar with practical application in model conversations in social and business situations. Lesson topics and content will also provide students with opportunities for expanding their functional vocabularies and to gain confidence in expressing themselves. Textbook drills will be supplemented with additional materials and activities to facilitate and enhance conversational skills.

【Schedule】

Basically class sessions will cover one unit of the textbook each week. A schedule of class dates and assignments will be provided at the second class meeting. There will be three or four homework assignments related to special lesson topics and two short quizzes will be given during the class term. A final examination over the whole course will be given after the final lesson.

【Assessment】

The students will be graded on their performance in (1) attendance and class participation, (2) homework assignments, (3) quizzes and (4) final examination. Active participation in class will be valued highly.

【Textbooks】

The textbook for this course will be announced during the first class. Additionally each student is expected to have her or his own personal English / Japanese dictionary to be used for study, during class sessions, for homework and during quizzes or the final examination.

Communication Strategies II

JOLLY, James A.

【Course Content】

議論やディベートについての様々な概念を考察しながら、実際に自分の主張を発表し、その主張を証拠や論拠をあげて反論から守る訓練をする。

The aim of this course is to provide students with continued review and practice of English as used in international business communication. Class assignments will include written work in addition to conversation practices. Lesson topics and content are designed to provide students with opportunities for expanding their functional vocabulary and to better express themselves in varied business situations. Special handout supplementary materials will be used with the textbook drills to provide broader experience.

【Schedule】

Basically class sessions will cover one unit of the textbook each week. A schedule of class dates and assignments will be provided at the second class meeting. There will be three or four homework assignments related to special lesson topics and two short quizzes will be given during the class term. A final examination over the whole course will be given after the final lesson.

【Assessment】

The students will be graded on their performance in (1) attendance and class participation, (2) homework assignments, (3) quizzes and (4) final examination. Active participation in class will be valued highly.

【Textbooks】

The textbook for this course will be announced at the first class meeting. Additionally each student is expected to have her or his own personal English / Japanese dictionary to be used for study, during class sessions, for homework and during quizzes or the final examination.

Communication Strategies IV

JOLLY, James A.

【Course Content】

議論やディベートにおける相互作用という側面に焦点をあてながら、実際にディベートを準備してクラスで行い、ディベートのもつ様々な要素について考察を加える。

The lessons and activities of this course are aimed at retrieving, summarizing and presenting information and data on international business topics. Students will be encouraged to use their communications skills in dealing with problems they may encounter in the international trade and business affairs, using English language as the common mode of communication.

【Schedule】

Training topics to be covered include:

- 1) Information resources - where and how to get information;
- 2) Information summarization - evaluating and arranging information;
- 3) Report presentation - supplying data for management decisions; and
- 4) Persuading and defending - advocating your ideas and views.

A schedule of class dates and assignments will be provided at the second class session. In addition to the presented in-class instruction and sharing of students' findings, students will be assigned to a team course project which will be practical application of the lessons of the course.

【Assessment】

The students will be graded approximately one-half on their class attendance and participation and one-half on the quality of their work on the team course project. No quiz or test will be given. Active participation in class and the team's work will be highly valued.

【Textbooks】

No textbook will be used in this course, and supplementary materials related to lesson topics may be provided as necessary. However, each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary (book or electronic machine).

Communication Strategies III

JOLLY, James A.

【Course Content】

主張や証拠、理論の組み立てを論破する様々な方法を学びながら、議論やディベートへの対応について考察する。

This course will concentrate on studying international sources of business information for use in typical international business operations of most companies. Class assignments and activities will include practice in gathering and summarizing data from such sources. Continued instruction and practice in English communication skills, particularly reading and writing, will be provided as necessary to meet students' needs. Continued vocabulary expansion in business, technical and legal terminology will also be emphasized.

【Schedule】

Topics to be covered in one or more class sessions include:

- 1) Assessing information needs and setting the scope of investigation;
- 2) Determining the best source of information - libraries, data banks, specialized research organizations, investigative services, internet search engines, etc.; and
- 3) Assembling acquired data for summarization and presentation.

A schedule of class dates and assignments will be provided at the second class session.

【Assessment】

Each student's grade for the course will be assessed based upon his or her performance in class attendance, home assignments, quizzes, and a course final examination or term project. Active participation in class sessions will be highly valued.

【Textbooks】

The textbook and resource materials will be announced during the first class. Each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary (book or electronic machine).

ビジネス英語

蜂須賀幸志

【授業の概要】

21世紀、いかにインターネット上の取り引きが主流であっても、ビジネス界で使われる公式社外用ビジネスレターの作成並びに社内報メモランダム作成能力の修得は不可欠である。このコースはこうした実践的ビジネス英語の能力養成をゴールとする。

【授業計画】

1. 導入：交渉に役立つビジネス英語の特徴
2. ビジネス会議における人々との交流
3. 電話の応答 (1) (VIDEO使用)
4. 電話の応答 (2)
5. アポイントメントの取り方
6. プレゼンテーション (1) 企業紹介 (小テスト)
7. プレゼンテーション (2)
8. 製品と販売
9. 企業の方針、決定についての討論
10. 苦情処理
11. 社内メモランダム作成
12. 社外公式レター作成練習
13. 試験

【評価方法】

出席状況、小テスト、プレゼンテーション、課題、クラスにたいする貢献等による総合評価

【テキスト】

テキストとしては使用しない。

【参考文献・資料】

テープ、ビデオ等視聴覚教材

ビジネス英語

CALANTAS, Teresita

【授業の概要】

The aim of this course is to give students ample opportunities to learn skills both in speaking and in writing in order to communicate in common business situations. The course will cover topics such as socializing, business communications, company structures, job and product descriptions, reporting and presentation of facts and figures, meetings and negotiations. Students are expected to do homework, research, come to class prepared and participate in group activities. At the end of the course students will be evaluated based on their performance during the course, plus a final examination or report. Textbook will be decided later.

【授業計画】

Topics to be covered:

1. Self introduction and socializing
2. Company structures
3. Job description
4. Product description
5. Memos and Business Letters
6. CV and Cover Letter
7. Meetings and Negotiations

【評価方法】

60% Class Participation, Homework Assignments, Effort in Speaking English

40% Final Written Test and Job Interview or Written Report and Oral Presentation

【テキスト】

Textbook will be announced at the beginning of the course.

【参考文献・資料】

Will be announced at the beginning of the course.

基礎演習 I

國信潤子

【授業の概要】

それぞれの関心分野を学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

キーワードは「労働における国際基準」である。このテーマに沿って基礎資料を読む。例えば国連人権規約、ILOの各種条約、などをもとに、ジェンダー論、女性学、男性学、雇用機会均等法、持続可能な社会開発、などを切り口に、基礎資料、研究論文、統計データなどを読み解いてゆく。英文資料を含む。

学生各自が自分の問題意識にそって、資料、データなどをリサーチし、レジュメ作成の上、報告する。講義形式と学生による報告と両方を並行し、討論なども含めて、ゼミ形式で進める。主体的、積極的に問題意識を発言し、各自のテーマにそって、調査を主体的に進めること。期末レポート提出が義務である。

【評価方法】

ゼミでの報告内容、討論への貢献、履修態度、リサーチ方法、期末レポートなどの総合評価。

【テキスト】

随時資料配付、参考文献を掲示する。

【参考文献・資料】

随時資料配付、参考文献を掲示する。

基礎演習 I

藤井正志

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

第1講～第12講 演習の受講者が、経済金融の基礎知識を修得することを目的とする。テキストを使用し、受講者が交代で自分の担当部分について報告し、質疑応答により進める。

【評価方法】

出席状況と演習への取り組み姿勢等から総合的に評価する。

【テキスト】

基礎からわかるマクロ経済学（家森信善著 中央経済社）を使用する。

基礎演習 I

森下允之

【授業の概要】

NHK海外放送、CNN、NBC、BBCなどのニュースを通して国内、海外の出来事を英語で把握する。

【授業計画】

毎月、事前に特定の番組を留守録画します。これを学生は必ず事前にマルチ・リソース・センターで視聴し、理解につとめる。ゼミでは理解できない箇所をお互いに教え、反復練習をする。

【評価方法】

出席状況と演習への姿勢を総合的に評価する。

基礎演習 I

霜田一敏

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

学生の問題意識によって授業計画は異なってくるが大凡次のような計画で行う。

1. 現在の起こっている社会的な諸問題
 - (1) 異なった宗教観を背景としたテロ事件と経済
 - (2) 教師をめぐる犯罪について
 - (3) キャンパス内でのジェンダー問題
 - (4) いじめをめぐる問題
 - (5) 世代間異文化問題—親と子の考え方のズレ
 - (6) 商取り引き上のコミュニケーションそれぞれの問題について学生が提案し相互に討論を行う。
2. 自分史の作成

成人を契機に今まで生きてきた足跡をたどり、自己を振り返り、新たな生き方を模索する。

自らの生き方に則した問題意識の発掘と問題追究計画の作成を行う。

【評価方法】

各人のレポートと発表、討論への態度、テーマごとに提出するミニ論文によって評価する。

【テキスト】

使用しない。その都度プリント資料を配布する。

【参考文献・資料】

講義のなかで紹介する。

基礎演習 I

梅田敏文

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンスとプレゼンテーション概要
- 第2講 パワーポイントの構成と基本機能
- 第3講 プレゼンテーションシナリオの作成
- 第4講 プレゼンテーション資料の作成 (1)
- 第5講 プレゼンテーション資料の作成 (2)
- 第6講 プレゼンテーション資料の作成 (3)
- 第7講 プレゼンテーション資料の作成 (4)
- 第8講 発表 (1)
- 第9講 発表 (2)
- 第10講 発表 (3)
- 第11講 まとめ (1)
- 第12講 まとめ (2)

【評価方法】

作成されたプレゼンテーション資料、発表内容を、総合的に評価する。

【テキスト】

創造するプレゼンテーション (梅田敏文著 弘学出版)

基礎演習 I

杉本典之

【授業の概要】

複式簿記の機構に支えられた企業会計について学生自身が主体的かつ自発的に学習することを主眼とするが、そのような学習がどのようなものであるかについて演習形式の授業を通じて体験する。

【授業計画】

この基礎演習 I の共通テーマは、ビジネス社会の「国際語」である「複式簿記の機構に支えられた企業会計」を学んで、考えよう、ということである。このような共通テーマに接近するために、さしあたり下記のテキストを教材にして、発表の仕方や討論の仕方等を実践にそくして学習する。学生各人の問題意識が芽生えつつ発展するにしたがって、各人のテーマにもとづいた発表と討論とを積み重ねる。

【評価方法】

演習形式のこの授業では、講義形式の多くの授業とは異なり、学生の皆さんが主役である。各人の主体的・能動的・積極的な行動が授業を活性化させる。よって皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

【テキスト】

レポートの組み立て方 (木下是雄著 ちくま学芸文庫)

【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようになりたい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

基礎演習 I

真田幸光

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

学生各自テーマを選び事業を創設していくということを仮定して情報収集、分析を行い、事業企画書を立案する。教員はこれに対する個別アドバイスを実施する。

【評価方法】

立案した事業企画書とゼミ活動姿勢による。

【テキスト】

無し。

基礎演習 I

浅井敬一郎

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心をひきだしていく。

【授業計画】

- (1) 新聞の経済記事を読む上で最低限必要とされる経済の仕組みについて学ぶ。入本的なテキストを輪読する。レポーターが指定されたテキストおよび資料の担当箇所をレジメにまとめ、報告し、質疑応答を行う。
- (2) 適宜、新聞記事をグループごとにまとめ、発表する。
ゼミでのディスカッションを通じて、他のひとの意見を聞き、自分の意見との相違点・共通点について考える理解力を養う。さらに、その意見についての前提、事実認識、論理構成について批判的検討を可能にする洞察力を習得する。
- (3) 3年生と合同でマネジメントゲームを行う
- (4) テキストとは別に適宜、課題図書を指定し、レポートを提出する

【評価方法】

演習での報告、討論の状況、レポートにより評価する。必要に応じ小テストを行う。

無断欠席をした場合は単位を認定しない。

【テキスト】

適宜指定する

【参考文献・資料】

適宜紹介する

基礎演習 I

浅野敬志

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

下記教科書を使用して、ディベートの技法、考える技術・書く技術、プレゼンテーションの技法などを習得する。

【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

【テキスト】

使用しない。その都度、資料を配布する。

【参考文献・資料】

考える技術・書く技術 (バーバラ・ミント著 ダイアモンド社)
頭を鍛えるディベート入門 (松本茂著 ブルーバックス)

基礎演習 I

石川雅之

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

学生による発表と講義をおりまぜながら行う。

【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

演習の最初に指示する。

基礎演習 I

石坂綾子

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済、通貨・金融分野でのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

【評価方法】

出席状況・演習での報告によって総合的に評価する。

【テキスト】

第1回目の演習において指示する。

【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

基礎演習 I

島田 舒一

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

- 第1～2回 証券、証券市場などの基礎的分野、証券業務と証券ビジネスなどの中からテーマを選択し、問題のとり上げ方、まとめ方について方向づけを行う。
- 第3～6回 テーマごとの発表とディスカッションを通じて問題をクリアにし理解を深める。
- 第7回 修正したレポートの発表とディスカッションおよびまとめ
- 第8回 関心あるテーマを選択し、問題のとり上げ方とまとめ方について方向づけを行う。
- 第9～11回 テーマごとの発表とディスカッション。同時に、レポート修正の方向づけを行う。
- 第12回 修正したレポートの発表とディスカッションおよびまとめ

【評価方法】

出席状況、課題のまとめ方、理解度などによって評価する。

【参考文献・資料】

証券ビジネスの基礎知識（島田舒一著 中部日本教育文化会）
証券経営の新ビジネスモデル（財団法人 資本市場研究会編 清文社）
現代日本の証券市場（財団法人 日本証券経済研究所編集・発行）

基礎演習 I

森 恒夫

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

簿記には原理原則を頭で理解しただけではどうにもならない、身体で覚えて初めて使いものになるという、スキルの要素が多分にある。自分でやってみて体得することが何より大切であるから、練習を重ねると共に理論的背景及び財務諸表論もあわせて学ぶ。

次の順に個別論点の理解を深める。

- (1) 現金・預金
- (2) 商品売買
- (3) 債権・債務
- (4) 手形
- (5) 有価証券
- (6) 固定資産

【評価方法】

出席状況・平常点及びレポートにより評価。

【参考文献・資料】

体系簿記論（飯野利夫監修 税務経理協会）

基礎演習 I

前川三喜男

【授業の概要】

将来、公認会計士、税理士等の会計職業専門家を目指し、その基礎となる簿記・会計の知識を習得する。

【授業計画】

- 第1回 自己紹介、ゼミの年間計画とすすめ方
- 第2～13回 中級簿記演習、毎回テーマを決め企業会計の実務で使用されている会計処理の実例を演習するとともに、その基礎となっている会計原則を理解する。

【評価方法】

出席状況、課題に対する研究発表などを考慮して行なう。

【テキスト】

授業中に指示する。

基礎演習 I

石橋善弘

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

日常生活にかかわる数学的な問題について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

基礎演習 I

上原 衛

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

情報をいかに経営に活用していくべきかについて、学生と対話しながら検討していく。また、システムリスク管理、ビジネス、コーポレートファイナンス、デリバティブ等についても、適宜討議に取り入れていく。その過程で情報の収集・分析を行うが、分析力と問題解決力の基礎となる統計手法について、Excelを利用しながら指導する。

【評価方法】

各人の討議への積極的参加度、発表の内容等を総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に別途指示・紹介する。

基礎演習 I

伊東俊彦

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

企業においてビジネス活動を支援する道具としての情報技術 (IT) の勉強を枠組みとして、参考書やビデオによる学習および、ITとビジネスの基本用語を調査・発表する練習を積んでいく。授業の補完として電子メールを積極的に活用するのでメールに慣れることも必要である。

〈前半〉

参考書とビデオによる学習と内容のディスカッション

〈後半〉

ITとビジネス関連の基本用語を調査しレポートを作成する

〈学外教育〉

夏休みにゼミ合宿を実施する

【評価方法】

出席点、ゼミへの貢献および発表内容により評価する。

【テキスト】

テキストは適宜指示する。

【参考文献・資料】

参考文献は適宜指示する。

基礎演習 I

小池弘道

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

個人として必要な能力の習得をめざして、下記のような内容について、実際の演習を行う

ディベート訓練

パブリックスピーキング

プレゼンテーション

インタビューの仕方、され方

QC管理と手法

方針管理とPDCA

現地現物主義

実践的問題解決

【評価方法】

演習への取り組み姿勢、レポート、出席を総合して評価する。

【テキスト】

授業の中で、適宜指示する。

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

基礎演習 II

藤井正志

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

第1講～第12講 エクセルを使って現実の経済金融のデータ分析を行い、経済金融に関する理解を深める。

【評価方法】

出席状況と演習への取り組み姿勢等から総合的に評価する。

【テキスト】

適宜紹介する。

基礎演習Ⅱ

國信潤子

【授業の概要】

それぞれの関心分野を学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。領域としては産業社会学である。学外学習、海外研修なども含める。

【授業計画】

前期に引き続いて、キーワードとしてジェンダー、産業社会学、雇用機会均等法、持続可能な社会開発、開発途上国などを切り口に、基礎資料、国連文書、研究論文、統計データなどを読み解いてゆく。英文資料を含む。

学生各自が自分の問題意識にそって、資料、データなどをリサーチし、レジュメ作成の上、報告する。講義形式と学生による報告の両方を並行し、討論なども含めて、ゼミ形式で進める。主体的、積極的に問題意識を発言し、各自のテーマにそって、調査を主体的に進めることが期待されている。

前期に引き続いて、学生各自の問題意識にそったテーマでの調査、研究を継続する。国内外での研修もあり、ゲストスピーカー等も招く。期末レポート作成、提出が義務である。

【評価方法】

受講態度、講義理解度、個人発表内容、討議参加度など総合評価である。

【テキスト】

随時資料配付、参考文献を提示する。

【参考文献・資料】

随時資料配付、参考文献を提示する。

基礎演習Ⅱ

森下允之

【授業の概要】

NHK海外放送、CNN、NBC、BBCなどのニュースを通して国内、海外の出来事を英語で把握する。

【授業計画】

毎月、事前に特定の番組を留守録画します。これを学生は必ず事前にマルチ・リソース・センターで視聴し、理解につとめる。ゼミでは理解できない箇所をお互いに教え、反復練習をする。

【評価方法】

出席状況と演習への姿勢を総合的に評価する。

基礎演習Ⅱ

霜田一敏

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

学生の問題意識によって授業計画は異なってくるが大凡次のような計画で行う。

1. 現在の起こっている社会的な諸問題
 - (1) 異なった宗教観を背景としたテロ事件と経済
 - (2) 教師をめぐる犯罪について
 - (3) キャンパス内でのジェンダー問題
 - (4) いじめをめぐる問題
 - (5) 世代間異文化問題—親と子の考え方のズレ
 - (6) 商取り引き上のコミュニケーションそれぞれの問題について学生が提案し相互に討論を行う。

2. 自分史の作成

成人を契機に今まで生きてきた足跡をたどり、自己を振り返り、新たな生き方を模索する。

自らの生き方に則した問題意識の発掘と問題追究計画の作成を行う。

【評価方法】

各人のレポートと発表、討論への態度、テーマごとに提出するミニ論文によって評価する。

【テキスト】

使用しない。その都度プリント資料を配布する。

【参考文献・資料】

講義のなかで紹介する。

基礎演習Ⅱ

梅田敏文

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

- 第1講 当コースのねらい
- 第2講 会社の機能(1)
- 第3講 会社の機能(2)
- 第4講 ケーススタディの説明
- 第5講 チーム別作業(1)
- 第6講 チーム別作業(2)
- 第7講 チーム別作業(3)
- 第8講 チーム別発表(1)
- 第9講 チーム別発表(2)
- 第10講 チーム別発表(3)
- 第11講 チーム別発表(4)
- 第12講 チーム別発表(5)
- 第13講 まとめ

【評価方法】

作成されたプレゼンテーション資料、発表内容を、総合的に評価する。

【テキスト】

創造するプレゼンテーション(梅田敏文著 弘学出版)

基礎演習Ⅱ

杉本典之

【授業の概要】

複式簿記の機構に支えられた企業会計について、学生自身が主体的かつ自発的に学習する。

【授業計画】

この基礎演習Ⅱの共通テーマも、基礎演習Ⅰのそれと同じく、ビジネス社会の「国際語」である「複式簿記の機構に支えられた企業会計」を学んで、考えよう、ということである。

基礎演習Ⅰの成果として学生各人が自覚するようになった問題意識を、さらに明確化させかつ発展させる。そして、そのような各人のテーマにもとづいた発表と討論とを積み重ねる。

【評価方法】

この基礎演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

【テキスト】

相談して決める。

【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

基礎演習Ⅱ

真田幸光

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

前期に作成した事業計画書をそれぞれが発表、当該企画の実現性をゼミ参加者全員で議論・考察していく。

【評価方法】

発表内容・議論参加内容による。

【テキスト】

無し

基礎演習Ⅱ

浅井敬一郎

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心をひきだしていく。

【授業計画】

- (1) 経営学の入本的なテキストを輪読する。レポーターが指定されたテキストおよび資料の担当箇所をレジメにまとめ、報告し、質疑応答を行う。
- (2) 適宜、新聞記事をグループごとにまとめ、発表する。
ゼミでのディスカッションを通じて、他のひとの意見を聞き、自分の意見との相違点・共通点について考える理解力を養う。さらに、その意見についての前提、事実 認識、論理構成について批判的検討を可能にする洞察力を習得する。
- (3) 3年生と合同でマネジメントゲームを行う
- (4) テキストとは別に適宜、課題図書を指定し、レポートを提出する

【評価方法】

演習での報告、討論の状況、レポートにより評価する。必要に応じ小テストを行う。

無断欠席をした場合は単位を認定しない。

【テキスト】

適宜指定する

【参考文献・資料】

適宜紹介する

基礎演習Ⅱ

石川雅之

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

学生による発表と講義をおりまぜながら行う。

【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

演習の最初に指示する。

基礎演習Ⅱ

浅野敬志

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

下記教科書を使用して、実践的な会計について学ぶ。具体的には、歴史的に「会計」という存在が「株式会社」という存在に対して果たしてきた機能を十分に理解したうえで、「会計」の発想を駆使して会社経営を戦略的に考えていく。

【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

【テキスト】

会計戦略の発想法（木村剛著 日本実業出版社）

基礎演習Ⅱ

石坂綾子

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済、通貨・金融分野でのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

【評価方法】

出席状況・演習での報告によって総合的に評価する。

【テキスト】

第1回目の演習において指示する。

【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

基礎演習Ⅱ

島田舒一

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

- 第1～2回 証券会社の経営、証券市場の国際化、金融・証券の新ビジネスなどの中からテーマを選択し、問題のとり上げ方、まとめ方について方向づけを行う。
- 第3～6回 テーマごとの発表とディスカッションを通じて問題をクリアーにし理解を深める。
- 第7回 修正したレポートの発表とディスカッションおよびまとめ。
- 第8回 関心あるテーマを選択し、問題のとり上げ方とまとめ方について方向づけを行う。
- 第9～11回 テーマごとの発表とディスカッション。同時に、レポート修正の方向づけを行う。
- 第12回 修正したレポートの発表とディスカッションおよびまとめ。

【評価方法】

出席状況、課題のまとめ方、理解度などによって評価する。

【参考文献・資料】

証券経営の新ビジネスモデル（財団法人 資本市場研究会編 清文社）
現代日本の証券市場（財団法人 日本証券経済研究所編集、発行）
証券経営のフロンティア（財団法人 資本市場研究会編 清文社）

基礎演習Ⅱ

森 恒夫

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

1. 前期に引き続き個別論点の理解を深める。
 - (1) 繰延勘定
 - (2) 資本
 - (3) 費用・収益
2. 決算の簿記をマスターして、諸会計法規に準拠した財務諸表の作成を学ぶ。

【評価方法】

出席状況・平常点及びレポートにより評価。

【参考文献・資料】

体系簿記論（飯野利夫監修 税務経理協会）

基礎演習Ⅱ

前川三喜男

【授業の概要】

将来、公認会計士、税理士等の会計職業専門家を目指し、その基礎となる簿記・会計の知識を習得する。

【授業計画】

第1回～第6回 中・上級簿記演習（商業簿記）
第7回～第13回 中級簿記演習（工業簿記）

毎回テーマを決め企業会計の実務で使用されている会計処理の実例を演習するとともに、その基礎となっている会計原則を理解する。

【評価方法】

出席状況、課題に対する研究発表などを考慮して行なう。

【テキスト】

授業中に指示する。

基礎演習Ⅱ

上原 衛

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

前期と同様、情報をいかに経営に活用していくべきかについて検討し、システムリスク管理、ビジネス、コーポレートファイナンス、デリバティブ等についても、適宜討議に取り入れ、学生と対話しながら検討していく。後期は、各自が自分で選択したテーマについて、データを収集し、調査した上で、分析結果を発表する。各自の発表を基に全員で討議し、考察する。

【評価方法】

各人の討議への積極的参加度、発表の内容等を総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に別途指示・紹介する。

基礎演習Ⅱ

石橋善弘

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

日常生活にかかわる数学的な問題について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により、総合的に評価する。

【テキスト】

未定

基礎演習Ⅱ

伊東俊彦

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

企業においてビジネス活動を支援する道具としての情報技術（IT）の勉強を枠組みとして、前期に続けてITとビジネス関連の基本用語を調査・発表する練習を積んでいく。

後半は各自がIT関連のレポートを作成して発表していただく。

〈前半〉

ITと経営関連の基本用語の調査と発表

〈後半〉

IT関連のレポート作成と発表

〈最終〉

最終レポートの作成と発表会

【評価方法】

出席点、ゼミへの貢献および発表内容により評価する。

【テキスト】

テキストは適宜指示する。

【参考文献・資料】

各自の勉強内容に応じて適宜指示する。

基礎演習Ⅱ

小池弘道

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

ビジネスにおける専門知識習得のため、下記のような内容について演習を行う

- 1) 法律
労働法（差別問題・セクハラを含む）、商法、税法、独禁法
- 2) 経理・財務
財務諸表の見方、財務分析、企業会計原則、グローバルスタンダード
- 3) 品質
基本的考え方、QC手法、ISO
- 4) コーポレートガバナンス
- 5) 環境問題

【評価方法】

演習への取り組み姿勢、レポート、出席を総合して評価する。

【テキスト】

授業の中で、適宜指示する。

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

専門演習Ⅰ

藤井正志

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

エクセルを使って現実の経済金融のデータ分析を行い、経済金融に関する理解を深める。

【評価方法】

出席状況、演習への取組姿勢等から総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

専門演習Ⅰ

國信潤子

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導はゼミとともに論文指導時間に詳細に指導する。領域は基礎演習と連動している。労働、家族、雇用平等、国際協力などがキーワードである。学生各自が自分の問題関心をほりおこし、文献・資料・情報を多様なメディアから収集する。国内外学習、海外研修なども実施する。各自の報告によってすすめる。共同調査等もとり入れる。

【授業計画】

学生各自の問題意識にそったテーマを決定し、主体的にリサーチ、発表をする。リサーチ方法、発表方法は随時指導する。また講義を折り込み、基礎情報や最新情報を紹介する。小論文執筆、英文講読を行なう。

【評価方法】

授業出席状況、履修態度、感想カード内容、期末レポートなどの総合評価による

【テキスト】

授業時に提示する。

【参考文献・資料】

また随時資料配布する。

専門演習Ⅰ

森下允之

【授業の概要】

世界の国、地域の政治・経済状況を調べ、ビジネスの可能性を探る。そのための専門知識を対話形式で論ずる。

【授業計画】

教師の指導のもと学生が選択した国について政治・経済状況、企業進出を中心に学生が調べ、発表する。

【評価方法】

出席状況と演習への姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

国に応じ演習中に指示する。

専門演習 I

霜田一敏

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

基礎演習で明確になった各人の研究テーマをどのように展開するか、その計画を相互に検討して明確にしていく。

1. 問題意識の具体化
2. 研究計画の作成
3. 資料収集の方法
4. 参考文献の収集と理解
5. 調査方法の検討
6. 論文作成の書き方

などを一人一人に則して具体的に検討する。

【評価方法】

各人のレポートと発表、討論への態度、最後の提出する論文によって評価する。

【テキスト】

使用しない。その都度プリント資料を配布する。

【参考文献・資料】

講義のなかで紹介する。

専門演習 I

杉本典之

【授業の概要】

複式簿記の機構に支えられた企業会計について学生自身が主体的かつ自発的に学習した成果を論文にまとめ、卒業論文に発展させるための準備を試みる。

【授業計画】

この専門演習 I の共通テーマは、企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学習と卒業論文の準備、である。

基礎演習 I と II の成果として学生各人が自覚するようになった問題意識を明確化・発展させ、各人のテーマにもとづいた発表と討論とを積み重ねる。これらの作業を通じて、卒業論文のテーマを模索する。

【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

【テキスト】

相談して決める。

【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

専門演習 I

梅田敏文

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 インターネットを活用した情報収集と情報発信
- 第3講 HTMLの機能 (1)
- 第4講 HTMLの機能 (2)
- 第5講 HTMLの機能 (3)
- 第6講 ホームページの作成 (1)
- 第7講 ホームページの作成 (2)
- 第8講 ホームページの作成 (3)
- 第9講 ホームページの発表と評価 (1)
- 第10講 ホームページの発表と評価 (2)
- 第11講 ホームページの発表と評価 (3)
- 第12講 まとめ

【評価方法】

作成されたホームページ、そのプレゼンテーション、発表内容、態度などを統合的に評価する。

【テキスト】

最初に全体のプリントを配布する。
授業の途中に、適宜、資料を配布する。

専門演習 I

真田幸光

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

東アジア経済の現状を分析、その上で日本と東アジア経済の関わり合いを考案する。

その後、各ゼミ生が特定地域を分析し日本との関係について考察する。

【評価方法】

演習に対する取組姿勢と分析・考察レポートによる。

【テキスト】

無し

専門演習 I

浅井敬一郎

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

- (1) 経営戦略、人事労務、国際経営など、経営の基礎について企業のケースを交えながら考察する
- (2) 共同レポートを作成し、適宜発表する
- (3) マネジメントゲームを2年生と合同で行う

【評価方法】

演習での報告、討論の状況、レポートにより評価する。
無断欠席をした場合は単位を認定しない。

【テキスト】

適宜指定する

【参考文献・資料】

適宜紹介する

専門演習 I

石川雅之

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

学生による発表を中心に行う。

【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

演習の最初に指示する。

専門演習 I

浅野敬志

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

バーチャル株式投資をしながら、会計、ファイナンス、経済学、経営学などを幅広く学習し、企業・景気・その時々トピックなどを深く分析・議論する。また、同時に、様々な手法を用いて、実際に企業を深く分析する。

【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

【テキスト】

企業分析シナリオ (西山茂著 東洋経済新報社)

【参考文献・資料】

ゼミナール現代会計入門 (伊藤邦雄著 日本経済新聞社)
すぐわかる株式投資2002年度版 (日本経済新聞社編著 日本経済新聞社)
ビジネス・アカウンティング—MBAの会計管理—
(山根節著 中央経済社)

専門演習 I

石坂綾子

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨・貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

【評価方法】

出席状況・演習での報告・レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

第1回目の演習において指示する。

【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

専門演習 I

島田 舒一

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

- 第1～6回 資金運用と投資戦略などを中心に、いくつかの課題を取り上げ、理論とビジネスの両面から研究し、その報告をもとに討論を行う。
- 第7～12回 資金調達とファイナンスを中心とする諸問題について、理論に加え、実務的な取り扱いを含め研究し、討論を通じて理解を深める。

なお、上の学習と並行して、その時々のマーケットの動きを取り上げ、現実的な感覚と対応の仕方についても習熟させる。

【評価方法】

出席状況、課題に対する取組み姿勢、報告内容によって評価する。

【参考文献・資料】

- 証券投資論（日本証券アナリスト協会編 日本経済新聞社）
現代ファイナンス入門（現代ファイナンス講座Ⅰ 中央経済社）

専門演習 I

森 恒夫

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

我々の経済生活の中で会計学は欠くべからざる存在であり、会計学なくして企業は成立し得ない。基礎演習では、財務諸表の作成を中心に学んできたが、専門演習では、一部作成とその利用に主軸を移す。

「主な予定」

- (1) 工業簿記演習
- (2) 管理会計
- (3) 監査の概要
- (4) 会計に関するNEWSについて討論

【評価方法】

出席状況、平常点により評価

【テキスト】

演習時に指示

専門演習 I

前川 三喜男

【授業の概要】

将来、公認会計士、税理士等の会計職業専門家を目指し、その基礎となる会計知識を高めるとともに、新しい会計基準を理解する。

【授業計画】

- 新会計基準のしくみを理解させる
連結財務諸表原則の理解、実務指針の演習
税効果会計
キャッシュフロー計算書

【評価方法】

授業への出席状況と発表の仕方・内容で評価

【テキスト】

監査小六法

専門演習 I

石橋 善弘

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

日常生活にかかわる数学的な問題（特にビジネス、経済に関する問題）について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により、総合的に評価する。

専門演習 I

上原 衛

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

学生の理解度を考慮しつつ、以下の項目について講義を進め、全員で討議していく。同時に、情報の収集・分析・問題解決の基礎となる統計処理について理解を深めていく。

1. 情報社会について
2. 情報システムとデータの重要性
3. 情報のチャネルコンフリクト
4. 情報システムを利用した効率性（職場内コンピューティング）
5. リスク管理の高度化
6. コンピュータ・シミュレーション
7. デリバティブ、コーポレートファイナンス
8. 情報処理と分析の重要性
9. プレゼンテーション、表現力の重要性

【評価方法】

各人の討議への積極的参加度、発表の内容等を総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に別途指示・紹介する。

専門演習 I

小池弘道

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

基礎演習 I、IIでの学習内容を踏まえ、国内及び国際社会で必要な、人事労務管理、効率化の進め方、問題解決手法などの能力・知識を深める学習をするとともに、国際社会での仕事の進め方について取り組んでいく。

【評価方法】

出席状況、演習への取り組み姿勢、報告・レポート内容などを総合して評価する。

【参考文献・資料】

演習の中で、適宜紹介する

専門演習 I

伊東俊彦

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

企業においてビジネス活動を支援する道具としての情報技術（IT）の研究を枠組みとして、各自が希望するテーマを研究していただく。研究は原則として前期・後期を通して行う。ゼミ全体の大テーマは「ビジネスにおける情報技術の活用」である。

テーマとしてはたとえば、「e-ビジネス」「電子商取引」「Webマーケティング」「インターネットとビジネス」「電子コミュニケーション」「ビジネスモデル特許」「業務のアウトソーシング」「ASPの活用」「サプライチェーンマネジメント」「ビジネスインテリジェンス」「モバイル・ビジネス」「ERP（統合業務パッケージ）」「経営情報システム」「意思決定支援システム」「BPRと情報技術」「ベンチャービジネスの起業」「e-ラーニング」などが挙げられるが、これ以外でもなんらかの形でITに関連するテーマであれば研究可能である。

〈前半〉

ITと経営関連の専門用語の調査と発表

〈後半〉

各自のテーマに基づく研究と発表

〈学外教育〉

夏休みにゼミ合宿を実施する

〈最終〉

最後に小レポートを作成・提出する。

【評価方法】

出席点、ゼミへの貢献および小レポート内容により評価する。

【テキスト】

テキストは適宜指示する。

【参考文献・資料】

各自の研究内容に応じて適宜指示する。

専門演習 II

藤井正志

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

エクセルを使って現実の経済金融のデータ分析を行い、学生に問題意識を持たせる。

【評価方法】

出席状況、演習への取組姿勢等から総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

専門演習Ⅱ

國信潤子

【授業の概要】

労働環境、組織における人間関係などをジェンダー視点から分析する。領域としては産業社会学である。国際統計比較、英語資料による海外のジェンダー関係についても考察する。各学生の関心に基づき、テーマは選べる。卒論あるいはゼミ・ペーパーのテーマを決定し、それについての先行研究を体系的にリサーチし、各自が報告する。

【授業計画】

学生各自の問題意識にそったテーマを決定し、主体的にリサーチ、発表をする。リサーチ方法、発表方法は随時指導する。また講義を折り込み、基礎情報や最新情報を紹介する。

【評価方法】

授業出席状況、履修態度、発表内容、ゼミ論文等の総合評価による

【テキスト】

授業時に提示する。

【参考文献・資料】

また随時資料配布する。

専門演習Ⅱ

森下允之

【授業の概要】

世界の国、地域の政治・経済状況を調べ、ビジネスの可能性を探る。そのための専門知識を対話形式で論ずる。

【授業計画】

教師の指導のもと学生が選択した国について政治・経済状況、企業進出を中心に学生が調べ、発表する。

【評価方法】

出席状況と演習への姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

国に応じ演習中に指示する。

専門演習Ⅱ

霜田一敏

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

基礎演習で明確になった各人の研究テーマをどのように展開するか、その計画を相互に検討して明確にしていく。

1. 問題意識の具体化
2. 研究計画の作成
3. 資料収集の方法
4. 参考文献の収集と理解
5. 調査方法の検討
6. 論文作成の書き方

などを一人一人に則して具体的に検討する。

【評価方法】

各人のレポートと発表、討論への態度、最後の提出する論文によって評価する。

【テキスト】

使用しない。その都度プリント資料を配布する。

【参考文献・資料】

講義のなかで紹介する。

専門演習Ⅱ

梅田敏文

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 論文とは何か
- 第3講 論文の構成
- 第4講 個人別作業割り当て
- 第5講 発表とディスカッション (1)
- 第6講 発表とディスカッション (2)
- 第7講 発表とディスカッション (3)
- 第8講 発表とディスカッション (4)
- 第9講 発表とディスカッション (5)
- 第10講 発表とディスカッション (6)
- 第11講 発表とディスカッション (7)
- 第12講 まとめ

【評価方法】

グループ討議のリーダーシップ、討議内容、検討結果のプレゼンテーション、態度などを総合的に評価する。

【テキスト】

授業の開始時に指定する。
授業の途中に、適宜、資料を配布する。

【参考文献・資料】

学術論文の技法 (斎藤孝著 日本エディタースクール出版部)

専門演習Ⅱ

杉本典之

【授業の概要】

複式簿記の機構に支えられた企業会計について学生自身が主体的かつ自発的に学習した成果を論文にまとめ、卒業論文に発展させるための準備を試みる。

【授業計画】

この専門演習Ⅱの共通テーマも、専門演習Ⅰのそれと同じく、企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学習と卒業論文の準備、である。

専門演習Ⅰでの作業を通じて模索した学生各人の卒業論文のテーマを絞り込み、必要な参考文献や資料の収集に努め、専門演習Ⅲへつなげるように準備する。

改めて論文の書き方に関する解説書を学習する。

【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

【テキスト】

相談して決める。

【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

専門演習Ⅱ

浅井敬一郎

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

- (1) 経営戦略、人事労務、国際経営など、経営の基礎について企業のケースを交えながら考察する
- (2) 共同レポートを作成し、適宜発表する
- (3) マネジメントゲームを2年生と合同で行う
- (4) 卒業論文の書き方についての書籍を輪読し、なるべく早い時期に卒業論文のテーマと文献リストを決定し、3年次終了時までに概要についてのレポートを提出する。

【評価方法】

演習での報告、討論の状況、レポートにより評価する。
無断欠席をした場合は単位を認定しない。

【テキスト】

適宜指定する

【参考文献・資料】

適宜紹介する

専門演習Ⅱ

真田幸光

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

前期に作成した各自レポートを発表、これを基に全ゼミ生によるディベートを実施する。

【評価方法】

各自発表内容とディベート参加姿勢による。

【テキスト】

無し

専門演習Ⅱ

石川雅之

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

学生による発表を中心に行う。

【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

演習の最初に指示する。

専門演習Ⅱ

浅野敬志

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

バーチャル株式投資をしながら、会計、ファイナンス、経済学、経営学などを幅広く学習し、企業・景気・その時々の特ピックなどを深く分析・議論する。また、同時に、様々な手法を用いて、実際に企業を深く分析する。

【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

【テキスト】

ビジネス・アカウンティングーMBAの会計管理ー
(山岸節著 中央経済社)

【参考文献・資料】

企業分析シナリオ (西山茂著 東洋経済新報社)
ゼミナール現代会計入門 (伊藤邦雄著 日本経済新聞社)
すぐわかる株式投資2002年度版 (日本経済新聞社編著 日本経済新聞社)

専門演習Ⅱ

石坂綾子

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨・貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

【評価方法】

出席状況・演習での報告・レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

第1回目の演習において指示する。

【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

専門演習Ⅱ

島田舒一

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

第1～6回 金融工学など新しい金融技術を学ぶとともに、デリバティブや証券化などのビジネスについても実務的な面から研究し、討論する。
第7～12回 また、証券関連の法律や慣行、証券税制など制度的な面についても研究し、討論を通じて理解を深め、実務的な応用力を高める。

【評価方法】

出席状況、課題に対する取り組み姿勢、報告内容によって評価する。

【参考文献・資料】

デリバティブ入門 (高橋誠・新井富雄著 日本経済新聞社)
金融工学 (野口悠紀雄・藤井眞理子著 ダイアモンド社)

専門演習Ⅱ

森 恒夫

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

専門演習Ⅰに引き続き下記の如く予定
(1) 財務諸表の読み方
有価証券報告書
営業報告書
(2) 経営分析の基礎

【評価方法】

出席状況、平常点により評価

【テキスト】

演習時に指示

専門演習Ⅱ

前川三喜男

【授業の概要】

将来、公認会計士、税理士等の会計職業専門家を目指し、その基礎となる会計知識を高めるとともに、新しい会計基準を理解する。

【授業計画】

新会計基準のしくみを理解させる
退職給付会計制度
金融商品会計

【評価方法】

授業への出席状況と発表の仕方、内容で評価

【テキスト】

監査小六法

専門演習Ⅱ

石橋善弘

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

日常生活にかかわる数学的な問題（特にビジネス、経済に関する問題）について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により、総合的に評価する。

専門演習Ⅱ

上原 衛

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

後期は、各自が課題や問題を選択・発見し、その問題解決のために情報を収集・分析する。そして、その結果に基づき、新たな企画や提案を研究レポートとして取りまとめ、プレゼンテーションを行う。各自の発表を基に全員で討議し、考察する。

【評価方法】

各人の討議への積極的参加度、発表の内容等を総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に別途指示・紹介する。

専門演習Ⅱ

伊東俊彦

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

企業においてビジネス活動を支援する道具としての情報技術（IT）の研究を枠組みとして、各自が希望するテーマを研究していただく。研究は原則として前期に続けて行う。ゼミ全体の大テーマは「ビジネスにおける情報技術の活用」である。

テーマとしてはたとえば、「e-ビジネス」「電子商取引」「Webマーケティング」「インターネットとビジネス」「電子コミュニケーション」「ビジネスモデル特許」「業務のアウトソーシング」「ASPの活用」「サプライチェーンマネジメント」「ビジネスインテリジェンス」「モバイル・ビジネス」「ERP（統合業務パッケージ）」「経営情報システム」「意思決定支援システム」「BPRと情報技術」「ベンチャービジネスの起業」「e-ラーニング」などが挙げられるが、これ以外でもなんらかの形でITに関連するテーマであれば研究可能である。

〈前半〉
各自のテーマに基づく研究の進捗と発表
〈後半〉
各自のテーマに基づく研究の進捗と発表
〈最終〉
研究レポートの作成と発表会

【評価方法】

出席点、ゼミへの貢献およびレポート内容により評価する。

【テキスト】

テキストは適宜指示する。

【参考文献・資料】

各自の研究内容に応じて適宜指示する。

専門演習Ⅱ

小池弘道

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

学生各自の問題意識にそったテーマを絞り込み、主体的に資料収集、文献による学習、ヒヤリングなどに取り組んで、知識・考え方を深める。必要に応じて企業経営、国際企業経営など関する講義を織り交ぜる。

【評価方法】

出席状況、演習への取り組み姿勢、報告・レポート内容などを総合して評価する。

【参考文献・資料】

演習の中で、適宜紹介する

専門演習Ⅲ

藤井正志

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

学生が選択するテーマに添って卒業論文の指導を行う。レポートを選択する学生に対してもテーマに添って指導を行う。

【評価方法】

出席状況、演習への取組姿勢等から総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

専門演習Ⅲ

國信潤子

【授業の概要】

この演習を履修する学生は基礎演習Ⅰ、Ⅱ、専門演習Ⅰ、Ⅱの履修あるいはそれと同等の情報・知識を習得していることが必要である。キーワードは労働、家族、ジェンダー、産業社会学、持続可能な開発等である。学生の関心、問題意識にそってビジネス界にみるジェンダー、人種等による格差について考察する。開発協力における持続可能な開発について国内外のNGO、NPOの活動現状等についても事例的に調査・研究する。

学生の関心に基づき、演習指導する。学生の調査、発表を中心とする。卒業論文執筆予定者はその進行状況を演習にて報告する。

【授業計画】

文献講読、インターネット調査、さらに現地調査も含めて労働とジェンダーの関係についての研究を指導する。学生各自の調査と報告、討議が中心である。

【評価方法】

受講態度、提出小論文・調査報告内容、討議貢献度、各種活動への参加度などを総合判断する。

専門演習Ⅲ

森下允之

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱで習得した専門知識にもとづき、世界の国、地域の政治・経済状況を調べ、ビジネスの可能性を探る。

【授業計画】

学生の関心度と重要性から、対象地域・国・テーマを学生ごとに選択させ、卒論に耐えられるような報告書を作成する。

【評価方法】

出席状況と演習への姿勢（自分の分のみでなく、他の学生の報告書への意見表明も含む）を総合的に評価する。

専門演習Ⅲ

霜田一敏

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

学生の関心と問題意識を重視して、次のような手順で専門演習を行う。

1. 各人のこれまでの学習経験や関心領域を整理してレポートに作成し、発表する。
2. それぞれのレポートに基づく発表をグループで検討し、指導を行う。
3. 関連する参考資料や文献を収集する方法、調査する場合は調査方法について指導する。
4. 各人で上記の作業や文献購読を行う。
5. 中間まとめをしながら期末にレポートとして集約する。その際、論文の書き方の指導を行う。
6. 期末にこれまでの研究のまとめを行い、演習時に発表し、論文としてまとめる。

【評価方法】

演習への参加度と研究に対する態度及び研究成果とレポートについて総合的に評価する。

専門演習Ⅲ

梅田敏文

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 問題とは何か
- 第3講 問題の分析
- 第4講 解決策の策定
- 第5講 問題解決セッション (1)
- 第6講 問題解決セッション (2)
- 第7講 問題解決セッション (3)
- 第8講 問題解決セッション (4)
- 第9講 問題解決セッション (5)
- 第10講 問題解決セッション (6)
- 第11講 問題解決セッション (7)
- 第12講 まとめと講評 (1)
- 第13講 まとめと講評 (2)

【評価方法】

発表態度、内容、ディスカッションの参画度合で評価する。

【テキスト】

授業の途中に、適宜、資料を配布する。

専門演習Ⅲ

杉本典之

【授業の概要】

複式簿記の機構に支えられた企業会計について学生自身が主体的かつ自発的に学習した成果を卒業論文にまとめるための準備に入る。

【授業計画】

この専門演習Ⅲの共通テーマも、専門演習Ⅰ及び専門演習Ⅱのそれとほぼ同様に、「企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学習と論文の準備」である。

論文を卒業論文として制作することに挑戦する学生は、「卒業論文・制作」という授業も履修することになるので、その授業での成果を折々に発表する。

それ以外の学生も、専門演習Ⅰ及び専門演習Ⅱでの作業を通じて模索してきた論文のテーマを絞り込み、必要な参考文献や資料の収集に努め、作業の進捗状況と論文の構想について折々に発表する。

いずれの学生も、改めて論文の書き方に関する解説書を学習する。

【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

【テキスト】

共通のテキストは指定しない。

【参考文献・資料】

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生各人に対する個別指導の中で個別具体的に紹介・教示する。

専門演習Ⅲ

真田幸光

【授業の概要】

就職に向けての学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

各授業に於いて毎回、それぞれの学生に対して個別指導をしていく形式をとる。

【評価方法】

平常点及び提出物で評価する

【テキスト】

特に指定しない。

専門演習Ⅲ

浅井敬一郎

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

日本企業の経営システムに関する文献の輪読を行う

【評価方法】

演習での報告、討論の状況、レポートにより評価する

【テキスト】

適宜指定する

【参考文献・資料】

適宜紹介する

専門演習Ⅲ

石川雅之

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

学生による発表を中心に行う。

【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

演習の最初に指示する。

専門演習Ⅲ

浅野敬志

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

これまでの総復習として、企業およびその業界の分析を行う。その際に、総資本利益率等、様々な比率を計算し、企業の問題点を導出するだけでなく、同業他社や市場の分析等を通じて、当該問題点の改善策も検討する。

【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

【参考文献・資料】

企業分析入門（第2版）（パレブ他著 東京大学出版会）
企業分析（増補版）（山口孝他著 白桃書房）
要説 経営分析（青木茂男著 森山書店）

専門演習Ⅲ

石坂綾子

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨、貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

【評価方法】

出席状況・演習での報告・レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

第1回目の演習において指示する。

【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

専門演習Ⅲ

島田舒一

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

- 第1～6回 日本と外国の証券市場改革を比較検討することにより、資本市場の現状と課題を深く理解させる。
- 第7～12回 専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱで取り上げた資金運用や投資戦略について、金融工学的な手法の実務的な応用力を高めるため、事例研究を通じて理解を深めさせる。

【評価方法】

出席状況、課題に対する取組み姿勢、報告内容によって評価する。

【参考文献・資料】

- 金融システム改革と証券取引制度
(証券取引法研究会編 財団法人日本証券経済研究所)
- アメリカの資本市場改革 (淵田康之・大崎貞和編 日本経済新聞社)

専門演習Ⅲ

森 恒夫

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

- 激変している会計の現状を学ぶと共に、従来にはなかった会計の分野も研究する。
- (1) 商法等の改正による会計への影響問題
 - (2) 会計に関するNEWSについての分析
 - (3) 会計領域の拡大及び現代の問題
環境、企業倫理、MKA、情報技術、グローバル化
 - (4) 卒業論文の指導

【評価方法】

出席状況、平常点により評価

【テキスト】

演習時に指示

専門演習Ⅲ

前川三喜男

【授業の概要】

将来、公認会計士、税理士等の会計職業専門家となる為、企業の財務情報の分析・比較検討、監査報告書の事例研究を行う。

【授業計画】

- 企業の財務情報の開示制度について実例分析を行なう。
監査報告書の事例研修

【評価方法】

授業への出席状況と発表の仕方、内容で評価

【テキスト】

監査小文法、有価証券報告書等

専門演習Ⅲ

石橋善弘

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

- 日常生活にかかわる数学的な問題 (特にビジネス、経済に関係する問題) について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により、総合的に評価する。

専門演習Ⅳ

藤井正志

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

学生が選択するテーマに添って卒業論文の指導を行う。レポートを選択する学生に対してもテーマに添って指導を行う。

【評価方法】

出席状況、演習への取組姿勢等から総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

専門演習Ⅳ

國信潤子

【授業の概要】

この演習を履修する学生は基礎演習Ⅰ、Ⅱ及び専門演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの履修あるいはそれと同等の情報・知識を習得していることが必須である。指導内容は主に産業社会学領域であり、ゼミ論文作成および事例調査、資料調査など方法指導を行う。各自がテーマを選び、学生の問題意識にそって労働、ジェンダー、持続可能な開発、雇用関係、組織内の人間関係等の領域について資料研究を行う。調査研究領域として前期に引き続き、ビジネスとジェンダーの接点、開発支援における国内外のNGO、NPOの現状等についても事例的に資料調査等を行う。学生の調査、発表を中心とする。卒論執筆予定者はその進行状況を演習で報告する。

【授業計画】

各自がテーマをしばり、リサーチを主体的に進める。資料・文献講読、インターネット調査、さらに現地調査なども行う。ゲストスピーカーなども招聘し、最新情報を紹介する。学生各自の調査と報告、討議、講義によって授業を進める。

【評価方法】

受講態度、提出小論文・調査報告内容、討議貢献度、各種活動への参加度などを総合判断する。

【テキスト】

随時プリント配布

【参考文献・資料】

随時プリント配布

専門演習Ⅳ

森下允之

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱで習得した専門知識にもとづき、世界の国、地域の政治・経済状況を調べ、ビジネスの可能性を探る。

【授業計画】

学生の関心度と重要性から、対象地域・国・テーマを学生ごとに選択させ、卒論に耐えられるような報告書を作成する。

【評価方法】

出席状況と演習への姿勢（自分の分のみでなく、他の学生の報告書への意見表明も含む）を総合的に評価する。

専門演習Ⅳ

霜田一敏

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

- 専門演習Ⅲでの研究成果を踏まえて、各人の研究を発展的に展開する。
1. 前期で明確になった研究上の問題点を検討整理してその克服のために新たな資料の発掘と文献の購読を行う。
 2. 演習に参加している学生同士の検討と相互支援を行う。
 3. 最終レポート作成上の留意点や注意を行う。
 4. 共同研究としてまとめる場合は、その分担を明確にし、論理的統一性を保つよう指導する。
 5. 何度かの個人指導で修正を行い、最後に論文形式としてのレポートを作成し、提出する。

【評価方法】

研究論文としての完成度と独創性を評価する。

専門演習Ⅳ

梅田敏文

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 問題解決技法(1)
- 第3講 問題解決技法(2)
- 第4講 論文orレポート発表(1)
- 第5講 論文orレポート発表(2)
- 第6講 論文orレポート発表(3)
- 第7講 講評
- 第8講 論文orレポート発表(4)
- 第9講 論文orレポート発表(5)
- 第10講 論文orレポート発表(6)
- 第11講 論文orレポート発表(7)
- 第12講 まとめと講評(1)
- 第13講 まとめと講評(2)

【評価方法】

発表態度、内容、ディスカッションの参画度合で評価する。

【テキスト】

授業の途中に、適宜、資料を配布する。

専門演習Ⅳ

杉本典之

【授業の概要】

複式簿記の機構に支えられた企業会計について学生自身が主体的かつ自発的に学習した成果を卒業論文にまとめる。

【授業計画】

この専門演習Ⅳの共通テーマも、専門演習Ⅲのそれと同じく、「企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学習と論文の準備」である。論文を卒業論文として制作することに挑戦する学生も、それ以外の学生も、各自が目指す論文のテーマと目次を定め、収集してきた参考文献や資料を駆使して論文の草稿を執筆し、その草稿を何度も書き直して論文を完成させる。そのような一連の作業の節目をとらえて、論文の進捗状況について複数回発表する。

【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

【テキスト】

共通のテキストは指定しない。

【参考文献・資料】

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生各人に対する個別指導の中で個別具体的に紹介・教示する。

専門演習Ⅳ

真田幸光

【授業の概要】

就職に向けての学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を行った前期の研究成果を基に各自発表、その後ゼミ員によるディベートを行う。

【授業計画】

各授業で学生が順次発表を行い、議論を展開していく。

【評価方法】

平常点及び提出物で評価する

【テキスト】

特に指定しない。

専門演習Ⅳ

浅井敬一朗

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

各自の関心のある企業における基本的な財務データ、経営戦略、人事制度、海外展開などについて調べ、同業他社との比較を行う。書籍、雑誌、新聞記事等のデータに加え、必要に応じて各自ヒアリング調査を行う。4回程度の中間発表を各自行うこと。

【評価方法】

演習での報告、討論の状況、レポートにより評価する。

卒業論文・制作を履修しない者は1万字程度の単位認定レポートを提出すること。

【テキスト】

使用しない

【参考文献・資料】

適宜紹介する

専門演習Ⅳ

石川雅之

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

学生による発表を中心に行う。

【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

演習の最初に指示する。

専門演習Ⅳ

浅野敬志

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

これまでの総復習として、企業およびその業界の分析を行う。その際に、総資本利益率等、様々な比率を計算し、企業の問題点を導出するだけでなく、同業他社や市場の分析等を通じて、当該問題点の改善策も検討する。

【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

【参考文献・資料】

企業分析入門（第2版）（パレプ他著 東京大学出版会）
企業分析（増補版）（山口孝他著 白桃書房）
要説 経営分析（青木茂男著 森山書店）

専門演習Ⅳ

石坂綾子

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨、貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

【評価方法】

出席状況・演習での報告・レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

第1回目の演習において指示する。

【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

専門演習Ⅳ

島田舒一

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

- 第1～6回 資金調達とファイナンス理論について事例研究を通じて理解を深め、応用力をつけさせる。
第7～12回 企業経営とビジネスについての総合的な知識を習得させるため、ベンチャー企業の設立とそれに伴う課題への対処を事例研究を中心に行う。

【評価方法】

出席状況、課題に対する取り組み姿勢、報告内容によって評価する。

【参考文献・資料】

ベンチャー企業株式公開への道
（エンゼル証券株式会社 監査法人アイ・ピー・オー編著 清文社）

専門演習Ⅳ

森 恒夫

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

専門演習Ⅲの計画をⅣに於いても引き続き行う予定

【評価方法】

出席状況、平常点により評価

【テキスト】

演習時に指示

専門演習Ⅳ

前川三喜男

【授業の概要】

将来、公認会計士、税理士等の会計職業専門家となる為、企業の財務情報の分析・比較検討、監査報告書の事例研究を行う。

【授業計画】

企業の財務情報の開示制度について実例分析を行なう。
監査報告書の事例研修

【評価方法】

授業への出席状況と発表の仕方、内容で評価

【テキスト】

監査小六法、有価証券報告書等

専門演習Ⅳ

石橋善弘

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

【授業計画】

日常生活にかかわる数学的な問題（特にビジネス、経済に関する問題）について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により、総合的に評価する。

卒業論文・制作

藤井正志

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

【授業計画】

卒業論文の骨子の提出を求め、骨子に添って卒業論文の指導を行う。

【評価方法】

卒業論文に対する取組姿勢等から総合的に評価する。

【テキスト】

指定しない。

卒業論文・制作

國信潤子

【授業の概要】

専門演習Ⅰ～Ⅳを通じて問題意識を発見、探求し、その内容を調査研究論文としてまとめる。

卒業論文テーマは専門演習と同様で学生の問題意識にそって選ぶ。領域として産業社会学、労働、ジェンダー、持続可能な開発等の領域について調査・研究をもとに論文を執筆指導を行う。各自が主体的にリサーチすることが重要である。

【授業計画】

卒業論文指導時間に各自が調査・研究結果を報告する。テーマごとの資料調査方法、事例、現地調査方法を指導する。

インターネットを通じて論文を推敲、助言を常時進めるのでインターネットの活用慣れておくこと。必要に応じて英語の資料講読も含まれる。

【評価方法】

卒業論文内容の評価による。

テーマの独創性、先行研究の調査、実態調査、現状記述などの正確性、さらに執筆者の意見の妥当性などを評価対象とする。

卒業論文・制作

森下允之

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

【授業計画】

和文のみならず英文資料を読解、利用しながら、質の高い論文作成を指導。この課程で、英語の専門用語の習得も目指す。

【評価方法】

卒論への姿勢（自分の分のみでなく、他の学生の卒論への意見表明も含む）および卒論の内容と水準などを総合的に評価する。

卒業論文・制作

霜田一敏

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

【授業計画】

専門演習Ⅲ、Ⅳと絶えず関連させながら、発展的に研究を展開する。

1. 各人の問題意識と目的に応じた卒業論文の書き方の指導を行う。
2. 論文構成をどのようにしたらよいか、具体的な論文を事例を通して指導する。
3. 各人の研究の進展と論文作成について具体的な作業を行う。
4. 各章ごとの内容について集約する。
5. 序章から順次執筆にかかる。その都度指導を行う。
6. 中間まとめを行い、再度全体構成について検討を図る。
7. 全体を書き上げ、見直し、数度の推敲を行う。
8. 一冊の論文として完成させる。

【評価方法】

研究方法と論文構成について、また研究成果について評価する。

卒業論文・制作

梅田敏文

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

【授業計画】

卒業論文の作成について小グループごとに個別指導を行なう。各種の提出期限を遵守して、学生は必要な書類を提出すること。

【評価方法】

論文の形式、内容の観点から評価する。

【テキスト】

特になし。

卒業論文・制作

杉本典之

【授業の概要】

卒業論文の制作をめざす学生に対して個別指導する。

【授業計画】

杉本典之が担当する専門演習Ⅰないし専門演習Ⅳの共通テーマは、一貫して「企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学習と卒業論文の準備」である。そのような共通テーマの下で卒業論文の制作に挑戦する学生は、5月中に自らの卒業論文のテーマを明確にし、夏休みが終わるまでに必要な参考文献や資料を収集し、秋には卒業論文の草稿を実際に執筆したうえで、12月初めまでに卒業論文を完成させるように努める。

学生各人による中間研究発表は、卒業論文制作のための上記作業の節目ごとに行う。つまり、少なくとも、卒業論文のテーマを絞り込んだ段階、参考文献や資料を収集して一読し終わった段階、そして、論文の草稿を一応書き上げた段階、のそれぞれの段階で中間発表する。

論文の書き方に関する解説書の学習は、すでに2年次の基礎演習の段階から学生各自が折々に心掛けてきたはずであるが、論文制作作業の具体的な進展に併行して改めて学習し直す。

【評価方法】

卒業論文の出来栄によって成績を評価する。

【テキスト】

共通のテキストは指定しない。

【参考文献・資料】

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生各人に対する個別指導の中で個別具体的に紹介・教示する。

卒業論文・制作

浅井敬一郎

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

【授業計画】

各自の卒業論文のテーマに沿って、下記の(1)～(4)の提出期限前に最低各2回、計8回以上の中間報告を行う。必要に応じ個別指導を行う。

- (1) 5月上旬までに論文骨子の提出
- (2) 7月下旬までに論文概要の提出
- (3) 10月下旬までに第1稿の提出
- (4) 最終稿提出

【評価方法】

卒業論文の内容および、中間報告のレポート内容、討論の状況により評価する。授業計画にある(1)～(4)を全て提出しなければ単位を認定しない。

【テキスト】

使用しない

【参考文献・資料】

必要に応じて紹介する

卒業論文・制作

真田幸光

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

【授業計画】

各授業に於いて学生各位に対して個別指導を実施する。

【評価方法】

卒業論文により評価する

【テキスト】

特に指定しない。

卒業論文・制作

石川雅之

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

【授業計画】

個々の卒論の進捗度合に応じて対処する。

【評価方法】

卒業論文によって評価する。

卒業論文・制作

浅野敬志

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

【授業計画】

卒論の制作・発表を中心に、ゼミの総まとめを行う。

【評価方法】

卒論の内容およびその発表を考慮して決定する。

卒業論文・制作

石坂綾子

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

【授業計画】

卒業論文テーマの決定、参考文献の収集と読解、論文の執筆を進める。論文骨子、論文概要、初稿作成の過程において個別指導を行い、完成度を高めていく。

【評価方法】

卒業論文によって評価する。

【テキスト】

必要に応じて学術論文の作成方法にかんするテキストを指示し、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

卒業論文のテーマに対応して個別に指示する。

卒業論文・制作

島田舒一

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

【授業計画】

- 第1～3回 関心のある分野、課題の中から議論を通じ取組み目的を明確にしたうえでテーマを選定する。
- 第3～12回 テーマに沿った参考文献・資料の収集・使い方について助言をしながら論文作成に取組ませる。
- 第13～20回 論文の素案がまとまった段階で中間発表をさせ、不十分な箇所および全体の構成を修正のうえ、より充実した論文作成にあたらせる。
- 第21～24回 最終的な内容、資料などを点検のうえ論文を完成させる。

【評価方法】

課題に対する取組み姿勢、参考文献、資料の利用の仕方、論理の展開及び論文内容などを総合的に勘案して評価する。

卒業論文・制作

森 恒夫

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

【授業計画】

1. テーマの選択
2. テーマへのアプローチの仕方について
3. テーマの論点
4. 論文の構成

【評価方法】

論文の創造性及び論理性等を勘案して評価

卒業論文・制作

前川三喜男

【授業の概要】

専門演習で習得した知識の中から、各人で興味と関心のあるテーマを選んで卒業論文の制作指導を行う。

【授業計画】

ゼミ生が選んだ卒論の内容について、研究の仕方、参考図書のアドバイスを行なう。

卒論の内容の添削

【評価方法】

卒論の内容で評価

【テキスト】

なし

卒業論文・制作

石橋善弘

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

【授業計画】

基礎演習、専門演習を通じて習得した知見をもとに、卒業論文を制作させる。また論文作製のための技術、論文口頭発表のための技術を習得させる。

【評価方法】

日常の勉強態度および作製された卒業論文の良否によって評価する。

法律学概論

大嶽 浩

【授業の概要】

社会生活は「法」という社会規範が網の目ようにはりめぐらされており、数多くの「法」が日常生活に関わっているが、この授業では、その日常生活を「民法」の観点からみつめることで、「法」とは何か、を考える。

【授業計画】

1. 日常生活と法、法律と法
2. 公法と私法、民法と法
3. 商法と民法、民法典と民法
4. 行為能力と法、代理と法
5. 法律行為と法、時効制度と法
6. 占有と法、所有と法
7. 担保物権と法
8. 契約と法、保証と法
9. 不当利得と法、不法行為と法
10. 家族と法
11. 相続と法、法と人生

【評価方法】

試験による評価。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

国際法概論

初谷良彦

【授業の概要】

国際法は、国と国との関係を定める法である。数百年に及ぶ歴史の展開の中で、現代の国際法は地球社会の大変動を反映して、重大な転換期に入っている。地球環境保全、難民の保護、人権保障、安全保障などこれまでに見られなかった新しい問題をできるだけ取り上げ、できるだけ身近なものとして国際法を理解してもらうようにしたい。

【授業計画】

- | | |
|---------|---------------------------------------------|
| 第1回 | 国際法の概念 |
| 第2回 | 条約（条約の締結、条約の適用、条約の無効と終了） |
| 第3回 | 国家（国家の種類、国家の承認、国家の基本権） |
| 第4回 | 国際組織（国際連合、その他の国際組織） |
| 第5回 | 国家領域（南極、宇宙、日本の領土問題） |
| 第6回 | 外交（外交関係、外交特権、領事関係） |
| 第7～8回 | 個人・外国人（国籍、難民の保護、犯罪人の引渡し） |
| 第9～10回 | 国際社会における人権保障（1）
（人権法の国際的実施措置、実施のための法と機構） |
| 第11～12回 | 国際社会における人権保障（2）
（女性の人権、子どもの人権） |
| 第13回 | 国際協力（環境の国際規制、経済的国際協力） |
| 第14回 | 紛争の平和的解決（国際裁判） |
| 第15回 | 国際安全保障（国連軍、軍縮） |

【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

授業の際、指示する。

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

社会学概論

長濱一夫

【授業の概要】

現代社会の主要な動向をとりあげ、社会学的手法—個人・集団・社会の相互遡及—と実証的・総合的観点から、検討・分析を加える。すなわち、都市化、情報化、国際化、高度消費化、高齢化などの考察により、現代社会に関する基礎的知識を修得させたい。

【授業計画】

以下のそれぞれのテーマを主たる切り口とし（順序は入れ替わることがあります）、私たちの社会生活について考えを深めていきたい。

- 1) 社会学とはどんな学問か—個人と社会—
- 2) 都市と農村—地域社会の変容—
- 3) 都市化の進展—その光と陰—
- 4) 人々の暮らし—「出稼ぎ」という暮らし方—
- 5) 現代社会における「豊かさ」と「貧困」
—国際社会を視野に—
- 6) 高齢化社会と家族

授業は講義形式で行いますが、VTRなども随時、利用していきます。また、人数によっては、意見・感想を求めたり、ディスカッションしてもらうこともあります。

【評価方法】

試験（レポートor筆記）および出席状況、平常点によって評価します。

【テキスト】

使用しません。

倫理学概論

加藤太喜子

【授業の概要】

社会福祉や環境倫理・生命倫理が例になるように、倫理的なものが人々の関心を集めています。何故なら人間は倫理的な動物であるからです。そこで、本講義では、ソクラテス以降の倫理学を概説しながら、特に、人間の尊厳について考えていきたいと思えます。

【授業計画】

1. 倫理「学」とは
2. 功利主義（1）
3. 功利主義（2）
4. 功利主義批判（1）
5. 功利主義批判（2）
6. 義務論（1）
7. 義務論（2）
8. 義務論批判
9. 正義論
10. 応用倫理（1）
11. 応用倫理（2）
12. 応用倫理（3）

【評価方法】

授業中に課す小レポートと、期末に行う筆記試験により評価する。

【テキスト】

倫理学の視座（新田孝彦著 世界思想社）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

哲学概論

長滝祥司

【授業の概要】

古代から現代にいたる西洋哲学をテーマに沿って概観することによって、哲学的思考力を養う。加えて、現代社会に生きるものとして、そうした思考力を人生に生かす方途を探っていく。

【授業計画】

1. 哲学とはどんな学問か—哲学することについて
2. 心身問題とは何か—ギリシア哲学より
3. 大哲学者デカルトはどこで間違いを犯したのか—心身問題の先鋭化
4. 世界は数学の言葉で書かれているのか—二元論と自然科学的世界観
5. 身体にも心がある—身体の復権と生活世界
6. 眼前の世界を哲学的に考える—世界の存在と構造
7. コンピュータは心をもつか—チューリングテストと中国語の部屋
8. コンピュータには何ができないか—世界の構造とフレーム問題
9. 心はマトリックスに操られているのか—心と脳の同一性をめぐって
10. 他人の心はロボットの心よりも暖かい—心をめぐる一番難しい問題

【評価方法】

平常点と論述形式を中心とするテスト。

【テキスト】

とくになし。

【参考文献・資料】

知覚とことば（長滝祥司 ナカニシヤ出版）

宗教学概論

川口高風

【授業の概要】

日本には異なった多くの宗教文化が混在している。宗教に関する基礎的知識を習得するため、世界の九種の宗教を概観し、続いて日本の宗教の神道、仏教、キリスト教、諸教に焦点をあてて役割や現代の状況などをながめてみる。祖師の著作や仏教古文書の解説も行う。必要に応じて、ビデオによる視聴覚授業もとり入れる。

【授業計画】

- 1: はじめに
- 2: 宗教の学問的見方
- 3: 宗教教義の構成（1）
- 4: " (2)
- 5: 世界の諸宗教（1）
- 6: " (2)
- 7: " (3)
- 8: 日本の諸宗教（1）
- 9: " (2)
- 10: " (3)
- 11: 祖師の著作の解説（1）
- 12: " (2)
- 13: まとめ

【評価方法】

学期末に行う論述式の試験による。

【テキスト】

著作などのプリントは当方で用意し配布する。

心理学概論 I

岩原昭彦

【授業の概要】

本講義では、認知心理学の概説を行う。人間がどのように外界の情報を取り入れ、処理するのかに関する心理学的アプローチについて学習する。具体的には、人間の知覚、記憶、学習、思考、言語活動と理解について講義する。

【授業計画】

1. 知覚
2. 記憶
3. 日常記憶
4. 言語
5. 学習
6. 思考
7. 社会的認知
8. 感情
9. 発達
10. 人格

【評価方法】

期末試験と授業中に実施する実験・調査への参加回数。

【テキスト】

スーパーエッセンス心理学（石田潤・谷口篤編 北大路書店）

商法基礎

原 秀六

【授業の概要】

本講では、商法総則と商行為法に焦点をあて、現代社会における企業の組織と活動との関係を裁判例や学説などに基づいて講ずる。

【授業計画】

- 1 イントロダクション
- 2 企業のブランドー商号
- 3 企業のブランドー名板貸責任
- 4 商業登記制度
- 5 企業の人的組織
- 6 営業ー営業の譲渡
- 7 営業ー営業譲渡の当事者の法律関係
- 8 営業ー営業譲渡と債権者・債務者の保護
- 9 企業の会計
- 10 企業取引ー契約の成立から消滅まで
- 11 企業取引ー契約を規制する法律
- 12 企業取引ー履行の担保・交互計算他
- 13 企業取引ー商事売買
- 14 企業取引ー国際売買
- 15 有価証券

【評価方法】

本年度前期開講の本講義では、授業中の質疑応答の状況・前期末試験の結果にもとづいて成績評価を行う。

【テキスト】

開講時に指示。六法は必携。

民法基礎

西山一博

【授業の概要】

私法の一般法である民法は私的な生活関係を秩序づけている基礎法である。日常生活と関わり深い民法のうち、まず総則と親族法を中心に取り上げ、権利や法律行為についての理解を深める。事例式で行い、実務的・実際の解決や考え方を意識したい。また、法令用語や基礎的な事項についても解説し、必要な限りで民法に限らず法学全般の基本的な事項に言及する。

【授業計画】

- 第1回 民法の原則～私的自治の原則とは。
- 第2回 契約の成立・意思表示～未成年者の法律行為は取り消せる。
- 第3回 代理・表見代理～他人が勝手に自分名義で契約を結んだ場合はどうなるか？
- 第4回 不法行為に基づく損害賠償請求～交通事故でけがをしたら、どんな請求ができるのか？
- 第5回 債権と物権の違い・物権～担保とは。
- 第6回 債権総論～保証人はどんな責任を負うのか？
- 第7回 債権各論～契約の種類。貸借契約を中心に。
- 第8回 契約の効力・拘束力～自己都合で契約を解除したら、どんな請求を受けるのか？
- 第9回 時効～10年住み続けたら、他人の家が自分のものになるということが本当にあるのか？
- 第10回 親族法～離婚に伴う金銭問題はどうか考えるのか？
- 第11回 相続法1～相続人と相続分。遺言。
- 第12回 相続法2～自分だけが故人の面倒をみてきたのに相続分は同じか？
- 第13回 民法の周辺法規～消費者契約法、破産法等。
- 第14回 法律事務所における弁護士業務・事務員業務～法律事務所における実務の運用と法律の扱われ方。
- 第15回 試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

追って指定する。

税法基礎

林 仲宜

【授業の概要】

税法、税制に関する話題が、連日のようにマスコミに多く登場している。この講義では、税法の解釈や判断に必要な基礎知識の習得のために、その方法として事例研究を中心に進めていく。また新聞・雑誌の記事を利用して税法に関する時事問題を随時、取りあげ解説していきたいと思う。

【授業計画】

1. 日常生活と税
2. 税と税法
3. 税法の基本原則
4. 租税法律主義
5. 租税平等主義
6. 租税の確定手続
7. 納税者の権利と救済
8. 所得税の概要
9. 法人税の概要
10. 消費税の概要
11. 相続税の概要
12. 地方税と地方分権
13. 税制改正と税制改革

【評価方法】

開講時に協議する。

【テキスト】

○税の社会学ー実例による税法入門ー 改訂版（林仲宜 税務経理協会）

【参考文献・資料】

○税社会学ー理論と展開ー（林仲宜 税務経理協会）

税務特講

森 恒夫

【授業の概要】

税務会計は、企業における会計者が行う総合的な会計業務のうち、税務的側面を対象としている。税務会計の学習には、最初に骨組みをしっかり理解し、その後に、詳細な知識を付け加えることが必要である。法人企業が、課税所得金額と税額を計算し、申告する為の基礎知識を会計処理に関連させて説明し、税務会計の枠組みが理解出来るようにする。

【授業計画】

税法の条文をできるだけ体系的に整理し、無用の枝葉は切り捨て、基本的な事項、重要な事項を中心に行う。

第1回～第12回

各回共、法人税の重要事項を取り上げ、知識を完全なものにしていく。

【評価方法】

出席状況及び講義の理解度による。

【テキスト】

授業において指示

会計特講

前川三喜男

【授業の概要】

株式会社が公表する財務諸表の基礎となる会計理論、財務諸表の作成方法および財務諸表の見方について論ずる。

【授業計画】

第1回～第4回 連結財務諸表

第5回～第7回 キャッシュフロー計算書

第8回～第10回 税効果会計

第11回～第13回 退職給付会計

【評価方法】

授業への出席状況と演習問題の成績で評価

【テキスト】

レジメ（計算演習）

職業指導論

大倉芳雄

【授業の概要】

職業生活に必要な基本的な能力、態度及び職業観を育成し、自らの将来の生き方や進路について考える。

【授業計画】

第1章 進路指導の歴史と発展

第2章 教育課程と進路指導

第3章 進路指導における組織と体制

第4章 特別活動における進路指導

第5章 進路指導の方法と技術

第6章 進路相談の方法と技術

第7章 進路指導の評価

第8章 資格取得指導

第9章 産業構造、職業構造の変化と進路指導

第10章 職業生涯設計の在り方

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

自作教材

会計実務Ⅰ

遠藤秀紀

【授業の概要】

会計実務上のさまざまな知識や技能を修得することを目的とする。具体的には企業の経理を行う上で必要な帳簿の作成や伝票の処理などの実践的な知識や技能のほか、関係法令の知識を学ぶ。

【授業計画】

1. 資産・負債・資本と貸借対照表
2. 収益・費用と損益計算書
3. 取引と勘定記入
4. 仕訳と転記
5. 仕訳帳と総勘定元帳
6. 現金・預金の取引（現金出納帳・当座預金出納帳・小口現金出納帳）
7. 商品売上の取引（仕入帳・売上帳・商品有高帳）
8. 売掛金と買掛金（売掛金元帳・買掛金元帳）
9. 売買目的有価証券
10. 手形の取引（受取手形記入帳・支払手形記入帳）
11. その他の営業取引
12. 伝票

【評価方法】

定期試験（70%）、小テストまたはレポート提出（20%）および出席状況（10%）を総合して評価する。

【テキスト】

段階式 日商簿記ワークブック3級
（加古宜士・稲山幹夫監修 税務経理協会）

【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

ミクロ経済学

村上敬進

【授業の概要】

この講義では、消費者や企業がどのように意思決定し経済活動をしているか、市場の役割等を分かりやすくかつ丁寧に解説していく。

身近な応用例を取り上げながら、経済学の考え方を理解できるように講義をしていく。

【授業計画】

- 1 イントロダクション：経済学をなぜ勉強するか
- 2 需要の理論
- 3 供給の理論
- 4 需要曲線と弾力性
- 5 市場の理論
- 6 需要と供給で解く経済問題
- 7 余剰分析で解く経済問題
- 8 市場の失敗

【評価方法】

成績評価は定期試験のみで行う。

【テキスト】

基礎からわかるミクロ経済学（家森信善・小川光著 中央経済社）

【参考文献・資料】

基礎からわかるマクロ経済学（家森信善著 中央経済社）

会計実務Ⅱ

遠藤秀紀

【授業の概要】

会計実務上のさまざまな知識や技能を修得することを目的とする。具体的には企業の経理を行う上で必要な財務諸表の作成やその他法令で必要とされる書類の作成に係る知識や技能を学ぶ。

【授業計画】

1. 特殊売買
2. 長期的に利用する資産の取引
3. 法律上の権利と営業権
4. 投資活動などの取引
5. 繰延資産
6. 社債の発行
7. 株式の発行
8. 損益計算
9. 株式会社の決算
10. 総合演習 証券取引法と商法に基づく財務諸表の作成

【評価方法】

定期試験（70%）、小テストまたはレポート提出（20%）および出席状況（10%）を総合して評価する。

【テキスト】

履修者と相談のうえ指示する。

【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

ビジネスとファイナンス

島田舒一

【授業の概要】

経済のグローバル化と企業の海外進出、金融システム改革に伴い、資金の調達方法は多様化し、また、企業の財務戦略もバランスシートの管理、資金の運用、リスク管理と範囲が広がってきている。このような変化の中における企業のファイナンスの動きと内容をビジネスと関連づけて考察する。

【授業計画】

1. 企業経営とファイナンスの役割
2. 金融、資本市場の変化と企業財務
3. 資金の調達1…金融市場からの調達
4. 資金の調達2…資本市場からの調達
5. 事業への投資とその評価
6. バランスシート管理の重要性とその手法
7. 資金の運用と投資
8. 国際的な取引と資金の管理
9. 企業の直面するリスクとその管理
10. プロジェクトファイナンス
11. 証券化の活用
12. 企業ファイナンスとビジネスの展望

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

企業ファイナンス入門（日経文庫）

【参考文献・資料】

現代ファイナンス入門（現代ファイナンス講座1 中央経済社）

ファイナンシャルプランニングⅠ

島田舒一

【授業の概要】

ライフスタイルの多様化、少子高齢化社会の到来に伴い、人々のライフプランニングや老後の生活設計に対する関心が高まってきている。Ⅰでは、学習する6分野のうち、金融資産の運用、保険とリスク管理、ライフプランニングと年金などを取り上げて考察するほか、問題練習を通じて理解を深める。

【授業計画】

1. ライフプランニングの重要性
2. 社会保険
3. 公的年金
4. ライフプランの策定と計画
5. リスクマネージメントと保険
6. 生命保険
7. 損害保険
8. 第3分野の保険
9. 金融マーケットと金融商品
10. 債券投資
11. 株式投資
12. 資産運用の考え方

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

パーフェクトFP技能士入門（3級用）（きんざいFP技能研究会編 きんざい）

【参考文献・資料】

パーフェクトFP技能士3級対策問題集・学科編（きんざいFP技能研究会編 きんざい）
パーフェクトFP技能士3級対策問題集・実技編（個人資産相談業務）（きんざいFP技能研究会編 きんざい）

情報倫理

梅田敏文

【授業の概要】

情報化社会の特徴、ITが社会に及ぼす影響などを考察するとともに、知的財産権、プライバシー、コンピュータ犯罪などを検討し、情報倫理の必要性を理解する。

【授業計画】

- 第1回 情報化社会とは
- 第2回 情報倫理とは
- 第3回 規範、法律、情報技術
- 第4回 情報倫理のフレームワーク
- 第5回 コンピュータの特質
- 第6回 情報専門家の倫理
- 第7回 ユーザーの倫理（情報モラル、ネチケット）
- 第8回 プライバシー
- 第9回 知的財産権
- 第10回 コンピュータ犯罪
- 第11回 事例研究（1）
- 第12回 事例研究（2）
- 第13回 事例研究（3）
- 第14回 まとめ
- 第15回 テスト

【評価方法】

出席とテストにより、総合的に評価する。

【テキスト】

別途、コース開始時に指定する。

【参考文献・資料】

コンピュータ倫理学
（デボラ・ジョンソン著 水谷雅彦・江口聡監訳 平成14年 オーム社）

ファイナンシャルプランニングⅡ

島田舒一

【授業の概要】

ライフスタイルの多様化、少子高齢化社会の到来に伴い、人々のライフプランニングや老後の生活設計に対する関心が高まってきている。Ⅱでは、Ⅰで学習した3分野以外のタックスプランニング、不動産、相続・事業承継などを取り上げて考察するほか、問題練習を通じて理解を深める。

【授業計画】

1. 所得税の仕組み
2. 各種所得
3. 所得控除、税額控除と所得税の申告
4. 保険、年金、金融商品と税金
5. 不動産の見方と不動産取引
6. 不動産の取得、保有と税金
7. 不動産の譲渡、賃貸と税金
8. 不動産の有効活用
9. 相続と法律
10. 相続
11. 贈与
12. 相続財産の評価

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

パーフェクトFP技能士入門（3級用）（きんざいFP技能研究会編 きんざい）

【参考文献・資料】

○パーフェクトFP技能士3級対策問題集・学科編（きんざいFP技能研究会編 きんざい）
○パーフェクトFP技能士3級対策問題集・実技編（個人金融資産業務）（きんざいFP技能研究会編 きんざい）

情報通信ネットワーク論

伊東俊彦

【授業の概要】

「情報通信」とは、情報を相手に知らせることであり、そのために使われるしくみの中心がネットワークである。現在はインターネットというグローバルなネットワークから個別に構築された個別ネットワークまで大小さまざまなネットワークがビジネスで活用されている。その中で代表的なネットワークについて理解することが企業ビジネスにおいて重要である。

当講義では情報通信ネットワークを情報通信とネットワークの2つの概念の基に取り扱う。情報通信では、「情報とはなにか」から始まり、情報通信の基本である通信回線の種類や伝送方式について学習する。ネットワークでは、LANやインターネットのしくみについて学習する。さらにネットワーク構築の際の運用や管理の知識について学び、最近特に注目されているネットワーク・セキュリティについても学習する。全体を通して情報をいかにうまくビジネスに活用するか、という観点からそのしくみである情報通信ネットワークの役割を理解することを目標にしている。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（授業の進め方）
- 第2回 情報とはなにか
- 第3回 情報通信とはなにか
- 第4回 伝送方式と伝送制御手順
- 第5回 通信回線の種類
- 第6回 通信ネットワークと通信サービス
- 第7回 LANとはなにか
- 第8回 LANの構築
- 第9回 インターネットのしくみ
- 第10回 インターネットの動向
- 第11回 ネットワークの構築（1）
- 第12回 ネットワークの構築（2）
- 第13回 ネットワークの運用と管理
- 第14回 ネットワーク・セキュリティ
- 第15回 まとめ

【評価方法】

出席点およびミニレポート（2～3回実施）により評価する。

【テキスト】

テキストは適宜指示する。

【参考文献・資料】

参考文献は適宜指示する。

経営情報システム論

伊東俊彦

【授業の概要】

経営情報システムを情報通信ネットワークの形態やその進展、およびコミュニケーション形態の変遷との関係でとらえ、MIS、意思決定支援システム、SIS、BPRなどの機能と構造をネットワークの構築、運用の観点から学習する。また、経営戦略やビジネスモデルの策定が、通信ネットワークとコミュニケーションにより、どのような影響を受けるのか、実習も含めたセキュリティ対策などを通して学習する。

【授業計画】

1. 情報通信ネットワークの進展と情報システム
2. コミュニケーション形態の変遷と情報システム
3. 経営情報システムとネットワーク
4. MISの歴史
5. 意思決定支援システムとネットワーク
6. SIS（戦略的情報システム）とネットワーク
7. BPRと情報システム
8. ロジスティクスシステム
9. SCMとネットワーク
8. 経営戦略・ビジネスモデルと情報システム
9. 情報戦略
10. データベースとネットワーク
11. 経営情報システム構築手法（1）
12. 経営情報システム構築手法（2）
13. まとめ

【評価方法】

出席点およびミニレポート（2～3回実施）により評価する。

【テキスト】

テキストは適宜指示する。

【参考文献・資料】

参考文献は適宜指示する。

エンドユーザーコンピューティングⅠ

三浦信宏

【授業の概要】

エンドユーザーコンピューティングの推進活動に必要なハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、データベースの基本知識を体系的に学習する。

【授業計画】

1. ネットワークの基礎知識
2. LANの基礎知識
3. インターネットの基礎知識
4. 入出力インターフェース
5. 情報戦略（経営管理と情報システム）
6. 経営工学（品質管理、OR、確立と統計）
7. 企業会計（財務、管理会計）
8. 関連法規Ⅰ（知的財産権）
9. 関連法規Ⅱ（労働、取引、安全などに関する法規）
10. 表計算ソフトの利用
11. データベースの基礎知識
12. SQLの利用
13. まとめ

【評価方法】

出席状況、レポートおよび試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

1. エンドユーザーコンピューティング（ウイネット）
2. 情報の分析と活用（ウイネット）

【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

エンドユーザーコンピューティングⅡ

三浦信宏

【授業の概要】

エンドユーザーコンピューティングの推進活動に必要なシステム開発、運用管理、情報分析と活用の基本知識を体系的に学習する。

【授業計画】

1. 演習Ⅰ（仕事とコンピュータ）
2. 演習Ⅰ（コンピュータシステムの基礎知識）
3. 演習Ⅱ（データの分析と整理の技法）
4. 演習Ⅲ（システムの開発と運用）
5. 演習Ⅳ（テストおよび検収）
6. 演習Ⅴ（EUCにおけるハードウェアの役割）
7. 演習Ⅴ（EUCにおけるソフトウェアの役割）
8. 演習Ⅴ（表計算とデータベース）
9. 演習Ⅴ（ネットワークの役割と利用形態）
10. 演習Ⅵ（システム環境整備と運用管理）
11. 総合演習（1）
12. 総合演習（2）
13. 総合演習（3）
14. 総合演習（4）

【評価方法】

各回毎の課題を総合して評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

ビジネスとジェンダーⅠ

國信潤子

【授業の概要】

主に、産業社会学と開発社会学の視点からビジネス関係におけるジェンダー（社会・文化的性）区分の実態を国内外の男女別統計データなどから検討し、雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法などの法制整備がどのように変化しているかについて講じる。家族、地域、就労の3領域におけるジェンダー・バランスについて各種データなどから現状を理解する。また開発社会学の視点から経済活動におけるジェンダー関係を国際比較する。アジア諸国の社会・文化状況について紹介し、日本との開発支援関係を考察する。

【授業計画】

まずジェンダーという概念が形成されてきた社会背景を紹介する。次に国内外のジェンダー関係の統計データを紹介しながら、男女賃金格差、地位格差、職域区分などを解説する。次いで雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法、さらにセクシュアル・ハラスメント防止のための施策、配偶者間暴力防止法などについて紹介する。日本の企業社会におけるジェンダー関係の近年の変容と、男女がともに有償労働・無償労働を均等に分担しつつ社会をささえるためには今のような新たな政策が推進されているかを検討する。さらに開発社会学の紹介をしつつ、開発途上国の日本との関係についても紹介する。

【評価方法】

履修態度、出席状況、期末レポート、履修者数によっては少人数討議を行い、そこでの貢献度など、総合評価による。

【テキスト】

特になし、随時資料配布

【参考文献・資料】

授業時に随時紹介

ビジネスとジェンダーII

北仲千里

【授業の概要】

産業社会におけるビジネス行為はジェンダー：社会・文化的性によってその役割、評価、影響などが異なる場合がある。特に日本社会においては女性の経済的地位はいまだ脆弱であり、雇用機会均等法の実施も不十分である。近年の経済のグローバル化のなかで職域、職階、賃金のジェンダー格差にどのような変化が見られるかについて統計データから考察する。また、産業界における人間関係についてジェンダーに敏感な視点をもって考察する。さらに職場の人間関係における問題、賃金格差、地位格差、セクシュアルハラスメント訴訟などについて、その内容について詳細に検討し、今後を展望する。

【授業計画】

現代でも女性の平均賃金は男性の約6割でしかありませんし、性別（ジェンダー）は、私たちの人生設計や職業選択などにも大きな影響を与え続けています。この講義では、「働くこと」「職場」「男と女」というテーマを、社会学的な方法で考えていきます。

講義を通じて、社会学的な見方を身につけること、統計データの読み方を身につけることも目指します。

1. 統計データから見る仕事とジェンダー
2. 職業分類の基礎知識
3. 出世すること、お金持ちになることの意味
4. 「差別」と「区別」を考える～その1 頭の体操 編
5. 「差別」と「区別」を考える～その2 法律と裁判からみる
6. 男女雇用機会均等法と就職の現状
7. 職場でのセクシュアル・ハラスメント
8. 社会が変わる、会社が変わる

これらのテーマを1～2週ずつ取り上げていきます。

【評価方法】

毎回ではありませんが、講義の中でミニレポートを書いてもらったり、宿題を課す場合があります。評価はそのミニレポートの提出回数と最後の試験の点数の総合点で行います。

【テキスト】

特に指定しません。講義時に毎回プリントを配布します。

【参考文献・資料】

女性学・男性学（伊藤公雄・樹村みのり・國信潤子 有斐閣アルマ）
日本の社会政策とジェンダー（塩田咲子 日本評論社）

英語プレゼンテーション

福本明子

【授業の概要】

本講義は、英語でのプレゼンテーション技能の向上を目指します。スピーチの作成・プレゼンテーションの学習から始め、パワーポイントの操作を習得し、パワーポイントを用いたプレゼンテーションまで学習する。更に、コミュニケーション研究から言語・非言語による信頼性の構築や意味付与等に関する知識を学習する。定期的にプレゼンテーションを伴う課題を体験し、学習した情報を実践し、個人々が「自分らしさ」を伴うプレゼンテーションを探索する。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 自己紹介プレゼンテーション
3. スピーチの種類、信頼性
4. 言語・非言語の影響
5. スピーチと自分らしさ
6. スピーチと文化
7. パワーポイント操作1
8. パワーポイント操作2
9. パワーポイント操作3
10. パワーポイント・プレゼンテーション1
11. パワーポイント・プレゼンテーション2
12. まとめ

【評価方法】

1) 出席率、2) プレゼンテーションの準備や完成度、3) クラスメートの相互評価を総合して最終的な評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

初回の授業にて発表。

交渉術 / ディベート

福本明子

【授業の概要】

本講義は、「交渉術」をmediation（ミディエーション：第3者仲介調停）とDebateを含む広い概念として捉え、交渉術の概要を講義すると同時に、ディベートを中心に据えた技能習得を目的とする授業である。概要にて、文化・感情・面子などの交渉・議論への関与を学習する。その後ディベートを中心に、議論の組み立て方・批判検証のポイント・言語操作の俊敏性などの技能向上を目指す。ディベートの使用言語は様子を見ながら日本語と英語の分量を調整する。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 交渉・説得
3. ディベートの構成要素、模擬ディベート
4. 論証・検証のポイント1
5. ディベート（練習1）
6. リサーチ・準備1
7. 論証・検証のポイント2、スピーチ・デリバリー
8. ディベート（練習2）
9. リサーチ・準備2
10. ディベート（トーナメント）
11. ディベート（トーナメント）
12. まとめ

【評価方法】

出席率、ディベートへの準備やプレゼンテーション、グループ内の相互評価を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

初回の授業にて発表。

ビジネス外書講読I

小池弘道

【授業の概要】

新聞、雑誌・本（リーダーズダイジェスト、日経ジャーナルなど）の英語版や、放送（BBC、CNNなど）などを教材として基礎的な読書力を養う。

内容としては、世界の政治、経済、外交などに関するビッグなニュースを読んで理解するとともに、その出来事の日本および私達の生活への影響を考察する。また景気動向、物価の動き、金融情勢、雇用・失業状況などの経済ニュースを読んで、日本や世界各国の動きを知る。更には、企業の技術革新、収益状況、リストラクチャー、合併統合などに関する記事を読んで、最近の企業動向を理解する。

【授業計画】

下記の内容の載っている記事を読み、読解力を高める。

日本及び海外諸国の経済の動向、景気の動向、雇用の動向、物価の動きなど

企業の経営状況・決算状況、収益性分析、倒産など
企業再編成……合併、統合、提携など
マーケティング……市場調査・解析、新製品開発
新技術研究

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

【テキスト】

必要に応じ資料配布

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

TOEFL (Writing)

JOLLY, James A.

【Course Content】

本講義はTOEFLテストのwritingのセクションのための基本的技能を培うことを目的とする。TOEFLテストに含まれるエッセイ・ライティングの問題に関し、書き方の方法と技術を一步一步学んでいくものである。実際のテストに類似した練習問題が、TOEFLテストの中で期待される質問に慣れるために使われる。英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指すものである。

【Schedule】

A detailed schedule of the lessons and assignments for each class will be provided at the second meeting of the class. The topics to be covered in this course include:

1. Understanding what you are to write about
2. Planning what you will write about (notes and outline)
3. Developing sentences and paragraphs to express your ideas
4. Improving your expressions and writing style
5. Checking and editing your essay

【Assessment】

Assessment will be based on class attendance and participation, completion of homework assignments, and demonstrated improvement in skill in practice tests.

【Textbooks】

The textbook to be used for this course will be announced at the first class session. Supplementary instruction materials and practice exercises will be provided as necessary. Most importantly, each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary (book or electronic machine).

【Reference】

To be recommended individually as need arises.

ビジネスストラテジー

河合篤男

【授業の概要】

企業を取りまく環境は常に変化している。こうした環境変化に対して、うまく適応して成長を続ける企業もあれば、適応に失敗してしまう企業もある。このような違いがなぜ生み出されるか。それを解明するためのひとつの柱は、経営戦略の立案プロセスの研究である。環境適応に成功している企業が、どのように変化を認識して、次なる経営戦略の立案に結び付けているのか、企業が内部に構築している環境適応のための仕組み、さらには社外からのCEOや経営コンサルティング企業など、外部の力を利用した企業革新について、事例を交えて解説する。

【授業計画】

1. 経営戦略とドメイン策定
2. ドメイン変化
3. 多角化戦略と資源展開
4. 経営戦略と経営組織
5. 企業のパラダイム論 (パラダイムとは)
6. 企業のパラダイム論 (パラダイムの逆機能)
7. 企業革新モデル
8. 事例研究 (進化論モデルとしての3M)
9. 事例研究 (3Mの経営革新)
10. 経営コンサルティング・ファームと企業革新
11. 企業革新パターンの変化

【評価方法】

定期試験の結果による。

【テキスト】

・自社の強みを活かす経営 3Mの自己超越ストーリー
(河合篤男他著 中央経済社 *2004年出版予定のため、書名の若干の変更可能性あり)

【参考文献・資料】

- ・経営戦略論 (石井淳蔵他著 有斐閣)
- ・企業のパラダイム変革 (加護野忠男 講談社現代新書)

マーケティングストラテジー

大塚英揮

【授業の概要】

本講義では、マーケティングベーシックで習得した知識を基礎に、製品、価格、広告に関するより実際の戦略的手法について理解を深めていく。まず、企業の競争戦略を理解するために必要な「考え方」を習得する。次に、競争構造、PLCという2つの条件の変化に対して、どのようにマーケティング戦略を設定すればよいかを理解する。そして最後に、競争構造そのものを変えてしまう戦略である、戦略的ブランドマネジメントや関係性マーケティングの理論と実際について学習する。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 戦略的思考法 (1)
3. 戦略的思考法 (2)
4. 戦略的思考法 (3)
5. 戦略的思考法: ケース分析
6. 競争構造とマーケティング戦略
7. 競争構造とマーケティング戦略: ケース分析
8. PLCとマーケティング戦略
9. PLCとマーケティング戦略: ケース分析
10. 戦略的ブランドマネジメント
11. 戦略的ブランドマネジメント: ケース分析
12. 関係性マーケティング
13. 関係性マーケティング: ケース分析
14. 総合演習 (1)
15. 総合演習 (2)

【評価方法】

毎回の小テスト、ケース作業ポイント (60%) と期末テスト (40%) の合計で評価します。受講人数によっては、グループに分けての作業も行うことがあります。通常点が評価に占めるウェイトも高いため、休みがちな人にはおすすめてできません。

【テキスト】

使用しません。毎回プリントを配布します。

【参考文献・資料】

- 競争戦略論1,2
(マイケル E ポーター著 竹内弘高訳 ダイアモンド社 2400円)
- マーケティング戦略論
(ドーン・イアコビッチ著 奥村・岸本監訳 ダイアモンド社 3800円)
- コラーの戦略的マーケティング
(フリップ コラー著 木村達也訳 ダイアモンド社 2200円)
- コラーのマーケティング入門
(フリップ コラー ゲイリー アームストロング著 恩蔵直人訳 ビアソンエデュケーション 7600円)

※これらの総論的な文献に飽き足りない人は、マーケティングを構成する「広告」「ブランド」「価格」などの各戦略に関係する各論的な文献を紹介するので、遠慮なく一挙かけてください。

ヒューマンリソースマネジメント

小池弘道

【授業の概要】

景気低迷の長期化、高齢化、少子化、女性の職場進出、雇用形態の変化など日本の労働市場の急速な変貌について説明する。続いて、日本の強みと言われた終身雇用制度、年功型処遇制度の崩壊について、その原因と今後の変化を解説する。更に、日本と欧米との人事管理・労務管理の違いについて、役割期待、責任と権限、採用、賃金制度、人事異動、従業員教育、モラル向上などの視点から講義する。また、そのような状況下にあつて、今後の人事・労務管理に要求される変化について説明するとともに、個人としての対応についても解説する。

【授業計画】

1. 変貌する労働市場
2. 労働慣行の変化
3. これからの人事管理のあり方
事業展開と組織……戦略組織、分社化・事業部、集権と分権、組織設置の原則
人事管理……能力主義、役割期待、責任と権限、リクルート、人事評価、異動、人材育成、サクセッションプラン、相互主観
4. 日本と欧米との人事労務管理の違い

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

【テキスト】

国際経営と人事管理 (小池弘道 生涯職業能力開発促進センター)

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

ビジネスマネジメント

辻村宏和

【授業の概要】

起業ブームの裏には低成功率もあることを見逃してはならない。財務テクニックや法律知識、あるいは最新テクノロジーに関して自分の不得意領域をカバーすべく起業には良きビジネス・パートナーが不可欠であるが、「ビジネスであるがゆえに親友（兄弟）の正体を知るはめとなった」最大最悪のトラウマに陥ったケースは枚挙にいとまがない。起業自体はマネジメントにとってほんのプロローグに過ぎず経営者は意外にも起業後の非経済的要因で苦悩する。本講義では、そういった苦悩を「組織の病気」として、事例を交えながら理論的に学習する。

【授業計画】

1. 組織の病気（トラブル）の特異性
2. 強い組織と非公式組織
3. 日本的経営の再検討
4. 「任せてくれる」組織の怖さ
5. 「参謀」の効用および危険性
6. 「目標による管理」の思わぬ落とし穴
7. 会議（チーム）の予想外の非効率性
8. 「権力（権限）－権威」図式の有効性
9. 二代目経営者のリスク
10. ワンマン経営者の功罪

【評価方法】

定期試験、平常点のトータルで評価する

【テキスト】

組織のトラブル発生図式（辻村宏和 1994 成文堂）

e ビジネス

伊東俊彦

【授業の概要】

e-ビジネスと一般のリアル・ビジネスとの違いをそれぞれのビジネスモデルの事例を通して習得し、ビジネスモデル特許の問題やe-ビジネスの成功・失敗の要因について検討する。

【授業計画】

1. eビジネスとは
2. eビジネスのタイプ
3. eビジネスとビジネスモデル（1）
4. eビジネスとビジネスモデル（2）
5. eビジネスの現状と課題（1）
6. eビジネスの現状と課題（2）
7. eビジネスの現状と課題（3）
8. eビジネスと情報技術（1）
9. eビジネスと情報技術（2）
10. eビジネスと情報技術（3）
11. eビジネス成功の法則（1）
12. eビジネス成功の法則（2）
13. まとめ

【評価方法】

出席点およびミニレポート（2～3回実施）により評価する。

【テキスト】

テキストは適宜指示する。

【参考文献・資料】

参考文献は適宜指示する。

マーケティングリサーチ

徳山美津恵

【授業の概要】

マーケティング活動を行う上で、市場やそれを構成する消費者を知ることは非常に重要である。そこで、本講義では、市場・消費者に関するデータを収集し、分析していくための基礎知識を理解してもらうことをねらいとする。具体的には、簡単な消費者調査を行い、その集計・分析手法を身につける。また、その際に必要とされるコンピュータや統計学の知識やスキルについても習得する。

【授業計画】

1. マーケティングの中のリサーチ
2. マーケティングリサーチとは
3. リサーチ計画
4. マーケティングとプレゼンテーション
5. データ分析
6. プレゼンテーション（発表）

講義形式と実習を半々で行なう予定である。授業ではパソコンを用いて、調査票の作成、データの分析、プレゼンテーションを行なってもらう。

必要な資料は適宜プリントを配布する。

【評価方法】

この授業では、実際にパソコンを用いて実習を行なっていくため、授業への貢献度を重視する。期末試験は予定していないが、授業期間の予習・復習は欠かせない。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。

【参考文献・資料】

- マーケティング・リサーチ入門 日経文庫（太田黒夏生 日本経済新聞社）
- マーケティング&リサーチ通論（朝野照彦・上田隆穂 講談社）

インターンシップ

上原 衛

【授業の概要】

2週間程度の短期間であるが、企業に出向き実際の会社での業務に触れて、実社会での活動を体験する。これまで主として座学によって学んだ理論や事柄が、どのように応用されているかを理解する。また、実社会でビジネスパーソンとしてどのような心構えを持つべきかを自分なりに考えかつ体得する。

【授業計画】

原則として、夏期1～2週間程度の期間、企業や公共機関でインターンシップ研修を実施し、実社会を体験する。その前後に、下記の事前講義および事後の研修報告と成果発表を行い、研修の準備ならびに総括を行う。

1. ガイダンス（インターンシップについて、心構え等）
2. 各種業種についての講義（学生各自の調査と発表も実施）
3. 日本の企業経営について
4. 職業と人生
5. マナー講習
6. 研修後の報告レポート作成と成果報告

【評価方法】

企業での実研修状況、報告書とその発表内容、講義への出席等を総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に別途指示・紹介する。

英語コミュニケーション1 (TOEIC I)

山田久美子 横関美津紀 間瀬欣英 村上洋子 天野純子
中村栄造 鈴木哲至 安田千恵 野口朋香 寺本史子

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての基礎的な能力を、文法や語彙など基本事項に重点を置いて身につける。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、文法や語彙などの基本事項の整理を行うのがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー)の「初級・中級コース」を活用して、文法や語彙などの基本事項を再確認し、その定着を図る。具体的には、以下のよう

1. 受講生による演習問題への解答
 2. 授業担当者による問題解説
 3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
 4. Speed ListeningとSpeed Reading機能を活用した速聴・速読練習
 5. 確認テストの実施
- 「初級・中級コース」のうち、「TOEICテスト演習コース」(10ユニット)と「TOEICテストパート演習コースpart V」(20ユニット)の合計30ユニットを修了させることが目標である。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

(長久手キャンパス)

13 Grammatical Keys to the TOEIC Test: TOEICテスト頻出文法13ポイント (西谷敦子著 朝日出版社)
TOEIC Test: Grammatical Trainer (大学生のためのTOEICテスト英文法) (高山芳樹著 南雲堂)
以下未定

(星が丘キャンパス)

掲示・配布物にて指示する。

英語コミュニケーション3 (Listening II)

NORRIS, Harry T. DYOUS, David C. 石橋千鶴子 SUTHONS, Philip DAVIES, Alun HARRIS, Richard S. MILLER, Samuel REINTSMA, Sharell WILLIAMS, Allen D. SMITH, September LACEY, Charles F. 野口朋香 寺本史子 福本明子

【授業の概要】

英語をより正確に聞き取り、パラグラフや会話文の要点を把握できるようになるための発展的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、会話文・説明文などの内容を正確に把握できるリスニング力を養成することがこの授業の目標である。

この目標を達成するために、さまざまな音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. 数字・地名の聞き取りと、日本人英語学習者が発音・聞き取りを不得手としている音の練習
4. ディクテーション
5. シャドーイング
6. 短文・長文の暗唱
7. ペア・プラクティス

授業で取り上げた教材を、何度も繰り返し声に出して発音する練習を通じて、英語らしいリズムとイントネーションの習得とともに、語彙力と表現力も身につける。英語を頭の中で日本語に置き換えるのではなく、英語を英語として聞き理解できるようにするために、大量・高速の英語を聞く。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

掲示・配布物にて指示する。

英語コミュニケーション2 (Listening I)

JOLLY, James A. DAVIES, Alun HARRIS, Richard S. MILLER, Samuel PUDWILL, Larry A. REINTSMA, Sharell 中村栄造

【授業の概要】

短いフレーズを中心とした英語を正確に聞き取れるようになるための基礎的な能力を、LL教材を用いて演習形式で身につける。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、基礎的なリスニング力を養成することがこの授業の目標である。この目標を達成するために、音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. ディクテーション
4. シャドーイング
5. 短文・長文の暗唱
6. ペア・プラクティス

様々な場面における対話や応答、状況説明などの聞き取りを通じて、語彙の増強と基本的な英語表現の習得も図る。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

(長久手キャンパス)

A New Approach to Natural English:

ShadowingによるTOEIC, TOEFL制覇 (矢作三蔵著 開文社出版)

リスニング・トレーナー: TOEIC対応レベル別練習

(千田潤一著 朝日出版社)

Work Sheets for Compact English Listening:

ワークシート方式リスニングの基本演習 (船田秀佳著 北星堂書店)

以下未定

(星が丘キャンパス)

掲示・配布物にて指示する。

英語コミュニケーション4 (Reading I)

山田久美子 横関美津紀 SUTHONS, Philip DAVIES, Alun MILLER, Samuel PUDWILL, Larry A. WILLIAMS, Allen D. 寺本史子

【授業の概要】

英文の内容を早く、正確に読みとれる能力を身につけるために、さまざまなタイプの英文を多読・速読する。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、英文の内容を早く、正確に読みとれるようになることがこの授業の目標である。具体的には、1分あたり150語以上のスピードで英文を読み、英語を日本語に訳すのではなく、英語を英語として読み、分からない単語があっても前後の文脈から意味を推測し、パラグラフごとの要点を把握するための訓練を行う。速読の訓練には、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー)のSpeed Reading機能も活用する。授業は以下の内容で進める。

1. 社会・経済、世界の情報、自然科学、文化、広告文などの実用的な英文などさまざまな分野の英文の読解
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

(長久手キャンパス)

Exploring Cultural Issues: Practice in the TOEIC Test Format

(異文化で学ぶTOEICテスト総合演習) (清水義和著 成美堂)

5 Minute Quizzes for TOEIC: Reading (TOEICのリーディング対策)

(木村恒夫他著 マクラン ランゲージハウス)

以下未定

(星が丘キャンパス)

掲示・配布物にて指示する。

英語コミュニケーション5 (TOEIC II)

DYCUS, David C. JOLLY, James A. SUTHONS, Philip GREENE, Scott R. DAVIES, Alun HARRIS, Richard S. MILLER, Samuel REINTSMA, Sharell WILLIAMS, Allen D. SMITH, September 鈴木哲至 松本一喜 磯村香里

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての発展的な能力を身につけ、英語の総合力を高めることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) の「スタンダードコース」を活用して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 「スタンダードコース」の「レベル診断テスト」の受験 (学生の習熟度にきめ細かく対応するため)
2. 受講生による演習問題への解答
3. 授業担当者による問題解説
4. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
5. 確認テストの実施

「スタンダードコース」のうち、「リスニング力強化コース」(50ユニット)と「リーディング力強化コース」(50ユニット)の全100ユニットを修了させることが目標である。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

掲示・配布物にて指示する。

英語コミュニケーション7 (Oral Communication II)

NORRIS, Harry T. LONG, Jonathan E.B. JOLLY, James A. SUTHONS, Philip DAVIES, Alun CAMERON, Leona R. HARRIS, Richard S. MILLER, Samuel REINTSMA, Sharell WILLIAMS, Allen D. SMITH, September

【Course Content】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の応用的な力を身に付ける。

This pre-intermediate course, aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and roll plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

【Schedule】

Topics will include such things as: Leisure and Recreation, The Weather, Advertising, Commuting and Transportation, Banking and Shopping.

【Assessment】

- 25% Attendance
- 25% Homework
- 50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション6 (Oral Communication I)

DYCUS, David C. SUTHONS, Philip GREENE, Scott R. DAVIES, Alun HARRIS, Richard S. MILLER, Samuel PUDWILL, Larry A. REINTSMA, Sharell WILLIAMS, Allen D. SMITH, September LACEY, Charles F. DUNKLEY, Daniel GAFFNEY, Sean D.

【Course Content】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の基礎的な力を身に付ける。

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and roll plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

【Schedule】

Topics will include such things as: Office Conversations, Travel Situations, Talking about Occupations, On the Telephone, Eating out and other TOEIC type situational conversations.

【Assessment】

- 25% Attendance
- 25% Homework
- 50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション8 (Reading II)

DYCUS, David C. 石橋千鶴子 横関美津紀 SUTHONS, Philip CAMERON, Leona R. WILLIAMS, Allen D. 岡瀬欣英 村上洋子 天野純子 中村栄造 鈴木哲至 山田久美子

【授業の概要】

さまざまなタイプの英文の内容を正しく把握できるように、英文精読のトレーニングを行う。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、目的に応じた英文の読み方があることを知り、ある程度のまとまった長さの英文を読みとれるようになることがこの授業の目標である。長い文章は、全体のテーマに行き着くまでに、いくつかのパラグラフが組み合わされてできている。このため、英文の内容を正しく把握するためには、パラグラフごとの要点を把握し、異なるパラグラフが論理的にどのような関係にあるのか、筆者の主張・論点・メッセージは何かを理解する必要がある。授業は以下の内容で進める。

1. 長文の大意把握
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

掲示・配布物にて指示する。

言葉とコミュニケーション

野口朋香

【授業の概要】

他者とのコミュニケーションでは、多くのメッセージがやりとりされており、それらのメッセージをどう発信し、どう受け止めるかは、それぞれの人の社会的・文化的背景と大きく結びついています。本講義では、コミュニケーションにおける「言葉」に焦点を絞り、私たちがどのように言葉を用いながらコミュニケーションを行っているのかを考察していきます。

【授業計画】

ことばとは？言語・社会・文化的側面からの考察
子供の言語習得とコミュニケーション
対人関係と会話
談話分析と会話のスタイル
対人関係から見た会話のスタイル
言語・非言語コミュニケーション
サイバーコミュニケーションにおける「ことば」の役割

【評価方法】

授業参加および試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布

応用言語学概論

松本青也

【授業の概要】

応用言語学の主な研究分野について、最新の研究成果を概観する。特に外国語学習に関連のある第二言語習得理論と、母語である日本語の認識を深める日英対照言語学、更に外国語学習の意義を考える社会言語学について詳しく考察する。

【授業計画】

1. 応用言語学とは
2. 心理言語学
- 3～5. 第二言語習得理論
- 6～12. 日英対照言語学
- 13～14. 社会言語学
15. まとめ

【評価方法】

レポート、学習態度、出席状況による総合評価。

【テキスト】

自作教材

コミュニケーション入門

野口朋香

【授業の概要】

本講義では、コミュニケーションの基礎概念を学びながら、コミュニケーションの色々な形態について考察します。私たちの身近に起こっている具体例を挙げながら、コミュニケーション全般に対する理解を深めることを目的とします。

【授業計画】

コミュニケーションとは？
家族内におけるコミュニケーション
男女間におけるコミュニケーション
組織内におけるコミュニケーション
異文化間コミュニケーション
対人コンフリクト
コミュニケーション・スキル（アクティブ・リスニング）
交渉・説得

【評価方法】

授業参加および試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布

English Interaction I

MOLDEN, Danny T. McGEE, Jennifer J. GIBSON, Mark WRINGER, Paul DAVIES, Alun

【Course Content】

概念、機能、状況など、様々なレベルでの話し言葉としての英語への導入。学生は英語を使用してお互いにやり取りしながら、基本的な会話に焦点を絞って多様な表現を学ぶ。

This course aims to help students interact in English. The focus of the course will be on English as it is used in real, daily interactions. Speaking and listening skills will be stressed.

【Schedule】

The course will cover topics dealing with actual interactions such as:

1. Greetings
2. Small talk
3. Social encounters.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, homework and quizzes.

【Textbooks】

A text may be assigned on the first day of the course.

Cyber-English I

McGEE, Jennifer J.

【Course Content】

Eメールやメーリングリスト、さらにリアルタイムなチャットなどによる、コンピュータを介しての英語コミュニケーションを実際に経験する。お互い同士の英語によるやり取りも活動に含めながら、インターネットの歴史と仕組みにも触れる。

【Schedule】

1. Introduction to the computers
2. Introduction to the Internet
3. Web pages and search engines
4. Email keypals
5. Blogs and Diaries

【Assessment】

Assessment will be based on classroom attendance, effort, and completion of assignments.

【Textbooks】

An English-language textbook may assigned.

中国語読解 I

馮富榮 杜英起 陳惠貞 劉乃華

【授業の概要】

主として、「是」による判断文、形容詞による描写文、動詞による叙述文と存在文などを中心にして説明していく。いわゆる中国語の入門編にあたる講義である。

【授業計画】

学生の中国語を読んで理解する力を養成することを目的としているので、中国の学校、社会、経済及び文化習慣などを紹介する多くの楽しい話題を提供する。説明の重点を日・中両言語の違いに置き、興味深く読めるか否か、そして知識性が高いか否かという二つの要素を配慮に入れながら作ったオリジナルの教材である。その教材をホームページにも載せているので、自宅や大学のパソコン自習室で自分の好きな時間に発音の練習や宿題をすることができる。宿題の結果がメールで先生の所に届くようになっている。授業の具体的な内容は、主として下記の通りである。

1. 我是学生
2. 春天很暖和
3. 我家在名古屋
4. 铃木早晨七点起床
5. 他们打排球了
6. 日本人和中国人
7. 田中会游泳
8. 铃木和佐藤

授業は、2回で1つの話題をするように展開される予定である。単語や本文の発音を徹底的に指導し、立派な発音を身に付けられるように期待している。

【評価方法】

毎回10点満点の単語テストを行い、その成績と出席状況及び平日の宿題の完成状況によって、総合的に判断する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

メディア教材【楽しい中国語読解入門】(凱希メディアサービス発売)

中国語入門

馮富榮 杜英起 陳惠貞 劉乃華

【授業の概要】

中国語の漢字、発音、文の構成規則などにおける中国語全体の特徴について重点的に説明する。また日本語と中国語の比較をしながら、両言語の相違による中国語の学習の困難点を探る。

【授業計画】

本講義では、主として、中国語能力の基礎作りを力を入れる。中国語の発音の基礎のみでなく、中国語コミュニケーションに使われている基礎的な語彙、基礎的な文型を講義する。「中国語読解入門I」と同じように、自作教材を使用するが、学生たちの置かれている環境や、趣味などを考慮して作られたものである。さらに、教材をホームページに作ったので、授業のみでなく、授業以外の時間でも、自宅や大学のパソコン自習室などを利用して、発音の練習や宿題の提出ができる。授業は、下記のように展開される。

1. 日本語の発音との違いによる中国語の発音の難点を詳しく説明し、その難点を克服する方法を提示する。学生の一人一人が立派な発音を身に付けることができるように、発音を徹底的に訓練する。
2. 中国語表現の基本的、尚且つ重要な文型を中心にして説明する。習った単語や基本文型の使用練習を繰り返して行う。よって中国語の実際運用能力を高め、中国語の基礎を固める。
3. 日本語の基本文型との違いを比較することによって、中国語の基本文型への理解を深め、中国語表現の特色を掴める。
4. 本文の日本語訳を見ながら、中国語を言うことができる訓練をする。
5. 練習問題を宿題に出し、宿題に出た問題点について説明をする。

【評価方法】

毎回10点満点の単語テストを行い、その成績と出席状況及び平日の宿題の完成状況を期末テストに加味して、総合的に判断する。

【テキスト】

メディア教材【楽しい中国語入門】(凱希メディアサービス発売)

【参考文献・資料】

初級漢語課本 第1冊と第2冊(北京語言学院出版社)

中国語作文 I

馮富榮 杜英起 陳惠貞

【授業の概要】

中国語の学習者にとって、読んで理解するだけでなく、自分で中国語が書けることも必要である。ゆえに、本講義では、作文の練習を反復して行う。よって、中国語に関する基礎的な文法知識と基本的な語彙の使い方をマスターする。

【授業計画】

中国語は、格助詞などもなく、述語の語尾変化もない。中国語を作文する時、語彙を並べれば、それだけで文になる。ゆえに、中国語の作文をするとき、一番大切なことは語彙の並べ順序である。ゆえに、この授業では、中国語の語彙の並べ順序と並べる時のコツを徹底的に説明する。語学の力は作文にあると言われるように、この授業に出れば中国語の力を一段と高めることが期待できよう。授業の具体的な内容は、主として下記の通りである。

1. 曜日の言い方。
2. 天気について。
3. 家庭の紹介。
4. 自己紹介
5. 愛知淑徳大学の紹介
6. 四季について(1)
7. 公園。

授業は、2回で1つの話題をするように展開される予定である。また教材をホームページに載せるので、自宅や大学のパソコン自習室などを利用して発音や作文の練習ができる。宿題もすべてメールで提出する。本講義を履修することによって、中国語の実力が一段と高まることを期待している。

【評価方法】

平常点出席状況及び平日の宿題の提出状況などを加味して、総合的に判断する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

メディア教材「楽しい中国語作文入門」(凱希メディアサービス発売)

中国語会話 I

馮 富 榮 杜 英 起 陳 惠 貞

【授業の概要】

自己紹介、初対面の挨拶、家庭で交わされている家族の間での基本的な挨拶、また友達同士でよく使われている基本的な会話、要するに中国語会話の基本を中心に説明する。会話の練習をすると同時に、発音の徹底的な指導を行う。

【授業計画】

以下のステップを踏んで、授業を展開する予定である。

1. まず常用表現について、統語論と語用論の両方から説明する。つまり文法現象のみでなく、中国語の表現習慣と日本語の表現習慣の違いについても説明を加える。
2. 読む練習を繰り返して行う。初歩から正しい発音を身につけることが極めて大切であるので、そのための徹底的な訓練を行う。
3. 本文の内容をめぐって学生と中国語で会話をする。
4. 単語のリストを配って、置き換え練習などをする。よって、学生たちの会話の応用能力を高める。
5. 本文の内容と関連する実際の場面を設定し、その場面で行われる会話を学生同士で練習する。

この授業では、本文の暗記ではなく、中国語の生きている会話表現を身につけることができるように工夫がなされている。しかもみんなで楽しく中国語の会話ができるような授業としてデザインがされている。また教材をホームページに載せるので、自宅や大学のパソコン自習室などを利用して発音や会話と聴解の練習ができる。また宿題もすべてメールで提出する。要するに、この授業を履修することによって、中国語の学習に興味を持ち、中国人と簡単な会話ができるように期待している。

【評価方法】

毎回10点満点の単語テストを実施し、その成績に出席状況及び平日の宿題の提出状況などを加味して、総合的に判断する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

メディア教材「楽しい中国語会話」(凱希メディアサービス発売)

日本語論 I

窪田守弘

【授業の概要】

日本語とはどのような言語かについて、その系統、周辺の言語との関係、また日本語の位置などを概観する。そして、特に日本人の話言葉と書き言葉の違い、地域による違い、性別による違い、階層による違いなどをまとめ、日本人がどのような言語生活を送っているかについて、資料やデータを活用しながら言及していく。

【授業計画】

日本語には多くの特徴や面白さがあり、それが現代の日本人の言語運用にどのように反映されているかを解明する。そして日本語の構造を中心として生きた日本語の諸相について、具体的な例をあげながら考えていく。本講義は、日本語と外国語との比較も随時行ない、広い視野より日本語を考え、発音・語彙・文法・文体などの領域が概観できるように配慮する。主な内容は次のようになっている。

(日本語の世界に触れる)

1. 日本語の特徴
2. 発音からみた日本語
3. 語彙からみた日本語
4. 表記法からみた日本語
5. 文法からみた日本語
6. 方言(名古屋弁)の魅力
7. 新しい日本語の特徴
8. 日本人の日本語表現

【評価方法】

学期末の試験結果、提出レポート、出席状況などで総合的に判断する。

【テキスト】

日本語(上)(金田一春彦著 岩波新書 660円+税)

中国語情報処理(2004年度以降入学者対象)

葛 漢 彬

【授業の概要】

本講義では、主として(1)日本語Windows環境で如何にして中国語ワープロを作るか;(2)如何にして中国語のメールを受送信するか;(3)如何にして中国語のホームページを利用するか3点に力を入れて説明する予定である。要するに、本講義では、中国語の語学力とマルチIT知識を活用できる人材の育成とメディアによる中国語授業を実施するための基礎作りを目的としている。

【授業計画】

1. パソコン操作の専門用語の日中対照
2. パソコンの基本設定
日本語と中国語IMEの設定
中国語のフォントのインストール
多言語処理の時の条件
3. Wordによる文章の作成
中国語の入力、日本語と中国語混在文の入力、印刷、文字化け時の対策、フォントの指定
4. 電子メール
エンコードの指定、中国語メールの送受信、
5. 通信ネットワーク
インターネットの情報収集
多言語のホームページの作成(HTML、CGI、ASP、PHP、UTF-8)
TCP/IP、NetBeui、FTP等によるデータ共有

【評価方法】

出席状況、解答能力及び期末テストで総合して評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の時、指示する。

日本語表現演習 I

山内啓介 窪田守弘

【授業の概要】

この演習は、学生の書いた小論文を毎回添削することに大きな特徴がある。それは、日本人として日本語の文章の基本的な表現力を身につけることを目標としているからである。そのために、学生は新聞や週刊誌などを主な教材として、毎回提示されたテーマに従って自分の考えをまとめ、書く練習を繰り返して文章の完成を図る。そして、それを他学生の前で発表して、お互いがディスカッションを通じてテーマの内容を深めていくようにする。

【授業計画】

- 1 演習ガイダンス 自己紹介文の作成 350字
- 2 作文課題 大学に入学して 800字
- 3 小論文 最近のニュースから 1200字
- 4 要約を作る 200字文に要約してみる<1>
- 5 要約を作る 200字文に要約してみる<2>
- 6 要旨を作る 100字文にしてみる<3>
- 7 要旨を作る 100字文にしてみる<4>
- 8 小論文 政治と経済と 2000字
- 9 小論文 社会と国際と 2000字
- 10 小論文 教育と専門と 2000字
- 11 ディスカッション テーマについて
- 12 ディスカッション 文章について
- 13 ディスカッション 論文について
- 14 論文課題 愛知淑徳大学の未来像について

講義は第1回～第5回を窪田、第6回～第10回を山内、第11回～第14回をそれぞれがクラスにわかれて担当する。作文練習はクラス編成をして行う。

【評価方法】

作文・小論文による。出席を重視する。

【テキスト】

文章表現法(樺島忠夫 角川選書)

【参考文献・資料】

授業中に指示する

日本語教育入門 I (2004 年度以降入学者対象)

山内啓介

【授業の概要】

日本語教育の基本的なことがらを概観し、日本語学習者、日本語教師、日本語教材、日本語教育と能力試験などについて講義をおこなう。

【授業計画】

日本語教育とは日本語を学習する人たちのための教育であった。そして日本語を言語のひとつにおき、外国語としての日本語学び研究する人たちの語学教育として展開してきた。いまは日本語を外国語として学習する第2言語教育をふくめて、コミュニケーションのための語学教育科目、ひろく国語教育科目との関連をもちながら日本語教育を捉えようとしている。

次の項について入門のための概説をおこなう。

- 1 日本語教育とは
- 2 日本語教育の学習者
- 3 日本語教師の資格と役割
- 4 日本語教材と教科書
- 5 日本語教育と能力試験
- 6 コミュニケーションのための日本語

【評価方法】

出席度30%、期末テスト60%、クイズなどレポート提出10%で評価する。

【テキスト】

日本語教育入門 (山内啓介) 開講時に配布する。

【参考文献・資料】

プリント資料

English Interaction II

MOLDEN, Danny T. McGEE, Jennifer J.
WRINGER, Paul DAVIES, Alun

【Course Content】

English Interaction I の内容をもとに、引き続き話し言葉を中心に学習を深める。ここでは小グループなどの形も取り入れ、英語によるやり取りを学ぶ。

This course continues to aim to help students interact in English. The focus of the course will be on English as it is used in real, daily interactions. Speaking and listening skills will be stressed.

【Schedule】

We will cover topics dealing with actual interactions such as:

1. Show and tell
2. Social encounters

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, homework and quizzes.

【Textbooks】

A text may be assigned on the first day of the course.

English Linguistics I

CHARLEBOIS, Justin

【Course Content】

The purpose of this course is to introduce you to the field of linguistics. Students will learn how to analyze both the sound system and structure of the English language. This class will be taught mostly in English, however, translations of difficult concepts and terminology will be provided in Japanese.

【Schedule】

- phonetics (音声学)
- phonology (音韻論)
- morphology (形態論)
- syntax (統語論)
- pragmatics (語用論)

【Assessment】

Tests, Final Paper

【Textbooks】

Not required

Cyber-English II

McGEE, Jennifer J.

【Course Content】

Cyber-English I の内容を更に発展させて、アメリカの学生とのやり取りも含め、コンピュータによる海外との交信を実習する。同時にインターネットについての文献や講義も取り入れ、例えば、コンピュータによってコミュニケーションが変化するか、すべてがインターネットに依存する社会はありうるか、といった問題を考える。

【Schedule】

1. Message boards
2. Mailing lists
3. Real-time chat

【Assessment】

Assessment will be based on classroom attendance, effort, and completion of assignments.

【Textbooks】

An English-language textbook may be assigned.

中国語読解Ⅱ

馮 富榮 杜 英起 陳 惠貞 劉 乃華

【授業の概要】

基本的な文法知識と幅広い語彙の習得に力を入れて授業を進める。受講者の読解力を引き上げると同時に、中国語への勉強意欲を引き出すこともこの授業の目的である。ゆえに、興味深い読み物を教材とする。

【授業計画】

中国語読解入門Ⅱは、中国語読解入門Ⅰと同じように、学生の中国語を読んでも理解する力を養成することを目的としているが、後期の全学の共通科目の中国語HSK基礎コースの授業と協力して、翌年の5月に本学で実施するHSK基礎能力試験の3級に合格するように授業を進めていく。ゆえに、検定試験の内容を配慮に入れながら作成されたオリジナルの教材である。さらにその教材をホームページに載せているので、自宅や大学のパソコン自習室で自分の好きな時間に発音の練習や宿題をすることができる。宿題の結果がメールで先生の所に届くようになっている。授業の内容は主として下記の通りである。

1. 高橋病了
2. 见面时的习惯
3. 终于把屋子收拾干净了
4. 我被老师批评了
5. 丽丽变了
6. 今天真倒霉
7. 我该怎么办

主として部屋の掃除が嫌いなこと、先生に叱られたときのムツとした気持ち、そして女の子が年頃になると綺麗になること、またはとても運がついていないときのことなど、大学生に身近な笑話を取り入れている。

【評価方法】

毎回10点満点の単語テストを実施し、その成績に出席状況及び平日の宿題の提出状況などを加味して、総合的に判断する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

メディア教材「楽しい中国語読解入門」(凱希メディアサービス発売)

中国語作文Ⅱ

馮 富榮 杜 英起 陳 惠貞

【授業の概要】

中国語を書く力を養成することが本講義の最大の目的であるが、内容を聞いてから書くこと、図の意味を言葉で書くこと、概要の肉付けを書くこと、または文章の概要を書くこと、短文の表現を変えて別の表現にすることなど多くの方法を取り入れ、常に書く材料があるように心がけて授業を進める。

【授業計画】

中国語は、格助詞などもなく、述語の語尾変化もない。中国語を作文する時、語彙を並べれば、それだけで文になる。ゆえに、中国語の作文をするとき、一番大切なことは語彙の並べ順序である。ゆえに、この授業では、中国語の語彙の並べ順序と並べる時のコツを徹底的に説明する。語学の力は作文にあると言われているように、この授業に出れば中国語の力を一段と高めることが期待できよう。授業の具体的な内容は、主として下記の通りである。

1. 名古屋と南京の紹介
2. 趣味について語る
3. 理想について
4. 日記の書き方(1)
5. 日記の書き方(2)
6. 四季について(2)
7. 一年の大学生活を振り返って

授業は、2回で1つの話題をするように展開される予定である。また教材をホームページに載せるので、自宅や大学のパソコン自習室などを利用して発音や作文の練習ができる。宿題もすべてメールで提出する。本講義を履修することによって、中国語の実力が一段と高まることを期待している。

【評価方法】

毎回10点満点の単語テストを実施し、その成績に出席状況及び平日の宿題の提出状況などを加味して、総合的に判断する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

メディア教材「楽しい中国語作文入門」(凱希メディアサービス発売)

【参考文献・資料】

基礎漢語写作(北京語言学院出版社)

中国語会話Ⅱ

馮 富榮 杜 英起 陳 惠貞

【授業の概要】

この授業は中国語会話入門Ⅰの延長として考えている。中国人とコミュニケーションをするときの場面を教材に取り入れている。たとえば、家族や大学の紹介、趣味や専攻の紹介、そして夏休みや冬休みなどが主な素材となっている。要するに、実用性を最大限に重視し、本講義を履修することによって中国人と生きている会話ができるように期待している。

【授業計画】

以下のステップを踏んで、授業を展開する予定である。

1. まず常用表現について、統語論と語用論の両方から説明する。つまり文法現象のみでなく、中国語の表現習慣と日本語の表現習慣の違いについても説明を加える。
2. 読む練習を繰り返して行う。初歩から正しい発音を身につけることが極めて大切であるので、そのための徹底的な訓練を行う。
3. 本文の内容をめぐって学生と中国語で会話をする。
4. 単語のリストを配って、置き換え練習などをする。よって、学生たちの会話の応用能力を高める。
5. 本文の内容と関連する実際の場面を設定し、その場面で行われる会話を学生同士で練習する。

この授業では、本文の暗記ではなく、中国語の生きている会話表現を身につけることができるように工夫がなされている。しかもみんなで楽しく中国語の会話ができるような授業としてデザインがされている。また教材をホームページに載せるので、自宅や大学のパソコン自習室などを利用して発音や会話と聴解の練習ができる。また宿題もすべてメールで提出する。要するに、この授業を履修することによって、中国語の学習に興味を持ち、中国人と簡単な会話ができるように期待している。

【評価方法】

毎回10点満点の単語テストを実施し、その成績に出席状況及び平日の宿題の提出状況などを加味して、総合的に判断する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

メディア教材「楽しい中国語会話」(凱希メディアサービス発売)

日本語論Ⅱ

山内啓介

【授業の概要】

日本語についてわかりやすく解説をする。現代に共通する日本語の諸問題と歴史的な変遷をたどる言語の現象をとりあげて講義する。

【授業計画】

日本語論は共時論のアプローチと通時論の記述からなる。日本語の現象は現代を世代の約30年と見ると1970年代から今までのあいだの言葉についてのできごとを見ることになる。しかし日本語が記録され伝えられた歴史は、平仮名で書かれた日記、和歌、物語などから始まっておよそ1100年がたっている。その歴史は下って現代に連なり、わたしたちの日本語を支え、わたしたちのコミュニケーション言語として息づいている。日本語論では日本語のことばとしての基本的な知識を次の項にしたがって講義する。

- 1 日本語の歴史
- 2 日本語の研究分野
- 3 現代語とことば
- 4 日本語コミュニケーション
- 5 外国語(英語・中国語)と日本語
- 6 言葉は変化するか

【評価方法】

出席度30%、期末テスト60%、クイズ・レポート提出10%で評価する。

【テキスト】

日本語論の方法(山内啓介)講義時に配布する。

【参考文献・資料】

各出版社から出ている新書、文庫のうちから日本語に関する書を授業時に推薦する。

日本語表現演習Ⅱ

窪田守弘

【授業の概要】

文章の表現能力は、短期間では養成されにくい、少なくとも本演習では、学生が進んで自らの文章で自己表現できるようにする。従って、担当教員は、当初学生に対して小論文の書き方の様々な知識や技術を与えるにしても、最終的には学生が自身の手で自分の文章の問題点を発見し、推敲ができるような力を身につけるよう配慮する。それによって、学生が将来あらゆる分野の職業に対応できるようにする。

【授業計画】

学生は文章を書くことを苦手としているので、毎回課題を与えて考えさせ、それに対する感想レポートを原稿用紙一枚(400字)程度にまとめるようにする。教員はその感想レポートのチェックを行なって、次回の授業時にチェックポイントを説明しながら返却するようにする。このように学生は自分の書いた文章に対して、毎回教員からチェックを直接受けて、彼らは問題点を明確に把握し推敲を重ねていくようになるはずである。

本演習は、テキストを中心に新聞や週刊誌の記事、有名な小説や評論、学術論文などを補助教材として使用し、文章を徹底的に書き込むことによって、学生に真の表現力や文章力がつくことを目標としている。

1. ショート・ストーリー作成
2. 映画・演芸・文藝評論作成
3. 企画書・広告文(新聞、テレビなど)作成
4. 短編小説の創作(資料:漱石の『夢十夜』)
5. 自伝のまとめ(資料:論吉『福翁自伝』、映画『福沢諭吉』)
6. レジメの書き方(資料:論文)
7. レジメの作成(研究発表)
8. 課題文作成(レポート提出)

【評価方法】

毎回の発表、学期末のレポート、出席状況などで総合的に評価する。

【テキスト】

配布プリント

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

日本語教育入門Ⅱ(2004年度以降入学者対象)

窪田守弘

【授業の概要】

言葉は文化を映し出す鏡とよく言われている。これからの日本語教育は、日本社会で実際にうまくコミュニケーションをするために、文法・発音・語彙などの正確さだけでなく、話し手や聞き手の人間関係、状況や場面に応じた言葉の使い分けが必要である。

そこで、本講義では日本語の学習者がその構造上の知識だけではなく、それが社会・文化・生活などに深く密着しているという観点から、日本語のコミュニケーションの実態も併せて関連分野との実態も理解できるようにする。

【授業計画】

1. 話し手と聞き手の人間関係
2. 敬語の仕組みとその応用
3. 授受動詞の実態と応用
4. 標準語と方言の関係
5. コミュニケーション行動
6. 日本語と社会学
7. 日本語と心理学
8. 第二言語習得

【評価方法】

課題レポート、学期末のレポート、出席状況などで総合的に判断する。

【テキスト】

プリント配布

日本語学Ⅰ

阿部美枝子

【授業の概要】

言語の基本である音声を科学的、客観的に提示し、日本語がどのような音から構成されているかをみていく。

【授業計画】

1. 文字と音声
2. 発音のメカニズム
3. 日本語の音
4. 韻律現象
5. 単音と音素

以上の構成で主に講義の形で授業を進めるが、日本語話者としての受講者の直感、意見等も積極的に講義の中に取り入れていく。

随時、課題を出す。

【評価方法】

学期末試験、および課題を評価の対象とする。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

生成言語学入門(1999年 大修館書店)

ビジネスとコミュニケーション(2003年度以前入学者対象)

大塚英揮

【授業の概要】

ビジネスにおいて「コミュニケーション」が果たす役割、重要性について理解を深めるのが当授業の目的である。

この目的を達成するために、当授業では、(1)会社という「組織」の中で行われる個人対個人のコミュニケーション、(2)会社間でなされる企業間コミュニケーション、(3)会社対消費者でなされるコミュニケーションという3つの側面から、ビジネスとコミュニケーションの問題にアプローチしていきたい。

【授業計画】

1. 3つのコミュニケーションー組織内、組織間、対消費者
2. なぜ組織が必要なのか
3. 組織におけるコミュニケーションの必要性
4. 組織においてコミュニケーションはどんな機能を果たすか
5. 組織におけるコミュニケーションの阻害要因と対策
6. 企業間コミュニケーションとは何か
7. ケース:流通における企業間コミュニケーション
8. 企業間コミュニケーションと情報化
9. グローバル企業におけるコミュニケーション
10. 企業対消費者のコミュニケーション
11. ケース:口コミで商品をヒットさせよう!
12. 消費者との双方向コミュニケーション
13. ケース:サイバー・マーケティング
14. ビジネスとコミュニケーション
15. まとめ

【評価方法】

通常の小テスト(40%)と期末レポート(60%)にて評価します。

【テキスト】

使用しない。随時必要なときにプリントを配布します。

【参考文献・資料】

参考書は授業中に指示します。

プレゼンテーション

松田照美

【授業の概要】

一般社会人として、コミュニケーションを円滑に行なうに必要な対人接遇の在り方について、自己表現の基本技術と面談の効果的な仕方、文書などによる演出について実践的に学習する。

【授業計画】

- 第1回 プレゼンテーションを学ぶにあたって
- 第2回 ノンバーバル・コミュニケーション (1)
- 第3回 ノンバーバル・コミュニケーション (2)
- 第4回 効果的な言語表現 (1)
- 第5回 効果的な言語表現 (2)
- 第6回 対人接遇における印象管理
- 第7回 対人接遇のスキル-自己紹介-
- 第8回 コミュニケーションにおける資料提示の技術
- 第9回 対人接遇としてのプレゼンテーション
- 第10回 3P分析と戦略
- 第11回 企画と構成
- 第12回 プレゼンテーションの演出法
- 第13回 ビジネスプレゼンテーションの実践

【評価方法】

出席状況・小テスト・実習課題などによって総合的に評価する。

【テキスト】

プレゼンテーション (関根健夫監修 一橋出版)

【参考文献・資料】

パーフェクト・プレゼンテーション (八幡紘芦史・生産性出版)

異文化トレーニング

寺本史子

【授業の概要】

グローバル化の進む現代において異文化コミュニケーションの重要性は明白である。このコースでは、異文化コミュニケーション関連の基本的な語彙や概念を理解するとともに異文化理解のために必要な知識・態度について考察する。さまざまな資料の分析やコミュニケーションワークを通して適切な異文化コミュニケーション能力を養成する。

【授業計画】

1. なぜ今異文化コミュニケーションか
2. 文化・異文化とは
3. コミュニケーションのメカニズム
4. コミュニケーション・スキル
5. 言葉によるコミュニケーション
6. 言葉のないメッセージ
7. 見えない文化
8. 異文化のとらえ方・接し方
9. 異文化との出会い
10. 世界に見る異文化コミュニケーション
11. コンフリクト・マネジメント
12. 多文化への道
13. 学期末試験

【評価方法】

レスポンスペーパー、レポート、学期末試験の成績、出席状況などから総合的に判断する。

【テキスト】

異文化トレーニング (八代京子他著 三修社)
必要な関連資料については適宜授業中に配布

【参考文献・資料】

異文化コミュニケーション・ワークブック (八代京子他著 三修社)
日本の常識はどこまで通じるか: 異文化交流で失敗しないために
(ジョリー・幸子・小池弘道著 風媒社)
Culture, Communication, and Conflict
(Gary R. Weaver編 Simon・Schuster Publishing)

異文化コミュニケーション

高井次郎

【授業の概要】

異文化の相手との相互作用を円滑に運ぶために必要な知識、態度および対人行動技術について、言語および非言語行動を中心に考察する。日本的対人行動パターンの自覚を通じて、異文化コミュニケーションの障壁となり得る要因を考察する。

【授業計画】

1. コミュニケーションの定義
2. 文化とコミュニケーション
3. 言語コミュニケーション
4. 言語コミュニケーション
5. 非言語コミュニケーション
6. 非言語コミュニケーション
7. 対人認知
8. ステレオタイプ
9. 人種偏見
10. 人種差別
11. 異文化間能力
12. 異文化間トレーニング
13. コミュニケーション研究
14. コミュニケーション理論
15. 期末試験

【評価方法】

出席および期末試験をもって成績の評価を実施する。

【テキスト】

未定

国際交流論

榎田勝利

【授業の概要】

経済大国となった日本は、国際社会の有力な一員として責任ある行動をとることが求められる。近年の「国際化」に伴い、政治、経済、学術、芸術、スポーツなどの分野でも、盛んに国際交流が行われているが、果たして真の交流が実現しているのだろうか。主に日本に滞在する多くの外国人との異文化接触を通しての国際交流のありかたについて論ずる。

【授業計画】

1. ガイダンス、国際交流に関わる用語解説
2. 国際交流活動とは
3. 国際交流活動の領域
 - (1) 海外との交流
 - ・姉妹都市交流
 - ・青少年交流
 - ・文化・芸術交流
 - ・NGOの国際協力活動
 - ・自治体の国際協力活動
 - (2) 多文化共生
 - ・自治体の外国籍住民
 - ・NPOと外国籍住民
 - (3) 異文化理解
 - ・国際理解セミナー
 - ・地球市民教育
4. 国際文化交流と草の根交流
5. 国際交流活動の新展開
 - ・事業評価
 - ・IT戦略

【評価方法】

課題レポートおよび出席状況等により評価する。

【テキスト】

国際交流・協力活動入門講座I「草の根の国際交流と国際協力」
(毛受敏弘編著 明石書店)

メディア論

遠藤雄久

【授業の概要】

本講義の目的は、マルチメディア時代といわれる現代のメディア状況をよりよくとらえるために、歴史社会的視点に立ってメディアと人間・社会の関わり方を振り返って見ようというものである。十九世紀後半に出現した電信、電話から始めテレビジョンそしてパーソナルコンピュータに至る電子メディアの発展の過程を、人間や社会がどのようにメディアをデザインしてきたかという観点からたどっていく。

【授業計画】

- 第1回 総論
- 第2回 電信技術の実用化
- 第3回 電話の発明の父はだれ？
- 第4回 ラジオのような電話
- 第5回 ラジオ放送の開始
- 第6回 写真技術の開発
- 第7回 映画の誕生
- 第8回 ハリウッド映画の成立
- 第9回 映画ソフトの多様化（1）
- 第10回 映画ソフトの多様化（2）
- 第11回 テレビ放送の誕生と発展
- 第12回 メディアの境界領域
- 第13回 まとめ

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績を総合判断する

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

異文化教育論

霜田一敏

【授業の概要】

日本においても国際化が進展し、さまざまな国の人たちが急速に増大している。私たちは益々異なった文化と言語を持った人たちと共存して生きていかなければならない。世界の人々との平和的な交流を図る上で、異文化理解はこれからの教育の重要な問題である。この問題を国際理解教育の観点から具体的に論究する。

【授業計画】

異文化とは何かを自らが体験した個人内異文化状況をもとに下記の項目で学生参加で行う。

1. 大学生活の異文化状況－中高との対比－
2. 一人暮らしの異文化状況
3. 方言と風習の違い
4. 地域生活の違い
5. アルバイトの世界の異文化状況
6. 世代間・家族間の異文化状況
7. いじめの世界・ひきこもりの世界、障害者の世界
8. インターネットの世界（メールや携帯電話の姿が見えない世界）

【評価方法】

毎回行うミニテストと授業への参加度、期末の定期テストで総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。その都度プリント資料を配布する。

【参考文献・資料】

講義のなかで紹介する。

国際関係論

瀬戸裕之

【授業の概要】

本講義においては、現代の国際社会と日本の関係について基本的理解を深めることを目的とする。国際関係を分析していくために必要な概念や理論、冷戦、グローバル化および地域統合など国際関係の基本構造や諸課題を学んだ後、第二次世界大戦、戦後安全保障、国際協力の諸側面から日本と国際社会の間の歴史的關係と現在の課題を考察する。

【授業計画】

1. 国際関係の基本概念
2. 国際関係理論
3. 冷戦構造の発展と終焉
4. 国際経済と地域統合
5. 核兵器と安全保障
6. 南北問題と開発
7. 地球環境問題
8. 地域紛争、テロリズム
9. 第二次世界大戦と日本
10. 戦後日本と安全保障
11. 日本の国際協力
12. アジア太平洋のなかの日本

【評価方法】

成績評価は、期末試験（筆記）により行う。出欠は考慮しないが、中間試験を受験しないものは、期末試験の受験資格を失う。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。

【参考文献・資料】

国際関係学講義 新版（原彬久編 有斐閣）

比較教養論

柳澤幾美

【授業の概要】

「教養」に関する各国の思想史を概説する。このクラスでは特に「結婚」についての各国の思想史を紹介する。諸国における結婚のありようを見渡し、その文化の比較を行う。

【授業計画】

1. イントロダクション（統計上の各国の比較）
2. アメリカにおける結婚
3. 中国の婚姻
4. 韓国における結婚
5. フランスの結婚
6. 移民たちの結婚－アメリカにおける「写真結婚」観

【評価方法】

レポート40%、試験60%にて評価する。

【テキスト】

特に使用しない。

【参考文献・資料】

その都度紹介する。

比較文化論Ⅰ（日・米）

松本青也

【授業の概要】

集団が共有する価値観や規範の体系としての文化について、日本とアメリカを比較対照して、それぞれの文化の特質を浮き彫りにするとともに、異文化理解を深める方法についても考察する。

【授業計画】

アメリカのテレビ番組や新聞雑誌の分析を加えながら講義と意見交換で進行するこの授業は、いわば自国文化に縛られた自分の姿を映し出す鏡。覗いてみると、もっと自由に伸びやかな生き方が目の前に広がります。

1. 文化論
- 2～9. 文化変形規則（CTR）
10. システムとしてのCTR
11. 研究対象としてのCTR
12. 日本語の衝突とCTR
13. CTRと学校英語教育
14. これからの日米文化

【評価方法】

レポート、学習態度、出席状況による総合評価

【テキスト】

日米文化の特質（松本青也 研究社）

比較文化論Ⅲ（日・アジア）

馮 富榮 尹 大辰

【授業の概要】

（概要）アジア諸国の中でも、特に日本と深い関わりのある中国と韓国を取り上げ、歴史認識や政治までを含めた広範囲な文化を日本と比較する。

（オムニバス方式）

（馮富榮教授）日本と中国の文化・習慣の違いについて説明する。主として、両国の食文化、風俗習慣、建築文化、漢字文化、交流文化及びお茶とお酒の文化などをテーマにし、講義し、比較する。

（尹大辰兼任講師）「日韓両国の歴史認識への接近」をテーマに韓国近代史に焦点をあて、まず自らを点検し、共有する歴史認識の確立をめざし、今後のあるべき姿を模索していこうとするものである。

【授業計画】

学生のアジア諸国に対する真の理解を深めることを目的としているので、中国や韓国の文化習慣を多面的に紹介する。具体的に以下の内容となる。

1. 中国文化の原点である“天人合一”について
2. 何千年の歴史を持つ中国の漢字文化
3. 世界でも大変評判になっている中国の食文化
4. 中国の祝日と風俗習慣
5. 中国の古都の紹介
6. 中国の文化習慣がいかにして中国人の日本語学習に影響を及ぼすか
7. 中国に関する全体的なまとめ
8. 日本と朝鮮半島との文化交流（古代）
9. 日本と朝鮮半島との文化交流（中世）
10. 日本と朝鮮半島との文化交流（近代）
11. 朝鮮半島の自然と文化・風土
12. 韓国の家族制度と姓・本貫
13. 韓国の社会生活から見た文化比較

【評価方法】

レポート及び平日の出席状況などを考えて、総合的に判断する。

【テキスト】

自作教材

【参考文献・資料】

金尙基監修図説「韓国の歴史」（河出書房新社）

比較文化論Ⅱ（日・欧）

TODOROVIC, Thomas

【授業の概要】

西ヨーロッパの主な諸国（フランス、イギリス、ドイツ、イタリア、スペイン）と日本におけるさまざまな文化様相の状況と問題点に関する最近のデータを利用して比較を行ない、ヨーロッパ文化への理解と関心を深める。

【授業計画】

- 1) 生活様式と生活枠
- 2) 人口問題
- 3) 消費社会文化
- 4) 暴力、犯罪といじめの問題
- 5) ヨーロッパの匂いと味、しぐさと音
- 6) 家族制度
- 7) フランス人の結婚
- 8) 自由時間
- 9) 教育制度
- 10) メディア
- 11) 環境問題
- 12) 地域文化

【評価方法】

テストによる評価する。

【テキスト】

使用せず。

比較文化論Ⅳ（日・中東）

澤江史子

【授業の概要】

現代世界に生きる私たちにとって理解が不可欠となっている中東イスラーム世界について、文明、歴史、国際政治、宗教という多様な側面から理解することを目指す。事例としてはトルコを中心に取り上げる。

【授業計画】

1. 導入
 - * 「中東」とオリエンタリズムの問題
 - * 中東の文化とアイデンティティの重層性
2. 近世から近代へ
 - * オスマン帝国における近代化の歴史と問題
 - * 明治期の日本とオスマン帝国
3. イスラーム世界と国際政治
 - * イスラーム世界とヨーロッパ
 - * 冷戦後のイスラーム世界
 - * 「原理主義」と「文明の衝突」論
4. イスラーム復興運動
 - * イスラームとは何か
 - * イスラーム復興運動とは何か

【評価方法】

授業中の課題および試験によって評価する。

【参考文献・資料】

オスマン帝国—イスラーム世界の「柔らかな専制」
（鈴木董 講談社現代新書 1992年）
イスラームとは何か（小杉泰 講談社現代新書 1994年）
イスラームの日常世界（片倉もとこ 岩波新書 1991年）
その他、授業中に適宜指示する。

社会言語学 I

DONAHUE, Ray T.

【Course Content】

An entrance into the interface of language, communication and community. A major goal is to develop an understanding of concepts and principles by which to make informed decisions about sociocultural matters, such as the relation between language, dialects, and accents; bilingualism and society; ethnicity and communication style; gender and language; language and equality, and so on.

【Schedule】

Tentatively, course content includes these major topics (the instructor reserves the right to make changes in the course where appropriate):

- Course Introduction
- Language, Society, and Ethnicity
- Concepts of Culture
- Mind, Mass Media and Culture
- Prisms of Perception
- Cross-Cultural Applications

【Assessment】

Assessment is based on class participation, assignments, and test performance.

社会言語学 II

DONAHUE, Ray T.

【Course Content】

A further entrance into the interface of language, communication and community. This course is a continuation of 社会言語学 I. A major goal is to develop an understanding of concepts and principles by which to make informed decisions about sociocultural matters, such as the relation between language, dialects, and accents; bilingualism and society; ethnicity and communication style; gender and language; language and equality, and so on.

【Schedule】

Tentatively, course content includes these major topics (the instructor reserves the right to make changes in the course where appropriate):

- Multicultural Identities
- Linguistic Profiling
- Ethnicity, Power, and Society
- Bilingual Dilemmas
- Creativity and Culture

【Assessment】

Assessment is based on class participation, assignments, and test performance.

英語科教育法 I

松本青也

【授業の概要】

英語教育法をテーマとして、目的論、技能論、方法論を中心に、日本における英語教育の歴史、諸外国の言語政策と英語教育、マルチメディアを活用した英語教育、などの話題を含めて考察する。

【授業計画】

1. 目的論：問題提起。コミュニケーション能力
2. 学習指導要領。学校英語教育の目標
3. 異文化と国際理解
4. 機能論：Sound
5. Listening
6. Speaking
7. Reading & Writing
8. 方法論：教授法の歴史（日本）
9. 教授法の歴史（外国）
10. 外国語教授理論
11. 新しい教授法
12. マルチメディア利用の可能性と課題
13. 〈模擬授業〉指導過程の構成
14. まとめ：これからの英語教育
15. テスト

【評価方法】

テストの成績、学習態度、出席状況等による総合評価。

【テキスト】

未定。

英語科教育法 II (2003年度以降入学者対象)

高橋美由紀

【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って実践的コミュニケーション能力の基礎を育成するために、特に入門期でどのような指導をすればいいかを中心に教育方法を考える。授業は、入門期の英語教育の意義や効果的な指導法、授業計画、指導案の書き方、教材・教具研究などの講義と、入門期の学習者が楽しめる英語教育を行うためのワークショップから構成される。

【授業計画】

1. オリエンテーション：入門期の英語教員の資質について
2. 入門期の英語教育の現状と課題・レベルや経験年数が異なる学習者の指導について
3. 入門期の英語教育の目的と意義・入門期の学習者の効果的な教授法
4. 音声重視の英語教育・入門期の学習者と文字教育
5. 歌やゲームを利用した英語教育
6. 入門期の英語教育の視覚教材・聴覚教材研究
7. 入門期の英語教育のコンピュータ教材やビデオ教材の研究
8. ALTとのTT授業について・テキストと授業計画、指導案の書き方について
9. 模擬授業の具体例と指導案（その1）
10. 模擬授業の具体例と指導案（その2）
11. 模擬授業
12. 模擬授業
13. 模擬授業
14. 模擬授業
15. 模擬授業の反省と今後の課題

【評価方法】

テスト、出席状況、授業態度
課題レポート

【テキスト】

小学校英語活動実践の手引き（文部科学省 開隆堂出版）
Sunshine Kids Book 1（山岡多美子・高橋美由紀 開隆堂出版）
Sunshine Kids Book 2（高橋美由紀・山岡多美子 開隆堂出版）
子どもに英語おしえたい（アルク出版）
その他、絵本、カセット、CD、文献等は授業内に紹介する。

English Linguistics II

CHARLEBOIS, Justin

【Course Content】

The main purpose of this course is to introduce students to the field of sociolinguistics (社会言語学). The knowledge acquired from English Linguistics I will aid students as we look at the relationship between language and society in this course.

【Schedule】

Linguistics and Sociolinguistics (言語学と社会言語学)
Speech Act Theory (言語行動論)
Language Variation (言語のバリエーション)
Language and Gender (言語とジェンダ)
Language and Identity (言語とアイデンティティ)
Politeness (ポライトネス)
Intercultural Communication (異文化コミュニケーション)
Discourse Analysis (談話分析)

【Assessment】

Midterm, Final Paper

【Textbooks】

社会言語学入門 (東照二 研究社 1997)

【Reference】

社会言語学への招待 (田中春美 1996 ミネルヴァ)
Sociolinguistics: A Reader and Coursebook.
(Coupland, N. and Jaworski, A. (Eds.). (1996). London: Macmillan)
Sociolinguistics. (Spolsky, B. (1998). Oxford: Oxford)

Reading and Discussion I

MOLDEN, Danny T. WRINGER, Paul GIBSON, Mark
DAVIES, Alun METCALF, Nicholas F.

【Course Content】

幅広いジャンルにわたる多様な英語作品を読んで英語で話し合い、更に各自が感じた疑問と教師によって与えられた課題について英語による議論を深める。

This class will introduce students to a discussion centered classroom.

In this class, students will be asked to read a variety of articles (covering a range of topics from current events to fiction to language theory). The emphasis will be placed on students asking questions and then talking to each other about the readings.

【Schedule】

Each week, students will be expected have read the assigned article, attend class with questions, and be prepared to talk about the article.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation in the discussions, and homework.

【Textbooks】

A textbook has not yet been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

Cyber-English III

McGEE, Jennifer J.

【Course Content】

コンピュータを介してのコミュニケーションの多様な側面や人間関係に与える影響について文献を読んだり、研究発表をしながら、インターネットを利用した多様な交信を経験する。

【Schedule】

Topics to be covered will include:

1. What makes a good/bad web page?
2. What content do you want on your web page?
3. How do you want your web page to look?
4. How do you create a web page?

【Assessment】

Students will have to write papers analyzing various web pages' strengths and weakness. By the end of the class, students will create their own English-language web page.

【Textbooks】

An English-language textbook may be assigned.

Reading and Discussion II

MOLDEN, Danny T. WRINGER, Paul GIBSON, Mark
DAVIES, Alun METCALF, Nicholas F.

【Course Content】

文化比較の視点から異文化でのライフスタイルや価値観に触れることができる題材を中心に読み、ペアー、あるいはグループでの議論を通して自分の意見を十分に表明する。

This class will introduce students to a discussion centered classroom. In this class, students will be asked to read a variety of articles (covering a range of topics from current events to fiction to language theory). The emphasis will be placed on students asking questions and then talking to each other about the readings.

【Schedule】

Each week, students will be expected have read the assigned article, attend class with questions, and be prepared to talk about the article.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation in the discussions, and homework.

【Textbooks】

A textbook has not yet been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

English Literature I

EASLEY, Keith

【Course Content】

Romanticism (1789-1832)

The course will show something of the literary and cultural importance of Romantic poetry, both in its own time and today. Key themes will be Romantic individualism, beauty and nature. Selections will be made from Keats, Byron, Shelley, Wordsworth, Coleridge and Blake.

【Schedule】

Weeks 1 - 2 Key themes, then and today

Weeks 3 - 6 Individual writers

Weeks 7 Key themes

Weeks 8 - 11 Individual writers

Week 12 Review

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, coursework and final examination.

Depending on the size of the class, there may be tests during the semester to decide whether students can continue the course.

【Textbooks】

To be announced.

English Literature II

EASLEY, Keith

【Course Content】

Romanticism (1789-1832)

The many kinds of Romantic fiction will be considered, along with their relationship to the key themes of Romantic poetry. Selections will be made from Jane Austen, gothic romances, social satire, feminist fiction, historical romances and Mary Shelley's "Frankenstein."

【Schedule】

Weeks 1 - 2 Key themes, then and today

Weeks 3 - 6 Individual writers

Weeks 7 Key themes

Weeks 8 - 11 Individual writers

Week 12 Review

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, coursework and final examination.

Depending on the size of the class, there may be tests during the semester to decide whether students can continue the course.

【Textbooks】

To be announced.

中国語表現 I

杜英起 陳惠貞

【授業の概要】

本講義は中国語の幅広い表現に触れ、中国語独特の表現の仕方に慣れることを目的とする。特に重要な表現に関しては、日本語との比較をしながら重点的に説明を行う。

【授業計画】

本講義は中国語専門コースのための専門クラスとその他のコースの非専門クラスに分けて授業を進める予定である。毎回単語テストあり、宿題の提出が要する。2回の授業で1課というペースで進み、専門クラスには、2課が終わるところでまとめの小テストを行う予定である。本講義を履修することにより、より多くの単語を覚え、豊かな表現力が身につくことが期待できる。

授業の内容は、下記の通りである。

1. 南京師範大学の校园
2. 我们的留学生活
3. 感谢信(1)
4. 感谢信(2)
5. 幸福与快乐
6. 自相矛盾
7. 师生情

本講義の目的は学生にとって身近な話題を提供することによって、中国語学習への意欲を引き出し、積極的に中国語でコミュニケーションする姿勢を養成することにある。本講義に使う教材をホームページに作成し、学生たちは自宅や大学のパソコン実習室で自分の好きな時間に、発音やリスニングなどの練習ができる。また教材の練習問題は中国語能力試験として中国政府によって唯一に認定されているHSK試験の問題に倣って作られているので、HSKの4級か5級の合格に大いに役立つことを期待している。

【評価方法】

受講態度、出席率、宿題の完成状況などに基づいて、総合的に評価する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

メディア教材「中国語表現」(凱希メディアサービス)。

【参考文献・資料】

授業の時に指示する。

中国語表現 II

杜英起 陳惠貞

【授業の概要】

本講義は中国語の幅広い表現に触れ、中国語独特の表現の仕方に慣れることを目的とする。特に重要な表現に関しては、日本語との比較をしながら重点的に説明を行う。

【授業計画】

本講義は中国語専門コースのための専門クラスとその他のコースの非専門クラスに分けて授業を進める予定である。毎回単語テストあり、宿題の提出が要する。2回の授業で1課というペースで進み、専門クラスには、2課が終わるところでまとめの小テストを行う予定である。本講義を履修することにより、より多くの単語を覚え、豊かな表現力が身につくことが期待できる。

授業は前期の続きで、下記の内容となっている。

1. 中国的龙
2. 中国的茶
3. 孔子
4. 中秋节
5. 屈原
6. 新婚之喜
7. 中国的春节

前期と違って後期の内容は中国の文化の紹介に重点を置き、目的は中国語を学習すると共に、中国の文化への理解を深めることにある。本講義に使う教材をホームページに作成し、学生たちは自宅や大学のパソコン実習室で自分の好きな時間に、発音やリスニングなどの練習ができる。また教材の練習問題は中国語能力試験として中国政府によって唯一に認定されているHSK試験の問題に倣って作られているので、HSKの5級か6級の合格に大いに役立つことを期待している。

【評価方法】

受講態度、出席率、宿題の完成状況などに基づいて、総合的に評価する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

メディア教材「中国語表現」(凱希メディアサービス)。

【参考文献・資料】

授業の時に指示する。

中国文学講読 I・II

杜英起 陳惠貞 劉乃華

【授業の概要】

この授業の目的は、中国語の表現力を高めること、豊富な語彙を獲得させること、読む力を身に付けさせることにある。授業の内容は、主として故物語語になっているが、その狙いが普段話しやすい故物語語の学習を通して、中国語コミュニケーションにおける豊富な表現力を身に付けることにある。そのほかに、練習問題が HSK の出題方式に倣って作られているため、この授業を履修することによって HSK の合格率を高めることも期待できる。

【授業計画】

前期：

1. 道听途说
2. 拔苗助长
3. 空中楼阁
4. 杯弓蛇影
5. 黔驴技穷
6. 囫圇吞枣
7. 呆若木鸡

後期：

1. 坐井观天
2. 毛遂自荐
3. 守株待兔
4. 争先恐后
5. 伯乐识马
6. 一鸣惊人
7. 熟能生巧

【評価方法】

受講の態度、出席率、宿題の完成状況などに基づいて評価する。
期末テストは実施しない。

【テキスト】

自作教材

中国現代事情 (2003 年度以降入学者対象)

杜英起

【授業の概要】

80年代に、中国は、経済改革、開放路線を打ち出して以来、大きな社会的な変貌を見せてきている。とくに、教育制度、教育のあり方、そして現代の生活様式、消費観念、及び政治と経済など多面にわたって、画期的な変化が起こっている。しかし、日本は中国の隣国でありながら、中国のそうした激しい変化が一般的な日本人にあまり知られていないようである。本講義では、主として中国の現代教育、経済と政治などの現状を紹介する。

【授業計画】

1. 中国の教育
 - (1) 教育制度
 - (2) 教育の現状 (新しい試みと問題点)
 - (3) 教育改革の行方
2. 中国の経済
 - (1) 国営企業の現状
 - (2) 個人企業の現状
 - (3) これからの中国経済に関する展望
3. 中国の政治
 - (1) 政治制度
 - (2) 行政区分
4. 中国現代社会
 - (1) 現代中国人の生活状況
 - (2) 消費観念の変化
 - (3) 現代中国人の価値感

【評価方法】

レポートと出席率で評価する

【テキスト】

自作教材を使用する。

比較文化論 V (日・中) (2003 年度以降入学者対象)

杜英起

【授業の概要】

中国の花の文化、食の文化、お酒の文化、建築の文化 (民居、庭園)、そして漢字の文化を紹介し、儒教の思想の真髄を探究する。よって、日本の文化と中国の文化の接点を探るとともに、それぞれの文化の特質を浮き彫りにする。目的は、日・中両国間の相互理解を深めることにある。

【授業計画】

1. 花の文化について
2. 食の文化について
3. お酒の文化について
4. お茶の文化について
5. 建築の文化について
 - (1) 北京の民居—胡同
 - (2) 中国の四大名園の紹介 (主として頤和園と拙政園を紹介する)
 - (3) 万里の長城
 - (4) 日本の建築
6. 漢字と文化
7. 中国の儒教、儒教による日本への影響

【評価方法】

レポートと出席率で評価する。

中国語聴解 I

馮富榮 杜英起 陳惠貞

【授業の概要】

本講義は中国語専門コースのための専門クラスとその他のコースの非専門クラスに分けて授業を進める予定である。専門クラスではオリジナルなメディア教材を使用し、非専門クラスでは市販のメディア教材を使用する。具体的な履修方法についてはガイダンスで説明する。

専門クラスはメディア教材による事前の練習を必要とし、練習の成果を授業で確かめた後、単語や文章の解説を行う。そして習った表現を使って会話の練習を行う。内容は2年に開講される「中国語表現 I II」と「中国語講読 I II」の内容と HSK によく出題された問題を組み合わせたものである。本講義によって学習した知識をいっそう固め、HSK のよりよい成績が出せるように期待している。

非専門クラスは市販のメディア教材を使用し、実用的といふところに入力して授業を進めていく。具体的には、「日常挨拶」や「道を尋ねる」、「旅館の予約」などの会話を通して、耳の訓練をする。中国人の日常の簡単な会話が聞けることが目的である。

要するに、この中国語聴解 I という授業は、中国人の普通の会話が聞けるだけでなく、日本人にとって難関となる HSK の聴解問題が聞けるようになることを本講義の最大の目標である。

【授業計画】

専門クラスでは一回の授業で一課の進度で、「中国語表現」及び「中国語講読」と平行しながら授業を進めていく予定である。たとえば第 1 課と第 2 課はそれぞれ上記した 2 冊の教材の第 1 課の内容をブレンドしたものである。出題の方法はまったく HSK の聴解問題と同じである。いわゆる HSK に合格するための特訓と考えてもよい。

非専門クラスでは主として日常挨拶、友人の紹介、お客さんの招待、電話をかける、道を尋ねる、買い物という六つの場面を設定して聞く訓練と話す訓練を行う。実用性を重んずる授業である。

【評価方法】

毎回の宿題を点数化して、出席状況などを加味して総合的に評価する。
期末テストは実施しない。

【テキスト】

専門クラス：中文听力入门 (凱希メディアサービス発売)

非専門クラス：実用漢語会話

高等教育電子音像出版社出版 北京塔博思科技發展有限責任公司制作

中国語聴解Ⅱ

馮富榮 杜英起 陳惠貞

【授業の概要】

本講義は中国語専門コースのための専門クラスとその他のコースの非専門クラスに分けて授業を進める予定である。専門クラスでは市販のメディア教材を使用し、HSKの聴解模擬試験の問題である。内容は3つの部分に分かれ、第一部分は短文を聞いて質問を答える問題であり、第2部分は会話を聞いて質問を答える問題である。そして第3部分は文章を聞いてその文章の内容についての質問を答える問題である。

非専門クラスではオリジナルのメディア教材を使用し、5つの部分から構成される。第一部分は単語の発音を入力する問題であり、第2部分は短文を聞いてそれを書き取る練習である。第3部分は録音を聞いて質問を答える問題であり、第4部分は会話を聞いて質問を答える問題である。そして第5部分は文章を聞いてその文章の内容についての質問を答える問題である。

具体的な履修方法についてはガイダンスで説明する。

【授業計画】

専門クラスはメディア教材による事前の練習を必要とし、練習の成果を授業で確かめた後、単語や文章の解説を行う。使用するメディア教材はHSKの模擬試験の問題で、出題の方式や回答に所要する時間などがすべてHSKの試験に準ずる。いわばHSKの実践訓練である。この講義を履修することによってHSKの5級に合格することを期待している。

非専攻クラスは専攻クラスの前期に使用するオリジナルの教材を使う。内容は2年に開講される「中国語表現Ⅱ」と「中国文学講義Ⅱ」の内容とHSKによく出題された問題を組み合わせたものである。本講義によって学習した知識をいっそう固め、HSKの4級に合格できるように期待している。

要するに、この中国語聴解Ⅱという授業は、中国人の普通の会話が聞けるだけでなく、日本人にとって難関となるHSKの聴解問題が聞けるようになることを本講義の最大の目標である。

【評価方法】

毎回の宿題を点数化して、出席状況などを加味して総合的に評価する。
期末テストは実施しない。

【テキスト】

専門クラス：HSK聴力訓練（凱希メディアサービス）
非専門クラス：中文聴力入門（凱希メディアサービス）

中国語海外研修

馮富榮 杜英起

【授業の概要】

この研修は、2年次の後期から中国語しか使わないゼミへの準備学習として位置付けられているので、今まで獲得してきた中国語の語学力をさらに磨き、高度な中国語の力の獲得と異文化との触れ合いが最大の目的である。

この研修は、合計7週間（事前研修は1週間、現地研修は6週間）である。事前研修には、研修先（北京師範大学及びその所在地である北京について）の紹介や注意事項の説明及び簡単な中国語講習会などが含まれる。現地研修には、6週間の授業と北京観光が含まれる。授業期間中、月曜日から金曜日まで毎日午前2コマの授業があるので、密度の高い研修内容となるので、高い教育効果が期待できると思われる。具体的に説明すると「読解と作文」、「聴力」と「会話」と「中国文化講座」の授業がある。「中国文化講座」という授業の中で、学生は自分の趣味に合わせて、中国の民族舞踊、歌、太極拳、演劇などを習うことができる。

研修期間中、授業のほかは、1週間のホームステイを体験したり、中国の大学生との交流会や座談会を開いたりすることが予定されている。さらに中国の古都である北京の市内観光を週に1回行うことも計画されている。最後には、学習成果の発表会が開かれ、研修の参加者は学習の成果を歌や踊り、または寸劇などの形で発表することになる。

要するに、この研修を通して、中国語を深く知り、中国語に内包されている文化的背景も理解することができ、また自分から進んで中国語を発信し、そしてそれが理解されるときの楽しさを体験することもできる。

【授業計画】

【履修上の注意】

この授業の対象者は、言語コミュニケーション学科の2年次である。尚研修期間中は、引率教員は現地にずっと滞在しない。

【評価方法】

研修先の担当先生の評価を参考にして、引率者が最終の成績を出す。

日本語表現演習Ⅲ

窪田守弘

【授業の概要】

日本語表現演習Ⅰ・Ⅱにおいて、日本語にはさまざまな表現形式と内容があることを学んだが、それらの基礎的な知識や技術によって、さらに専門的な日本語表現についての分析と考察を進めていく。本演習では学生の自発的な参加を求めているが、学生自らの力で考える習慣を身につけ、それを口頭発表することによってディスカッションやプレゼンテーション能力を高めていくように配慮する。

【授業計画】

1. 動詞の基本的な体系を考える。
動詞の役割、動詞の変化、動詞の種類、補助動詞の役割、授受動詞、「する」と「なる」動詞など
2. 敬語表現の理論と実践
敬語の意義、敬語表現の現実、敬語体系の分析、常体と敬体、敬語行動、新しい敬語法など
3. プレゼンテーションの方法を学ぶ
口頭発表の準備、資料の収集と整理の仕方、テーマの絞り方、レジメの作成法、ディスカッションの進め方、全体討議（ディスカッション）の在り方の練習など

【評価方法】

授業中の発表内容や参加態度、提出課題の内容、学期末のレポートなどで総合的に評価する。

【テキスト】

配布資料を主な教材とするが、授業時に簡単なテキストを指示する予定である。

【参考文献・資料】

授業時に提示する。

日本語表現演習Ⅳ

山内啓介

【授業の概要】

Ⅲまでの日本語表現演習で養われた発表技術をもう一段階発展させ、学会、企画会議、研修会等目的に応じたプレゼンテーション能力を養う。コンピュータのプレゼンテーションソフトを使いこなすとともに視聴覚機器の効果的な使い方も身につける。

【授業計画】

テーマを設定し、ディベートをおこなう。

- 1 日本語ディベートの効果
- 2 ディベートのルール
- 3 未来塾改良型4人制ディベート方式
- 4 ディベートのテーマと問題点
- 5 討論の応用

プレゼンテーションツールを用いた実習。

- 1 ホームページとプレゼンテーション
- 2 ウェブサイトとコンテンツ
- 3 パワーポイントとテンプレート
- 4 説得することは聞き手の立場を知ること
- 5 ツールの応用

【評価方法】

出席と参加度30%、実践練習50%、発言とコミュニケーション20%の割合で評価する。

【テキスト】

日本文化論の変容（青木保 中央公論文庫）

【参考文献・資料】

菊と刀（R・ベネディクト著 長谷川松治訳 教養文庫）

日本語学Ⅱ

阿部美枝子

【授業の概要】

現代日本語の文法現象の中から基本的、かつ重要なトピックを演習の形で取り上げ、言語学的、日本語学的手法で分析し、日本語の体系を理解していく。

【授業計画】

現代日本語の文法現象を整理し、その体系を理解することをテーマとする。

1. 日本語の基本構造
2. 構造の階層性
3. 文：情報の単位として
4. 述語の型
5. 助詞
6. 自動詞と他動詞
7. 受動文
8. 使役文
9. テンスとアスペクト
10. 名詞修飾
11. 主題の「は」

以上のような項目について、言語学的、日本語学的に分析していく。
主に講義の形を取るが、随時課題を出す。

【評価方法】

学期末筆記試験、及び課題の結果で評価する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

1. 生成日本語学入門 (1999年 大修館書店)
2. はじめての人の日本語文法 (1991年 くろしお出版)

専門演習Ⅰ

DYCUS, David C.

【Course Content】

The general aim of this first semester of this 3-year seminar to help students develop a knowledge of the basic concepts in the fields of culture and intercultural communication. A knowledge of these key concepts will allow seminar participants to better understand and discuss the individual instances of intercultural communication which will be covered in the second semester and during the third and fourth year of the seminar.

【Schedule】

The following topics will provide the framework for lectures and discussions:

1. Defining culture
2. Defining communication
3. Perception
4. Context and culture
5. Key concepts in intercultural communication

【Assessment】

Assessment will be based on 1) attendance and participation in discussions and 2) a 20-minute oral presentation on a topic agreed upon by the instructor. The presentation will make up a large portion of the grade.

【Textbooks】

To be announced.

専門演習Ⅰ

松本青也

【授業の概要】

言語コミュニケーションについての、それぞれの分野における先行研究を概観し、基本的な知識を与えながら学生の理解と関心を深める。

【授業計画】

今や世界共通語とも言われるアメリカ英語と、日本人の考え方や生き方にも大きな影響を与えているアメリカ文化を考えようとするものです。アメリカ英語とその背景にある文化、特に人生、孤独、愛と性、生と死、幸福などの基本的なテーマについて日米の思想を比較対照して考え、更に自由、平等、人権といった理念が日米で現実の様々な問題解決にどう機能しているかまで幅広く扱います

2年次前期では次のような活動を中心に進めます。

- (1) アメリカの作家、哲学者、科学者、ジャーナリストなどによる珠玉の英文の味読と討論
- (2) ゼミ合宿でのプレゼンテーションと討論
- (3) 松本ゼミのホームページ作成

【評価方法】

レポート、研究発表、学習態度、出席状況などによる総合評価

【テキスト】

自作プリント教材、ビデオ、インターネットによる資料

専門演習Ⅰ

山内啓介

【授業の概要】

言語コミュニケーションについての、それぞれの分野における先行研究を概観し、基本的な知識を与えながら学生の理解と関心を深める。

【授業計画】

演習のために、まず次の講義を行う。

- 1 日本語学 (1) 日本語コミュニケーションと音声科学について
 - 2 日本語学 (2) 日本語コミュニケーションと音韻論について
 - 3 日本語学 (3) 日本語コミュニケーションと文法・形態論について
 - 4 日本語学 (4) 日本語コミュニケーションと文法・統語論について
 - 5 日本語学 (5) 日本語と語彙について
 - 6 日本語学 (6) 日本語意味論について
- 次のテーマで受講生と演習を行う。
- 7 日本語教育と日本語コミュニケーション
 - 8 日本語コミュニケーションのさまざまなケース・スタディ
 - 9 日本語コミュニケーションが必要な場面とその会話
 - 10 日本語学の実践と理論
 - 11 日本語研究の将来
 - 12 インターネット日本語

【評価方法】

出席を重視する。演習のプレゼンテーションを評価する。議論の参加と発言を参考とする。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

言語学大辞典の日本語の項目
(三省堂 第2巻世界言語編 1569ページ-1791ページ)

専門演習 I

馮 富榮

【授業の概要】

中国語のコミュニケーション能力を最大限に引き伸ばすことと、多角的に中国の社会について幅広く考えることがこの授業の目的である。授業の内容は、主として二つに分かれ、一つは、中国の伝統的文化の紹介、今一つは中国の現代社会に特有な社会現象の紹介である。前者の例としては、中国人の親戚の連帯関係や、中国の伝統的な劇の紹介が挙げられ、後者としては中国現代の老人生活、「主婦」にかわって生まれてきた「主夫」という新しい社会現象、そして一人子政策などの例が挙げられる。この授業は、一方的な講義よりは、学生とディスカッションをしながら進めていく方法を取る。

【授業計画】

2年生は、前期でも後期でも、先生主導で授業を展開する。具体的に説明すると、先生側から本文に出ている新しい単語や文法の重点などを説明し、本文の翻訳を学生たちが行う。できないところは先生が補足的な説明を加える。練習問題は、学生各自でやるが、授業の最初にその答えあわせをするか、宿題として出す。それを先生が直してから受講者に返す。言語の力は、普段の努力にあると信じているので、単語の小テストなどは、ときどき行う。また、進度は、かなり速いスピードになると予想される。要するに、この専門演習では、2年生の段階では学習活動が主導となるが、3年生の段階では中国語によるディカッションなど、いわゆる学生たちの応用能力の養成に重点が移っていく。

2年生の目標は、中国語能力検定の3級や準2級に合格すること、または、中国のHSK試験の5級か6級に合格することが期待される。当然、そのための指導もする。

【評価方法】

平常点で評価する。

【テキスト】

漢語教程 第二冊 (北京語言文化大学出版社)

専門演習 I

MOLDEN, Danny T.

【Course Content】

言語のコミュニケーションについての、それぞれの分野における先行研究を概観し、基本的な知識を与えながら学生の理解と関心を深める。

Rhetoric is the study of how humans can communicate more clearly and debate more effectively. It is the study of how we decide what to say and when to say it.

Identity is the question of who we are and how we become who we are. Identity is how we think of who we are and how other people think of us.

Of course, rhetoric and debate are very broad methods - they are really ways of studying or thinking about a topic. So, the class will focus first on the study of rhetoric and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, music, television programs, movies, plays, art, etc.

【Schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about rhetoric.

Topics covered will include:

1. Classical rhetorical theory
2. Contemporary rhetorical theory
3. The rhetoric of movies, music, art, etc.
4. What is identity?
5. How do we shape our identities?

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, quizzes, written papers, and an oral presentation.

【Textbooks】

There is no textbook for this course although one may be assigned.

専門演習 I

窪田守弘

【授業の概要】

言語コミュニケーションについての、それぞれの分野における先行研究を概観し、基本的な知識を与えながら学生の理解と関心を深める。

【授業計画】

本演習では、映像の中で展開される人々の言語行動を言語と文化の関係を様々な視点から研究していく。例えば、テレビでは毎日多くの番組が放送されているが、それを単に娯楽として見るのと、貴重な情報や教材として見るのでは全く事情が異なることを調べる。

今では世界中の映画が簡単に見ることができるようになった。しかし、一般的に映画は娯楽として鑑賞する機会が多いため、それを言語や文化との視点から考えていくことはほとんどなされていない。例えば、外国映画の台詞(セリフ)は字幕に翻訳されているが、この字幕をよく調べて見ると画面上の台詞と違っていることがよくある。これは誤訳ではなくて、その台詞が日本人の観客に分かりやすいように意識されていることが多いからである。

本ゼミでは、主に映画のシナリオや字幕翻訳を通して、ヒトの言語行動を新しい視点で分析しようとするものである。

【評価方法】

演習時の発表態度、提出レポートや作品、出席状況などで総合評価する。

【テキスト】

字幕の中に人生 (戸田奈津子著 白水Uブックス 930円)

専門演習 I

McGEE, Jennifer J.

【Course Content】

言語コミュニケーションについての、それぞれの分野における先行研究を概観し、基本的な知識を与えながら学生の理解と関心を深める。

This seminar focuses on mediated communication in its many different forms. Mediated communication is any communication that goes through a medium or channel between the speakers.

This can mean telephones, magazines, books, radio, television, movies and the Internet.

Research in mediated communication usually focuses on the effects of the medium on communication. Do people use language differently when using email than in face-to-face conversations?

Why is it different? And in what ways is it different? This seminar will look at the effects of technology on the ways we communicate.

【Schedule】

Some of the topics this class may cover include:

- Major media theories
- How to do research on the Internet
- Commercials and communication
- Keitai phones and communication
- Movie rhetoric

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation in class discussion, homework, and reports.

【Textbooks】

None. There will be readings given by the teacher.

専門演習 I

杜 英起

【授業の概要】

中国語のコミュニケーション能力を最大限に引き伸ばすことと、多角的に中国の社会について幅広く考えることがこの授業の目的である。授業の内容は、主として二つに分かれ、一つは、中国の伝統的文化の紹介、今一つは中国の現代社会に特有な社会現象の紹介である。前者の例としては、中国人の親戚の連帯関係や、中国の伝統的な劇の紹介が挙げられ、後者としては中国現代の老人生活、「主婦」にかわって生まれてきた「主夫」という新しい社会現象、そして一人子政策などの例が挙げられる。この授業は、一方的な講義よりは、学生とディスカッションをしながら進めていく方法を取る。

【授業計画】

2年生は、前期でも後期でも、先生主導で授業を展開する。具体的に説明すると、先生側から本文に出ている新しい単語や文法の重点などを説明し、本文の翻訳を学生たちが行う。できないところは先生が補足的な説明を加える。練習問題は、学生各自でやるが、授業の最初にその答えあわせをするか、宿題として出す。それを先生が直してから受講者に返す。言語の力は、普段の努力にあると信じているので、単語の小テストなどは、ときどき行う。また、進度は、かなり速いスピードになると予想される。要するに、この専門演習では、2年生の段階では学習活動が主導となるが、3年生の段階では中国語によるディスカッションなど、いわゆる学生たちの応用能力の養成に重点を移っていく。2年生の目標は、中国語能力検定の3級や準2級に合格すること、または、中国のHSK試験の5級か6級に合格することが期待される。当然、そのための指導もする。

【評価方法】

平常点で評価する。

【テキスト】

漢語教程 第二冊 (北京語言文化大学出版社)

専門演習 I

CHARLEBOIS, Justin

【Course Content】

The focus of this course will be to give you a basic introduction to some concepts within sociolinguistics. The emphasis will mainly be on English; however, Japanese will be studied on occasion as well. There will be some overlap between this course and English Linguistics II. Students will still benefit from taking this seminar as we will focus on those topics which interest students in greater detail, while in English Linguistics II the emphasis will be on giving students an introduction to sociolinguistics based on areas that I have selected. Both English and Japanese will be used in this class.

【Schedule】

- general differences between linguistics and sociolinguistics
- language choice
- code-switching
- language death
- language birth (Pidgins and Creoles)
- dialects
- gender and language

【Assessment】

- Homework
- Midterm Paper
- Final Paper

【Textbooks】

社会言語学入門 (東昭二 研究社 1997)

【Reference】

社会言語学への招待 (田中春美 1996 ミネルヴァ)
Sociolinguistics: The Essential Readings
(Bratt Paulston, C. (Ed.) (2003). Oxford: Blackwell.)
The Handbook of Sociolinguistics.
(Coulmas, F. (Ed.) (1997). Oxford: Blackwell.)

専門演習 I

WRINGER, Paul

【Course Content】

This course will attempt to cover some of the many different aspects of life in contemporary Britain. Through articles, short documentary films, and other published materials, students will be introduced to facts and major areas of modern life in Britain.

As well as reading and writing about and discussing various topics, the students will be expected to relate what they have understood to similar aspects of their own culture.

British and Japanese cultural awareness will be used to encourage analytical and imaginative participation of students in the language learning process. The course is based around genuine communication and will take into account genuine contexts, reproducing realistic conditions through pair and groupwork, interviews, and presentations.

【Schedule】

Each topic will be covered over a two to three week period.

COUNTRIES IN BRITAIN
VARIETY OF CULTURES
CUSTOMS AND HABITS
MULTICULTURALISM
EDUCATION
MUSIC

【Assessment】

Grades will be determined from the following:
Homework assignments
Presentations
Participation in pair and groupwork
Reports

【Textbooks】

No set text.
Handouts will be prepared and made available.

専門演習 II

松本青也

【授業の概要】

基本的な論文を読みながら、それぞれの分野における今日的課題について問題提起を行い、学生に自らの課題を発見させ、情報検索の方法についても指導する。

【授業計画】

今や世界共通語とも言われるアメリカ英語と、日本人の考え方や生き方にも大きな影響を与えているアメリカ文化を考えようとするものです。アメリカ英語とその背景にある文化、特に人生、孤独、愛と性、生と死、幸福などの基本的なテーマについて日米の思想を比較対照して考え、更に自由、平等、人権といった理念が日米で現実の様々な問題解決にどう機能しているかまでを幅広く扱います。

2年次後期では次のような活動を中心に進めます。

- (1) アメリカの作家、哲学者、科学者、ジャーナリストなどによる珠玉の英文の味読と討論
- (2) 各自が選んだテーマについて、インターネットによる情報検索やE-mailでの情報収集をもとにした研究発表
- (3) 研究小論文の執筆

【評価方法】

レポート、研究発表、学習態度、出席状況などによる総合評価

【テキスト】

自作プリント教材、ビデオ、インターネットによる資料

専門演習Ⅱ

DYCUS, David C.

【Course Content】

The general aim of this second semester of this 3-year seminar to provide students with specific examples of intercultural contact which they can then analyse to develop a knowledge of the problems involved in intercultural communication. The focus will be on intercultural encounters between the Japanese and Americans. These encounters will demonstrate how context, values, and presuppositions affect intercultural interactions.

【Schedule】

The following topics will provide a framework in which specific instances of intercultural contact and their interpretation of will be discussed:

1. The self and society
2. The family
3. Schooling
4. Public and private interaction
5. Business and the workplace
6. Gender and communication

【Assessment】

Assessment will be based on 1) attendance and participation in discussions and 2) a 20-minute oral presentation on a topic agreed upon by the instructor. The presentation will make up a large portion of the grade.

【Textbooks】

To be announced

専門演習Ⅱ

馮富榮

【授業の概要】

中国語のコミュニケーション能力を最大限に引き伸ばすことと、多角的に中国の社会について幅広く考えることがこの授業の目的である。授業の内容は、主として二つに分かれ、一つは、中国の伝統的文化の紹介、今一つは中国の現代社会に特有な社会現象の紹介である。前者の例としては、中国人の親戚の連帯関係や、中国の伝統的な劇の紹介が挙げられ、後者としては中国現代の老人生活、「主婦」にかわって生まれてきた「主夫」という新しい社会現象、そして一人子政策などの例がある。また授業は、一方的な講義よりは、学生とディスカッションをしながら進めていくという方法を取る。

【授業計画】

2年生は、前期でも後期でも、先生主導で授業を展開する。具体的に説明すると、先生側から本文に出ている新しい単語や文法の重点などを説明し、本文の翻訳を学生たちが行う。できないところは先生が補足的な説明を加える。練習問題は、学生各自でやるが、授業の最初にその答えあわせをするか、宿題として出す。それを先生が直してから受講者に返す。言語の力は、普段の努力にあると信じているので、単語の小テストなどは、ときどき行う。また、進度は、かなり速いスピードになると予想される。要するに、この専門演習では、2年生の段階では学習活動が主導となるが、3年生の段階では中国語によるデカクションなど、いわゆる学生たちの応用能力の養成に重点が移っていく。

2年生の目標は、中国語能力検定の3級や準2級に合格すること、または、中国のHSK試験の5級か6級に合格することが期待される。当然、そのための指導もする。

【評価方法】

平常点で評価する。

【テキスト】

漢語教程 第三冊 (北京語言文化大学出版社)

専門演習Ⅱ

山内啓介

【授業の概要】

基本的な論文を読みながら、それぞれの分野における今日的課題について問題提起を行い、学生に自らの課題を発見させ、情報検索の方法についても指導する。

【授業計画】

専門演習Ⅰにつづき、日本語学、日本語教育の演習を行う。なお、課題の発見は広く領域をとって国語教育や日本文化などの問題に及ぶことがあってよい。

次の演習を行う。

文献解題

問題点と調査・実験

演習は2回を担当する。プレゼンテーションにはそれぞれ、レジュメを用意する。

1回目：文献選択、内容の抄録、梗概説明、問題提起。

2回目：課題提示、トピックとアンサー、調査実験のプロセス。

演習の参加は、発表について事前準備に3週間は必要とする。あらかじめ、発表当番をエントリーし、計画的に学習が進められるように話し合い、プレゼンテーションを実行する。

【評価方法】

プレゼンテーションによる。

【テキスト】

特になし。各自の発表用レジュメ。

【参考文献・資料】

授業時に示される。

専門演習Ⅱ

窪田守弘

【授業の概要】

基本的な論文を読みながら、それぞれの分野における今日的課題について問題提起を行い、学生に自らの課題を発見させ、情報検索の方法についても指導する。

学生は言語や文化に関する論文の専門的な内容について学ぶとともに、代表的な映画のシナリオの調査をして、十分時間をかけて議論や発表を繰り返しながら言語の多様性を整理し、概念の抽象化をはかるようにする。

本ゼミでは専門演習Ⅰの知識を基にして、具体的な調査やフィールドワークも実施する。例えば、昨年度の場合、日本映画の中で日本人がどのように描かれているかを調査したが、映像の中における日本人の言語表現や言語行動について、新たな発見をする学生が多かった。言語と文化を知るには幅広い知識が必要になるが、その意味で映画は語学、文学、歴史、音楽、宗教などあらゆる分野にわたる総合芸術であり、時間をかけて調べていくだけの価値がある。

このゼミでは、映画を見てただ評論するのではなく、それが個々の学生に対して多くの示唆と教訓を与えてくれるし、各自のテーマに沿って自由に学べるような内容になっていることに重点をおきたい。

【授業計画】

配布資料の分析と学生の発表によって、演習を自主的に進めていく。

【評価方法】

演習時の発表内容や態度、提出レポート、出席状況などで判断する。

【テキスト】

配布プリント

専門演習Ⅱ

MOLDEN, Danny T.

【Course Content】

基本的な論文を読みながら、それぞれの分野における今日的課題について問題提起を行い、学生に自らの課題を発見させ、情報検索の方法についても指導する。

Rhetoric is the study of how humans can communicate more clearly and debate more effectively. It is the study of how we decide what to say and when to say it.

Identity is the question of who we are and how we become who we are. Identity is how we think of who we are and how other people think of us.

Of course, rhetoric and debate are very broad methods - they are really ways of studying or thinking about a topic. So, the class will focus first on the study of rhetoric and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, music, television programs, movies, plays, art, etc.

【Schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about rhetoric.

Topics covered will include:

1. Classical rhetorical theory
2. Contemporary rhetorical theory
3. The rhetoric of movies, music, art, etc.
4. What is identity?
5. How do we shape our identities?

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, quizzes, written papers, and an oral presentation.

【Textbooks】

There is no textbook for this course although one may be assigned.

専門演習Ⅱ

杜英起

【授業の概要】

中国語のコミュニケーション能力を最大限に引き伸ばすことと、多角的に中国の社会について幅広く考えることがこの授業の目的である。授業の内容は、主として二つに分かれ、一つは、中国の伝統的文化の紹介、今一つは中国の現代社会に特有な社会現象の紹介である。前者の例としては、中国人の親戚の連帯関係や、中国の伝統的な劇の紹介が挙げられ、後者としては中国現代の老人生活、「主婦」にかわって生まれてきた「主夫」という新しい社会現象、そして一人子政策などの例がある。また授業は、一方的な講義よりは、学生とディスカッションをしながら進めていくという方法を取る。

【授業計画】

2年生は、前期でも後期でも、先生主導で授業を展開する。具体的に説明すると、先生側から本文に出ている新しい単語や文法の重点などを説明し、本文の翻訳を学生たちが行う。できないところは先生が補足的な説明を加える。練習問題は、学生各自でやるが、授業の最初にその答えあわせをするか、宿題として出す。それを先生が直してから受講者に返す。言語の力は、普段の努力にあると信じているので、単語の小テストなどは、ときどき行う。また、進度は、かなり速いスピードになると予想される。要するに、この専門演習では、2年生の段階では学習活動が主導となるが、3年生の段階では中国語によるディスカッションなど、いわゆる学生たちの応用能力の養成に重点が移っていく。2年生の目標は、中国語能力検定の3級や準2級に合格すること、または、中国のHSK試験の5級か6級に合格することが期待される。当然、そのための指導もする。

【評価方法】

平常点で評価する。

【テキスト】

漢語教程 第三冊（北京語言文化大学出版社）

専門演習Ⅱ

McGEE, Jennifer J.

【Course Content】

基本的な論文を読みながら、それぞれの分野における今日的課題について問題提起を行い、学生に自らの課題を発見させ、情報検索の方法についても指導する。

This seminar focuses on mediated communication in its many different forms. Mediated communication is any communication that goes through a medium or channel between the speakers.

This can mean telephones, magazines, books, radio, television, movies and the Internet.

Research in mediated communication usually focuses on the effects of the medium on communication. Do people use language differently when using email than in face-to-face conversations?

Why is it different? And in what ways is it different? This seminar will look at the effects of technology on the ways we communicate.

【Schedule】

Some of the topics this class may cover include:

- Major media theories
- How to do research on the Internet
- Commercials and communication
- Keitai phones and communication
- Movie rhetoric

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation in class discussion, homework, and reports.

【Textbooks】

None. There will be readings given by the teacher.

専門演習Ⅱ

WRINGER, Paul

【Course Content】

This course will attempt to cover some of the many different aspects of life in contemporary Britain. Through articles, short documentary films, and other published materials, students will be introduced to facts and major areas of modern life in Britain.

As well as reading and writing about and discussing various topics, the students will be expected to relate what they have understood to similar aspects of their own culture.

British and Japanese cultural awareness will be used to encourage analytical and imaginative participation of students in the language learning process. The course is based around genuine communication and will take into account genuine contexts, reproducing realistic conditions through pair and groupwork, interviews, and presentations.

【Schedule】

Each topic will be covered over a two to three week period.

THE MONARCHY
THE COMMONWEALTH
WOMEN IN BRITAIN
THE MEDIA
FESTIVALS
RELIGION

【Assessment】

Grades will be determined from the following:
Homework assignments
Presentations
Participation in pair and groupwork
Reports

【Textbooks】

No set text.
Handouts will be prepared and made available.

専門演習Ⅱ

CHARLEBOIS, Justin

【Course Content】

This seminar will focus on pursuing topics within sociolinguistics begun in the first seminar. While the focus of this course will be on English, Japanese will be studied as well particularly when we look at politeness systems. The gradual shift in focus will be towards the discourse level because that will be the major focus of both Seminars III and IV. Both Japanese and English will be used in this course.

【Schedule】

- ・language and context
- ・speech accommodation
- ・politeness strategies
- ・language and the law
- ・intercultural communication
- ・language movements

【Assessment】

- ・Homework
- ・Midterm Paper
- ・Final Paper

【Textbooks】

社会言語学入門 (東昭二 研究社 1997)

【Reference】

社会言語学への招待 (田中春美 1996 ミネルヴァ)
Sociolinguistics: The Essential Readings.
(Bratt Paulston, C. (Ed.) (2003). Oxford: Blackwell.)
The Handbook of Sociolinguistics.
(Coulmas, F. (Ed.) (1997). Oxford: Blackwell.)

批評理論

杉本一直

【授業の概要】

芸術作品を分析し批評する方法を学ぶ。文学、映画、パレエなど、さまざまなジャンルの芸術作品に触れつつ、作品への論理的批評を行なうにはどのような視点を持つべきかを考えていく。

【授業計画】

- 取り上げる論点として主なものを以下に挙げておく。
- ・ヴァーチャル・リアリティと多層的世界
 - ・メタフィクションと自己言及的システム
 - ・形而上学的SF小説
 - ・小説/映画における一人称、二人称、三人称
 - ・対の構造を持つ作品
 - ・二十世紀初頭のアヴァンギャルドと現在の芸術

【評価方法】

レポートによる

【テキスト】

プリント配布

日本語教授法Ⅰ

窪田守弘

【授業の概要】

日本語教授法は、外国人を対象に外国語として日本語を教えることであったが、日本人を対象にした「国語教育」とは方法論も指導内容も異なっている。そこで、本講義ではまず外国語教授法の変遷をたどり、ついで日本語を外国語として教える日本語教授法について考えてみたい。

【授業計画】

1. 日本語教育と国語教育の概観
2. 外国語教授法の変遷と日本語教授法の方法論
文法直訳法、直説法、オーディオ・リンガル法、段階的教授法、認知学習法、全身反応教授法、コミュニティ言語学習法、サイレント・ウェイ法、サジェストベディア法 (暗示式)、コミュニケーション・アプローチ法など
3. 外国語として教える日本語の楽しさと難しさ

【評価方法】

授業時の発表、学期末のレポート、出席などで総合的に評価する。

【テキスト】

配布資料を使用する。

【参考文献・資料】

改定新版日本語教授法 (石田敏子著 1995 大修館書店)

日本語教授法Ⅱ

窪田守弘

【授業の概要】

本講義では、日本語教授法の理論について実践を交えながら整理する。そして、特に初級レベルの日本語教授法を中心にさまざまな指導法を学ぶ。実際の日本語教授法にあたっては、日本語教育の分野での用語の使い方や文型表現があるので、まずその体系や知識を明確にする。口頭練習や読解指導について、実際に教材を作成しながら授業内容を確認し、できれば模擬授業も実施したい。

【授業計画】

1. 日本語教授法の理論と実践
2. 日本語学習入門期の教授法
初級の代表的な文型、基本的な文法事項、音声・文字・構文の指導法、品詞の扱い方、漢字教育の在り方、基本的なテキストの分析、メディアの活用など
3. 日本語の教育方法論

【評価方法】

授業時の発表、学期末のレポート、出席などで総合的に評価する。

【テキスト】

配布資料を教材とする。

【参考文献・資料】

講義中に紹介する。

中国語科教育法Ⅰ（2003年度以降入学者対象）

王麗英

【授業の概要】

中学校及び高等学校の学習指導要領の趣旨に沿って、中国語科教育法について目的論、技能論、方法論を中心にして、中国語教育のあり方を考察する。中学生、または高校生を対象とする中国語教育は、どういった内容のものを教材として使ったほうがよいか、どういった指導法を取ればよいかなどについて、具体的に研究する。

【授業計画】

- 1、中国語科教育の原点と教育理念を議論する。
- 2、中国語科教育の目標を設定する。
- 3、中国語科教育の内容を議論する。
 - (1) 異文化理解
 - (2) 中国語によるコミュニケーション能力（聞くこと；話すこと；読むことと翻訳能力）
 - (3) 各学習期間区分の到達度
- 4、教育方法について
 - (1) 教授法の歴史（中国）
 - (2) 教授法の歴史（日本）
- 5、問題を提起する。
 - (1) 教育の内容について
 - (2) 教授方法について
 - (3) 異文化理解について
 - (4) 言語と文化の関係について
- 6、改善方法について考える。
 - (1) 教育の内容について考える
 - (2) 教授法について考える
 - (3) 異文化理解について考える

【評価方法】

レポートと出席率で評価する。

【テキスト】

自作教材を使用する。

中国語科教育法Ⅱ（2003年度以降入学者対象）

王麗英

【授業の概要】

中学校学習指導要領の趣旨に沿って、国際理解、異文化理解と中国語コミュニケーション能力を育成するためには、中学校では、どのような授業を行えばよいかを講義し、こちらに用意した教材を元に、学習指導案を作成してもらい、また模擬授業を実施することによって、具体的・実践的な指導を行う。

【授業計画】

- 1、外国語の教育理論
- 2、外国語教育の伝統的な教授法と新しい試み
- 3、中学生向けの中国語教育の特殊性と目標
- 4、高校生向けの中国語教育の特殊性と目標
- 5、指導案の構成
- 6、指導案の作成指導
- 7、各自が作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践し、授業の在り方を考える。

【評価方法】

レポート、各自が作成した指導案と模擬授業の実施状況などで評価する。

【テキスト】

自作教材を使用する。

ノンバーバル行動

TODOROVIC, Thomas

【授業の概要】

ヨーロッパ連合のそれぞれの国々と日本におけるノンバーバル行動のさまざまな特徴の類似点と相違点に関する比較を行い、学生達の日常生活における重要なノンバーバル行動への理解と関心を深める。

【授業計画】

- 1) ノンバーバル行動とは何か
- 2) Proxemics
- 3) Kinesics
- 4) Chronemics
- 5) Paralanguage, Eye behavior
- 6) Haptics, Silence
- 7) Olfactics, Color, Clothing
- 8) しぐさの文化史
- 9) しぐさの機能
- 10) 世界のしぐさ
- 11) ヨーロッパのしぐさ
- 12) 日本のしぐさ
- 13) ヨーロッパのマナー

【評価方法】

テストによる評価する。

【テキスト】

使用せず。

認知心理学

岩原昭彦

【授業の概要】

本講義では、認知心理学の概説を行う。人間がどのように外界の情報を取り入れ、処理するのかに関する心理学的アプローチについて学習する。具体的には、人間の知覚、記憶、学習、思考、言語活動と理解について講義する。

【授業計画】

1. 短期記憶
2. 長期記憶
3. 潜在記憶と顕在記憶
4. 符号化・処理・作業記憶
5. 想起と忘却
6. 日常記憶
7. 知識
8. 単語認知と読み
9. 談話認知
10. 理解
11. 発話と思考
12. 言語と意志伝達

【評価方法】

期末試験と授業中に実施する実験・調査への参加回数。

【テキスト】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

統計学基礎 (2003 年度以前入学者対象)

石橋善弘

【授業の概要】

何ごとにも科学的なアプローチが求められる情報化社会において、統計学は必須の科目である。本講義では統計学の基礎を習得し、あわせて統計を扱う応用ソフトの活用法について学ぶ。

【授業計画】

第1回 講義内容および授業計画の提示

第2回～第11回

データの分布、統計基本量 (平均値、標準偏差等)、相関および相関係数、回帰分析等について講義し、理解を促進するため随時応用ソフトを利用して実習を行う。

第12回 総括

【評価方法】

出席状況、レポート、期末試験等により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

英語科教育法Ⅱ (2002 年度以前入学者対象)

高橋美由紀

【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力の基礎を育成するためには、日本の中学校ではどのような授業を行えばよいのか、模擬授業を行いながらその具体的な指導法を研究する。

【授業計画】

1. オリエンテーション：中学校英語教師の資質について、テキスト説明、小・中・高・大の英語教育について
2. 授業の組み立て：授業を盛り上げるための教材・教具について、教案作成ワークショップその1、ビデオによる模範授業参観その1
3. 授業の組み立て：歌やゲームを取り入れた授業展開、教案作成ワークショップその2、ビデオによる模範授業参観その2
4. 授業研究：テキスト内容に沿ったオリジナル教材・教具の作成、生徒を引きつける授業の様々なアイデア
- 5～14. 各グループによる模擬授業
15. 予備日

【評価方法】

テストは実施しない、出席状況、授業態度、課題レポート、模擬授業

【テキスト】

Sunshine Kids Book 1 (山岡多美子・高橋美由紀 開隆堂出版)
Sunshine Kids Book 2 (高橋美由紀・山岡多美子 開隆堂出版)
Sunshine 1・2・3 (松本青也他 開隆堂出版)
学習指導要領 外国語 (英語) (文部科学省)
その他、ゲーム集、歌、カセット、CD等はコピーを使用する。

【参考文献・資料】

教材・教具作成のために画用紙、マジックなどの文具類が必要である。

英語科教育法Ⅲ (2002 年度以前入学者対象)

島村恭輔

【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力を育成することに主眼をおいて、生徒の多様化した日本の高等学校における英語教育を効果的に行うにはどのようにするか、具体的、実践的に指導する方法を研究する。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

第2～3回 授業の組み立て

第4～12回 マイクロティーチング

【評価方法】

出席状況・作成した教案等の提出物・マイクロティーチング等を総合して評価する。

【テキスト】

Sunshine I (開隆堂)

Sunshine II (開隆堂)

応用言語学特殊講義Ⅰ

外池俊幸

【授業の概要】

この講義では、脳科学、計算機科学、哲学、数学、心理学などとの学際的な研究領域としての認知科学、その一部としての言語研究を、関連する領域の成果と共に学ぶ。Ⅰでは、認知科学の観点からの言語研究の歴史をたどる。

【授業計画】

- 1 言語学がどのような研究領域であるかを概観する
- 2 認知科学の歴史を概観する

【評価方法】

出席とレポートの評価によって成績評価を行う。

【テキスト】

特定のテキストは使用しないが、参考文献の1と2を通読してから受講することが望ましい。

【参考文献・資料】

- 1 言語学への招待 (中島平三・外池滋生編著 大修館書店)
- 2 認知心理学 (守一雄著 岩波書店)
- 3 認知心理学 全5巻 (東京大学出版会)
 - 1 知覚と運動
 - 2 記憶
 - 3 言語
 - 4 思考
 - 5 学習と発達

応用言語学特殊講義Ⅱ

外池俊幸

【授業の概要】

この講義では、Iと内容を分け、認知科学の言語に関する領域の研究の歴史を概観し、その後、認知科学的な言語研究の最新の成果・動向を取り上げて、その問題点、今後の課題だと考えられる事柄を論じる。

【授業計画】

応用言語学特種講義Iを受講していることを前提に、それに引き続き、次の順に講義を行う。

- 1 認知科学としての言語研究がどういうものなのかを、いくつか具体的なトピックを取り上げて考える
- 2 言語だけでなくひろく人間に関する研究の将来について考える

【評価方法】

出席とレポートの評価によって成績評価を行う。

【テキスト】

特定のテキストは使用しないが、参考文献の1と2を読んでおくこと。さらに興味のある人は、文献3の各巻の目次をみて、興味のあるところを読んでみるとよい。

【参考文献・資料】

- 1 言語学への招待 (中島平三・外池滋生編著 大修館書店)
- 2 認知心理学 (守一雄著 岩波書店)
- 3 認知心理学 全5巻 (東京大学出版会)
 - 1 知覚と運動
 - 2 記憶
 - 3 言語
 - 4 思考
 - 5 学習と発達

American Literature I

METCALF, Nicholas F.

【Course Content】

This course will introduce students to some of the major figures of nineteenth century American literature. This was the time when American writers were beginning to promote a distinct national literature. During the semester selections will be made from the works of Emily Dickinson, Edgar Allan Poe, Walt Whitman and Mark Twain.

【Schedule】

- Weeks 1 - 2 Historical background.
Weeks 3 - 11 Individual writers will be covered over a two or three week period.
Week 12 Review

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation and coursework.

【Textbooks】

A textbook may be announced.

応用言語学海外研修

松本青也

【授業の概要】

異文化体験学習 (ホームステイ、小旅行など) を加味した語学研修を中心に、両大学教員の連携指導のもとで、メーリングリストを利用したEメール発信などによって各自のテーマに沿った調査・研究も行う。

【授業計画】

米国の提携大学で実施。詳細は別の資料を参照のこと。

【評価方法】

提携大学での成績を中心に、事前オリエンテーションへの参加状況、事後報告レポートなどを加味して評価する。

American Literature II

METCALF, Nicholas F.

【Course Content】

The twentieth century was a time of rapid social and economic change in the United States. In this course we will look at the lives and works of some of the major American writers of the twentieth century to see how they responded to the changing world around them. Ernest Hemingway, F. Scott Fitzgerald, John Steinbeck and Jack Kerouac are among the writers we will consider.

【Schedule】

- Weeks 1 - 2 Historical background.
Weeks 3 - 11 Individual writers will be covered over a two or three week period.
Week 12 Review

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation and coursework.

【Textbooks】

A textbook may be announced.

Writing and Presentation I

MOLDEN, Danny T.

[Course Content]

英文を書き、英語で口頭発表する際に役立つ実用的な知識や方法を学ぶ。更にコミュニケーションの様々な状況を考えながら実際に論文を完成し、それを口頭発表する。

This class will introduce students to a discussion centered classroom. In this class, students will be asked to write a variety of articles (covering a range of topics from current events to fiction to language theory) and give presentations about their topics. The emphasis will be placed on students asking questions and then talking to each other about the topics.

[Schedule]

Each week, students will be expected to write an article, attend class with questions, and / or be prepared to give a presentation. Students will also study about how to give presentations and how to write using academic English.

Topics may include:

Organization and outlining

Using outside sources

Footnotes and Endnotes

Speech Anxiety

Impromptu and extemporaneous speaking

Persuasive speaking

[Assessment]

Assessment will be based on attendance, presentations, participation in the discussions, and homework.

[Textbooks]

A textbook has not yet been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

Writing and Presentation II

McGEE, Jennifer J.

[Course Content]

Iに引き続き英文を書く練習を重ね、英語による様々な形式の口頭発表を試みることで英語による発表能力を更に高めながら、「発表」の背景にある考え方と書き言葉と話し言葉による文体の違いなどについて考察する。

This class will introduce students to a discussion centered classroom. In this class, students will be asked to write a variety of articles (covering a range of topics from current events to fiction to language theory) and give presentations about their topics. The emphasis will be placed on students asking questions and then talking to each other about the topics.

[Schedule]

Each week, students will be expected to write an article, attend class with questions, and / or be prepared to give a presentation. Students will also study about how to give presentations and how to write using academic English.

Topics may include:

Organization and outlining

Using outside sources

Footnotes and Endnotes

Speech Anxiety

Impromptu and extemporaneous speaking

Persuasive speaking

[Assessment]

Assessment will be based on attendance, presentations, participation in the discussions, and homework.

[Textbooks]

A textbook has not yet been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

Writing and Presentation I

DYCUS, David C.

[Course Content]

英文を書き、英語で口頭発表する際に役立つ実用的な知識や方法を学ぶ。更にコミュニケーションの様々な状況を考えながら実際に論文を完成し、それを口頭発表する。

This course will focus on beginning-level skills and techniques needed for informative and persuasive writing and presentations. This will include recognizing and understanding the differences in rhetorical patterns between Japanese and English as they relate to different genres of writing. Students will study how to gather, evaluate, and organize information, and assignments will include writing informative and persuasive essays and making presentations and speeches based on the information gathered.

The course is topic/theme oriented, so students will read about, discuss, research and write about selected topics. Writing practice will include the study of paragraph organization and the effective presentation and support of ideas in written English. Written work will provide the basis for presentations. If computer facilities are available, the course will include using presentation software programs to supplement presentations.

[Schedule]

As described above, the course will move from basic organization and presentation of ideas in short pieces of writing to essays and presentations based on their content. The exact content will depend in part on student interests and abilities, and on current events that may provide timely material for projects.

(Grading)

Grading will be based on attendance and participation, homework assignments, and in-class presentations.

[Textbooks]

20Steps to Critical Writing (Haruhiko Shorokawa and Leo Yoffee)

Writing and Presentation II

DYCUS, David C.

[Course Content]

Iに引き続き英文を書く練習を重ね、英語による様々な形式の口頭発表を試みることで英語による発表能力を更に高めながら、「発表」の背景にある考え方と書き言葉と話し言葉による文体の違いなどについて考察する。

This course will focus on skills and techniques needed for informative and persuasive writing and presentations, but at a more advanced level than Writing and Presentation I. This will include recognizing and understanding the differences in rhetorical patterns between Japanese and English as they relate to different genres of writing. Students will study how to gather, evaluate, and organize information, and assignments will include writing informative and persuasive essays and making presentations and speeches based on the information gathered.

The course is topic/theme oriented, so students will read about, discuss, research and write about selected topics. Writing practice will include the study of paragraph organization and the effective presentation and support of ideas in written English. Written work will provide the basis for presentations. If computer facilities are available, the course will include using presentation software programs to supplement presentations.

[Schedule]

As described above, the course will move from basic organization and presentation of ideas in short pieces of writing to essays and presentations based on their content. The exact content will depend in part on student interests and abilities, and on current events that may provide timely material for projects.

(Grading)

Grading will be based on attendance and participation, homework assignments, and in-class presentations.

[Textbooks]

20Steps to Critical Writing (Haruhiko Shorokawa and Leo Yoffee)

Writing and Presentation II

MOLDEN, Danny T.

[Course Content]

Iに引き続き英文を書く練習を重ね、英語による様々な形式の口頭発表を試みることで英語による発表能力を更に高めながら、「発表」の背景にある考え方と書き言葉と話し言葉による文体の違いなどについて考察する。

This class will introduce students to a discussion centered classroom. In this class, students will be asked to write a variety of articles (covering a range of topics from current events to fiction to language theory) and give presentations about their topics. The emphasis will be placed on students asking questions and then talking to each other about the topics.

[Schedule]

Each week, students will be expected to write an article, attend class with questions, and / or be prepared to give a presentation. Students will also study about how to give presentations and how to write using academic English.

Topics may include:

- Organization and outlining
- Using outside sources
- Footnotes and Endnotes
- Speech Anxiety
- Impromptu and extemporaneous speaking
- Persuasive speaking

[Assessment]

Assessment will be based on attendance, presentations, participation in the discussions, and homework.

[Textbooks]

A textbook has not yet been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

Writing and Presentation III

MOLDEN, Danny T.

[Course Content]

IとIIにおけるテーマと練習をさらに発展させる。又、即興スピーチや質疑応答など、形式張らない形の発表の仕方を学び、練習する。

This class will introduce students to a discussion centered classroom. In this class, students will be asked to write a variety of articles (covering a range of topics from current events to fiction to language theory) and give presentations about their topics. The emphasis will be placed on students asking questions and then talking to each other about the topics.

[Schedule]

Each week, students will be expected to write an article, attend class with questions, and/or be prepared to give a presentation. Students will also study about how to give presentations and how to write using academic English.

Topics may include:

- Organization and outlining
- Using outside sources
- Footnotes and Endnotes
- Speech Anxiety
- Impromptu and extemporaneous speaking
- Persuasive speaking

[Assessment]

Assessment will be based on attendance, presentations, participation in the discussions, and homework.

[Textbooks]

A textbook has not yet been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

Writing and Presentation III

McGEE, Jennifer J.

[Course Content]

IとIIにおけるテーマと練習をさらに発展させる。又、即興スピーチや質疑応答など、形式張らない形の発表の仕方を学び、練習する。

This class will introduce students to a discussion centered classroom. In this class, students will be asked to write a variety of articles (covering a range of topics from current events to fiction to language theory) and give presentations about their topics. The emphasis will be placed on students asking questions and then talking to each other about the topics.

[Schedule]

Each week, students will be expected to write an article, attend class with questions, and/or be prepared to give a presentation. Students will also study about how to give presentations and how to write using academic English.

Topics may include:

- Organization and outlining
- Using outside sources
- Footnotes and Endnotes
- Speech Anxiety
- Impromptu and extemporaneous speaking
- Persuasive speaking

[Assessment]

Assessment will be based on attendance, presentations, participation in the discussions, and homework.

[Textbooks]

A textbook has not yet been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

Writing and Presentation III

GREENE, Scott R.

[Course Content]

IとIIにおけるテーマと練習をさらに発展させる。又、即興スピーチや質疑応答など、形式張らない形の発表の仕方を学び、練習する。

[Schedule]

Each week, students will be expected to write an article, attend class with questions, and/or be prepared to give a presentation. Students will also study about how to give presentations and how to write using academic English.

Topics may include:

- Organization and outlining
- Using outside sources
- Footnotes and Endnotes
- Speech Anxiety
- Impromptu and extemporaneous speaking
- Persuasive speaking

[Assessment]

Assessment will be based on attendance, presentations, participation in the discussions, and homework.

[Textbooks]

A textbook has not yet been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

Writing and Presentation IV

McGEE, Jennifer J.

[Course Content]

英語による発表を学ぶ上級クラス。ここでは様々な場合の口頭発表（情報伝達、説得、特別な状況など）に焦点を当てて体験させるとともに、高度な論文の作成と、その口頭発表について学ぶ。

This class will introduce students to a discussion centered classroom. In this class, students will be asked to write a variety of articles (covering a range of topics from current events to fiction to language theory) and give presentations about their topics. The emphasis will be placed on students asking questions and then talking to each other about the topics.

[Schedule]

Each week, students will be expected to write an article, attend class with questions, and/or be prepared to give a presentation. Students will also study about how to give presentations and how to write using academic English.

Topics may include:

- Organization and outlining
- Using outside sources
- Footnotes and Endnotes
- Speech Anxiety
- Impromptu and extemporaneous speaking
- Persuasive speaking

[Assessment]

Assessment will be based on attendance, presentations, participation in the discussions, and homework.

[Textbooks]

A textbook has not yet been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

Writing and Presentation IV

GREENE, Scott R.

[Course Content]

英語による発表を学ぶ上級クラス。ここでは様々な場合の口頭発表（情報伝達、説得、特別な状況など）に焦点を当てて体験させるとともに、高度な論文の作成と、その口頭発表について学ぶ。

[Schedule]

Each week, students will be expected to write an article, attend class with questions, and/or be prepared to give a presentation. Students will also study about how to give presentations and how to write using academic English.

Topics may include:

- Organization and outlining
- Using outside sources
- Footnotes and Endnotes
- Speech Anxiety
- Impromptu and extemporaneous speaking
- Persuasive speaking

[Assessment]

Assessment will be based on attendance, presentations, participation in the discussions, and homework.

[Textbooks]

A textbook has not yet been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

Writing and Presentation IV

MOLDEN, Danny T.

[Course Content]

英語による発表を学ぶ上級クラス。ここでは様々な場合の口頭発表（情報伝達、説得、特別な状況など）に焦点を当てて体験させるとともに、高度な論文の作成と、その口頭発表について学ぶ。

This class will introduce students to a discussion centered classroom. In this class, students will be asked to write a variety of articles (covering a range of topics from current events to fiction to language theory) and give presentations about their topics. The emphasis will be placed on students asking questions and then talking to each other about the topics.

[Schedule]

Each week, students will be expected to write an article, attend class with questions, and/or be prepared to give a presentation. Students will also study about how to give presentations and how to write using academic English.

Topics may include:

- Organization and outlining
- Using outside sources
- Footnotes and Endnotes
- Speech Anxiety
- Impromptu and extemporaneous speaking
- Persuasive speaking

[Assessment]

Assessment will be based on attendance, presentations, participation in the discussions, and homework.

[Textbooks]

A textbook has not yet been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

Communication Strategies I

MOLDEN, Danny T.

[Course Content]

議論やディベートについて基本的な概念を学びながら、その際の主張や証拠、論理の組立てについて分析し、話し合う。

Communication Strategies focuses on the choices we make in public communication, so, the class will focus first on the study of persuasion and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, etc.

[Schedule]

Class meetings will consist of lectures and discussion about persuasion and debate. Students may give persuasive speeches and also conduct debates. Topics covered will include:

1. Persuasion theory
2. Debate theory
3. Research

[Assessment]

Assessment will be based on attendance, written papers, and presentations.

[Textbooks]

A textbook may be assigned

Communication Strategies I

McGEE, Jennifer J.

【Course Content】

議論やディベートについて基本的な概念を学びながら、その際の主張や証拠、論理の組立てについて分析し、話し合う。

Communication Strategies focuses on the choices we make in public communication, so, the class will focus first on the study of persuasion and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, etc.

【Schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about persuasion and debate. Students will give persuasive speeches and also conduct debates. Topics covered will include:

1. Persuasion theory
2. Debate theory
3. Research

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, written papers, and presentations.

【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course although readings may be provided

Communication Strategies II

MOLDEN, Danny T.

【Course Content】

議論やディベートについての様々な概念を考察しながら、実際に自分の主張を発表し、その主張を証拠や論拠をあげて反論から守る訓練をする。

Communication Strategies focuses on the choices we make in public communication, so, the class will focus first on the study of persuasion and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, etc.

【Schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about persuasion and debate. Students may give persuasive speeches and also conduct debates. Topics covered will include:

1. Persuasion theory
2. Debate theory
3. Research

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, written papers, and presentations.

【Textbooks】

A textbook may be assigned

Communication Strategies II

McGEE, Jennifer J.

【Course Content】

議論やディベートについての様々な概念を考察しながら、実際に自分の主張を発表し、その主張を証拠や論拠をあげて反論から守る訓練をする。

Communication Strategies focuses on the choices we make in public communication, so, the class will focus first on the study of persuasion and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, etc.

【Schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about persuasion and debate. Students will give persuasive speeches and also conduct debates. Topics covered will include:

1. Persuasion theory
2. Debate theory
3. Research

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, written papers, and presentations.

【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course although readings may be provided

Communication Strategies III

MOLDEN, Danny T.

【Course Content】

主張や証拠、理論の組み立てを論破する様々な方法を学びながら、論議やディベートへの対応について考察する。

Communication Strategies focuses on the choices we make in public communication, so, the class will focus first on the study of persuasion and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, etc.

【Schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about persuasion and debate. Students will give persuasive speeches and also conduct debates. Topics covered will include:

1. Persuasion
2. Debate
3. Research

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, written papers, and presentations.

【Textbooks】

A textbook may be assigned for this course.

Communication Strategies IV

MOLDEN, Danny T.

【Course Content】

議論やディベートにおける相互作用という側面に焦点をあてながら、実際にディベートを準備してクラスで行い、ディベートのもつ様々な要素について考察を加える。

Communication Strategies focuses on the choices we make in public communication, so, the class will focus first on the study of persuasion and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, etc.

【Schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about persuasion and debate. Students will give persuasive speeches and also conduct debates. Topics covered will include:

1. Persuasion
2. Debate
3. Research

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, written papers, and presentations.

【Textbooks】

A textbook may be assigned for this course.

中国語聴解Ⅲ

杜 英起 陳 惠貞

【授業の概要】

楽しい視覚教材、主として楽しい中国の映画や、童話、また有名な観光地と名所旧跡の紹介を授業の内容とする。もちろん映画の全部ではなく、中の一節である。耳の聞く力があくまでも熟練にあると思われるので、学生が随時授業の内容の聞く練習ができるように工夫されている。具体的に言うと、各授業の内容をパソコンに録音しておく。学生がクリック一つで繰り返し聞けるようにCD教材を作成する。学生の理解を助け、興味をもって聞けるようにするために、教材の内容と関連のある画面もできるだけ添えるようにする。

要するに、この中国語の聴解Ⅲと聴解Ⅳという授業は、中国人の普通の会話のみでなく、聞き取りにくいとされている中国語の映画も聞ける程度の力を養成することを目的とする。

【授業計画】

具体的には、以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

1. まず映画や童話などの大まかな内容を日本語で解説し、それから聞く練習に入る。
2. 学生に質問しながら、内容を解明していく。もちろん教材に出ている新しい表現については説明する。学生側は、CD教材を使って予習する必要がある。
3. 映画などの内容についてのプリント(穴埋め問題式)を配り、学生は内容を聞きながらそのプリントの穴埋めをする。
4. 最後に、教材の内容を学生自身が全体的にまとめ、グループ分けて、発表する。

以上によって、聞く力だけでなく、中国語による表現力を引き伸ばすことも狙っている。

【評価方法】

出席状況と平常点に基づいて総合的に評価する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

自作教材と「愛情麻辣烫」(有限会社凱希メディアサービス)。

【参考文献・資料】

中級汉语听和說(北京語言学院出版社)

Seminar Overseas

MOLDEN, Danny T. McGEE, Jennifer J.

【授業の概要】

異文化体験学習(ホームステイ、小旅行など)を加味した語学研修を中心に、両大学教員の連携指導のもとで、メーリングリストを利用したEメール交信などによって各自のテーマに沿った調査研究も行う。

【授業計画】

1. 目的
下記の大学での夏季授業とホームステイ、小旅行を通じて、米国文化とアメリカ英語を習得すること。
2. 期間(予定)
2003年夏期休暇中2001年7月31日～8月26日
3. 研修先
米国The University of Minnesotaもしくは
West Virginia University
(予備調査での履習希望者数で決定します)
4. 費用(未定)
5. 渡航前 オリエンテーション
2003年5月から7月まで

【評価方法】

研修先での成績を中心に、事前オリエンテーションへの参加状況、事後報告レポートなどを加味して評価する。

中国語聴解Ⅳ

杜 英起 陳 惠貞

【授業の概要】

楽しい視覚教材、主として楽しい中国の映画や、童話、また有名な観光地と名所旧跡の紹介を授業の内容とする。もちろん映画の全部ではなく、中の一節である。耳の聞く力があくまでも熟練にあると思われるので、学生が随時授業の内容の聞く練習ができるように工夫されている。具体的に言うと、各授業の内容をパソコンに録音しておく。学生がクリック一つで繰り返し聞けるようにCD教材を作成する。学生の理解を助け、興味をもって聞けるようにするために、教材の内容と関連のある画面もできるだけ添えるようにする。

要するに、この中国語の聴解Ⅲと聴解Ⅳという授業は、中国人の普通の会話のみでなく、聞き取りにくいとされている中国語の映画も聞ける程度の力を養成することを目的とする。

【授業計画】

具体的には、以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

1. まず映画や童話などの大まかな内容を日本語で解説し、それから聞く練習に入る。
2. 学生に質問しながら、内容を解明していく。もちろん教材に出ている新しい表現については説明する。学生側は、CD教材を使って予習する必要がある。
3. 映画などの内容についてのプリント(穴埋め問題式)を配り、学生は内容を聞きながらそのプリントの穴埋めをする。
4. 最後に、教材の内容を学生自身が全体的にまとめ、グループ分けて、発表する。

以上によって、聞く力だけでなく、中国語による表現力を引き伸ばすことも狙っている。

【評価方法】

出席状況と平常点に基づいて総合的に評価する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

自作教材と「愛情麻辣烫」(有限会社凱希メディアサービス)。

【参考文献・資料】

中級汉语听和說(北京語言学院出版社)

中国文学Ⅰ・Ⅱ

陳 惠貞

【授業の概要】

この授業の目的は、文学作品の鑑賞と言語能力の向上という二つのところにある。言語能力の内、特に読む力とそのテクニックの養成に重点を置く。授業の内容は、主として近代の有名な短編小説や散文である。たとえば朱自清、魯迅や巴金などの作品であり、いずれも代表的な作品である。作品の後に作品を鑑賞する文章があり、それらを読むことによって、中国の文学に対する初歩的な理解を得ることができると同時に、中国語の読む力もアップすることができるのを狙っている。各課の後に、作品に関する課題を5つ設定し、それについてディスカッションを行うことが予定されている。要するに、本講義の目的は、先生の助けがなくても学生が自分で中国語の簡単な文学作品読めるようになると同時に文章を書く力と中国語で意見を述べる力を養成することにある。

【授業計画】

前期：

1. 海上日出
2. 匆匆
3. 春
4. 荷塘月色
5. 我的空中楼阁

後期：

1. 济南的冬天
2. 骆驼祥子
3. 一件小事
4. 讽刺论
5. 从百草园到三味书屋

【評価方法】

受講の態度、出席率、宿題の完成状況などに基づいて評価する。
期末テストは実施しない。

【テキスト】

自作教材

中国語学Ⅱ

周 素芬

【授業の概要】

本講義は、中国語研究の歴史、研究の分野などを紹介すると共に、中国語研究の最新成果を反映する代表的な論文を講読する。さらに、中国語と日本語の構文ルールなどの相違点を探り、その相違点による日本人の中国語学習上の問題点を想定する。そしてその問題点を質問紙調査などで検証すると同時に、その問題点を解決することのできるような中国語の教授法も吟味する。

【授業計画】

主として、論文講読という方法を取るが、授業は、講義式で展開するのではなく、討論という形で展開する予定である。具体的に言うと、学生が事前に論文を講読し、質問や自分の意見を考えておく必要がある。それを授業で発表し、意見交換を行う。最後に授業の担当者がまとめをする。この授業を履修することによって、中国語学に関する知識を獲得するだけでなく、中国語による発話能力や、中国語の研究力を身につけることもできるよう期待している。さらに、日本人が中国語を学習するとき、どこで、どのような問題を抱えるか、それを解決するためには、どのような教授法を取ればよいのかなどについても議論する予定である。よって、卒論が書きたい学生にぜひ薦める授業である。

【評価方法】

学年末にレポートに平常点を加味して評価する。

【テキスト】

関連の論文のコピーを使用する。

中国語学Ⅰ

周 素芬

【授業の概要】

本講義は、中国語の全体的な文法知識、中国語の構文ルール、また中国語研究の基本方法など、中国語学に関する基礎知識の紹介に重点を置いて行う予定である。中国語の教師として、または中国語の研究者として基本的な知識を身につけることを本講義の目的とする。

【授業計画】

主として、論文講読という方法を取るが、授業は、講義式で展開するのではなく、討論という形で展開する予定である。具体的に言うと、学生が事前に論文を講読し、質問や自分の意見を考えておく必要がある。それを授業で発表し、意見交換を行う。最後に授業の担当者がまとめをする。この授業を履修することによって、中国語学に関する知識を獲得するだけでなく、中国語による発話能力や、中国語の研究力を身につけることもできるよう期待している。授業は、学生による輪読という形式であるので、学生を主体とする展開となる。

【評価方法】

学年末にレポートを提出してもらい、それを基本としながら、平常点と出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

関連の論文のコピーを使用する。

日本語学Ⅲ

山内啓介

【授業の概要】

語彙についての基本的な理解を得るため、術語や理論を学習して言語研究の応用方法を解説する。また、意味についての研究史から、意味の基本三角形、指示的意味、差異化、概念の外延と内包、関係的意味などの基本的な知識を得る。

【授業計画】

- 1 はじめに 語と語彙
- 2 語彙論とは何か。 語の単位・語彙調査・語彙表
- 3 語の延べと異なり。 資料体の総量・古典対照語彙
- 4 基本語彙について。 基礎語彙・基幹語彙・語彙量
- 5 語彙の構造。 分類基準・意義・形態・語性・地域
- 6 語誌の研究。 語源・語義・本義・派生義・語構成
- 7 語種。 和語・漢語・外来語・混種語・カタカナ語
- 8 語と意味。 意味とは、意味の捉え方・語義反義語
- 9 語の意味の研究。 指示的意味・意味の基本三角形
- 10 関係的意味。 象徴記号・概念と用法・語義の差異
- 11 意味分析の方法。 文脈的意味・臨時的意味・比喩
- 12 語の意味変化について。 意味の変遷・辞書の記述
- 13 日本語語彙の特徴。 死語・流行語・若者語・造語
- 14 語彙史と辞書史。 字引き・索引・コンコーダンス
- 15 語彙研究の課題・意味研究の将来

【評価方法】

定期試験による。出席回数を重視する（80%以上）。

【テキスト】

プリント資料を配布。

【参考文献・資料】

授業中に紹介するので、図書館などで利用されたい。

日本語特殊講義 I

窪田守弘

【授業の概要】

将来、日本語教師を目標としている学生は、少なくとも外国語の文献や資料を読みこなす能力が必要である。20世紀には多くの言語学者の学説が発表されたが、著名な論文や著述の中から、日本語教授法に関する基本的な文献を広い視野から整理しながら概観する。

【授業計画】

教師が日本語で教える際に、直接外国語を使うことはあまり必要とされない。しかし、それは教授法の一手段として有効な場合が多い。特に文法上の説明では、定義を明確にする必要から、学習者の母国語が有効的な役割を果たすことは事実である。

そこで、少なくとも国際語と称される英語力は不可欠で、その基礎的な運用能力をつけるために主に日本語教授法に関する英文の資料の読解を試みる。

【評価方法】

発表やレポートの内容、出席状況などで評価する。

【テキスト】

配布プリント

日本語特殊講義 II

窪田守弘

【授業の概要】

外国語の文献では、欧米学者の学説を極力原書で紹介するが、原書で読めないものに関しては、翻訳によってその言語学者の考えの凡そを理解するようにする。そして、学生が各自関心のある学説に関しては、各自が分担して発表を行うようにする。そして、少なくとも分担した部分は、原書で読めるような読解力を身につけることを目標とする。

【授業計画】

日本語の文法に関する英文の資料を中心に読解を心がける。本講義では前期の内容を踏まえてさらにアメリカにおける日本語教育の実態についても学んでいきたい。

【評価方法】

授業時の発表、レポートの内容、出席状況などで評価する。

【テキスト】

配布プリント

日本語教育海外研修

山内啓介 窪田守弘

【授業の概要】

日本語教育の関連科目の一環として、姉妹校である中国の南京師範大学の日本語学科で、日本語教育実習を実施する。将来日本語教師を目指す者は、当校で、約3週間の日本語教育実習を行うが、中国の学生と直接交流するという意味で、貴重な異文化体験プログラムともいえる。

【授業計画】

集中講義として行われる。

南京師範大学日本語学科で教育実習を行う。

【評価方法】

実習の参加度、レポートによる。

【テキスト】

使用せず。

専門演習 III

松本青也

【授業の概要】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

【授業計画】

アメリカで製作されたTV番組や新聞雑誌記事などの英語を資料として分析しながら、その背景にあるアメリカ思想を歴史的形成過程と他文化との比較対照という二つの観点から深く掘り下げます。またそうした作業の課程で、インターネットとパソコンを駆使して、さまざまな情報の収集と分析の方法を学び、各自のテーマに沿った研究成果を発表することで、説得力のあるプレゼンテーションの方法も学びます。

【評価方法】

レポート、研究発表、学習態度、出席状況による総合評価。

【テキスト】

自作プリント教材、ビデオ、インターネットによる資料

専門演習Ⅲ

ジョリー佐々木幸子

【授業の概要】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

【授業計画】

- 第1週 Course Orientation
- 第2週 研究企画と方法論
(Reserch Methodology)
- 第3週 文献録作制
(Bibliography-Reference)
- 第4週 Speech: Research
(Reading-Discussion)
- 第5週 ”
- 第6週 ”
- 第7週 ”
- 第8週 ”
- 第9週 ”
- 第10週 ”
- 第11週 ”
- 第12週 Final Examination

【評価方法】

演習への出席、discussionへの参加、スピーチ、レポート等を総合的に判断する。

【テキスト】

異文化にみる非言語コミュニケーション (御手洗昭治 ゆまに書房 2000年)

【参考文献・資料】

Nonverbal Codes, Brent D. Ruben Kirihiro Shoten, 1996

専門演習Ⅲ

山内啓介

【授業の概要】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

【授業計画】

専門演習Ⅱにつづき、日本語学、日本語教育の演習を行う。日本語学、日本語教育、国語と日本語、日本語と文化などについて研究領域を設定し、研究分野に従って自らの研究テーマを探究する。

次の演習を行う。

- 先行研究の探索
- 専門書の読み取り
- データ・資料収集
- プレゼンテーション
- レポート・論文を作成する

【評価方法】

プレゼンテーション、レポート、研究発表、討議の参加をくわえて総合的に評価を行う。

【テキスト】

発表用資料。
日本語学・日本語教育の論文、専門書。

専門演習Ⅲ

DYCUS, David C.

【Course Content】

The general aim of the second year of this 3-year seminar to provide students with specific examples of intercultural contact with people of European cultures. The focus will be comparative, usually involving the experiences of the Japanese interacting with people from European nations (although the focus will sometimes be on the experiences of non-Japanese interacting with people of a given European culture as well).

【Schedule】

The instructor will attempt to find information on groups of interest to students. In addition, cultural and communicative characteristics of the following influential cultures will be addressed:

1. The French
2. The Northern Germans
3. The British
4. The Spanish

General aspects of cultural and intellectual history (the Greco-Roman heritage) which have had a unifying effect on European culture in general will also be discussed.

【Assessment】

Assessment will be based on 1) attendance and participation, 2) shorter homework assignments related to individual lesson objectives or preparation for longer assignments, and c) a mid-term and end-of-term short research paper. Students are encouraged to begin exploring a topic directly related to their graduation paper or project.

【Textbooks】

To be announced.

専門演習Ⅲ

馮富榮

【授業の概要】

この授業では、いくつかの研究テーマを設定し、興味を共有する研究のテーマによって学生をグループに分ける。各グループで、関連文献や研究テーマに関する先行研究を学習し、問題点をまとめる。そしてまとめた結果をゼミ生全員の前で報告する。報告は研究テーマによって中国語で行われることが要求される。要するに、この専門演習Ⅲと専門演習Ⅳは、4年次の必修科目であるプロジェクトのための準備作業に当たる。この授業を履修することによって卒業までに立派な研究課題を完成することができるだけでなく、中国語の語学力をアップすることもできるように期待されている。授業は、講義式ではなく、学生が主体となって行うことになる。

【授業計画】

前期では、関連文献や先行研究の学習を主とする。具体的には、以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

1. 学生の関心のある話題や、研究テーマについての調査を実施する。
2. 人数的に比較的集中できる研究テーマを選出し、それに従って学生をいくつかのグループに分ける。
3. 各個人が研究のテーマに関する先行研究を探したり、ホームページなどで興味のある話題について調べたりしてきて、各グループ内でそれを中国語で発表する。そして、グループごとに先行研究や、発表した材料についてディスカッションを行う。
4. 先行研究や、興味のある話題に関する材料をグループでまとめ、まとめられた結果をゼミ全員を対象にグループ毎に発表する。発表のポイントは、先生は授業で説明する。

【評価方法】

平常点、研究課題の取り組み姿勢、そして事前準備の出来具合で評価する。

【テキスト】

プリント

専門演習Ⅲ

窪田守弘

【授業の概要】

学生による課題発表や討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

発表時のレジメ作成を積極的に進める。

【授業計画】

日本と外国の映画を通して、外国へ出かけた日系人の歴史を学ぶ。特に第2次世界大戦におけるアメリカの日系人への強制収容所について資料を詳しく調べていく。

【評価方法】

演習時の発表態度、提出レポートや作品、出席状況などで総合的に評価する。

【テキスト】

アジア系アメリカ人 (村上由見子著 中公新書 740円+税)

専門演習Ⅲ

MOLDEN, Danny T.

【Course Content】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

Rhetoric is the study of how humans can communicate more clearly and debate more effectively. It is the study of how we decide what to say and when to say it.

Of course, rhetoric and debate are very broad methods - they are really ways of studying or thinking about a topic. So, the class will focus first on the study of rhetoric and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, music, television programs, movies, plays, art, etc.

【Schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about rhetoric.

Topics covered will include:

1. Classical rhetorical theory
2. Contemporary rhetorical theory
3. The rhetoric of movies, music, art, etc.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, quizzes, written papers, and an oral presentation.

【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course although readings may be provided

専門演習Ⅲ

McGEE, Jennifer J.

【Course Content】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

What happens to cultural artifacts when they cross cultures-how are they changed to reflect the standards of the new culture? And why do people become fans of things from different cultures? This seminar looks at cultural crossovers-when things from one culture are enjoyed by people from another culture. We will study both the things themselves (what changes happen when food, television, movies etc. move from country to country) and the people who enjoy items from other cultures.

【Schedule】

First year:

- Japanese culture in America
- American culture in Japan

Second year:

- American fans of Japanese culture
- Japanese fans of American culture

Third year: Independent student study

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation in class discussions, homework, and reports.

【Textbooks】

None. There may be some readings given, and students may be required to watch some movies outside of class.

専門演習Ⅲ

杜 英起

【授業の概要】

この授業では、いくつかの研究テーマを設定し、興味を共有する研究のテーマによって学生をグループ分けする。各グループで、関連文献や研究テーマに関する先行研究を学習し、問題点をまとめる。そしてまとめた結果をゼミ生全員の前で報告する。報告は研究テーマによって中国語で行われることが要求される。要するに、この専門演習Ⅲと専門演習Ⅳは、4年次の必修科目であるプロジェクトのための準備作業に当たる。この授業を履修することによって卒業までに立派な研究課題を完成することができるだけでなく、中国語の語学力をアップすることもできるように期待されている。授業は、講義式ではなく、学生が主体となって行うことになる。

【授業計画】

前期では、関連文献や先行研究の学習を主とする。具体的には、以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

1. 学生の関心のある話題や、研究テーマについての調査を実施する。
2. 人数的に比較的集中できる研究テーマを選出し、それに従って学生をいくつかのグループに分ける。
3. 各個人が研究のテーマに関する先行研究を探したり、ホームページなどで興味のある話題について調べたりしてきて、各グループ内でそれを中国語で発表する。そして、グループごとに先行研究や、発表した材料についてディスカッションを行う。
4. 先行研究や、興味のある話題に関する材料をグループでまとめ、まとめられた結果をグループ毎に発表する。発表のポイントについて、先生は授業で説明する。

【評価方法】

平常点、研究課題の取り組む姿勢、そして事前準備の出来具合で評価する。

【テキスト】

プリント

専門演習Ⅲ

WRINGER, Paul

【Course Content】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

Review and further in depth study of modern Britain covering different aspects of British life, including the environment, the media, lifestyles, festivals, and employment. There will be a direct comparison to similar aspects of Japanese culture.

【Schedule】

(Each topic will be covered over a two or three week period.)

The Media (Press)
Sport and leisure
Music
Family life
Multicultural festivals
Religion economy and the workplace

【Assessment】

Grades will be determined from the following:

- ・ Homework and assignments
- ・ Presentations
- ・ Participation in pair and group work
- ・ Reports

【Textbooks】

No set text.
Handouts will be prepared and made available.

専門演習Ⅳ

松本青也

【授業の概要】

学生による研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、四年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考えさせる。

【授業計画】

各自の研究テーマについて、英語による研究発表（メディアを駆使した本格的なプレゼンテーション）を中心に、現代アメリカ英語と文化のさまざまな課題を取り上げます。最後に全員執筆の研究論文集『現代アメリカ研究2002』を作成します。

【評価方法】

レポート、研究発表、学習態度、出席状況による総合評価。

【テキスト】

自作プリント教材、ビデオ、インターネットによる資料

専門演習Ⅲ

CHARLEBOIS, Justin

【Course Content】

This seminar will focus on introducing you to the field of discourse analysis. We will study both approaches to discourse analysis including: conversation analysis, a pragmatic approach, the ethnography of speaking, and interactional sociolinguistics. A large part of this seminar and seminar IV will be on the topic of differing conversation styles. Differing conversation styles can lead to instances of miscommunication between people of differing native languages. Moreover, differing conversation styles can also lead to miscommunication between speakers of the same language but different speech community. In addition, films will be shown occasionally that illustrate the concepts taught in class.

【Schedule】

- ・discourse analysis
- ・conversation analysis
- ・speech act theory
- ・ethnography of speaking
- ・interactional sociolinguistics
- ・language and gender
- ・narrative analysis
- ・interpreting interruption in conversation
- ・Hillary Rodham Clinton: What the Sphinx Thinks

【Assessment】

Homework
Midterm Paper
Final Paper

【Textbooks】

None. Just the prints that I distribute.

【Reference】

Approaches to Discourse. (Shiffrin, D. (1994). Oxford: Blackwell.)

専門演習Ⅳ

ジョリー-佐々木幸子

【授業の概要】

学生による研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、四年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考えさせる。

【授業計画】

4年次の研究発表、プレゼンテーション（英語使用）のための準備と関連する文献のreading, discussionを行う。又毎授業の前半に英語でのspeechとQuestion & Answerの練習を積む。

【評価方法】

演習への出席、discussionへの参加、発表、レポート、speech等を総合的に判断する。

【テキスト】

異文化に見る非言語コミュニケーション
(御手洗昭治 ゆまに書房 2000年)

【参考文献・資料】

Nonverbal Codes, Brent D.Ruben, Kirihiro Shoten, 1996.

専門演習Ⅳ

DYCUS, David C.

【Course Content】

The general aim of the second semester of the second year of this 3-year seminar to provide students with specific examples of intercultural contact with people of Asian and Arab cultures. The focus will be comparative, usually involving the experiences of the Japanese interacting with people from Asian and Arab nations (although the focus will sometimes be on the experiences of non-Japanese interacting with people of a given Asian culture as well).

【Schedule】

The instructor will attempt to find information on groups of interest to students. In addition, cultural and communicative characteristics of the following influential cultures will be addressed:

1. The Chinese
2. The Koreans
3. The people of India
4. The Arabs

General aspects of cultural and intellectual history (i.e. Confucianism and Buddhism, Islam) which have had a unifying effect on Asian and/or Arab culture in general will also be discussed.

【Assessment】

Assessment will be based on 1) attendance and participation, 2) shorter homework assignments related to individual lesson objectives or preparation for longer assignments, and c) a mid-term and end-of-term short research paper. Students are encouraged to begin exploring a topic directly related to their graduation paper or project.

【Textbooks】

To be announced.

専門演習Ⅳ

馮 富榮

【授業の概要】

この授業では、いくつかの研究テーマを設定し、興味を共有する研究のテーマによって学生をグループ分けする。各グループで、関連文献や研究テーマに関する先行研究を学習し、問題点をまとめる。そしてまとめた結果をゼミ生全員の前で報告する。報告は研究テーマによって中国語で行われることが要求される。要するに、この専門演習Ⅲと専門演習Ⅳは、4年次の必修科目であるプロジェクトのための準備作業に当たる。この授業を履修することによって卒業までに立派な研究課題を完成することができるだけでなく、中国語の語学力をアップすることもできるように期待されている。授業は、講義式ではなく、学生が主体となって行うことになる。

【授業計画】

後期では、4年次のプロジェクトで引き続き取りこんでいく研究テーマを各グループで議論して決定する。それを完成させるための準備作業に入る。具体的には以下のステップを踏んで、授業が展開される。

1. 各グループでディスカッションをして4年次のプロジェクトという必修科目で取りこむ研究テーマを最終的に決定する。
2. 研究テーマを完成させるために、各学生の役割分担をグループで議論して決める。
3. 各学生は振り分けられた作業を授業外で成し遂げ、それを授業のときグループ内で報告する。そして、次の作業の内容をグループで決める。このように繰り返して、研究作業を進めていく。

【評価方法】

平常点、研究課題の取り組み姿勢、そして事前準備の出来具合で評価する。

【テキスト】

プリント

後期では、学生主導で授業を展開する。つまり講義中心の授業からディスカッション中心の授業へと変化していく。より具体的に言うと、学生を二人ずつのペアに分け、二人で協力しあって、単語の説明や文法の説明を行う。どのような単語は例を添えて説明したほうがよいか、どの文法現象を取りたてて説明したほうがよいか、また本文のどこに特に注意を払ったほうがよいかなどは、学生たちが自分で考えなければならないが、そのための事前指導や、アドバイスはもちろん先生がする。このゼミの最終的な目標は、受け入れ型の学生ではなく、挑戦型の学生を養成することにあるので、そのための第一歩はここからスタートする。つまり、最初からできないのではなく、勇気をもって挑戦すればどんなことでも怖くないという自信、他人と協力することの大切さ、そして受講者が自分に何を求めようとしているか、自分がその人達に何ができるかという人の心を思いやる気持を培うことができれば期待している。さらに、後期の授業を通して翌年3月の中国語能力検定試験の準2級に合格することを期待している。

専門演習Ⅳ

山内啓介

【授業の概要】

学生による研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、4年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考えさせる。

【授業計画】

専門演習Ⅲにつづき、日本語学、日本語教育の演習を行う。日本語学、日本語教育、国語と日本語、日本語と文化などについて、自らの研究テーマを探究する。次の演習を行う。

- プレゼンテーション
- レポート・論文を作成する

【評価方法】

プレゼンテーション、レポート、研究発表、討議の参加をみて、総合的に評価を行う。

【テキスト】

- 発表用資料。
- 日本語学・日本語教育の論文、専門書。

専門演習Ⅳ

窪田守弘

【授業の概要】

学生による研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考えさせる。

レジュメ作成から論文の原稿への導入を図る。

【授業計画】

プロジェクト作品を作成する中から疑問点をいくつか選び、それが完成するまでの過程を計画的に実行する。そして、各自が設定したテーマについて個人発表して、内容を充実させる。

【評価方法】

提出レポート、出席状況などで評価する。

【テキスト】

日本語の教室 (大野晋著 岩波新書 700円+税)

専門演習Ⅳ

MOLDEN, Danny T.

【Course Content】

学生による研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、四年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考えさせる。

Rhetoric is the study of how humans can communicate more clearly and debate more effectively. It is the study of how we decide what to say and when to say it.

Of course, rhetoric and debate are very broad methods - they are really ways of studying or thinking about a topic. So, the class will focus first on the study of rhetoric and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, music, television programs, movies, plays, art, etc.

【Schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about rhetoric.

Topics covered will include:

1. Classical rhetorical theory
2. Contemporary rhetorical theory
3. The rhetoric of movies, music, art, etc.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, quizzes, written papers, and an oral presentation.

【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course although readings may be provided

専門演習Ⅳ

杜 英起

【授業の概要】

この授業では、いくつかの研究テーマを設定し、興味を共有する研究のテーマによって学生をグループ分けする。各グループで、関連文献や研究テーマに関する先行研究を学習し、問題点などをまとめる。そしてまとめた結果をゼミ生全員の前で報告する。報告は研究テーマによって中国語で行われることが要求される。要するに、この専門演習Ⅲと専門演習Ⅳは、4年次の必修科目であるプロジェクトのための準備作業に当たる。この授業を履修することによって卒業までに立派な研究課題を完成することができるだけでなく、中国語の語学力をアップすることもできるように期待されている。授業は、講義式ではなく、学生が主体となって行うことになる。

【授業計画】

後期では、4年次のプロジェクトで引き続き取りこんでいく研究テーマを各グループで議論して決定する。それを完成させるための準備作業に入る。具体的には以下のステップを踏んで、授業が展開される。

1. 各グループでディスカッションをして4年次のプロジェクトという必修科目で取りこむ研究テーマを最終的に決定する。
2. 研究テーマを完成させるために、各学生の役割分担をグループで議論して決める。
3. 各学生は振り分けられた作業を授業外で成し遂げ、それを授業のときグループ内で報告する。そして、次の作業の内容をグループで決める。このように繰り返して、研究作業を進めていく。

【評価方法】

平常点、研究課題の取り組み姿勢、そして事前準備の出来具合で評価する。

【テキスト】

プリント

専門演習Ⅳ

McGEE, Jennifer J.

【Course Content】

学生による研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、四年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考えさせる。

What happens to cultural artifacts when they cross cultures-how are they changed to reflect the standards of the new culture? And why do people become fans of things from different cultures? This seminar looks at cultural crossovers-when things from one culture are enjoyed by people from another culture. We will study both the things themselves (what changes happen when food, television, movies etc. move from country to country) and the people who enjoy items from other cultures.

【Schedule】

First year:

- Japanese culture in America
- American culture in Japan

Second year:

- American fans of Japanese culture
- Japanese fans of American culture

Third year: Independent student study

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation in class discussions, homework, and reports.

【Textbooks】

None. There may be some readings given, and students may be required to watch some movies outside of class.

専門演習Ⅳ

WRINGER, Paul

【Course Content】

学生による研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、四年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考えさせる。

In this section of the course students will look at cultural background knowledge, the British approach to life in general and what makes Britain different.

Topics already studied will be reviewed through group discussions, reports, and presentations.

【Schedule】

Topics will include the following:

- Identity
- Attitudes
- Welfare
- The law
- Education
- The arts

【Assessment】

Grades will be determined from the following:

- Homework and assignments
- Presentations
- Participation in pair and group work
- Reports

【Textbooks】

No set text.

Handouts will be prepared and made available.

専門演習Ⅳ

CHARLEBOIS, Justin

【Course Content】

This course will continue to focus on discourse analysis. Specifically, we will continue to examine how interlocutors with different conversation styles can have breakdowns in communication. Besides studying Deborah Tannen's book, "You Just Don't Understand" (わかりあえない理由), we will continue to view films that illustrate differing conversation styles.

【Schedule】

- men and report talk
- women and rapport talk
- troubles talk
- conversation style and ethnicity

【Assessment】

- Homework
- Midterm paper
- Final paper

【Textbooks】

わかりあえない理由 (デボラタネン (1990) 田丸美寿 訳 (1992) 講談社)

【Reference】

The Handbook of Discourse Analysis.
(Schiffrin, D. (Ed.) (2001) Oxford: Blackwell.)
Conversation Style. (Tannen, D. (1984) London: Ablex.)

プロジェクト

松本青也 ジョリー-佐々木幸子 山内啓介 馮 富榮 窪田守弘 MOLDEN, Danny T. McGEE, Jennifer J. 杜 英起 DYCUS, David C. WRINGER, Paul CHARLEBOIS, Justin

【授業の概要】

それぞれの分野において、個性を生かした多様な学習・研究活動の目標を主体的に選択、設定させ、各自の目標達成に向けて適切な指導を加えながら、学習・研究業績をあげさせようとするものである。

【授業計画】

学習・研究業績には、論文のほか、言語コミュニケーションの実践の場としての一ヶ月以上にわたる海外ボランティア活動、実用英語検定試験一級合格などが含まれる。なお、論文以外は報告書を提出するものとする。

週二回の授業時間は、原則として一回を全員参加による演習、他の一回を個人指導に充てる。

(主な日程)

- ・4月26日(月)「プロジェクト計画書」提出締切り：4月1日以降、研究棟1階事務室窓口にある用紙に記入して1号棟3階レポートボックスに提出。
- ・5月24日(月)『プロジェクト概略』提出締切り：5月1日以降、研究棟1階事務室窓口にある用紙に記入して1号棟3階レポートボックスに提出。
- ・個別指導の日程、論文の梗概提出、初稿提出などの詳細は指導教員の指示による。
- ・12月17日(金)午後4時：論文もしくは報告書提出締切り(12月8日より研究棟1階事務室で受け付け)

【評価方法】

学習・研究業績の内容を中心に、演習授業への出席状況などを加味して評価する。

比較教養特論

柳澤幾美

【授業の概要】

比較教養論で学んだことを踏まえて、ここでは特に北アメリカのエスニシティと女性観について論じる。さらに、日本との比較や二言語教育についても論じながら、エスニシティとジェンダーの視点から「教養」の意義を概説する。

【授業計画】

1. イントロダクション
- 2~3. アメリカ植民地時代の女性観
- 4~5. 19世紀のビクトリア的女性観
- 6~7. 20世紀北アメリカ的女性観
- 8~9. 現代北アメリカ的女性観
- 10~11. 現代北アメリカのエスニシティ
- 12~13. 二言語教育について
14. 今日の日本の女性観と北アメリカとの比較
15. 総括

【評価方法】

レポート、討議により評価する。

【テキスト】

北アメリカ社会を眺めて：女性軸とエスニシティ軸の交差点から
(北米エスニシティ研究会編 関西学院大学出版会)

【参考文献・資料】

その都度紹介する。

比較文化特論Ⅰ

國信潤子

【授業の概要】

文化・文明概念の定義と、異文化比較が近年特に日常生活においても必要となっている。国境を越えるビジネス、労働によって文化慣習の相違が頻繁に体験されるようになった。そこでこの講義ではジェンダーつまり社会・文化的に形成された性がビジネス・シーンにどのように現れるが、特に先進諸国と、開発途上国における労働、家族、地域における人間関係について事例紹介を行う。南北社会対立、持続可能な開発などをキーワードにジェンダー関係のアンバランスが労働、家族関係にどのように現象化しているかについて考える。

【授業計画】

ジェンダー概念を説明し、各種関連国際法、人権規約などを紹介する。また雇用機会の均等化、男女ともに取れる育児・介護休業法、社会保障等法制改革の近年の状況について講ずる。

【評価方法】

授業出席状況、履修態度、感想カード内容、期末レポートなどの総合評価による

【テキスト】

授業時に提示する。

【参考文献・資料】

また随時資料配布する。

比較文化特論Ⅱ

TODOROVIC, Thomas

【授業の概要】

ヨーロッパ連合のそれぞれの国々の文化の特色と日本文化との類似点と相違点に関する比較を行い、学生達の多様なヨーロッパ文化への理解と関心を深める。

【授業計画】

- 1) ヨーロッパにおける文化相違
- 2) 文化的アイデンティティ
- 3) 食文化
- 4) ヨーロッパの民俗学
- 5) 儀式と祭り
- 6) 人間と時間
- 7) イメージとステレオタイプ
- 8) 政治制度
- 9) 表現の自由
- 10) マナーの仕方

【評価方法】

テストによる評価する。

【テキスト】

使用せず。

日本語教授法Ⅲ

山内啓介

【授業の概要】

外国人に対する日本語教授法、特に中級、上級レベルの日本語教授法を中心に学習する。初級における口頭練習、読解指導の教案作成および模擬授業をふまえ、中級、上級と様々なレベルの日本語教育が日本語学習者の立場に立って体験できるようにする。

【授業計画】

次の講義と教壇実習を行う。

- 1 初中級のとらえかた
- 2 中級のとらえかた
- 4 専門日本語とは
- 5 上級のとらえかた
- 6 教案と授業の実際
- 7 シミュレーション
- 8 日本語学習者論
- 9 PAL法の実演(1)
- 10 PAL法の実演(2)
- 11 PAL法の実演(3)
- 12 日本語とコミュニケーション
- 13 日本語コミュニケーター

【評価方法】

単位取得の評価は、授業参加30%、複数回のテスト60%、受講生のコミュニケーション10%で行う。

【テキスト】

各種ある日本語の教科書について、実践しようとするものについて、ひとつを選び購入すること。

日本語教授法Ⅳ

山内啓介

【授業の概要】

日本語教師の役割、教材およびテスト等学習環境を教育所産として再確認した上で、日本語教育の現場を見据えた実践的な日本語教育教材の取り扱い方を学ぶ。また、日本語教育におけるテストの作成およびその評価法についても学ぶ。

【授業計画】

次の講義と演習を行う

- 1 日本語教育の実際
- 2 日本語指導者と享受者
- 3 日本語教育とカリキュラム
- 4 コースデザインのとらえかた
- 5 ニーズアナリシス
- 6 シラバスデザイン
- 7 日本語学習用のスキット
- 8 教科書・教具の作成
- 9 テストと評価法
- 10 日本語ボランティア(1) 日本語と地域
- 11 日本語ボランティア(2) 学校教育の現場
- 12 日本語ボランティア(3) 第2言語教育
- 13 日本語教授法の課題

【評価方法】

単位取得の評価は、授業参加30%、複数回のテストおよびシミュレーション60%、受講生のコミュニケーション10%で行う。

【テキスト】

講義開始時に指示する。

日本語教育実習

山内啓介

【授業の概要】

具体的な日本語の授業のための「授業計画」(指導案)に基づいて授業実習を行なう。授業実習の準備、授業実習、そして授業実習後の振り返りを通して日本語の授業への取組み方を身をもって学ぶ。日本語教育の現場を想定して、模擬授業を行なう。

【授業計画】

本年は教育実習を留学生別科にて実施する。

実施時期は10月を予定する。

実習にあたっては事前の準備を始め、見学・参加・実習のスラップを通して学習する事柄が多いので、受講生は真剣に取り組んで欲しい。

【評価方法】

事前・事後の学習の態度、実習の参加度を評価する。

レポートを課す。

【テキスト】

みんなの日本語(スリーネットワーク)

ことばの発達と障害

二宮 昭

【授業の概要】

人間のことばによるコミュニケーション行動に関して、それは一体どのような過程を経て発達してくるのか、また、その障害はどのような場合にどのようなかたちで現れ、それを改善していくにはどういうことが重要であるか、ということを通して、人間にとってことばのもつ意義を考える。

【授業計画】

第1～6回 「ことば」の発達

- 1) 原初的コミュニケーション「ことば」の発達の基盤
- 2) 語と文の発達
- 3) 言語的現実の自覚の発達－3歳児はなぜしりとりができないのか

第7～12回 「ことば」の障害

- 1) 自閉症児の「ことば」
- 2) 知的障害児の「ことば」

第13回 試験

【評価方法】

各学期末に行う筆記試験による。

【テキスト】

使用しない。適時参考資料を配付する。

ビジネス英語

CALANTAS, Teresita

【授業の概要】

The aim of this course is to give students ample opportunities to learn skills both in speaking and in writing in order to communicate in common business situations. The course will cover topics such as socializing, business communications, company structures, job and product descriptions, reporting and presentation of facts and figures, meetings and negotiations. Students are expected to do homework, research, come to class prepared and participate in group activities. At the end of the course students will be evaluated based on their performance during the course, plus a final examination or report. Textbook will be decided later.

【授業計画】

Topics to be covered:

1. Self introduction and socializing
2. Company structures
3. Job description
4. Product description
5. Memos and Business Letters
6. CV and Cover Letter
7. Meetings and Negotiations

【評価方法】

60% Class Participation, Homework Assignments, Effort in Speaking English
40% Final Written Test and Job Interview or Written Report and Oral Presentation

【テキスト】

Textbook will be announced at the beginning of the course.

【参考文献・資料】

Will be announced at the beginning of the course.

ビジネス英語

蜂須賀幸志

【授業の概要】

21世紀、いかにインターネット上の取り引きが主流であっても、ビジネス界で使用される公式社外用ビジネスレターの作成並びに社内報メモランダムの作成能力の修得は不可欠である。このコースはこうした実践的ビジネス英語の能力養成をゴールとする。

【授業計画】

1. 導入：交渉に役立つビジネス英語の特徴
2. ビジネス会議における人々との交流
3. 電話の応答（1）(VIDEO使用)
4. 電話の応答（2）
5. アポイントメントの取り方
6. プレゼンテーション（1）企業紹介（小テスト）
7. プレゼンテーション（2）
8. 製品と販売
9. 企業の方針。決定についての討論
10. 苦情処理
11. 社内メモランダム作成
12. 社外公式レター作成練習
13. 試験

【評価方法】

出席状況。小テスト。プレゼンテーション。課題。
クラスにたいする貢献等による総合評価

【テキスト】

テキストとしては使用しない。

【参考文献・資料】

テープ、ビデオ等視聴覚教材

ビジネス中国語

杜 英起

【授業の概要】

本講義は、中国経済と日・中経済交流の全般に対する紹介から入り、日・中貿易および対中投資の実務に関する知識を紹介しながら、接客、商談、会議、契約、交渉、通関などさまざまなビジネスの場面に応じて、生きた中国語をマスターする。

【授業計画】

1. 電話連絡
2. 会社の表敬訪問
3. 輸出入業務の打ち合わせ
4. オファー（価格の提示）
5. カウンター・オファー（値下げなどの価格交渉）
6. 納期の交渉
7. 決済について
8. 商品の包装交渉
9. 保険条件の交渉
10. 契約
11. クレームと交渉について
12. 他の貿易形式について
A. 補償貿易
B. 委託加工貿易
13. 日中貿易の相違点について

【評価方法】

出席状況と単位認定試験によって総合的に評価する

【テキスト】

自作教材

教職入門

梅村敏郎

【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実体を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審、教課審の答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につかかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

【授業計画】

- 1 社会構造の変化と教育の役割の変化
- 2 偉大な教育者に学ぶ
- 3 日本における教員養成
- 4 日本の民主化と教育
- 5 現代社会と教育
- 6 まとめ

【評価方法】

筆答試験による。

【テキスト】

「教職入門」300円

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

教育原理

佐藤実芳

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思いうかべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。本講義では、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業計画】

1. 教育とは何か
2. 人間と教育
3. 教育の本質
4. 教育の目的
5. 現代の教育

【評価方法】

試験、レポート、受講態度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

教師論

佐藤実芳

【授業の概要】

日本における明治維新以降の教員養成制度について、教員免許・資格、教員に求められていた資質等の歴史を学習する。

多様化と個性化、国際化、情報化、高学歴化等の現代社会の急激な社会変化の中において期待される教員像を求め、学生の被教育体験を交えて模索することによって、教職への理解を深め、目的意識をもって教職への道を歩む人材の育成を目指す。

【授業計画】

1. 日本における教員養成の制度
(1) 教員養成の歴史と現在 (2) 教職課程の仕組 (3) 教員の採用
2. 教師について考える
(1) 教科指導 (2) 生徒指導 (3) 教員の研修
3. 種々な教師に学ぶ

【評価方法】

レポート、受講態度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

教育思想史

梅村敏郎

【授業の概要】

教育は、人間の本質的な営みの一つであって、既に古代から哲学者や思想家の考察の対象となってきた。これらの思想は、思想家たちが生きた時代や文化の主要な潮流や思想家自身の思考方法の特徴によって極めて多様な思想や理論が形成された。

この授業では、古代から現代まで各時代を代表するような偉大な教育思想を時代順に辿るのではなく、現代の教育についての基本的な考え方や主要な概念に直接的な影響を与え、そのため現代教育と直接的なつながりを持つと思われる17世紀のコメニウスを出発点として、それ以後今日に至るまで最も重要と考えられてきた教育者たちの思想を取り上げる。

その際、学生はそれらの思想についての他人の解釈や解説を聴くことも必要ではあるが、むしろそれらの思想と直接に対決することがより大切である。

専門的な研究者にとっては、それらの思想はそれが書かれた元の言語で読まれるべきであろうが、初歩の学生は先ずそれらの書物の良い日本語訳によって、これらの思想に直接触れることが必要である。

【授業計画】

- 1 教育思想史を勉強することの意義
- 2 教育思想史を17世紀から取り扱う理由
- 3 コメニウス
- 4 ルソー
- 5 ベスタロッチ
- 6 ヘルバルト
- 7 フレーベル
- 8 デューイ

【評価方法】

評価はレポートの提出、あるいは資料持ち込み自由の筆答試験による。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。

【参考文献・資料】

参考文献は授業中に適宜紹介する。

欧米教育文化史

渡辺かよ子

【授業の概要】

欧米教育文化史における「近代化」とは具体的に何を意味するのか、という点に焦点をあて、欧米教育・文化の全体的・構造的な変遷過程に着目しつつ、比較教育史的なアプローチを試みる。

【授業計画】

1. 欧米教育文化史の視点と課題
2. 中世後期の欧米教育文化とルネサンス、宗教改革
3. 近代教育文化の生誕と展開（啓蒙思想と市民革命、産業革命）
4. 大学の誕生と展開
5. 西洋的教養と学校制度の確立

【評価方法】

レポート。

【テキスト】

教養の復権（沼田裕之他 東信堂）

【参考文献・資料】

その都度指示する。

教育心理学 I

富安玲子

【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達を概観し、発達課題について考えると共に、障害のある幼児、児童、生徒への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的とした。

【授業計画】

1. 教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 生涯発達の視点
3. 障害のある幼児、児童、生徒の理解と発達可能性
4. 発達段階と発達課題
5. 認知の発達を通しての人間理解
6. 学習の成立過程
7. 学習における知識の役割
8. 学習意欲を育てる

【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育心理学 I

小池理穂

【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達を概観し、発達課題について考えると共に、障害児への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的とした。

【授業計画】

1. 教育心理学を学ぶということ
 - ・教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 発達について考える
 - ・生涯発達の視点
 - ・障害の意味と発達可能性
 - ・発達段階と発達課題
 - ・認知の発達
3. 学習の過程を考える
 - ・学習の成立過程
 - ・学習における知識の役割
 - ・学習意欲を育てる
 - 外発的動機づけと内発的動機づけ/原因帰属をめぐって/知的好奇心の喚起/報酬の意味/目標のありかた

【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育心理学 II

富安玲子

【授業の概要】

人間を発達可能性のある存在として生涯発達の視点から考えながら、一人ひとりが自分の教育観・発達観の基礎づくりをすることを目的にしたい。自己意識の発達などのプロセスを辿りながら、教育的働きかけとの関わりを考え、今日の問題への理解を深めると共に、自分自身の自己形成のプロセスへの関心も深め、自己理解を促進していくことも視野にいれて学んでいく。

【授業計画】

1. 発達の心理学を学ぶ/発達の心理学から学ぶ
2. 青年期の意味
3. 発達と教育
4. 「自分」の諸相
5. 「自分でない」世界の認識から
6. 第一「反抗」期の意味
7. 自我と他我
8. 他律的規範への順応
9. 第二の誕生
10. アイデンティティの確立
11. 生涯発達の視点と生き方
12. 自分探しの旅と人間関係

【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

障害児の教育

加藤文子

【授業の概要】

障害児についての基本的理解をし、障害児の教育的環境、福祉施設の役割などの実情を理解する。また、就学指導の仕組みを理解し、特別支援教育の現状と課題を認識する。

【授業計画】

- 1 心身障害児の理解
- 2 心身障害児の種類と程度
心身障害児とは
学校教育で対象とする障害児と児童福祉施設で対象とする障害児
視覚・聴覚・肢体不自由・知的障害・病弱・虚弱児等の程度と発生原因
言語障害・情緒障害・重複障害児の発生原因と教育
- 3 心身障害児の早期教育、後期中等教育の重要性
なぜ早期発見、早期教育が必要か
社会自立に向けた後期中等教育の重要性
- 4 心身障害児の就学指導の仕組み
- 5 心身障害児（者）教育の歴史
心身障害児（者）教育を開拓した人々
心身障害児（者）教育の歴史の変遷
- 6 まとめ

【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・期末試験の成績により総合的に評価する

【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する

比較教育論

渡辺かよ子

【授業の概要】

進展する国際化・情報化の中にあつて、人間は次世代にどのような夢や願いを託すことができるのか。教育は、自らが社会問題であると共に、貧困や不平等など現代の社会問題に対する有力な解決方策でもある。本講では、日本を含む各国の教育と全世界的教育の状況の比較研究を通じて、日本の教育の特徴と現代教育の課題を明らかにしていく。

【授業計画】

1. 比較教育学の基礎理論
2. 社会発展論と教育
3. 近代化と各国の教育制度（識字と就学）
4. 「発展途上」国と「先進」国の教育の実態
5. 近現代日本の教育制度の成立と特徴
6. 文化と教育、異文化交流としての教育
7. 人権としての教育
8. 比較教育と教育改革

【評価方法】

試験とレポート。

【テキスト】

使用せず。（資料配布）

【参考文献・資料】

比較国際教育学（石附実編著 東信堂）
世界の学校（二宮皓編著 福村出版）
多文化教育（中島智子編著 明石書店）
学歴社会 新しい文明病（ドーア著 岩波書店）
外国の教科書と日本（吉沢柳子著 丸善ブックス）
比較高等教育論（アルトバック著 玉川大学出版部）
被抑圧者の教育学（フレイレ著 亜紀書房）
情報消費型社会と知の構造（中西新太郎 旬報社）
国際歴史教科書対話（近藤孝弘著 中公新書）
教育の比較文化誌（石附実著 玉川大学出版部）
比較教育学の理論と方法（シュリーバー編著 東信堂）

教育制度

佐藤実芳

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業計画】

1. 教育制度の意義
2. 現代学校教育制度の起源
3. 学校教育制度の類型
4. 日本の学校教育制度
5. 教育法規
6. 外国の学校教育制度

【評価方法】

試験、受講態度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

教育課程

梅村敏郎

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程（カリキュラム）を学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

【授業計画】

1. 教育課程とは
(1) 教育課程の原理と理論
(2) 教育課程の構造と種類
(3) 教育課程の歴史の変遷
2. 諸外国の教育課程の概観
3. わが国の教育課程
(1) 戦前の教育課程の構造
(2) 戦後の教育課程の構造
(3) 現在の中学校・高等学校の教育課程
4. まとめ

【評価方法】

中間小テスト（レポート）及び期末考査

【テキスト】

教育課程（資格教育センター編 300円）

【参考文献・資料】

中学校学習指導要領（文部省）
高等学校学習指導要領（文部省）

教育課程

小栗正彦

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)を学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

【授業計画】

1. 教育課程とは
 - (1) 教育課程の原理と理論
 - (2) 教育課程の構造と種類
 - (3) 教育課程の歴史の変遷
2. 諸外国の教育課程の概観
3. わが国の教育課程
 - (1) 戦前の教育課程の構造
 - (2) 戦後の教育課程の構造
 - (3) 現在の中学校の教育課程の改正の趣旨と構造
 - (4) 現在の高等学校の教育課程の改正の趣旨と構造
4. 総合的な学習の時間の設定の趣旨と具体的な展開
5. まとめ
 - (1) 教育課程研究と教師
 - (2) 望ましい教育課程の展開

【評価方法】

中間小テスト(レポート)及び期末考査

【テキスト】

教育課程概説(資格教育センター編 300円)

【参考文献・資料】

中学校学習指導要領(文部省)
高等学校学習指導要領(文部省)

英語科教育法 I

松本青也

【授業の概要】

英語教育法をテーマとして、目的論、技能論、方法論を中心に、日本における英語教育の歴史、諸外国の言語政策と英語教育、マルチメディアを活用した英語教育、などの話題を含めて考察する。

【授業計画】

1. 目的論：問題提起。コミュニケーション能力
2. 学習指導要領。学校英語教育の目標
3. 異文化と国際理解
4. 機能論：Sound
5. Listening
6. Speaking
7. Reading & Writing
8. 方法論：教授法の歴史(日本)
9. 教授法の歴史(外国)
10. 外国語教授理論
11. 新しい教授法
12. マルチメディア利用の可能性と課題
13. 〈模擬授業〉指導過程の構成
14. まとめ：これからの英語教育
15. テスト

【評価方法】

テストの成績、学習態度、出席状況等による総合評価。

【テキスト】

未定。

教育課程

羽場俊秀

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)を学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

【授業計画】

1. 教育課程とは
 - (1) 教育課程の原理と理論
 - (2) 教育課程の構造と種類
 - (3) 教育課程の歴史の変遷
2. 諸外国の教育課程の概観
3. わが国の教育課程
 - (1) 戦前の教育課程の構造
 - (2) 戦後の教育課程の構造
 - (3) 現在の中学校の教育課程の改正の趣旨と構造
 - (4) 現在の高等学校の教育課程の改正の趣旨と構造
4. 総合的な学習の時間の設定の趣旨と具体的な展開
5. まとめ
 - (1) 教育課程研究と教師
 - (2) 望ましい教育課程の展開

【評価方法】

中間小テスト(レポート)及び期末考査

【テキスト】

テキストとしては使用しない。授業中に参考文献を適宜紹介する。

【参考文献・資料】

なし

英語科教育法 II (2003年度以降入学者対象)

高橋美由紀

【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って実践的コミュニケーション能力の基礎を育成するために、特に入門期でどのような指導をすればいいかを中心に教育方法を考える。授業は、入門期の英語教育の意義や効果的な指導法、授業計画、指導案の書き方、教材・教具研究などの講義と、入門期の学習者が楽しめる英語教育を行うためのワークショップから構成される。

【授業計画】

1. オリエンテーション：入門期の英語教員の資質について
2. 入門期の英語教育の現状と課題・レベルや経験年数が異なる学習者の指導について
3. 入門期の英語教育の目的と意義・入門期の学習者の効果的な教授法
4. 音声重視の英語教育・入門期の学習者と文字教育
5. 歌やゲームを利用した英語教育
6. 入門期の英語教育の視覚教材・聴覚教材研究
7. 入門期の英語教育のコンピュータ教材やビデオ教材の研究
8. ALTとのTT授業について・テキストと授業計画、指導案の書き方について
9. 模擬授業の具体例と指導案(その1)
10. 模擬授業の具体例と指導案(その2)
11. 模擬授業
12. 模擬授業
13. 模擬授業
14. 模擬授業
15. 模擬授業の反省と今後の課題

【評価方法】

テスト、出席状況、授業態度
課題レポート

【テキスト】

小学校英語活動実践の手引き(文部科学省 開隆堂出版)
Sunshine Kids Book 1(山岡多美子・高橋美由紀 開隆堂出版)
Sunshine Kids Book 2(高橋美由紀・山岡多美子 開隆堂出版)
子どもに英語おしえたい(アルク出版)
その他、絵本、カセット、CD、文献等は授業内に紹介する。

英語科教育法Ⅱ(2002年度以前入学者対象)

高橋美由紀

【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力の基礎を育成するためには、日本の中学校ではどのような授業を行えばよいのか、模擬授業を行いながらその具体的な指導法を研究する。

【授業計画】

1. オリエンテーション：中学校英語教師の資質について、テキスト説明、小・中・高・大の英語教育について
2. 授業の組み立て：授業を盛り上げるための教材・教具について、教案作成ワークショップその1、ビデオによる模範授業参観その1
3. 授業の組み立て：歌やゲームを取り入れた授業展開、教案作成ワークショップその2、ビデオによる模範授業参観その2
4. 授業研究：テキスト内容に沿ったオリジナル教材・教具の作成、生徒を引きつける授業の様々なアイデア
- 5～14. 各グループによる模擬授業
15. 予備日

【評価方法】

テストは実施しない、出席状況、授業態度、課題レポート、模擬授業

【テキスト】

Sunshine Kids Book 1 (山岡多美子・高橋美由紀 開隆堂出版)
Sunshine Kids Book 2 (高橋美由紀・山岡多美子 開隆堂出版)
Sunshine 1・2・3 (松本青也他 開隆堂出版)
学習指導要領 外国語(英語)(文部科学省)
その他、ゲーム集、歌、カセット、CD等はコピーを使用する。

【参考文献・資料】

教材・教具作成のために画用紙、マジックなどの文具類が必要である。

英語科教育法Ⅲ(2002年度以前入学者対象)

島村恭輔

【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力を育成することに主眼をおいて、生徒の多様化した日本の高等学校における英語教育を効果的に行うにはどのようにするか、具体的、実践的に指導する方法を研究する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2～3回 授業の組み立て
- 第4～12回 マイクロティーチャング

【評価方法】

出席状況・作成した教案等の提出物・マイクロティーチャング等を総合して評価する。

【テキスト】

Sunshine I (開隆堂)
Sunshine II (開隆堂)

中国語科教育法Ⅰ

王麗英

【授業の概要】

中学校及び高等学校の学習指導要領の趣旨に沿って、中国語科教育法について目的論、技能論、方法論を中心にして、中国語教育のあり方を考察する。中学生、または高校生を対象とする中国語教育は、どういった内容のものを教材として使ったほうがよいか、どういった指導法を取ればよいかなどについて、具体的に研究する。

【授業計画】

1. 中国語科教育の原点と教育理念を議論する。
2. 中国語科教育の目標を設定する。
3. 中国語科教育の内容を議論する。
 - (1) 異文化理解
 - (2) 中国語によるコミュニケーション能力(聞くこと; 話すこと; 読むことと翻訳能力)
 - (3) 各学習期間区分の到達度
4. 教育方法について
 - (1) 教授法の歴史(中国)
 - (2) 教授法の歴史(日本)
5. 問題を提起する。
 - (1) 教育の内容について
 - (2) 教授方法について
 - (3) 異文化理解について
 - (4) 言語と文化の関係について
6. 改善方法について考える。
 - (1) 教育の内容について考える
 - (2) 教授法について考える
 - (3) 異文化理解について考える

【評価方法】

レポートと出席率で評価する。

【テキスト】

自作教材を使用する。

中国語科教育法Ⅱ

王麗英

【授業の概要】

中学校学習指導要領の趣旨に沿って、国際理解、異文化理解と中国語コミュニケーション能力を育成するためには、中学校では、どのような授業を行えばよいかを講義し、こちらに用意した教材を元に、学習指導案を作成してもらい、また模擬授業を実施することによって、具体的・実践的な指導を行う。

【授業計画】

1. 外国語の教育理論
2. 外国語教育の伝統的な教授法と新しい試み
3. 中学生向けの中国語教育の特殊性と目標
4. 高校生向けの中国語教育の特殊性と目標
5. 指導案の構成
6. 指導案の作成指導
7. 各自が作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践し、授業の在り方を考える。

【評価方法】

レポート、各自が作成した指導案と模擬授業の実施状況などで評価する。

【テキスト】

自作教材を使用する。

公民・社会科教育法Ⅰ

小林春治

【授業の概要】

中学校社会科の公民的分野を視野にいれて、高等学校学習指導要領（公民科）の構成とその目的を学習し、民主主義社会の担い手としてふさわしい資質の育成をめざす。「現代社会」の授業においては、中学校社会科の公民的分野を発展させて、現実的・具体的な問題を取り上げるとともに、高等学校教科書（現代社会）を使用して、学習指導案の作成、模擬授業の実施によって、具体的・実践的な指導を行う。

【授業計画】

1. 公民科設定の趣旨と基本理念に基づいて、「公民の概念」と「公民として資質」を育む公民教育について、中学校社会科の公民分野との関連にも留意し学習する。
2. 「総合的な学習」を視野にいれ、特に「現代社会」の新しい課題として平和教育、人権教育、環境教育を取り上げ具体例に基づいて考察する。
3. 「現代社会（公民科）」の年間指導計画と学習指導案の作成について学習する。
4. 各自が作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践し、授業の在り方を考察する。

【評価方法】

期末テスト、学習指導案、模擬授業の評価及び出席率を総合する。

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説 公民編（文部省 実教出版 予価230円）
現代社会（高等学校教科書 一橋出版 予価580円）

公民・社会科教育法Ⅱ

小林春治

【授業の概要】

「倫理」及び「政治・経済」の学習を通して、深い洞察力をそなえた民主的な行動と実践ができる人間の育成をめざす。「倫理」及び「政治・経済」の授業においては、特に今日的な問題を取り上げるとともに、高等学校教科書（倫理、政治・経済）を使用して、学習指導案の作成、模擬授業の実施によって、具体的・実践的な指導を行う。

【授業計画】

1. 学習指導要領が目指す高等学校公民科の「倫理」及び「政治・経済」の目標と内容について概説する。
2. 生涯学習にも深いかわりをもつ自己指導能力の育成を目的とする「倫理」と、現代における政治、経済、国際関係等の諸課題について公正な判断力を養うことを目標とする「政治・経済」について中学校公民分野との関連にも留意しつつ、具体例に基づいて考察する。
3. 「倫理」及び「政治・経済」の年間指導計画と学習指導案の作成について学習する。
4. 各自が作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践し、創造的な授業の在り方についても考察する。

【評価方法】

小テスト、学習指導案、模擬授業の評価及び出席率を総合する。

【テキスト】

政治・経済（高等学校教科書 教育出版 予価435円）
倫理（高等学校教科書 教育出版 予価435円）

商業科教育法Ⅰ

大倉芳雄

【授業の概要】

高等学校学習指導要領の改定の趣旨とその内容を学習し、教科指導に必要な基本的な知識と技法を指導する。

【授業計画】

- 1 学習指導要領と商業教育
 - (1) 学習指導要領の性格及び構成
 - (2) 商業の目標・組織・学科
- 2 教育課程の編成
- 3 指導計画の作成と内容の取扱い
年間指導計画・学習指導案の作成
- 4 各科目の内容とねらい
「ビジネス基礎」「課題研究」「総合実践」
- 5 授業の具体的展開
教材作成、AV機器の利用、学習評価、副教材の活用

【評価方法】

出席状況と課題の提出、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説 商業編（文部省編 実教出版）

商業科教育法Ⅱ

大倉芳雄

【授業の概要】

商業科教育も国際化、情報化、サービス経済化の進展に対応しその内容が変化してきた現実をふまえ、各科目群の教育目標とその具体的な展開について学習し、教科指導に必要な知識や指導技術の向上を図る。

【授業計画】

- 1 学習指導と評価
 - (1) 学習指導の一般原則
 - (2) 学習指導の形態と方法
 - (3) 商業教科の評価
- 2 各科目の内容とねらい
流通ビジネス科目群、国際経済科目群、簿記会計科目群、経営情報科目群
- 3 資格取得指導の現状と課題
- 4 商業高校における進路指導の視点 進学・就職
- 5 商業教育の将来

【評価方法】

出席状況、課題提出、単位認定試験の成績など総合的に評価する。

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説 商業編（文部省編 実教出版）

道徳指導法

加藤文字

【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探求する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史的変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実際についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

【授業計画】

- 1 道徳と道徳教育
- 2 児童・生徒を生かす道徳教育
- 3 公教育における道徳教育の歴史
・明治5年学制公布から明治23年教育勅語発布までの過程
・戦後の道徳教育の変遷
- 4 道徳性の発達理論と学校道徳教育
- 5 学校における道徳教育の実際
・道徳教育の目標
・道徳教育の内容
・「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成
・「道徳の時間」の指導の実際、VTR視聴
・まとめ

【評価方法】

期末試験の成績に、毎時間の出席状況、授業中の態度、課したレポート内容を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

講義資料を配布

特別活動指導法

不破民由

【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察する。そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習目標とする。

【授業計画】

1. 自由度の高い特別活動の可能性
 2. 特別活動の歴史的変遷
 3. 学級活動
 4. 生徒会活動
 5. 学校行事
(1) 儀式的行事 (2) 学芸的行事 (3) 健康安全・体育的行事
(4) 遠足・集団宿泊的行事 (5) 勤労生産・奉仕的行事 等
- 以上の内容の他に、各自のサークル、ゼミ、学園祭等の大学における活動を話題として入れる。

【評価方法】

数回のレポート

【テキスト】

どくろマンボウ青春記 (北杜夫 新潮文庫)

【参考文献・資料】

特別活動 (高旗正人・倉田侃司編著 ミネルヴァ書房)
教科外活動を創る (折出健二他編 労働旬報社)
<教育>の誕生 (フィリップ・アリエス 中内敏夫・森田伸子訳 新評社、藤原書店)
<子供>の誕生 (フィリップ・アリエス 杉山光信・杉山恵美子訳 みすず書房)
教養主義の没落 (竹内洋 中公新書)
立身出世主義 (竹内洋 NHKライブラリー)
立志・苦学・出世 (竹内洋 講談社現代新書)
日本の近代12 学歴貴族の栄光と挫折 (竹内洋 中央公論新書)
近現代日本の教養論 (渡辺かよ子 行路社)
学級経営の歴史 (志村廣明 三省堂)
「勉強」時代の幕開け (江森一郎 平凡社)
運動会と日本近代 (吉見俊哉他編 青弓社)
教育には何ができないか (広田照幸 春秋社)
近代日本の公民教育 (松野修 名古屋大学出版会)
教育に関する私の方法叙説 (不和de民由 新風舎)

他

特別活動指導法

小林春治

【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察する。

そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習の目標とする。

【授業計画】

1. 教育課程の位置と目標
特別活動は、各教科、道徳とともに教育課程を構成する領域の一つであり、これらそれぞれの充実と相まって、中学校・高等学校の教育目標を達成することができることを学習する。
2. 戦後の教育状況と教育改革
敗戦直後の教育状況と教育基本法・学校教育法の施行(六・三・三制の実施)にいたる大要を、GHQのとった教育政策にも注目しながら学習する。
3. 特別活動の変遷
特別活動の変遷を中学校・高等学校の学習指導要領を通して論じ、その社会的背景についても具体的な資料に基づいて学習する。
4. 特別活動の基本となる指導法
中学校の学級活動、高等学校のホームルーム活動が、生徒会活動、学校行事などと相互に関連していることの学習を通して、これらの集団生活の在り方、心身ともに健康で安全な生活習慣の形成などを基本にした指導法を、現状にも注目しながら考察する。

【評価方法】

期末試験の成績とレポートの評価及び出席率を総合する。

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説 特別活動編 (文部省 東山書房 予価130円)

学級経営

前田勝洋

【授業の概要】

学級崩壊、担任不信等学校を取り巻く教育環境が問題となっている今日の教育状況を正しく理解し、学級担任として、どのように生徒に接したらよいか、どのようにして生徒の信頼を回復するのか探求するとともに、楽しい、生き生きとした学級作りを具体的な事例から求めて行きたい。

【授業計画】

- 小学校、中学校の学級経営事例に学びながら、教師の資質向上を図る方策を探っていくたい。
- (1) 学級づくりと学級こわしの関係
 - (2) 生徒理解と学級担任の役割
 - (3) 共感的学級経営の実践
 - (4) 成就型教育観と参加型教育観
 - (5) 学級担任と言葉の問題
 - (6) カルテ (個人記録) と一人ひとりを生かす経営
- 以上のような視点を軸にしながら、互いに事例について意見交換を行うなど、担任教師としての資質を磨きたい。

【評価方法】

毎回の受講感想レポートと「事例に対する意見記述」を中心に行いたい。

【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

教育方法

霜田一敏

【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供理解を深め、子供の立場に立つて教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

【授業計画】

1. 人間回復の学力と教師の在り方
 - (1) 中学・高校における学力論と教師論の検討
 - (2) 生徒の思考の発展を目指す授業方法
 - (3) 生徒の自主的な学習を育てる学習指導法
 - (4) 生徒の側に立った学習指導技術
2. 情報機器及び教材の活用方法
 - (1) 情報機器の特色とその効果的な利用方法
 - (2) 視覚教材の特色とその効果的な活用方法
 - (3) メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
3. 学習者にとって個を生かす学習集団とは
 - (1) 多様化した生徒への対応の仕方
 - (2) 中学校における個を生かす学習集団
 - (3) 高等学校における個を生かす学習集団

【評価方法】

学生の積極的な授業参加と毎時提出するミニレポート、期末に行う論文試験等によって評価する。

【テキスト】

子どもの側に立つ授業論 (霜田一敏著 明治図書 2,370円)

生徒指導 (進路指導を含む)

小栗正彦

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。

進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。

これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

【授業計画】

1. 生徒指導
現代社会における構造変化に注目し生徒指導を考える。
 - (1) 社会集団の教育機能の低下と学校における生徒指導の役割
 - (2) 青少年非行と矯正教育
 - (3) 中学校における生徒指導の在り方と留意点
 - (4) 高等学校における生徒指導の在り方と留意点
2. 進路指導
進路指導の基本理念及びその目的を学習する。
 - (1) 進路指導における教員の在り方と留意点
 - (2) 進路に関する情報伝達と進路相談
 - (3) 中学校における進路指導の在り方と留意点
 - (4) 高等学校における進路指導の在り方と留意点

【評価方法】

期末試験の成績と、レポートの評価及び出席率を総合する。

【テキスト】

生徒指導論の試み (300円)

生徒指導 (進路指導を含む)

加納篤憲

【授業の概要】

生徒指導は、学習指導以外のいっさいの教育的指導を指すが、そのねらいは、生徒一人一人が主体的・自律的な人間としての自己実現をなすとけることができるよう、自己指導能力と自己指導の態度すなわち自己教育力を育成するところにある。

したがって、授業内容は、生活指導・進路指導・集団指導 (HR など)・個別指導など多岐にわたるが、そのほかにも、青年期の特徴・教育観や人間観の歴史などの学習を通じて、生徒理解と教師としての在り方にもふれる。

【授業計画】

1. 現代日本における青年期の特徴と問題点
2. 日本における教育観の変遷と21世紀の教育観
3. 生徒指導の基本的観点と今日的課題
4. 生徒指導の方法——集団指導 (HR 指導を中心に)
5. 生徒指導の方法——個別指導・問題行動をもつ生徒の指導
6. 進路指導の基本的観点と進学・就職指導
7. 人間の在り方を求めて——ヨーロッパ・アジア・日本

以上の項目について学習するが、生徒たちが生きている日本や世界の情勢にも、常に関心を持つことが大切である。

【評価方法】

期末試験、レポートの成績と出席状況を総合して評価。

【テキスト】

自作プリント教材 (付資料)

【参考文献・資料】

学期始めに課題図書数冊を指定。『教師をめざす若者たち』(大橋功) など。

教育相談 (カウンセリングを含む)

富安玲子

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 「自分」は他者との関係の中で育つ
3. 教師-生徒の相互影響過程
4. 生徒理解
5. 学校における教育相談
6. 教育相談の進め方
7. 相談とカウンセリング
8. 適応と不適応
9. 問題行動のとらえ方とその対応
10. 不登校を考える
11. いじめを考える
12. 非行を考える

【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

カウンセリング

富安玲子

【授業の概要】

我々が人の話を傾聴するとき、その話を自分にとって都合のよいように切り取って聞いているか、反対に自分に都合の悪い部分を切り捨てて聞いているか、という事実がある。そうした事実を体験的に理解するために試行カウンセリングを行い、傾聴の際の学生が陥りやすいタイプを学ばせたい。従来、ロジャースのいう受容、共感、自己一致の中でも受容と共感に重点が過重に置かれすぎてきたように思われるので、自己一致の重要性を伝えていきたい。

【授業計画】

「教育相談」での学習を更に進めて、実習を取り入れながら、「聴く」ことの意味と「聴く」人である自分について考えていきたい。

1. 教育相談とカウンセリングを巡って
2. カウンセリングの歴史
3. カウンセリングの人間観
4. カウンセリングの理論
5. カウンセラーに必要な基本的態度・行動
6. 共感的理解のエクササイズ
7. 正確に「聴く」とは
8. カウンセリングの実用例
9. 話しやすさの源は聴き上手：かかわり技法
10. 応答訓練
11. ロールプレイ
12. カウンセリングにおける諸問題

【評価方法】

期末試験とロールプレイ・レポートに、授業への出席・関与度を加えて評価する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育実習指導（介護体験事前指導を含む）

加藤文子

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業計画】

1. 教育実習の意義と目的
 - ・前年度実習者からのアンケート結果
 - ・「先輩からの一言」
2. 教育実習の内容と方法
 - ・教育実習の領域
 - ・教育実習の方法
3. 教育実習記録
 - ・実習記録の意義
 - ・実習記録の方法
4. 授業研究
 - ・教材研究、教具の意義
 - ・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
5. 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
6. 介護体験事前指導
 - ・社会福祉施設等の理解と社会連帯の理念
 - ・特別支援教育諸学校教育の理解
 - ・障害児（者）介護への心構え
7. 介護体験事後指導
8. まとめ、アンケート実施

【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果（実習・体験評価を参考）により総合的に評価する。

【テキスト】

教育実習指導では使用せず、必要に応じて資料を配布。
介護体験事前指導では、介護体験ガイドブック「フィリア」（全国特殊学校長会編著 ジアーズ教育新社）使用。

総合演習

梅村敏郎 富安玲子 佐藤実芳 加藤文子
霜田一敏 渡辺かよ子 小栗正彦

【授業の概要】

社会構造や家族構造の変化する現代社会において、青少年をとりまく現実的な課題について分析及び検討することにより、総合的な見地に立って未来に生きる中学生、高校生をどのように教育するか、その方法を探究し、総合的な指導力を備えた教員の育成をめざし、次の7テーマに別れて演習を行なう。（各テーマ20名以内）

- (1) いじめ問題（梅村敏郎）
- (2) 福祉—障害のある人も健全な人も共に生きるコミュニティについて—（加藤文子）
- (3) 社会と子育て（佐藤実芳）
- (4) 高齢者福祉の実態と未来（霜田一敏）
- (5) ジェンダーと教育（富安玲子）
- (6) 生涯学習における学校（渡辺かよ子）
- (7) みんなの学校問題（小栗正彦）

【授業計画】

※印は後期日程（於 星ヶ丘）

1. 全体、各テーマ別 8月6日 ※1月28日
 - (1) 総合演習とは、これからのすすめ方
 - (2) 各テーマの概要説明（各担当者）
 - (3) 希望テーマ提出、テーマ別編成
 - (4) 各テーマ別に課題設定と学習法の指導
2. 8月27日 ※2月18日
課題レポートの提出（必要部数の印刷）
3. 各テーマ別 9月3日 ※2月25日
 - (1) 課題レポートについて報告（1人10～15分）
 - (2) 質疑応答、問題点について討議
4. 各テーマ別 9月10日 ※3月4日
 - (1) 問題点について分析検討
 - (2) グループとして課題について整理、代表者の選出
5. 全体 9月17日 ※3月11日
 - (1) グループ代表者の発表（1名15～20分）
 - (2) 担当教員の指導
 - (3) 感想文の作成と提出

【評価方法】

レポートと感想文により評価

教育実習指導（介護体験事前指導を含む）

大倉芳雄

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業計画】

1. 教育実習の意義と目的
2. 教育実習の内容と方法
3. 教育実習記録
4. 授業研究
 - ・教材研究、教具の意義
 - ・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
5. 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
6. 介護体験事前指導・事後指導

【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果（実習・体験評価を参考）を総合的に評価する。

【テキスト】

教育実習を考える（岩本敏郎・浪本勝年編著 北樹出版）

教育実習Ⅰ

加藤文子

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での3週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

- (1) 学級担任として
朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。
また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたるとともに学級事務を担当する。
- (2) 教科担任として
前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。
後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。
- (3) 特別活動として
学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

【テキスト】

「教育実習指導」の授業時に配付の『教育実習記録』を活用する。

生涯学習概論

羽場俊秀

【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校だけでなく、広く社会において絶えず学び続けることが大切である。生涯学習に広がりや深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

【授業計画】

- 1-3. 生涯学習理念の成立と発展
- 4-7. 生涯学習実践の課題
- 8-11. 生涯学習と社会
- 12-13. 生涯学習と人間
- 14-15. 総括

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。授業中に参考文献を適宜紹介する。

【参考文献・資料】

なし

教育実習Ⅱ

小栗正彦

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での2週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

国際理解教育論

担当者未定

【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような教育経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。中学校、高等学校の日常的な教科指導、特別教育活動等において、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

【授業計画】

1. 日本の近代化の過程における外国文明の摂取について、次の視点から考察する。
 - (1) 海外留学生の派遣と帰国後の活躍
 - (2) 外国人教員の雇用とその教育への影響
 - (3) 技術伝習による日本の産業の近代化
2. 現代の学校教育における国際化について次の視点から考察する。
 - (1) 教科教育における国際理解教育
 - (2) 特別活動、学校教育における国際理解教育
 - (3) 海外留学生の派遣と海外からの留学生の受け入れ
 - (4) 外国人英語教員の雇用とその役割
3. 現在の日本の国際化の現状を分析し、真の意味での日本の国際化について、教育の視点から考察する。
(授業において、皆さんの体験を踏まえて具体的な事例について、ともに考えて行きたい)

【評価方法】

授業中に課す「感想、意見」の提出及びレポートにより総合評価を行なう。

【テキスト】

国際理解教育論講義概要（300円）

【参考文献・資料】

授業中にその都度紹介する。

学校経営と学校図書館

小栗正彦

【授業の概要】

学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功事例を紹介し学習する。

【授業計画】

1. 学校図書館の管理運営組織
 - (1) 生徒の利用時間の設定
 - (2) 生徒への図書等の貸し出し方法
 - (3) 長期休業期間中の開館状況
2. 魅力ある学校図書館について
 - (1) 生徒が親しみやすい雰囲気のある学校図書館
 - (2) 学校図書館の図書・資料等の整備拡充
 - (3) 生徒が利用しやすい学校図書館経営
3. 学校図書館と生徒会活動の連携
 - (1) 生徒会図書委員会の組織と活動
 - (2) 読書週間、読書コンクール、図書館日より
 - (3) 学校図書館の利用PR活動
4. 学校図書館の充実
 - (1) PTA組織を活用した寄贈図書等
 - (2) 地域社会への呼びかけによる寄贈図書等
 - (3) 関係機関への呼びかけによる寄贈図書等

【評価方法】

出席状況及び課題による。

【テキスト】

プリント配布。

学習指導と学校図書館

加納篤憲

【授業の概要】

学校図書館は、教育に必要な資料を生徒及び教員の利用に供することによって、(1) 学校の教育課程の展開に寄与するとともに、(2) 生徒の健全な教養を育成することを目的としている。

この授業では、(1) の目的を達成するために学校図書館はどのようなものでなければならないかを、蔵書構成や利用指導の現状と実践例、教科学習や総合学習における図書館利用の方法と実践例について学ぶ。

また、司書教諭の役割とこれからの学校教育に占める重要性について学習するとともに、利用指導の図書館実習を体験することによって、司書教諭の仕事への理解を深める。

【授業計画】

1. 教育課程と学校図書館
2. 学習活動を促進する学校図書館——実践例
3. 学校図書館の現状と問題点——蔵書冊数・蔵書構成・図書館利用
4. 各教科・科目の学習指導と図書館——実践例
5. 「総合学習」における図書館利用
6. 図書館利用における学級担任及び生徒図書委員の役割
7. 図書館実習——テーマ学習における司書教諭の指導について
8. 討論——中学・高校時代の経験を踏まえて、学校図書館及び司書教諭の望ましいあり方について考える。

【評価方法】

期末試験、レポートの成績と出席状況を総合して評価。

【テキスト】

自作プリント教材（付資料）

【参考文献・資料】

特になし

学校図書館メディアの構成

中村和夫

【授業の概要】

情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

【授業計画】

1. 児童生徒が喜んで利用するメディア構成
 - (1) 現在の学校図書館メディア構成の実態分析
 - (2) 児童会・生徒会図書委員会と学校図書館の資料選定
 - (3) 児童生徒の学校図書館に期待するものは何か
2. 教育課程にマッチしたメディア構成
 - (1) 教養中心から教科学習に必要な資料の収集へ
 - (2) 「総合学習の時間」の視点からのメディア構成
 - (3) 「情報」、「オーラル英語」等新しい教科科目の教材
3. 情報化時代にふさわしいメディアの特質の理解
 - (1) ビデオ、DVD、CD等の視聴覚的メディア
 - (2) CD-ROM、マイクロフィルム等の活字メディアに代わるもの
 - (3) Webサイトに代表されるネットワーク系メディアの活用と問題点
4. 学校図書館メディアの組織化
 - (1) 分類の意義と分類作業の基本
 - (2) 目録の種類と目録作業の基本、目録の機械化

【評価方法】

出席状況及びレポート等による。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

学校図書館メディアの構成（小田光宏編 樹村房）
分類・目録法入門（木原通夫・志保田務 新改訂第3版 第一法規）

読書と豊かな人間性

梅田卓夫

【授業の概要】

現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。

児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な事例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

【授業計画】

1. 読書のよこび
 - (1) 人はどのようにして読書の楽しみと出会うのか
 - (2) 代表的な先人の読書経験から学ぶもの
 - (3) 受講者自身の学校図書館での本との出会い
2. 人間形成と読書
 - (1) 幼児期における読み聞かせの教育的意味
 - (2) 少年期・青年期の決定的・運命的な読書との出会い
 - (3) 読書における、内省、思索の意義
3. 学校教育における読書指導
 - (1) 教師による本の紹介、読み聞かせ
 - (2) 「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
4. 読書と仲間作り
 - (1) 家庭での読書についての親子の対話
 - (2) 友達同士の読書グループ、読書会
 - (3) 学区図書館を利用した共同研究
5. 読書の技術
 - (1) 情報化時代の読書のあり方
 - (2) 愛読書、好きな作家

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

【授業計画】

1. 学校図書館と情報機器
 - (1) 学校図書館におけるコンピュータの役割と活用
 - (2) 学校図書館に設置する情報機器
2. 学校図書館とコンピュータとの関わり
 - (1) 図書検索とコンピュータ (OPAC)
 - (2) インターネットを使用する資料の収集
3. 学校図書館の情報メディアの活用
 - (1) 視覚メディアとしてのVTR等
 - (2) 聴覚メディアとしてのDVD、CD等
 - (3) 活字メディアに代わるCDRom、マイクロフィルム等

【評価方法】

出席状況及び試験による。

【テキスト】

使用しない。

生涯学習概論

古野有隣

【授業の概要】

生涯学習という言葉は最近かなり知名度が高くなってきているが、その意味や意義については必ずしも正確に理解されているとはかぎらない。

この講義では生涯学習の意味するところを、その理念の提唱時からの推移の説明をまじえて、理解を深めることをねらいとする。また、先の長い人生を持っている自分にとって生涯学習とは何なのかを考える契機となればとも思っている。

1. 生涯教育の理念～推移を含めて～
ユネスコ以降わが国における推移
生涯教育のめざすもの
生涯教育と生涯学習の関係
2. 生涯教育と社会教育・学校教育との関係
生涯教育と社会教育
生涯教育と学校教育
3. 社会教育の内容・方法・形態
行政社会教育の主要領域
社会教育の内容・方法・形態
4. 生涯学習関連施設の現状と展望
生涯学習関連施設の範囲
社会教育施設の種類と現状
5. 生涯学習指導者
生涯学習指導者の範囲
生涯学習指導者の役割

【授業計画】

講義。

【評価方法】

テスト。

【テキスト】

資料集（予価500円）を開始時に頒布。

図書館情報学概論 I

村主朋英

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。

Iでは、図書館情報学における基本的な考え方および分野の特徴について概説する。

【授業計画】

1. 情報と知識の研究と実務に関わる分野
図書館学/情報学/図書館情報学
図書館情報学を学ぶための情報源/指定図書
2. 情報の概念
概念・考え方・観点・立場
定義の多様性と現象の多面性
情報概念の歴史/情報・知識・データ
定義の整理のための枠組み/構造的な理解
認識・認知・こころ/人間・人・ヒト
3. 情報検索の過程

【評価方法】

定期試験

注1)「図書館情報学概論 I」の単位を取得済でない学生については、「同 II」の単位を認定しない。

注2)「図書館情報学概論 I」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同 II」の成績に組み込む。今年度「同 II」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典（丸善 3,800円 税別定価）

図書館情報学概論 I

櫻木貴子

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。

Iでは、図書館情報学における基本的な考え方および分野の特徴について概説する。

【授業計画】

1. 情報と知識の研究と実務に関わる分野
図書館学/情報学/図書館情報学
図書館情報学を学ぶための情報源/指定図書
2. 情報の概念
概念・考え方・観点・立場
定義の多様性と現象の多面性
情報概念の歴史/情報・知識・データ
定義の整理のための枠組み/構造的な理解
認識・認知・こころ/人間・人・ヒト
3. 情報検索の過程

【評価方法】

出席点、試験およびレポートにて評価を行う。

注「図書館情報学概論 I」の単位を取得済でない学生については、「同 II」の単位を認定しない。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典（丸善 3,800円税別定価）および配布資料

図書館情報学概論 II

櫻木貴子

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。

IIでは、図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

【授業計画】

1. 情報の流通過程
情報の流れと情報メディア/学術情報の流通過程
2. 図書館・情報サービスの世界
構成要素と機能/情報システムとしての図書館
3. 協力と競合
図書館ネットワーク/競合する情報サービス
4. 図書館員と情報専門職の世界
5. 図書館情報学の未来

【評価方法】

出席点、試験およびレポートにて評価を行う。

注「図書館情報学概論 I」の単位を取得済でない学生については、「同 II」の単位を認定しない。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典（丸善 3,800円税別定価）および配布資料

図書館情報学概論Ⅱ

村主朋英

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅱでは、図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

【授業計画】

1. 情報の流通過程
情報の流れと情報メディア/学術情報の流通過程
2. 図書館・情報サービスの世界
構成要素と機能/情報システムとしての図書館
3. 協力と競合
図書館ネットワーク/競合する情報サービス
4. 図書館員と情報専門職の世界
5. 図書館情報学の未来

【評価方法】

定期試験と夏休みレポート

- 注1) 「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。
- 注2) 「図書館情報学概論Ⅰ」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同Ⅱ」の成績に組み込む。今年度「同Ⅱ」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典(丸善 3,800円 税別定価)

情報サービス基礎論Ⅰ

松下 鈞

【授業の概要】

電子情報技術の急速な発展とグローバルな広がりを背景として、人と情報との関わりが変化してきた。社会はあらゆる面で急速な変化の様相を見せている。「情報サービス基礎論Ⅰ」では、社会の多様化と情報の多様化と膨大化及び情報流通の変化に直面する「図書館」のサービスについて、主として公共図書館のサービスを念頭において諸問題を概観する。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 図書館サービスの基本原則
3. 情報媒体と利用ニーズの多様性
4. 図書館設計に見る図書館サービス
5. こども向けのサービス
6. 青少年へのサービス
7. 老人むけのサービス
8. 働く人を支援するサービス
9. 行政サービス
10. 学術サービス
11. 多文化サービス
12. 図書館建築の動向
13. 学校、大学、企業図書館との連携
11. 電子情報サービスの進展状況
12. ホームページに見る日米公共図書館の比較
14. サービス業としての図書館
15. まとめ

講義を中心とし、課題小レポート、グループ研究発表を交える。受講に先立ち次ぎのことをしておくこと。
* 「インターネット講習会」を受講しておくこと。
* 身近な公共図書館の施設やサービスを注意深く観察しておくこと。

【評価方法】

小レポート、期末レポート及びグループ研究と発表をもって評価する。授業への積極的な参加の姿勢を参考点として加味する。

【テキスト】

適宜、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

適宜、紹介する。

図書館経営論

山本 進

【授業の概要】

図書館の技術的な面—分類・目録等—資料組織とは別に図書館運営上の諸問題—司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館網計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

【授業計画】

0. オリエンテーション・図書館の経営論の意義 1回
1. 図書館種別の経営上の問題点と管理原則 1回
2. 図書館学の五法則と図書館員の関わり 1回
3. 図書館の自由に関する宣言 2回
4. 図書館員の倫理綱領 2回
5. 図書館員と労働基準法解説 1回
6. 図書館関係法規と図書館のサービス基準解説 1回
7. 図書館サービスの測定と評価(実例課題によるレポート提出) 1回
8. 図書館計画の立案と実例解説 2回
9. 生涯学習と図書館及び利用者教育 2回
- ※講義の中から関心のある事項についてレポート提出 2回

【評価方法】

期末テスト実施—記述式、前期全体の講義の中から問題を2~3問と、提出されたレポートと記述試験の採点とを併せて評価する。

【テキスト】

講義シラバスを配付する。

情報サービス基礎論Ⅰ

逸村 裕

【授業の概要】

情報化社会は社会における産業構造の変化をもたらしている。「情報」を扱う産業は、急速に増大し、社会に大きな影響力を与えている。この科目では、図書館情報学の観点から現代社会における特徴的な情報産業の現状を概観し、「情報」を商品化するプロセスを考察するとともに、すべての職業において進展している「情報化」の持つ意味を検討する。また進路としての情報関連産業について論じる。さらに、情報産業の事例紹介を論じ、職業倫理と勤労観についても言及する。

【授業計画】

1. 情報化社会と情報産業
2. 産業と職業における情報とITの意味
3. 情報サービス事例1: メディア産業と通信
4. 情報サービス事例2: 通信と出版産業
5. 情報サービス事例3: 図書館情報
6. 情報サービス事例4: マルチメディアリソース
7. 情報サービス事例5: 電子ジャーナル
8. 情報サービス事例6: 電子ブック
9. 情報サービス事例7: 情報分析・シンクタンク
10. 情報産業と大学
11. 情報化社会における知的所有権問題
12. 情報化社会と情報倫理
13. 情報産業における勤労観と職業倫理

講義中心に行なう。適宜、小テスト、レポートを課す。「インターネット講習会」を必ず受講しておくこと。

【評価方法】

小テスト、レポート、期末試験による総合評価。詳細は初回講義の際に説明する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

図書館情報学辞典 第2版(丸善 2002)

情報サービス基礎論Ⅱ

松下 鈞

【授業の概要】

「情報サービス基礎論Ⅰ」の履修を前提とする。
あなたが図書館員であると仮定し、図書館の現場で利用者からの期待に応えるさまざまな業務と施設を計画立案し、実施、評価するケーススタディなどを交え、より具体的に図書館サービスについての理解を深めることを目的とする。

【授業計画】

1. イントロダクション「サービス機関としての図書館」
2. 図書館予算と資料の購入計画
3. 資料の配置
4. 保存と廃棄
4. 開館時間と図書館員の労働環境
5. 弱者へのサービス
6. 情報電子化と情報弱者への対応
7. 住民パワーの活用
8. 情報広場としての図書館
9. 複合文化施設としての図書館
10. 地域文化の情報拠点
11. 知識情報のネットワーク
12. 図書館サービスの国際動向
13. レファレンスFAQとレファレンス協同DBの構築
14. 図書館建築プラン
15. まとめ「図書館学の五法則」

講義とケーススタディを主とし、グループ研究と発表を交えて展開する。

* 「情報サービス基礎論Ⅰ」の履修者に限る。

* 受講に先立ち、いくつかの図書館を観察し、蔵書、サービス、施設などについて批判的評価を試みる。また、仮に自分を図書館員であると仮定し、それらの問題点をどのように解決したらよいか、改革プランを考えておくこと。

【評価方法】

グループ研究の成果、小レポート、最終レポートによる。
授業及びグループ研究への積極的な参加態度も評価の参考とする。

【テキスト】

適宜、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

適宜、指示する。

レファレンスサービス論

櫻木貴子

【授業の概要】

図書館における情報サービスの中核を成してきたレファレンスサービスに関して、レファレンスコレクションの構築、レファレンス質問からその回答にいたる一連のレファレンスプロセス、サービス組織のあり方、等について理解を深めることを主な目的として講義を進める。この科目は、「情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）」と相互に補完するものとして扱う。

【授業計画】

1. 情報ニーズに応える情報サービス
2. レファレンスサービスから情報サービスへ
3. レファレンス機能に基づくレファレンス業務
4. レファレンスサービスのための情報源
5. レファレンス質問を起点とするレファレンスプロセス
6. 質問の受付から内容の確認へ
7. 質問内容の分析から探索の実行へ
8. 質問回答とレファレンスプロセスの終結
9. レファレンスサービスの組織と運営

【評価方法】

講義の最終日に試験を行う。出題形式等については、講義の最初に説明する。

【テキスト】

レファレンスサービス：図書館における情報サービス（長澤雅男著 丸善1995）

【参考文献・資料】

講義において指示する。

情報サービス基礎論Ⅱ

逸村 裕

【授業の概要】

図書館で行われる情報サービスには幅広いものがある。また、これらのサービスはその対象、館種、主題、規模ごとに多くの特徴を持つ。さらに今日、伝統的な図書館サービスに加え、情報通信技術の普及発展に伴う新たな対応を迫られている。

これら図書館情報サービスの紹介と評価の視点から講義を行なう。

1. この講義の対象と範囲
2. パブリック・サービス（奉仕・直接サービス）
 - A. 貸出閲覧
 - B. レファレンスサービス
 - C. 相互協力
 - D. 視聴覚資料
 - E. パブリックサービスの今後
3. テクニカル・サービス（資料組織・間接サービス）
 - A. 選書
 - B. 収書
 - C. 整理
 - D. 雑誌
 - E. テクニカルサービスの今後
4. 評価の視点から見た情報サービス
 - A. 蔵書
 - B. 人的サービス
 - C. 図書館アメニティ
 - D. コンソーシアム
 - E. その他のサービス

【授業計画】

講義中心に行なう。適宜、小テスト、レポートを課す。
「インターネット講習会」を受講しておくこと

【評価方法】

小テスト、レポート、期末試験による総合評価。詳細は初回講義の際に説明する。

【テキスト】

大学図書館の21世紀（勁草書房 2004夏刊行予定）

【参考文献・資料】

図書館情報学辞典 第2版（丸善 2002）

レファレンスサービス論

佐藤義則

【授業の概要】

図書館における情報サービスの中核を成してきたレファレンスサービスに関して、レファレンスコレクションの構築、レファレンス質問からその回答にいたる一連のレファレンスプロセス、サービス組織のあり方、等について理解を深めることを主な目的として講義を進める。この科目は、「情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）」と相互に補完するものとして扱う。

【授業計画】

1. 情報ニーズに応える情報サービス
2. レファレンスサービスから情報サービスへ
3. レファレンス機能に基づくレファレンス業務
4. レファレンスサービスのための情報源
5. レファレンス質問を起点とするレファレンスプロセス
6. 質問の受付から内容の確認へ
7. 質問内容の分析から探索の実行へ
8. 質問回答とレファレンスプロセスの終結
9. レファレンスサービスの組織と運営

【評価方法】

講義の最終日に試験を行う。出題形式等については、講義の最初に説明する。

【テキスト】

レファレンスサービス：図書館における情報サービス（長澤雅男著 丸善1995）

【参考文献・資料】

講義において指示する。

情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

櫻木貴子

【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。

当科目は、情報検索演習Ⅰ（図書館情報学科の学生のみ）、図書館情報学概論Ⅰ、Ⅱの履修を前提条件とする。また、LAN講習会を必ず受講すること。

【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. オンライン情報検索システム
 - 4.1 JOIS
 - 4.2 シソーラス
 - 4.3 DIALOG
5. テーマ検索

【評価方法】

平常点、小テストと、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

伊藤真理

【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。

当科目は、情報検索演習Ⅰ（図書館情報学科の学生のみ）、図書館情報学概論Ⅰ、Ⅱの履修を前提条件とする。また、LAN講習会を必ず受講すること。

【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. オンライン情報検索システム
 - 4.1 JOIS
 - 4.2 シソーラス
 - 4.3 DIALOG
5. テーマ検索

【評価方法】

平常点、小テストと、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

松井美紀

【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。

当科目は、情報検索演習Ⅰ（図書館情報学科の学生のみ）、図書館情報学概論Ⅰ、Ⅱの履修を前提条件とする。また、LAN講習会を必ず受講すること。

【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. オンライン情報検索システム
 - 4.1 JOIS
 - 4.2 シソーラス
 - 4.3 DIALOG
5. テーマ検索

【評価方法】

平常点、小テストと、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）

櫻木貴子

【授業の概要】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、情報提供機関（図書館を含む）において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。

演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

【授業計画】

〔演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）〕

1. 雑誌記事（書誌情報）検索
MAGAZINE PLUS (NICHIGAI ASSIST)、ISA (DIALOG)、JST Plus (J Dream)、大宅壮一文庫雑誌記事索引 CD-ROM版
2. 雑誌記事横断検索：DIALINDEX 複数ファイル横断検索 (DIALOG)
3. シソーラスを利用した検索
JST Plus (J Dream)、ERICファイル (DIALOG)、MEDLINE (DIALOG)
4. 引用関係を利用した検索：Social SciSearch (DIALOG)
5. 一次資料が入手可能なシステムの検索
NACSIS-IR (NII)、OCLC ArticleFirst (OCLC FirstSearch)、PubMed (NLM/NCBI)
6. ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA (CSA-IDS)
7. 図書（所蔵/目次情報）検索
Webcat (NII)、BOOKPLUS (NICHIGAI ASSIST)、WorldCat (OCLC FirstSearch)
8. 新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21）
9. 人物情報検索：人物情報横断検索 (G-Search)

【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

【参考文献・資料】

情報と文献の探索 第3版（長澤雅男著 東京 丸善 1994 337p）
検索演習用例題集
（上田修一・杉江典子著 東京 日外アソシエーツ 2001 47p）

情報メディア基礎論 I

櫻木貴子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
 - (1) 図書
出版流通過程と制度
オンライン書店、オンデマンド出版
 - (2) 雑誌
学術雑誌の機能、査読制度
雑誌論文の構成
抄録作成法、引用法、
プレプリント、e-print
レター、editorial comment
 - (3) 新聞
新聞の流通制度
新聞記事の構成
 - (4) 会議資料
学会、会議録
 - (5) 特許資料
特許制度
パテントファミリー、引用特許
 - (6) 規格票
規格制度、情報関連の標準化活動
 - (7) データベース
情報検索システムの歴史
検索技術、シソーラス
 - (8) インターネット
ネットワーク情報資源の特徴
WWWの評価
Web citation、メタデータ
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

【評価方法】

期末試験と出席回数によって評価する。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

必要に応じて資料を配布する。

情報メディア基礎論 I

菅野育子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
 - (1) 図書
出版流通過程と制度
オンライン書店、オンデマンド出版
 - (2) 雑誌
学術雑誌の機能、査読制度
雑誌論文の構成
抄録作成法、引用法、
プレプリント、e-print
レター、editorial comment
 - (3) 新聞
新聞の流通制度
新聞記事の構成
 - (4) 会議資料
学会、会議録
 - (5) 特許資料
特許制度
パテントファミリー、引用特許
 - (6) 規格票
規格制度、情報関連の標準化活動
 - (7) データベース
情報検索システムの歴史
検索技術、シソーラス
 - (8) インターネット
ネットワーク情報資源の特徴
WWWの評価
Web citation、メタデータ
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

【評価方法】

期末試験と出席回数によって評価する。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

必要に応じて資料を配布する。

情報メディア基礎論 II

櫻木貴子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
 - (1) 図書
出版流通過程と制度
オンライン書店、オンデマンド出版
 - (2) 雑誌
学術雑誌の機能、査読制度
雑誌論文の構成
抄録作成法、引用法、
プレプリント、e-print
レター、editorial comment
 - (3) 新聞
新聞の流通制度
新聞記事の構成
 - (4) 会議資料
学会、会議録
 - (5) 特許資料
特許制度
パテントファミリー、引用特許
 - (6) 規格票
規格制度、情報関連の標準化活動
 - (7) データベース
情報検索システムの歴史
検索技術、シソーラス
 - (8) インターネット
ネットワーク情報資源の特徴
WWWの評価
Web citation、メタデータ
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

【評価方法】

期末試験と出席回数によって評価する。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

必要に応じて資料を配布する。

情報メディア基礎論 II

菅野育子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
 - (1) 図書
出版流通過程と制度
オンライン書店、オンデマンド出版
 - (2) 雑誌
学術雑誌の機能、査読制度
雑誌論文の構成
抄録作成法、引用法、
プレプリント、e-print
レター、editorial comment
 - (3) 新聞
新聞の流通制度
新聞記事の構成
 - (4) 会議資料
学会、会議録
 - (5) 特許資料
特許制度
パテントファミリー、引用特許
 - (6) 規格票
規格制度、情報関連の標準化活動
 - (7) データベース
情報検索システムの歴史
検索技術、シソーラス
 - (8) インターネット
ネットワーク情報資源の特徴
WWWの評価
Web citation、メタデータ
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

【評価方法】

期末試験と出席回数によって評価する。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

必要に応じて資料を配布する。

情報メディア論Ⅳ（人文社会情報メディア）

櫻木貴子

【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から、学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

【授業計画】

- 1 学問分野と情報メディア
- 2 自然科学分野と人文・社会科学分野
- 3 人文・社会情報メディア
 - 3.1 美術分野
 - 3.2 音楽分野
 - 3.3 文学
 - 3.4 ビジネス分野
 - 3.5 法律分野
 - 3.6 心理学
 - 3.7 図書館情報学
- 4 情報メディアからみた情報の生産と利用

【評価方法】

レポートと出席回数によって評価する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

必要に応じて資料を配布する。

情報メディア論Ⅳ（人文社会情報メディア）

菅野育子

【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から、学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

【授業計画】

- 1 学問分野と情報メディア
- 2 自然科学分野と人文・社会科学分野
- 3 人文・社会情報メディア
 - 3.1 美術分野
 - 3.2 音楽分野
 - 3.3 文学
 - 3.4 ビジネス分野
 - 3.5 法律分野
 - 3.6 心理学
 - 3.7 図書館情報学
- 4 情報メディアからみた情報の生産と利用

【評価方法】

レポートと出席回数によって評価する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

必要に応じて資料を配布する。

情報メディア論Ⅴ（科学技術情報メディア）

櫻木貴子

【授業の概要】

自然科学領域における主要な一次情報源である学術雑誌を中心に解説します。学術雑誌と科学論文についての知識は、情報サービス専門家に欠かせない知識です。学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにあります。とくに、研究者による論文生産の視点から、学術雑誌について検討します。

1. 環境としての学術情報
2. 文献情報と文献調査
3. 学術雑誌の歴史と生態
4. 総合誌、レビュー誌、レター誌
5. 日本からの英文論文発表
6. 主要海外誌への日本からの発表傾向
7. 生物医学雑誌への統一投稿規程
8. オーサーシップからみた学術論文
9. 出版倫理と利害の衝突
10. ニュースメディアと学術雑誌
11. レフェリーシステム
12. 一流誌への発表
13. インパクトファクターの批判的吟味
14. 電子メディア（データベース、一次雑誌）の現在

【授業計画】

講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関係する資料を随時配付する。

【評価方法】

期末レポート、小レポート（授業時間内）

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

【参考文献・資料】

電子時代の学術雑誌（Lambert, J. 著 日本図書館協会）
出版産業の起源と発達（Thompson, J.W. 著 出版同人）
歴史としての学問（中山茂著 中央公論社）
生命科学論文投稿ガイド（山崎茂明著 中外医学社）
医学文献サーチガイド 第2版（山崎茂明著 日本医書出版協会）
研究評価（根岸正光・山崎茂明著 丸善）

情報メディア論Ⅴ（科学技術情報メディア）

山崎茂明

【授業の概要】

自然科学領域における主要な一次情報源である学術雑誌を中心に解説します。学術雑誌と科学論文についての知識は、情報サービス専門家に欠かせない知識です。学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにあります。とくに、研究者による論文生産の視点から、学術雑誌について検討します。

1. 環境としての学術情報
2. 文献情報と文献調査
3. 学術雑誌の歴史と生態
4. 総合誌、レビュー誌、レター誌
5. 日本からの英文論文発表
6. 主要海外誌への日本からの発表傾向
7. 生物医学雑誌への統一投稿規程
8. オーサーシップからみた学術論文
9. 出版倫理と利害の衝突
10. ニュースメディアと学術雑誌
11. レフェリーシステム
12. 一流誌への発表
13. インパクトファクターの批判的吟味
14. 電子メディア（データベース、一次雑誌）の現在

【授業計画】

講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関係する資料を随時配付する。

【評価方法】

期末レポート、小レポート（授業時間内）

【テキスト】

論文投稿のインフォーマティクス（山崎茂明著 中外医学社）

【参考文献・資料】

電子時代の学術雑誌（Lambert, J. 著 日本図書館協会）
出版産業の起源と発達（Thompson, J.W. 著 出版同人）
歴史としての学問（中山茂著 中央公論社）
生命科学論文投稿ガイド（山崎茂明著 中外医学社）
医学文献サーチガイド 第2版（山崎茂明著 日本医書出版協会）
研究評価（根岸正光・山崎茂明著 丸善）

資料組織論

伊藤真理

【授業の概要】

情報の組織化に関する理論と概念について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。

目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

【授業計画】

- 第1回 情報の組織化
- 第2回 目録
- 第3回 書誌コントロール
- 第4回 書誌ユーティリティ
- 第5回 目録規則の標準化、統一
- 第6回 記述目録と主題目録
- 第7回 記述目録(1) AACR 2r, NCR
- 第8回 記述目録(2) アクセス・ポイントの選定; 標目形
- 第9回 記述目録(3) 典拠コントロール
- 第10回 主題目録(1) 概要
- 第11回 主題目録(2) 主要分類法
- 第12回 主題目録(3) 主要件名標目表
- 第13回 MARC
- 第14回 メタデータ

【評価方法】

平常点、試験

【テキスト】

初回時にテキスト配布。

資料組織演習

伊藤真理

【授業の概要】

資料組織論で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得を目的とする。

講義内容は、記述目録法と主題目録法の2部から成り、オムニバス形式で授業を進める。

記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。カード目録作成により、ISBDや記述目録の基本を理解し、オンライン目録の実習を通して、書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について理解を深める。主題目録法では日本十進分類法、国際十進分類法、基本件名標目表などを取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・主題目録法
 - 分類: NDC
 - 主題件名標目表: BSH
- ・記述目録法
 - ISBD
 - カード目録
 - オンライン目録
 - アクセス・ポイント
 - 典拠コントロール

【評価方法】

出席、実習およびレポート提出

【テキスト】

「資料組織論」で配布したテキストを使用

資料組織演習

櫻木貴子

【授業の概要】

資料組織論で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得を目的とする。

講義内容は、記述目録法と主題目録法の2部から成り、オムニバス形式で授業を進める。

記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。カード目録作成により、ISBDや記述目録の基本を理解し、オンライン目録の実習を通して、書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について理解を深める。主題目録法では日本十進分類法、国際十進分類法、基本件名標目表などを取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・主題目録法
 - 分類: NDC
 - 主題件名標目表: BSH
- ・記述目録法
 - ISBD
 - カード目録
 - オンライン目録
 - アクセス・ポイント
 - 典拠コントロール

【評価方法】

出席、実習およびレポート提出

【テキスト】

「資料組織論」で配布したテキストを使用

資料組織演習

岡澤和世 菅野育子

【授業の概要】

資料組織論で学んだ理論について、実習を通してより深い理解と習得することを目的とする。

講義内容は、記述目録法と主題目録法の2部から成り、オムニバス形式で授業を進める。主題目録法では日本十進分類法や基本件名標目表などを取り上げ、記述目録については、国際的な標準規則として認められている英米目録規則を用いる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・主題目録法
 - 分類: NDC
 - 主題件名標目表: BSH
- ・記述目録法
 - ISBD
 - アクセス・ポイント
 - 標目形
- ・MARCについて

【評価方法】

出席、実習およびレポート提出

【テキスト】

「資料組織論」で配布したテキストを使用

資料組織演習

田中敦司

【授業の概要】

資料組織論で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と技術の習得を目的とする。

講義内容は、資料目録法と資料分類法を中心とし、それぞれについて実例に即して実習する形式とする。

資料目録法では、目録規則の適用について、NCRを中心に学ぶ。カード目録作成により、目録の基本を理解し、オンライン目録を通して、書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について理解を深める。また、資料分類法では、日本十進分類法、基本件名表目録を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

図書館の現場では、コピーカテゴリーの機会が大半であるが、まったく修正せず利用できるデータは限られている。利用のための資料組織ができることを目指して、演習を行う。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・資料分類法
 - 分類：NDC
 - 主題件名標目表：BSH
- ・資料目録法
 - カード目録
 - オンライン目録
 - ISBD
 - アクセス・ポイント
 - 典拠コントロール

【評価方法】

出席状況、提出したレポート、最後に行う試験を総合して評価。

【テキスト】

「資料組織論」で配布したテキストを使用

【参考文献・資料】

資料組織演習 新訂版 (吉田憲一編著 日本図書館協会)

図書館学特殊Ⅲ (児童サービス論)

福永智子

【授業の概要】

図書館における児童サービスの理論と実際について、基礎的理解を図る。具体的には、日本の読書推進政策の現状を踏まえ、児童用資料の特性、利用者としての児童の特性、公立図書館・学校図書館における児童サービスおよび、図書館の周辺領域における児童へのサービスについても広く取りあげる。

【授業計画】

1. 公立図書館の児童サービス
 - (1) 児童サービスの法的基盤
 - (2) 児童図書館員の役割と専門性
 - (3) サービス対象としての児童：読書興味の発達段階
 - (4) 児童用資料の特性とコレクション構築の実際
 - (5) 児童サービスの企画と運営、施設・設備
 - (6) 周辺領域：子ども文庫活動、ブックスタート活動
2. 学校図書館と情報活用能力の育成
 - (7) 戦後教育改革と学校図書館の制度化
 - (8) 1997年の学校図書館法改正と「人」の問題
 - (9) 情報センター、学習センター、読書センター機能
 - (10) 学校図書館における図書館利用教育のガイドライン
3. 公立図書館と学校図書館の協力体制
 - (11) 異館種間ネットワーク構築の原理
 - (12) 地方自治体における先進事例の紹介
4. 試験 (13)

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって、総合的に評価する。

【テキスト】

児童サービス論 (堀川照代編著 日本図書館協会)

【参考文献・資料】

児童サービス論 (佐藤涼子編 教育史料出版会)
学校図書館論 補訂版 (塩見昇編 教育史料出版会)

情報学Ⅲ (図書館と情報検索の歴史)

村主朋英

【授業の概要】

図書館情報サービスと知識の組織化過程の発達を中心に、図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。<人類の情報環境の発達過程を概観する>というコンセプトを掲げ、とくに情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか>という問題を軸に探求する。

具体的には、まず環境要因となるメディア技術 (情報・通信技術) の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構 (情報サービス機関や情報専門職など)、および情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらも、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わりによって生ずる現象 (とくに情報の社会的蓄積・継承) を論ずる。

Ⅲでは、古代から中世までを対象とし、Ⅳに引き継ぐ。

【授業計画】

1. 古代文明のメディアと情報・知識
2. ギリシア・ローマにおける進展
3. 中世の学術と書物・図書館
4. 印刷革命

【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション (勁草書房 税別定価3,800円)
図書館情報学用語辞典 (丸善 税別定価3,800円)

情報学Ⅳ (図書館と情報検索の歴史)

村主朋英

【授業の概要】

図書館情報サービスと知識の組織化過程の発達を中心に、図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。Ⅳでは、Ⅲの知見を踏まえた上で、近・現代を対象とする。

【授業計画】

1. 印刷のもたらした近代
 - 学術情報流通システムの成立/新聞と雑誌/読書大衆
2. 図書館の世紀
3. 書誌とドキュメンテーション
4. 情報メディア技術の発達
5. 20世紀の情報流通システムと情報検索
6. 図書館学と情報学
7. 未来を求めて：Vannevar BushのMemex構想をもとに

【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション (勁草書房 税別定価3,800円)
図書館情報学用語辞典 (丸善 税別定価3,800円)

個人コミュニケーション論Ⅰ（認知心理学）

岩原昭彦

【授業の概要】

見る、聞く、話す、覚える、考えるなどの知的機能を総称して認知という。認知心理学では、人間を高次な情報処理体として見なし、情報の入力と出力との間に生じるさまざまな認知的過程を実験とシミュレーションにより理論化している。本講義では、人間の記憶活動と言語活動がどのように営まれているのかを明らかにするとともに、それらの活動を支える基盤が、脳の中でどのように組織化されているのかについても検討する。また、講義を通じて、我々が日常生活の中で体験する不思議な現象を認知心理学的に説明していきたい。

【授業計画】

1. サプリメンタル・パーセプション
2. 沈黙の手がかり
3. 意識できない知識
4. 健忘症患者の隠された能力
5. なぜ、ずっと覚えていられないのか
6. 記憶の混乱と偽りの記憶
7. 嫌な出来事が忘れられない
8. 言葉と心
9. 言葉の働き
10. 言葉が失われるとき
11. 言葉が意識を生む
12. 自己意識の起源にせまる

【評価方法】

期末試験と授業中に実施する実験・調査への参加回数。

【テキスト】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

情報メディア論Ⅰ（マルチメディア）

松井美紀

【授業の概要】

現代社会ではあらゆる組織においてコンピュータ等情報機器が不可欠のツールとなっている。これら情報機器を使いこなすことにより、情報のより効果的な利用が可能となる。

この授業では、情報メディア・情報機器に関する基礎的なことを解説する。また、情報技術について図書館・情報サービスにおける導入・活用の実例を示しながら解説する。

情報技術活用のための基礎を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- 1) ガイダンス：授業の目的、方法、授業計画について説明
- 2) メディアとは何か
- 3) 情報機器の発展経緯と種類、機能
- 4) 情報メディアの発展経緯と特性
- 5) 視聴覚メディアの種類と特性
- 6) コンピュータの基本的な仕組み
- 7) 図書館の機械化
- 8) データベースと情報検索
- 9) メディアの多様化と情報技術
- 10) インターネットについての基礎知識
- 11) インターネットによる情報発信
- 12) 電子情報と知的所有権

【評価方法】

- (1) 出席状況 (2) 定期試験（またはレポート）
- 以上の結果により評価を行う。

【テキスト】

授業時に提示する。

情報メディア論Ⅰ（マルチメディア）

三和義秀

【授業の概要】

社会、教育現場における情報機器の発展経緯、種類、機能、ならびに情報メディアの発達と変化について論じながら、情報メディアの特性、視聴覚メディア、図形処理と画像処理を中心とするソフトウェア、インターネットとシミュレーションに係るツールの活用方法、情報メディアと情報通信（ネットワーク）技術やマルチメディアとの関係について考察する。また、技術的な側面として、インターネットでの情報の検索手法、ハイパーテキスト・システムの本質的問題、およびその設計・開発手法についても触れていく。

【授業計画】

- 1) ガイダンス：授業の目的、方法、授業計画について説明
- 2) メディアとは何か
- 3) 情報機器の発展経緯と種類、機能
- 4) 情報メディアの発展経緯と特性
- 5) 視聴覚メディアの種類と特性
- 6) 図形・画像処理とソフトウェア
- 7) 情報通信とメディア
- 8) マルチメディアと情報通信技術
- 9) ネットワーク技術とインターネット
- 10) 放送の高度化とマルチメディア
- 11) 通信の高度化とマルチメディア
- 12) インターネットとシミュレーション
- 13) インターネットでの情報の検索手法
- 14) ハイパーテキストの仕組みと本質的問題
- 15) ハイパーテキスト・システムの作成手法

【評価方法】

出席回数、レポート、および定期試験により評価を行う。

【テキスト】

授業時に提示する。

博物館概論

長谷川 銹治

【授業の概要】

博物館とは何か、発達の歴史をたどり、世界と日本の博物館を概観する。

【授業計画】

- ア はじめに…博物館学とは何かなど学習の基礎を説明する。
- イ 博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に考えていく。
- ウ 博物館の始原…博物館の始原をたずねてみる。
- エ 博物館の萌芽…ルネサンス期からの博物館的な施設の形を探る。
- オ 近代博物館の発端Ⅰ…王権の誇示としての財宝の展示から考える。
- カ 近代博物館の発端Ⅱ…市民への公開がなされていく過程を考える。
- キ ヨーロッパの博物館…近世からの主要な博物館を例にとり、特徴をまとめる。
- ク アメリカの博物館…合衆国独立から現代までの特徴を探る。
- ケ 博物館の新しい波…企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど新しい動きをひろってみる。
- コ 日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
 - ・幕末から明治期にかけての博物館の発端
 - ・国威の宣揚と博物館
 - ・通俗教育による教化と博物館
 - ・十五年戦争と博物館

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川 銹治 戸谷印刷）

博物館学各論Ⅰ

長谷川 銹治

【授業の概要】

博物館について、学芸員資格にかかわる基本的事項を学習する。

【授業計画】

- ア 博物館の機能…生涯学習のための施設の一つと定義されていることを念頭におき考える。
- イ 博物館の分類…分類わけをとおして、博物館の役割やあり方を考えていく。
- ウ 博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織をみていく。
- エ 博物館の運営…名古屋市博物館を例にとり、運営の実際を知る。
- オ 学芸員考…学芸員の実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。
- カ 予算など…博物館のマネジメントについて考える。
- キ 博物館の施設・設備…設置基準をもとに施設・設備についてみる。
- ク 博物館と情報…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探ってみる。
- ケ 博物館の協力…大学・研究機関などとの連携についても考える。
- コ 文化財の保護…わが国の文化財保護の現状と問題点について考察する。あわせて世界遺産についても考える。

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率は重要な評価対象である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川 銹治 戸谷印刷）

博物館概論

早川 正一

【授業の概要】

「博物館概論」とは、愛知淑徳大学が文部省（現在の文科省）の認可のもとに、学芸員と呼ぶ博物館や美術館に不可欠な専門職員になるため、基礎知識をカリキュラムを通じて取得させる基幹の学科目である。したがって、この養成課程の当初に受講させるので真剣に取り組まないと脱落しかねない。充分な心構えが肝要である。

次のような単元のもとに講義を展開してゆく予定である。

【授業計画】

博物館や美術館の基本概念と必要性
専門職員としての「学芸員」とは何か
博物館と美術館の発達とその時代背景
博物館と呼ぶ施設の機能と多様性
博物館の分類と現代性
博物館の日常的な組織と運営の局面への学芸員のかかわり方、そして館外活動への配慮
博物館の相互協力と情報の活用

毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。
無用な欠席は不合格につながるので、注意されたい。

長谷川 銹治『博物館学論考』（1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

学期末の筆記試験をはじめ、毎時間の出席状況、受講態度などで総合評価する。資格認定のため厳格である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川 銹治 戸谷印刷）を参照することをすすめる。

博物館学各論Ⅰ

早川 正一

【授業の概要】

愛知淑徳大学の学芸員課程委員会が計画したカリキュラムに準拠し、前段階の「博物館概論」を修得した学生に受講させる。したがって、この講義も基幹をなす学科目であるから、年次計画を考慮し、真面目に受講しないと、資格取得につながらないので、注意が肝要である。

【授業計画】

次の単元を土台として講義を展開する予定である。
博物館や美術館の展示と陳列構造
博物館がとり扱う資料の収集と保存
博物館と所属する学芸員のおこなう調査と研究
博物館や美術館のおこなう普及活動と教育
文化財の種類と保護にかかわる諸問題
生涯学習の必要性和博物館の関連事業

毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。
無用な欠席は不合格につながるので、注意してほしい。

博物館学論考（長谷川 銹治 1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

本学の学長の名において資格を認定する以上、定期試験を厳格に実施し、出席状況や受講態度を含めて総合評価する。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川 銹治 戸谷印刷）を参照することをすすめる。

博物館学各論Ⅱ

長谷川 綉治

【授業の概要】

博物館資料とは何かの定義づけからはじめ、資料の取扱い方を含めて学習する。また、博物館の調査・研究についても考える。

【授業計画】

- ア 博物館の資料…「物」が博物館資料と位置づけられるのはどのようなことかを考える。
- イ 博物館資料の実際…資料について実技を含めて具体的に学ぶ。
 - 1 資料の収集
 - 2 資料の取扱い
 - ・掛軸
 - ・古文書 ・和装本
 - ・やきもの ・茶碗
 - ・瓦など
 - 3 資料の整理・保存
 - 4 資料の保全
- ウ 資料情報の管理…資料情報の管理についてその実際を探る。
- エ 調査・研究…博物館における調査と研究、成果の公表について考える。

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川 綉治 戸谷印刷）

博物館学各論Ⅱ

川合 剛

【授業の概要】

博物館は「もの（物）」「ひと（人）」「ば（場）」の3つの要素で構成される。この授業では、そのうちの「もの」＝博物館資料に焦点をあて、博物館活動の中での役割を考える。博物館資料の定義、収集、整理分類、保管保存、調査研究そして実際の取扱い方について、基礎的な知識と技術を学ぶ。

【授業計画】

- 履修学生が、手を動かし、自分で考える「実技」の時間をできるだけ多くとる。
- (a) 博物館と博物館資料
- (b) 資料を記録する技術
 - 拓本・実測・写真など。
- (c) 資料を扱う技術
 - 掛け軸・卷子・和本・陶磁器・考古資料など。
- (d) 資料を保管・保存する技術
 - ドキュメンテーション・保存科学など。
- (e) 博物館と調査・研究

【評価方法】

実技を行う。出席および授業に臨む姿勢を重視する。あわせて、レポートなどの課題、(時間内の)小テストの結果も勘案する。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川 綉治 戸谷印刷）

【参考文献・資料】

随時プリントを配布し、参考文献・論文などを紹介する。

博物館学各論Ⅱ

秋元悦子

【授業の概要】

博物館の活動の基礎は「資料」にあり、それを有効活用することではじめて博物館と言える。本講座では、その収集・取扱い・整理・保存・活用について具体的事例や実習を取り入れながら学んでいく。

【授業計画】

1. 博物館資料とは……「博物館資料」とは、何を指すか、理念およびその具体的種類を知る。
2. 資料収集……資料の収集に際しての、収集方針の重要性、収集方法の事例を学ぶ。
3. 資料の取扱い……基本資料の取扱いを実習し、習得するとともに、その構造を知り展示方法等も学ぶ。
やきもの、和装・卷子本、掛け軸その他で実習する。
4. 資料整理……資料の整理について、分類方法やその整理登録方法を考え、資料カードの作成を実習する。
5. 資料情報……整理された資料の情報、二次的資料の情報の管理運営について考える。
6. 資料保管……資料の保管に関しての、保存条件や方法、問題点などを学ぶ。
7. 資料活用……資料を活用した調査研究活動の実際とその意義を知る。
また、4年次の「博物館実習」に備えた情報や、館務実習の準備について説明する。

【評価方法】

出席、実習態度、レポートおよび小テストで評価する。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川 綉治 戸谷印刷）

必要に応じてプリントを配布し、ビデオ・スライド等も利用する。

博物館実習

長谷川 綉治

【授業の概要】

学芸員の基本的な役割について、講義、展示演習、博物館見学、館務実習などを通して、実践的に学習する。

【授業計画】

- ア 展示論……展示についての学問的側面、実際の運びなどをみていく。
 - 1 展示とは
 - 2 展示のポイント
 - ・動線 ・視線 ・照明 ・温度 ・湿度
 - 3 展示の施設
 - 4 展示のプロセス
 - 5 展示と保全
- イ 普及・教育論……生涯学習が重要課題となっている現代社会にあつて、博物館が果たす役割はどんなものかを探っていく。
- ウ 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。
- エ 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
- オ 海外特別実習……夏休み中に希望者と海外の博物館に出かけ学習する。
- カ 県外実習……エ、オに参加できない者は、9月に県外へ見学に出かける。

【評価方法】

- ・実習はもちろん、学外での研修にはかならず参加し、それぞれレポートを提出する。
- ・その都度、提出させるレポートを中心に実習態度なども勘案して評価する。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川 綉治 戸谷印刷）

博物館実習

秋元悦子

【授業の概要】

学芸員資格を取得するにあたって、展示演習、博物館見学、博物館実習を中核に、具体的な学芸員活動を様々な観点から学習する。

【授業計画】

1. 展示とは……展示という手法について、その実際と未来像を考える。
2. 展示の実際……計画から、手法、条件などの展示の実際の概要を具体的な事例をふまえながら、学んでゆく。
3. 展示にかかわる事業……展示をとりまく、様々な事業（解説、広報、印刷物、講座など）の存在を知る。
4. 展示の実習……各自で模擬展示の計画書を作成し、展示方法やその活用法を実習する。
5. 展示と教育普及事業……展示を通じての生涯学習機関として、博物館の今後をになう役割と未来を探る。

授業以外に、

- 土曜日に、博物館の展示・施設見学を行う。
- 夏休み中に、各博物館に依頼し館務実習を行う。

【評価方法】

授業および学外での研修の出席・レポート、模擬展示の口頭発表およびその計画書で評価する。

【テキスト】

博物館学概論（長谷川銹治 戸谷印刷）

必要に応じてプリントを配布し、ビデオ・スライド等も利用する。

博物館実習

松村冬樹

【授業の概要】

「展示」は博物館における「顔」とも評されるが、最高の広報普及活動でもある。この授業では、さまざまな施設の見学を含め、「展示」の知識と実践を学ぶ。

【授業計画】

「展示」を疑似体験できるよう「実技」の時間をできるだけ多くとる。適宜、プリントを配付する。

- (a) 「展示」とは
- (b) 展示のプロセス
- (c) 展示の実際（仮想展覧会企画）
- (d) 展示と解説
- (e) 印刷物（ポスター、ビラ、図録）
- (f) まとめ

- *1 土曜日に近隣の博物館の展示見学、施設見学を行う（年5～6回程度）。
- *2 夏休み中に各博物館に依頼し、館務実習を行う。
- *3 夏休み中に海外博物館見学の研修を行う。
- ※ *2、*3に参加しなかった者は、県外博物館の見学を行う。

【評価方法】

出席状況は重視する。意欲や、館務実習では必要な社会常識も評価の対象とする。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銹治 戸谷印刷）

生涯学習概論

羽場俊秀

【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校だけでなく、広く社会において絶えず学び続けることが大切である。生涯学習に広がりや深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

【授業計画】

- 1-3. 生涯学習理念の成立と発展
- 4-7. 生涯学習実践の課題
- 8-11. 生涯学習と社会
- 12-13. 生涯学習と人間
- 14-15. 総括

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。授業中に参考文献を適宜紹介する。

【参考文献・資料】

なし

視聴覚教育メディア論

東浦信博

【授業の概要】

「学芸員のための」を前提としながらも幅広く視聴覚教育メディア全般の特性を検討し、最近のマルチメディアまでの各視聴覚教育メディアを論ずる。

【授業計画】

1. 視聴覚教育の意義と効果
2. 博物館と視聴覚教育メディア（手段としてのメディア、目的物としてのメディア）
3. 視聴覚教育メディア各論
領域と種類
録音メディア（レコード・テープ・CD等）
映像メディア1（スライド・OHP等）
映像メディア2（映画・ビデオ等）
マルチメディアと情報ネットワーク
講義中心であるが、OHP、ビデオを多用する。

【評価方法】

論述式定期試験（テキスト・ノート持込み可）。

【テキスト】

視聴覚メディアと教育（樹村房 ¥1,800+税）

教育学概論

羽場俊秀

【授業の概要】

教育学の基本的な知識や概念の修得とそれに基づく具体的な諸問題についての考察を進めていくことにする。とりわけ、人間の社会生活と教育との関連に力点をおいて、本来の教育の意義や望ましい教育の作用を明らかにするように努めていくことにする。その際、取り上げる題材としてプリントやVTRを使用して理解を深めていきたい。

【授業計画】

- 1-3. 教育学の概念
- 4-6. 教育学の歴史
- 7-9. 教育学の課題
- 10-12. 学校と教育
- 13-14. 社会と教育
15. 総括

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。授業中に参考文献を適宜紹介する。

【参考文献・資料】

なし

美術史

角田美奈子

【授業の概要】

日本の美術の歴史にはたくさんの不思議があります。例えば、今、私たちが美術館で目にする「絵画」が、「日本画」と「洋画」に区別して紹介されていたりするのでしょうか。また、それはいつからのことでしょうか。

このような不思議を手がかりに日本の美術の歴史をたどり、理解を深めるとともに、作品鑑賞を豊かにする視点や問題意識を育みます。

必要にあわせて東洋や西洋の美術の歴史も参照します。

【授業計画】

ワーク・シートを配布し、設問に答えるところから全体の授業をはじめます。不思議を授業を通して発見する。講義は、不思議の背景などを説明し、また新たな不思議を見出すはたらきかけとする。解説プリント、ワーク・シート、感想・質問・要望などを記すフィードバック・シートを適宜配布する。

【評価方法】

ワーク・シートやフィードバック・シートを回収し、出欠の確認に代えたとともに、内容を評価する。これらを使用しないときは、出欠を確認し、評価に反映させる。授業で自分の考えや答えを発表してもらう。授業に参加する姿勢もあわせて評価する。内容の評価には、回答の正しさを必ずしも求めない。取り組みの姿勢や理解の深まりなども評価の対象とする。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

必要により、授業で紹介する。

民俗学

谷沢 明

【授業の概要】

なにげなくくりかえしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人の物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいたったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をとおして具体的にみつめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったかも考えてみたい。

【授業計画】

1. 民俗学を学ぶ～方法論と調査研究法～
2. 稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
3. 農耕儀礼～田遊びを中心に～
4. 年中行事～正月行事を中心に～
5. 年中行事～盆行事を中心に～
6. 人生儀礼～人生の折りにあたって～
7. 暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
8. 暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
9. 庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
10. 庶民信仰を探る～庚申信仰～
11. 日本民俗学のあゆみ～柳田國男の役割～
12. 日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～
学外教育としてフィールドワークを行う。

【評価方法】

中間レポート及び授業内小テスト・試験による

【テキスト】

フィールドワークで探る民俗と地域文化

文化史

秋元悦子

【授業の概要】

本講義では、古来日本に多くの影響を与えてきた中国の古代文化について、理解を深めることを目的とする。文化を理解するためには、その環境の理解が不可欠であるため、自然地理の知識から学び、人間と自然環境の関係を考慮しながら進めたい。また、関連する考古資料・歴史文献・古地図等の様々な資料を知るとともに、その所在や利用法等も学ぶ。授業では、必要に応じて文献講読（漢文資料）や地図分析作業も行う。

【授業計画】

1. 中国および日本の自然地理と古代文化
日本も含む基本的な自然地理について理解し、古代の自然を考察する。
2. 中国古代都市の立地と遺跡
中国の古代都市は時代により様々な位置に置かれた。各都市の遺跡を確認しながら、その立地を考察する。
3. 文献にみる中国古代の様相
歴史文献を通じて古代中国の各地域に関する思想を知る。『尚書』禹貢篇、『漢書』地理志等を講読。
4. 地図にみる中国古代の様相
現代に伝わる古地図や近代地形図の残存状況を知り、内容を理解する。
5. 遺物にみる中国古代の様相
近年の考古学的発掘による大量の遺物が知られるが、その研究状況を知る。
6. 現代科学にみる中国古代の様相
現代の科学分析による歴史研究の状況と、その方法について知る。

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価する。（毎回出欠調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。

【参考文献・資料】

世界の歴史と文化 中国（陳舜臣・尾崎秀樹監修 新潮社）

【授業の概要】

考古学は、遺跡・遺物をもとに人間の営んできた歴史を明らかにする学問である。その研究方法には、層位学や型式学、分類学などの科学的方法論がとられ、人文科学の中でもとりわけ自然科学との結びつきが強い学問でもある。そうした学問の基本を学び、考古学が明らかにしてきた日本の歴史の一面を把握する。特に、全国各地で行われている遺跡の発掘調査によって、知られるようになった最近の新しい遺構、遺物を紹介し、学際的な研究の進展を学ぶ。また遺跡調査への関心を高め、文化財の保護という現代的課題についても考える。現代に生きる我々がどういう社会を築くかを、歴史の中から学ぶ際に、考古学の果たす役割と受け継ぐべき文化遺産の重要性を認識する。

まず、考古学の研究法を学び、世界の考古学研究の発展過程を眺める。次に日本の旧石器時代から近世に至る、日本考古学の研究成果を把握する。なかでも原始・古代遺跡における最近の新発見や社会構造の捉え方の変化、中世から近世の城館や都市遺跡の発掘調査から判明してきた当時の生活様式などに理解を深める。また日本考古学の研究対象が近世・近代にまで広がっていることを認識するとともに、遺跡や遺物の文化財としての保存の必要性とその活用方法についても考える。

【授業計画】

各時代毎の解説の後、スライド・OHPなどにより視覚的に確認し、次の時代に進む。新聞記事等最近のニュースも逐次取り入れる。研究史から始め、日本の考古学研究の現在や遺跡保存の歩みなどを序章から第IV章までの5章にて構成し、13項の講義を行う。

【評価方法】

講義内容から出題するテスト。集中授業での欠席 1/3 を越えたものは受験資格を失う。

【テキスト】

印刷物をテキストとして配布する。

ドイツ語Ⅰ

濱田義孝

【授業の概要】

ドイツ語の基礎を習得する。

ドイツ語は英語と同じく西ゲルマン語から出た言語で類似点も多いが、英語に比べてかなり保守的で、面倒な語形変化などがある。しかし一見やっかいそうな文法もいったん慣れてしまえば、かえって語句の関係が明確であり構文の把握も容易になる。

言葉は何よりもまず音声であるから、初めにドイツ語の発音に慣れること。そのためには教師（またはテープ）のドイツ語をよく聞いて、積極的に口を動かして真似ること。こうして繰り返し反復練習することによって、基本的なドイツ語の語句や言い回しになじみ、やさしい文を覚えていけば、週一回という短時間の学習でも、ドイツ語の基礎をマスターできるでしょう。

またドイツ語の学習を通してドイツやオーストリアの生活と文化に触れることもできる。

【授業計画】

テキストは全12課で、各課ともドイツ語の会話と基本的な文法事項、練習問題から構成されている。LL方式のパターン練習で基本構文や表現パターンを覚え、それをペアで行なう対話練習で実践し、段階的に表現能力を身に付けてゆく。

1課を2回の授業で修了するくらいのゆっくりしたペースで進む。

【評価方法】

授業での平常点と期末試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

コミュニケーションのためのドイツ語（在間・田畑共著 第三書房）

ロシア語Ⅰ

杉本一直

【授業の概要】

みなさん、知っていますか？日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができるところは本当に少ないんですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです！「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか？

この授業では、初歩のロシア語を学びながらロシアの芸術や文化や街について楽しく紹介していきます。映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしていてくださいね。

【授業計画】

初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を覚え、発音を覚え、そのあとは辞書で遊び(?)ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人！

辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。

- キリル文字と発音
- 大きな声であいさつしよう
- 買い物に行ってみよう
- 乗り物に乗ろう
- おなかがいっぱいなら...
- 自分について話してみよう
- 好きな音楽について
- 手紙を書こう（本当にロシアへ送るぞ!）

【評価方法】

定期試験の成績による。

【テキスト】

ロシア語ミニ辞典（白水社）

ドイツ語Ⅱ

濱田義孝

【授業の概要】

ドイツ語の基礎を習得する。

ドイツ語は英語と同じく西ゲルマン語から出た言語で類似点も多いが、英語に比べてかなり保守的で、面倒な語形変化などがある。しかし一見やっかいそうな文法もいったん慣れてしまえば、かえって語句の関係が明確であり構文の把握も容易になる。

言葉は何よりもまず音声であるから、初めにドイツ語の発音に慣れること。そのためには教師（またはテープ）のドイツ語をよく聞いて、積極的に口を動かして真似ること。こうして繰り返し反復練習することによって、基本的なドイツ語の語句や言い回しになじみ、やさしい文を覚えていけば、週一回という短時間の学習でも、ドイツ語の基礎をマスターできるでしょう。

またドイツ語の学習を通してドイツやオーストリアの生活と文化に触れることもできる。

【授業計画】

テキストは全12課で、各課ともドイツ語の会話と基本的な文法事項、練習問題から構成されている。LL方式のパターン練習で基本構文や表現パターンを覚え、それをペアで行なう対話練習で実践し、段階的に表現能力を身に付けてゆく。

1課を2回の授業で修了するくらいのゆっくりしたペースで進む。

【評価方法】

授業での平常点と期末試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

コミュニケーションのためのドイツ語（在間・田畑共著 第三書房）

ロシア語Ⅱ

杉本一直

【授業の概要】

ロシア語Ⅰに引き続き、ロシア語の基礎を学びます。ロシア語Ⅱでは、基礎的な文法事項の習得に重点をおきます。

【授業計画】

毎回ひとつの重要な文法事項をクローズ・アップし、ひとつづつじっくり習得していきます。

取り上げる文法事項の主なものは以下の通り。

- 動詞の過去形
- 名詞の前置格
- 名詞の対格
- 名詞の生格
- 不完了体と完了体
- 関係代名詞と関係副詞

【評価方法】

定期試験の成績による。

【テキスト】

ロシア語ミニ辞典（白水社）

資本市場と証券投資（野村証券提供講座）

上原 衛

【授業の概要】

直接金融への期待が高まる現在、資本市場に求められる役割とは何か。金融ビッグバン以降、激変する日本の資本市場の全容と投資とリスク・リターンのお考え、株式投資・債券投資・分散投資・グローバル証券投資・分散投資の方法などを実務の観点から解説します。

【授業計画】

- (1) ガイダンス
 - (2) 経済情報の捉え方
 - (3) 経済成長と金融資本市場
 - (4) 証券投資のリスク・リターンについて
 - (5) 株式市場の役割と投資の基礎知識について
 - (6) 債券市場の役割と投資の基礎知識について
 - (7) 投資信託の役割とその仕組みについて
 - (8) ポートフォリオ・マネジメント
 - (9) 市場のグローバル化と証券投資について
 - (10) 資産運用とライフプランニング
 - (11) 資本市場における投資家心理について
 - (12) 個人投資家と証券ビジネスについて
- ※授業はオムニバス形式で毎回講師が来て行われる。

【評価方法】

期末試験の結果により評価する。

【テキスト】

必要に応じてそのつど関連資料を配布する。

【参考文献・資料】

証券投資の基礎（野村証券投資情報部編 丸善株式会社）
日本の資本市場（氏家純一編 東洋経済新聞社）

英語海外セミナー

担当者未定

【授業の概要】

語学学習と異文化体験を目的とする、アメリカ北東部のウェスト・バージニア大学における海外英語研修プログラム。全学を対象に実施される。参加者は、キャンパス内の大学寮等に滞在し、約3週間の集中授業を受ける。週末のホームステイ、小旅行、現地学生および留学生との交流なども用意されている。出発前に行われる数回のオリエンテーションおよび事前事後のライティング課題なども含めて全てを修了すれば、本学の2単位が与えられる。

期間は2月中旬から3月中旬の約1ヶ月、定員は約30名。面接およびTOEICスコアにより選考を行う。

2003年度実施研修プログラムにおける1日(9:00~15:20)の学習内容は、以下の通り:

- 午前 少人数制英会話クラスと総合英語の授業
- 午後 アメリカ文化の授業とプロジェクト(音楽/芸術・ドラマ・ニュースレター作成などのプロジェクトから、各自が興味のある分野を選択し、英語による意見交換を行いながら仕上げいき、修了パーティーで発表する。)

【授業計画】

この研修は、ウェスト・バージニア大学が本学学生のために用意する特別プログラムである。(全期間の学習および生活面全ての指導は、現地教員およびプログラムスタッフが当たる。期間中、本学教職員は滞在しない。)

【評価方法】

ウェスト・バージニア大学授業担当者の評価および研修前後の課題から総合的に判断する。

【テキスト】

現地にて用意される。

【参考文献・資料】

オリエンテーションで指示する。

外国文化海外研修 I (中国)

馮 富榮

【授業の概要】

この授業では、言語実践を通して、言葉を知り、理解し、発信し、理解されることの楽しさを体験することができる。また南京師範大学に滞在して生活することで、中国に対する単なる傍観者・観察者ではなく、客観的な目をもった共感者になることを目指す。

- 京師範大学において3週間の中国語研修を行う。
 - ◎ 月曜～金曜の午前中は8:00～11:30まで中国語の授業。日本語のできない先生が中国語で授業するが、分かるのが不思議。内容は会話表現中心。
 - ◎ 午後は課外活動として南京市内見学(中山陵、南京博物館、玄武湖、夫子廟、南京大屠殺記念館など)を通して、南京の風俗、歴史を学び、日本語学科の学生との交流会などを通して中国人同世代の人の考え方や生活を学ぶ。
 - ◎ 夜は予習復習に追われる。みんな教室に集まって、黙々と勉強。
 - ◎ 土曜と日曜は言語実践の日。南京の街へ飛び出そう!
 - ◎ 風光明媚な「瘦西湖」で名高い揚州へ、庭園で知られている蘇州への一日旅行。
- 言語文化論 I の講義内容と呼応した5日間ほどの研修旅行。
- 定員は20名程度。
- 今年度の2月中旬から3月中旬にかけて実施する。
- 終了者に2単位を認定する。

【授業計画】

4月のガイダンスで研修の内容などを説明する。後期開講科目であるが、履修登録を必要とせず、参加したことによって単位が取得できる。9月下旬、参加募集を掲示に出し、10月中旬頃に参加者を決定する。その後、説明会を2回ほど、オリエンテーションを1回実施する。詳しくは掲示を見る。2月中旬に出発し、3月中旬に帰国する。費用は25万程度。

【評価方法】

引率者は平常点で評価する。

【テキスト】

南京師範大学の研修授業の担当先生が決めるテキストを使用する。

米国 NPO インターンシッププログラム

榎田勝利

【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるCivil Society Consulting Group (CSCG)との共同プログラムとして実施する。米国の民間非営利組織(NPO)でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を定める。実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

(活動可能な分野) 老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。

(米国側協力団体) Civil Society Consulting Group (CSCG)

【授業計画】

(事前研修) インターンシップの活動分野の決定・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習・日本のNPO、ボランティア団体へフィールドワーク・英会話のトレーニング・米国側ディレクターによる合宿オリエンテーション

(現地プログラム) オリエンテーション合宿・基本的に月曜から金曜までの5日間のインターン・1日特別研修プログラム・インターンシップの体験報告書の作成と提出・評価会、修了式、さよならパーティ(事後研修)・フォローアップ研修、報告書作成

【評価方法】

現地での評価(受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書)を考慮し全体評価を行う。

外国文化海外研修 II (韓国)

曹 述燮

【授業の概要】

本学の姉妹校の一つである韓国の大邱カトリック大学で、韓国の文化や言語などの研修を積む。本研修のために姉妹校からは少人数制の語学授業、陶磁器工芸・伝統音楽・伝統料理などの韓国文化に対する講義と実習、そして両校の学生交流、ホームステイなどの課外活動を含む特別のカリキュラムが編成されている。と同時に本研修には姉妹校での研修を前後して慶州市、独立記念館、ソウル市への旅行などのプログラムも企画されている。

本研修を通じて参加学生たちは、良好に組まれたカリキュラムから韓国に対する知識を習得すると同時に、多様な韓国・韓国人を直接体験し自ら触れあうことで新世紀のパートナーとしての韓国の理解を深める。

期間:
夏期休暇の8月中の3週間前後
内容:

- 語学研修
 - a. 14日間、午前中、1日3時間(2コマ)授業
 - b. 現地教員による少人数制の授業で韓国語の発音、文法、文型、会話などの練習
 - c. 初級と中級のクラス編成予定で初心者も授業参加可
- 韓国文化研修
 - a. 午後週1～2回
 - b. 専門家による講演・指導と質疑応答
 - c. 伝統文化実演の鑑賞(古典劇、音楽など)
 - d. 自己参加型の実習(工芸・料理、舞踊など)
- その他の各種の課外活動

【授業計画】

本研修参加のための数回の事前研修と事後研修が予定されている。事後報告書をまとめる。

【評価方法】

現地教員およびプログラムスタッフ、そして引率教員による総合評価による。

【テキスト】

特になし

情報処理技術特殊 I

中野雅晴

【授業の概要】

基本情報技術者試験合格のための教育科目である。

情報技術全般の基礎知識を活用し、情報システム開発においてプログラムの設計・開発を行うとともに、将来高度な技術者を目指す者として、以下の知識・能力を身につける。

- 1) 情報技術全般に関する基本的な用語・内容の知識
- 2) 上位技術者の指導のもとにプログラム設計書を作成する能力
- 3) プログラミングに必要な論理的思考能力
- 4) プログラムのテスト手法を理解し実施する能力

【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎
- ステップ2 データベース技術
- ステップ3 コンピュータシステムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 情報と経営
- ステップ6 セキュリティと標準化

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊 II

中野雅晴

【授業の概要】

ソフトウェア開発技術者試験合格のための教育科目である。

情報システム開発のソフトウェア開発技術者として、外部仕様に基づいて内部設計・プログラム設計・プログラム開発を行い、高品質なソフトウェアを開発するための、以下の知識・能力を身につける。

- 1) ネットワーク、データベース、システム構成などの情報技術に関する一般的な知識と、上位技術者の指導のもとに情報システムの設計ができる能力
- 2) 内部設計書・プログラム設計書の作成能力
- 3) プログラミングに必要な高度の論理的思考能力
- 4) ネットワーク、データベースなどに関する実装技術と知識
- 5) プログラムのテスト手法を熟知し、単体テスト・結合テストの計画と管理が行え、テストの実施についてはプログラム開発要員を指導できる能力

【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎上級
- ステップ2 コンピュータシステム上級
- ステップ3 システムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 データベース技術
- ステップ6 セキュリティと標準化

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊 III

黒部晃一

【授業の概要】

「画像情報技能検定試験CG部門（CG検定）」の2級合格を目標として、その対策を会得する。2級問題は、3級レベルのCGに関する総合的な知識の他に、厳密な理論的知識をも要求されるので、VCによるCGプログラミングのサンプルを解説することでそれを理解する。

【授業計画】

配布するサブテキストに基づいて、講義方式で行う。

1. CG概論、CG検定試験2級対策
2. 各種CGツールの紹介、そのデモンストレーションと作例紹介
3. VisualC++によるGUIプログラミング
4. VisualC++によるインターフェースの設計
5. 平成15年度前期CG検定2級試験問題の検証と分析
6. 平成15年度前期CG検定2級試験問題の検証と分析
7. 平成15年度後期CG検定2級試験問題の検証と分析
8. 平成15年度後期CG検定2級試験問題の検証と分析
9. 平成14年度前期CG検定2級試験問題の検証と分析
10. 平成14年度後期CG検定2級試験問題の検証と分析
11. 演習
12. まとめ

【評価方法】

出席状況で評価

【テキスト】

技術編 CG標準テキストブック（画像情報教育振興協会）
平成16年度版 CG検定2級問題集（画像情報教育振興協会）

【参考文献・資料】

- 入門コンピュータグラフィックス（画像情報教育振興協会）
- 基礎から学ぶVisualC++プログラミング（山岡祥 CQ出版社）

情報処理技術特殊 IV

黒部晃一

【授業の概要】

「画像情報技能検定試験CG部門（CG検定）」の1級合格を目標として、その対策を会得する。1級問題は、CGプログラミングのスキルを要求されるので、自ら発案するテーマに基づいたプログラミングの実習を行う。

【授業計画】

前半は講義方式で、後半は主に実習形式で行う。

1. CG検定試験1級の概要と対策
2. VisualC++によるGUIプログラミング
3. 平成15年度CG検定1級試験問題（マークシート）の検証と分析
4. 平成15年度CG検定1級試験問題（記述式）の検証と分析
5. 平成15年度CG検定1級試験問題（二次試験）の検証と分析
6. 平成15年度CG検定1級試験問題（二次試験）の検証と分析
7. 平成15年度CG検定1級試験問題（三次試験）の検証と分析
8. 平成15年度CG検定1級試験問題（三次試験）の検証と分析
9. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習
10. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習
11. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習
12. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習、まとめ

【評価方法】

出席状況で評価

【テキスト】

技術編 CG標準テキストブック（画像情報教育振興協会）
平成16年度版 CG検定1級問題集（画像情報教育振興協会）

【参考文献・資料】

- コンピュータグラフィックス理論と実践
（J.D.Foley、A.v.Dam、S.K.Feiner F.Hughes オーム社）
- 基礎から学ぶVisualC++プログラミング（山岡祥 CQ出版社）

スポーツ特殊講座（スクーバダイビング）

杉山 和

【授業の概要】

「海の中」の自然を体験し、より視野を広める、スクーバダイビングに必要な初級のライセンスを取得し、生涯スポーツの実践へつなげる。

【授業計画】

〔スクーバダイビング〕

1. 期日

プール実習 平成16年9月6日（月）～11日（土）
この期間中に時差をつけて3日間実施します。
海洋実習 平成16年9月14日（火）～9日17日（金）
3泊4日

第1回説明会 平成16年5月19日（水）5限目

第2回説明会 平成16年7月17日（土）10：00～

2. 場所

プール実習 ロコダイバーズ 室内プール（一社）
海洋実習 沖縄県 伊江島

3. 諸経費

実習費 約50,000円（講習費、テキスト代、申請料）
用具代 約50,000円（重器材レンタル代、個人器材）
海洋実習費 約78,000円（交通費、宿泊費）
その他 約30,000円（ウェットスーツ希望者のみ）

4. 定員 約20名

*諸経費については、15年度のものでありますので変更になる場合があります。

*説明会には必ず参加すること。

【評価方法】

1. 実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。
2. 実習期間中、欠席した場合は単位が認められません。

スポーツ特殊講座（スケート）

松田秀子

【授業の概要】

スケートを通して、基礎的技術の向上と、知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へつなげる。

【授業計画】

〔スケート〕

1. 期日

実習 平成17年2月2日（水）・3日（木）
4日（金）・7日（月）
8日（火）・9日（水）

計6日間 午前中のみ

2. 説明会 平成17年1月12日（水）12：30～13：15

実習に必要な諸手続きを行ないますので、必ず参加すること。

3. 場所 名古屋スポーツセンター（大須）

4. 実習費 7,200円

5. 定員 40名

【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

スポーツ特殊講座（ボウリング）

松田秀子

【授業の概要】

ボウリングを通して、基礎技術の向上と知識の習得を目標とし、生涯スポーツの実践へつなげる。

【授業計画】

〔ボウリング〕

1. 期日

実習 平成16年9月8日（水）・9日（木）
10日（金）・13日（月）
14日（火）・15日（水）

計6日間 午前中のみ

2. 説明会 平成16年7月7日（水）12：30～13：15

実習に必要な諸手続きを行ないますので、必ず参加すること。

3. 場所 星ヶ丘ボウル

4. 実習費 6,000円（15年度のものでありますので変更する場合があります。）

5. 定員 40名

【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

ASU TOEIC I E

天野純子 太田晶子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

第1回 オリエンテーションおよび模擬演習

第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト

- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
- ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
- ・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
- ・問題解説（25分）

第15回 模擬テスト

*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分

（合計 7時間×13回＝91時間）

リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分

（合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC I F

天野純子 太田晶子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
 - ・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
 - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- *宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC II F

STEPHENSON, Brett DUNKLEY, Daniel

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
 - ・演習（リスニング・Reading）（30分）
 - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- *宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC II E

STEPHENSON, Brett DUNKLEY, Daniel

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
 - ・演習（リスニング・Reading）（30分）
 - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- *宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

上級英語セミナー 2004A

WRINGER, Paul

【Course Content】

週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。（1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。）

【Schedule】

Topics will be covered over a two to three week period and will include a variety of interesting and motivating themes selected mostly by the teacher.

First semester (AESa)
Personal information
Travel & vacations
Strange phenomena
Entertainment
Crime & capital punishment
Controversy

【Assessment】

Assessment will be continual and based on the following criteria:
ATTENDANCE
CLASS PARTICIPATION / EFFORT
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
END OF SEMESTER REPORTS
TOEIC SCORES

【Textbooks】

To be announced.

「上級英語セミナー2004A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。WRINGER, Paul先生（木曜日1限）、CURRAN, Beverley先生（金曜日5限）の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004A

CURRAN, Beverley

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

【Schedule】

Each week, in my class, a different student will be responsible for selecting a topic and introducing a discussion about it in English. The other students will listen with attention and then continue the discussion through their own questions and comments. The goal in each class is to engage in animated discussion for 90 minutes, giving each student an opportunity to grow more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation or discussion in English. Special guests will also be invited to the class to talk about themselves with the students in a relaxed and supportive atmosphere.

【Assessment】

Assessment will be based on participation and effort.

【Textbooks】

No text required.

「上級英語セミナー2004A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。WRINGER, Paul先生(木曜日1限)、CURRAN, Beverley先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004B

CURRAN, Beverley

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

【Schedule】

In the second semester, discussions will continue, and students will be encouraged to take more responsibility for engaging in discussion and offering support to the speaker through a thoughtful consideration of the topic. Each week will be a chance to grow closer as a group of engaged language learners whose communal energy will motivate individual student growth in English ability and self-confidence. Special guests will also be invited to the class to talk to the students in English in a relaxed but lively atmosphere.

【Assessment】

Assessment will be based on participation and effort.

【Textbooks】

No text required.

「上級英語セミナー2004B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。WRINGER, Paul先生(木曜日1限)、CURRAN, Beverley先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004B

WRINGER, Paul

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

【Schedule】

Topics will be covered over a two to three week period and will include a variety of interesting and motivating themes selected mostly by the teacher.

Second semester (AESb)

The past

Current events in the news

Relationships

Food & Health

Fashion

The world of work

【Assessment】

Assessment will be continual and based on the following criteria:

ATTENDANCE

CLASS PARTICIPATION / EFFORT

HOMEWORK AND ASSIGNMENTS

END OF SEMESTER REPORTS

TOEIC SCORES

【Textbooks】

To be announced.

「上級英語セミナー2004B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。WRINGER, Paul先生(木曜日1限)、CURRAN, Beverley先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004C

横山綾子

【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか...等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Timesからの記事使用(テープ)

Shadowing Sight translationメモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2004C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(水曜日3限)、Long, Jonathan E.B.先生(木曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004C

LONG, Jonathan E.B.

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

In this course the students will use all four language skills to explore the similarities and differences between Japanese and North American cultures. The class activities will include some TOEFL test preparation.

【Schedule】

Not yet determined.

【Assessment】

This will be a combination of attendance, class participation and homework.

【Textbooks】

To be announced.

【Reference】

To be announced.

「上級英語セミナー2004C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(水曜日3限)、Long, Jonathan E.B.先生(木曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004D

LONG, Jonathan E.B.

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

In this course the students will use all four language skills to explore the similarities and differences between Japanese and North American cultures. The class activities will include some TOEFL test preparation.

【Schedule】

Not yet determined.

【Assessment】

This will be a combination of attendance, class participation and homework.

【Textbooks】

To be announced.

【Reference】

To be announced.

「上級英語セミナー2004D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(水曜日3限)、Long, Jonathan E.B.先生(木曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004D

横山綾子

【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Timesからの記事使用(テープ)

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2004D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(水曜日3限)、Long, Jonathan E.B.先生(木曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004E

WOODMAN, Jo-Anne

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:

a) teacher presented materials (ie. CNN and BBC news broadcasts, as well as a wide gamut of newspaper articles)

b) student research (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article)

c) TOEIC vocabulary text / materials

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask questions and participate in discussions.

【Schedule】

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

【Assessment】

Assessment will include the following components:

1) Vocabulary tests - 3 types

2) Preparation for (and participation in) class discussions

3) Listening comprehension activities

4) Attendance

「上級英語セミナー2004E」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。WOODMAN, Jo-Anne先生(水曜日4限)、横山先生(火曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004E

横山綾子

【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Times からの記事使用(テープ)

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2004E」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(火曜日3限)、WOODMAN, Jo-Anne先生(水曜日4限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004F

横山綾子

【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Times からの記事使用(テープ)

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2004F」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(火曜日3限)、WOODMAN, Jo-Anne先生(水曜日4限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004F

WOODMAN, Jo-Anne

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:

a) teacher presented materials - (ie. CNN and BBC news broadcasts, as well as a wide gamut of newspaper articles)

b) student research - (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article)

c) TOEIC vocabulary text / materials

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask questions and participate in discussions.

【Schedule】

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

【Assessment】

Assessment will include the following components:

- 1) Vocabulary tests - 3 types
- 2) Preparation for (and participation in) class discussions
- 3) Listening comprehension activities
- 4) Attendance

「上級英語セミナー2004F」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。WOODMAN, Jo-Anne先生(水曜日4限)、横山先生(火曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

中国語読解 1 A

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

身近な実用読解文を多くとりあげた教材を通じて中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の2級に受かることを目標に定め、<中国漢語水平考試大綱>に規定された400~900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、中国語の平易な文面の読解が可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである<HSK基礎コースA><HSK基礎コースB>の履修が可能になる。

【授業計画】

- 1、オリエンテーション
- 2、母音、数字、挨拶
- 3、疑問文、形容詞述語文
- 4、子音、声調、曜日表現、
- 5、省略疑問文、疑問詞疑問文
- 6、音節、勧誘表現
- 7、動詞述語文、指示代名詞
- 8、我姓松本。自己紹介
- 9、介詞"和"、副詞"也""都"
- 10、我的家庭。所有・存在の"有"、名詞述語文
- 11、部分否定文、感嘆表現、変調と軽声
- 12、我們的大学。介詞"給""在"
- 13、名詞の修飾表現
- 14、我的一天。時の表現、方向補語
- 15、まとめ

【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

中国語読解 1 B

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

講義の内容等とカリキュラム上の位置づけは<中国語読解 1 A>と大同小異であるが、中国語学習に対して特別に関心を示す学生に対して週2回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<中国語読解 1 A>と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項が確実に身に付くと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広げること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにするを図る。

【授業計画】

読解に必要な、基礎的な表現や文法事項を、特に日本人の苦手な部分に重点を置いて、半期にわたって講義する。

第一課	発音 (1)
第二課	発音 (2)
第三課	発音 (3)
第四課	発音 (4)
第五課	人称代名詞・“是”
第六課	指示代名詞・数詞・量詞
第七課	形容詞と形容詞述語文
第八課	動詞述語文
第九課	“有”・年月日
第十課	場所・時間・数量
第十一課	前置詞 (介詞)・“了”
第十二課	能願動詞

【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語読解 1 B (中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

教場で指示する。

中国語会話 1 B

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<中国語会話 1 A>と大同小異であるが、中国語学習に対して特別に関心を示す学生に対して週2回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定などが<中国語会話 1 A>と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項が確実に身に付くと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広げること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにするを図る。

【授業計画】

- 1、オリエンテーション
- 2、今天星期幾? 曜日と疑問詞利用の疑問文
- 3、我很高興。省略疑問文、形容詞述語文
- 4、我學習中文專業。能願動詞“能”
- 5、現在幾點? 時間表現、語氣助詞“了”
- 6、我的家庭。介詞“在”
- 7、談天氣。天氣表現、選擇疑問文、感嘆文、
- 8、邀請。假定文、反復疑問文、部分否定文
- 9、中間テスト
- 10、我的大學。伝聞の表現
- 11、找手機。目的語位置換えの“把”、結果補語“到”
- 12、喜歡甚麼? 過去の経験表現「V+“過”」
結果や程度表現「V+“得”」
- 13、幫我。能願動詞“會”
- 14、假期做甚麼? 結果補語“好”
- 15、まとめ

【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

中国語会話 1 A

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

分かりやすい実用会話文を多くとりあげた教材を通じて中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の音声面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の2級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された<中国漢語水平考試大綱>に規定された400~900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、一般的な挨拶・自己紹介などが可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである<HSK基礎コースA><HSK基礎コースB>の履修が可能になる。

【授業計画】

初めて中国語を学ぶ学生を対象に日常会話表現の習得を目指す。

第一課	発音 (1)
第二課	発音 (2)
第三課	発音 (3)
第四課	発音 (4)
第五課	あいさつ表現
第六課	時間の表し方
第七課	年齢を言う
第八課	家庭を語る
第九課	自分の家を語る
第十課	学校について語る
第十一課	趣味について語る
第十二課	中国へ行く

【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語会話 1 A・2 (中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

教場で指示する。

中国語読解 2

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

読解学習を通じて中国語の全体像がつかめる基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級に受かることを目標に定め、<中国漢語水平考試大綱>に規定された900~1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。HSK試験対策のためには<HSK基礎コースA>か、<HSK基礎コースB>と並行した履修が望ましく、基礎能力の深度を深めるためには<中国語会話 2>と並行した履修が望ましい。

【授業計画】

- 1、就要放暑假了。語氣助詞“了”、介詞“和”
- 2、伝聞の表現、能願動詞“想”“要”
- 3、暑假回家的一天。完了の表現、結果補語“到”
- 4、使役の表現“讓”
- 5、鈴木一家。能願動詞“會”“能”
- 6、過去の経験表現「V+“過”」
- 7、我家的照片。動作の進行・状態の持続などの表現「V+“着”」
- 8、介詞“離”、連動文
- 9、終於習慣了。感嘆表現 2
- 10、自己の意見表示
- 11、我做了一個夢。動作の進行表現の「“在”+V」、程度補語と可能補語
- 12、副詞用法の“地”
- 13、我太幸福了。目的語位置換えの“把”、比較の表現、受身文
- 14、春假的計畫。未完了の表現、許諾の表現
- 15、まとめ

【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

中国語会話 2

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

主として、身近で分かりやすい実用例文を多くとりあげた会話学習を通じて、中国語の音声面・文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。履修後は、旅先での中国語による買い物などが可能になる。

【授業計画】

中国語会話1をクリアした学生が、さらに深く生きた中国語を話せるようになることを目指す。学生が、中国に留学している気分で学習できるように配慮した。

- | | |
|------|------------|
| 第一課 | 部屋を借りる |
| 第二課 | 換金する |
| 第三課 | 道を尋ねる |
| 第四課 | 交通機関を利用する |
| 第五課 | 市場での買い物の仕方 |
| 第六課 | デパート |
| 第七課 | ホテル |
| 第八課 | 郵便局 |
| 第九課 | 電話 |
| 第十課 | 中国人宅に訪問する |
| 第十一課 | レストラン |
| 第十二課 | スピーチの仕方 |

【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語会話1A・2（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

教場で指示する

HSK 基礎コースA ※聴解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

履修後、HSK基礎試験の2級か3級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される400～1500前後の語彙量とその語彙量に相応する文法力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “了”や“过”の使い方など
2. “时点”の言い方や“时段”の言い方など
3. “小时”や“钟头”の使い方など
4. “方位词表”について
5. “多会儿”や“哪会儿”の使い方など
6. “该”や“应该”の使い方など
7. 介詞の“朝”、“向”と“往”の使い方
8. 比較表現について
9. “是字句”について
10. “愿意”や“想”の使い方など
11. “趋向补语”について
12. “复合趋向补语”である“下来”や“下去”などの意味について
授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

【テキスト】

HSK基礎A

HSK 基礎コースB ※読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは〈HSK基礎コースA〉と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が〈HSK基礎コースA〉で用いる教材と異なっている教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “我”と“你”；“左右”と“前后”など
2. “是”；“语气助词”の“吗”と“呢”など
3. “了”；“形容词谓语句”など
4. “动词+过”と“形容词+过”；“在”など
5. “数量补语”；“头”と“面”など
6. “有字句”；结构助词“地”など
7. “量词的重叠”；“把字句”など
8. “从”と“离”；“一边～一边～”など
9. “都”と“一共”；“程度补语”など
10. “被字句”；“在・正・正在”など
11. “趋向补语”；“多么”など
12. “复合趋向补语”；“是～还是～”など
授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

【テキスト】

HSK基礎B

下記の科目は、本年度開講しません。

中国語読解 3

【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み中国語文の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の4級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。HSK試験対策のためには<HSK初等コースA>か、<HSK初等コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには<中国語会話3>と並行した履修が望ましい。

HSK 初等コースA ※聴解中心

【授業の概要】

履修後、HSK初等試験の4級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

中国語読解 4

【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙量とそれに相応する文法力を身につける。HSK試験対策のためには<HSK中等上級コースA>か、<HSK中等上級コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには<中国語会話4>と並行した履修が望ましい。

HSK 中等上級コースA ※聴解中心

【授業の概要】

履修後、HSK初・中等試験の5級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される2000～2500前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

中国語会話 3

【授業の概要】

第二外国語として一年間ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取り上げられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の4級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。履修後は家族生活・大学生生活などについて語る事ができる。

HSK 初等コースB ※読解中心

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK初等コースA>と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK初等コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

中国語会話 4

【授業の概要】

1. 5年間ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取り上げられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙量とそれに相応する文法力を身につける。履修後は趣味生活・地域社会などについて語る事ができる。

HSK 中等上級コースB ※読解中心

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等上級コースA>と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK初等コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

中国語作文1

【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、みずから平易な中国語文章が書けることにねらいをさだめる。さらに、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標にし、2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

HSK 中等高級コース1 B ※読解中心

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等高級コース1 A>と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK中等高級コース1 A>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

中国語作文2

【授業の概要】

2. 5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、中国語の一般的な文章が書けることにねらいを定める。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標にし、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。履修後は、友人・知人への略式手紙、中国官公署向けの書類作成、中国語による日記・メモの作成などが可能になる。

HSK 中等高級コース2 B ※読解中心

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等高級コース2 A>と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK中等高級コース2 A>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

HSK 中等高級コース1 A ※聴解中心

【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

同時通訳入門1

【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、初歩的な同時通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。さらに、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標にし、2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

HSK 中等高級コース2 A ※聴解中心

【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

同時通訳入門2

【授業の概要】

2. 5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、平易な同時通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標にし、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。HSK試験対策のためには<HSK中等高級コース2 A>か、<HSK中等高級コース2 B>と並行した履修が、中国語表現の深度を深めるためには<中国語作文2>と並行した履修が望ましい。

研究技法 I (データ解析)

太田浩司

【授業の概要】

この講義では調査によって収集されたデータをSPSSという統計パッケージを利用して解析する手法を紹介する。扱う統計手法は記述統計、ピアソン積率相関、T検定、分散分析、重回帰分析を予定している。特にデータ分析の結果の読み方と解釈の仕方に焦点を置く。講義の詳しい内容は最初の授業で知らせる。

【授業計画】

学期の最初に提示をする。

【評価方法】

出席、学期末データ分析ペーパー。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

パソコンによるデータ解析 (新村秀一著 講談社ブルーバックス)

地域社会特別講義IV (地域文化論)

谷沢 明

【授業の概要】

「風土・歴史・文化を生かした地域づくり」をテーマとした事例研究の講義をする。併せて、受講生によるプレゼンテーションも行なう。

【授業計画】

1. 北海道池田町：ワインによる地域づくり
2. 大分県大山村：「村おこし」の元祖
3. 長野県南木曾町：「町並み保存」の元祖・妻籠宿
4. 石川県金沢市：城下町の歴史を生かした景観形成
5. 山口県萩市：城下町の歴史を生かした景観形成
6. 北海道函館市：港町の歴史を生かした都市づくり
7. 長崎県長崎市：港町の歴史を生かした都市づくり
8. 北海道小樽市：小樽運河保存問題と都市景観保全
9. 福岡県柳川市：掘割を生かした環境形成
10. 滋賀県近江八幡市：八幡堀の保全とまちづくり
11. 岐阜県八幡町：水の恵みを生かした地域づくり
12. 受講生による課題の成果発表

【評価方法】

「風土・歴史・文化を生かした地域づくり」をテーマに、夫々が該当地を1箇所取材して事例研究を行い、その成果をパワーポイントで作成し、発表・提出する。成果物は、CDRで提出のこと。評価は成果物CDRとその発表、及び平生の授業態度で行なう。

【テキスト】

テキストは特に使用しないが、次の参考文献を使用する。
まちづくりの実践 (田村明 著 岩波新書)
町並みまちづくり物語 (西村幸夫 著 古今書店)
歴史的文化遺産の保存・活用とまちづくり (大河直躬編 学芸出版社)
都市の歴史とまちづくり (大河直躬編 学芸出版社)
新・町並み時代 (全国町並み保存連盟 学芸出版社)
インターネット等を利用して、各自が予習・復習を行なうこと。

国際社会特別講義V (比較政治論)

西尾林太郎

【授業の概要】

東アジアにおける国際体系の変化と中国、韓国、日本の近代史は深く連動しながら展開した。この点を考慮しつつ、政治的近代化論を軸として、中・韓・日3国の近代史と現代の政治システムについて比較分析することを、本講義の目的とする。また、その結果をふまえて、「アジア的国家」と西欧近代国家との比較も試みたい。

【授業計画】

- 1 「沖繩」からみた近代日本へプロローグに代えて～
- 2 伝統的東アジアの国際秩序
- 3 科学官僚制と中国の近代化
- 4 両班 (ヤンパン) と李氏朝鮮の近代化
- 5 徳川幕藩体制と日本の近代化
- 6 アメリカの発展と太平洋進出
- 7 “アジア的国家”とは何か?
- 8 イギリス、ドイツ、フランスにおける政治的近代化
- 9 stateとnation
- 10 1950年代～80年代における中国、韓国の政治と社会

【評価方法】

出席状況とレポートによる。

【テキスト】

特に定めない。随時、資料を配布する。

【参考文献・資料】

1. *Asian Power and Politics: The Cultural Dimensions of Authority* (Lucian W.Pye Harvard Univ. Press)
2. ステイトとネイション——近代国民国家と世界経済の政治経済学—— (佐々木隆生『経済学研究』VOL.47～50、北海道大学経済学部、1997～2000年、に連載)

メディアプロデュース特別講義IV (教育メディア論)

大西 誠

【授業の概要】

デジタルメディア社会をむかえ、メディアの教育性が注目されている。いわゆる教材・教具から映像をベースにした番組やインターネットまで幅広いメディアの教育利用が求められている。メディアの成り立ちや歴史的發展とともにメディアの教育利用について理論と実習を通じて明らかにする。

【授業計画】

近年、市民が番組を制作する機会が多くなっている。取材 (ロケ) 映像とスタジオ映像とは、それぞれどのような特徴があり、どのように作られているのか。また、それらを効果的に組み合わせて市民に資する番組を制作するには、どうしたら良いか。基本的なモデルを教育番組に求める。

本講では、教育メディアの歴史と理論を学ぶとともに、情報化社会におけるメディアのあり方や教育とのかかわりを、実際に放送された教育・教養番組の内容を分析し、グループ・ワークで番組を試作する。

- ・教育番組の制作過程
- ・「日本賞」教育番組国際コンクール
- ・映像制作技術 (実習)
- ・インターネット交流
など

【評価方法】

授業への参加度、期末の課題と作品で評価する。

【テキスト】

未定

都市環境デザイン特別講義II (建築保存再生論)

河辺宏泰

【授業の概要】

西洋と日本を中心に、都市と建築の歴史的遺産について理解を深めるとともに、それらの保存・修復・復原や都市資産としての利活用の方法について論じる。

【授業計画】

授業は主に講義形式で進めるが、テーマによって担当者を決め、報告会を行うことがある。

- 1) 破壊との闘い
人類の蛮行と遺産保護への執念
- 2) 変りゆく保存の概念
文化遺産保存活動の歴史とユネスコの世界遺産条約
- 3) 開発・建設の時代から維持・再生の時代へ
建築におけるサステナビリティ
- 4) 文化財保存の論理
日本における文化財保護の歴史
- 5) 文化財保存の事例研究
日本・イタリア・トルコ・シリア etc.
- 6) 町並み保存の論理
日本における町並み保存の歴史
- 7) 町並み保存事例研究
ボローニャ・妻籠・長浜・倉敷 etc.
- 8) 近代建築保存の論理
近代建築および近代化遺産の保存・再生の歴史
- 9) 近代建築保存・再生の技法
保存・再生の基本理念と具体的方法
- 10) 近代建築保存・再生の事例研究
神戸・横浜・大阪・京都 etc.

【評価方法】

授業や見学会への参加状況とレポート、課題発表の内容等によって決める。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

主題講義II

垂井洋蔵 日色真帆

【授業の概要】

建築のデザインの前提として、我々は制作者として、現代という時間と空間、さらに建築の作り出す場所としての都市をどうとらえるのか、そして、作ることに意味について自らの立場を表明することができなければならない。建築の制作にかかわるさまざまなキーワードをもとに、建築とそれをとりまく事象との関連を、建築分野以外の制作にかかわる視点も参考にしながら考察する。

【授業計画】

数人の講師による集中講義の形式をとる。講義の前提となる、問題の提示、学生による発表の後、さまざまな分野の講師による講義を行い、最終的な討論と総括を行う。

詳細なテーマは別途決定次第発表する。

【評価方法】

研究発表とレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

講義の初めに紹介する。

都市環境デザイン特別講義III (情報化建築論)

吉田邦彦

【授業の概要】

現在の都市・建築は、マルチメディア化とネットワーク化により著しく進展した情報化(高度情報化)によって、大きな変革が進みつつある。情報化の観点から、生活空間の変化の方向を探り、それらが今後の都市・建築のあり方およびそこでの生活にどのような影響を与えるかを論じる。

【授業計画】

下記のテキストを各自が読解し、ディスカッション形式で理解が深まるように講義を進める。

【評価方法】

分担部分の発表内容・形式、討議への参加、および課題に対するレポートなどを総合して評価する。

【テキスト】

- (1) シティ・オブ・ビットー情報革命は都市・建築をどうかえるかー
(ウィリアム・J・ミッチェル著 掛井秀一他訳 彰国社)
- (2) e-トピアー新しい都市創造の原理ー
(ウィリアム・J・ミッチェル著 渡辺俊訳 丸善株式会社)

文化創造総論 (異文化理解と創造)

榎田勝利 島田修三 清水良典 皆川修吾

【授業の概要】

主体的かつ創造的な表現に必要な人間性や知的な奥行き、そして日本の伝統文化への造詣、また国際交流に必要な異文化理解や現状認識、それに実践的処理能力など、より高度な文化創造への素養や姿勢、加えて人間の感性や理性に働き掛ける心理的・社会的状態など文化創造の根元について学ぶ。

(オムニバス方式)
(島田教授) 日本文化の伝統的特質を古典文学の表現を通して学び、日本人が歴史的に培った固有性およびグローバルな普遍性への志向を探る。

(清水教授) 現代日本における多様化しグローバル化した文化状況を現代文学の表現を通して学び、日本固有の文化創造の可能性を考える。

(皆川教授) 地球存続に必要なグローバル共生文化の涵養プロセスと共生文化の理念を軸とした異文化理解や現状認識の術を学ぶ。

(榎田教授) 国際交流の実践に必要な素養や姿勢を学び、創造されつつあるグローバル市民社会の現状を検証し、発展的に将来像を探る。

【授業計画】

- 第1回 日本古典文学における伝統と文化の意識の発生
- 第2回 日本古典文学における中国文学の受容とその独自の再編
- 第3回 日本古典文学における文化的独創性の獲得
- 第4回 近代文学の文体について
- 第5回 言文一致運動期の文体模索について
- 第6回 現代文学の文体実験について
- 第7回 社会科学としての文化論：文化を分析概念として使う
- 第8回 国際社会の変容：価値体系の地球規模の共有化
- 第9回 国際秩序の制度化過程：歴史の視野とリアリズムを通しての現状認識
- 第10回 国際社会の変容とシベリアン・パワー
- 第11回 シベリアン・パワーとしてのNGO
- 第12回 シベリアン・パワーの現状と将来

【評価方法】

出席点および各教員の講義ごとに1200字のレポートを課し、総合的に評価する

【テキスト】

授業中に適宜、プリントを配布する

【参考文献・資料】

各講義ごとに授業中に指示する

詩歌創作理論Ⅰ

荒川洋治

【授業の概要】

韻文作品を成立させる方法論や、その表現技術を支える修辞学等の創作に関わる基礎的な理論を取り上げ、どのように創作理論が実際の韻文テキストを構築していくか、という問題を創作のプロセスと関連させながら考えていく。

【授業計画】

現代詩前期（明治・大正・昭和）の詩論を読む。

- ・漢詩、和歌、俳諧の詩学
- ・岩野泡鳴の詩論
- ・萩原朔太郎の詩論
- ・西脇順三郎の詩論
- ・小野十三郎の詩論
- ・伊藤信吉の詩人論
- ・武者小路実篤と詩語

【評価方法】

出席状況とレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

日本文学史（小西基一著 講談社学術文庫）
伊藤信吉著作集第4巻（沖積舎）
武者小路実篤詩集（角川文庫）
詩を読む人のために（三好達治著 岩波文庫）
詩とは何か（嶋岡晨著 新潮選書）

散文創作理論Ⅰ

三木 卓

【授業の概要】

近代・現代の代表的な作家における小説作法や小説観等の創作に関わる理論的な発言を検討しながら、それらが実際の小説作品の上にもどのような表現として反映されているか、という問題を解析的に考えていく。

【授業計画】

- 第1回 小説の創造について
- 第2～6回 近代小説の変遷
- 第7～11回 近代小説の諸理論
- 第12回 総括と議論

【評価方法】

皆出席を原則とする。出席ならびに、受講態度、議論に臨む姿勢、レポート内容等を総合的に評価する。

【テキスト】

開始時に指示する。

【参考文献・資料】

同上

詩歌創作理論Ⅱ

荒川洋治

【授業の概要】

韻文作品を成立させる方法論・技術論・修辞学に関する体系的理論のうち、主として現代詩に関する代表的なものを検討すると同時に、そうした創作理論と現代詩のテキストとの相互性を多角的に検証し、理論と実作の有機的な関係をとらえる。

【授業計画】

戦後の詩論を読む。

- ・小野十三郎の詩論
- ・田村隆一の詩論
- ・高見順「三人の詩について」
- ・粟津則雄の現代詩史

【評価方法】

出席状況とレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

現代詩手帖（小野十三郎著 創元社）
高見順全集第16巻（勁草書房）

散文創作理論Ⅱ

三木 卓

【授業の概要】

リアリズム理論をはじめとする、近代・現代の体系的な小説創作理論を検討し、創作主体の姿勢・素材の選択・主題による素材の再構成・プロットの構想・登場人物の設定等の小説を成立させる諸問題との関係を考えていく。

【授業計画】

- 第1回 現代小説の諸問題
- 第2～6回 リアリズムの手法ならびに理論
- 第3～11回 脱リアリズムの手法ならびに理論
- 第12回 総括と議論

【評価方法】

皆出席を原則とする。出席ならびに、受講態度、議論に臨む姿勢、レポート内容等を総合的に評価する。

【テキスト】

開始時に指示する。

【参考文献・資料】

同上

映像創作理論Ⅰ

若松孝二

【授業の概要】

多くの創作表現ジャンルの中で、映画という動く映像表現の際立った特性を、その制作方法に関わる基礎的な理論および技術を通して考える。教材として、日本・外国映画の代表的な作品を用い、具体的な検討をしていく。

【授業計画】

映画製作のための作品分析と技法を学ぶ

1. 映画を作ることとは？
2. 「寝盗られ宗介」鑑賞
3. 同作品の分析と技法の解明
4. 「エンドレスワルツ」鑑賞
5. 同作品の分析と技法の解明
6. 「キスより簡単」鑑賞
7. 同作品の分析と技法の解明
8. 「天使の恍惚」鑑賞
9. 同作品の分析と技法の解明
10. 「狂走情死考」
11. 同作品の分析と技法の解明
12. 映像の表現とカメラ位置について
13. シナリオの作成方法

【評価方法】

作品を分析したレポートで評価する

映像創作理論Ⅱ

若松孝二

【授業の概要】

映画の創作理論として、モンタージュ理論・リアリズム理論・フォトジェニー論等多くの歴史的成果が挙げられるが、これらをつぶさに検討しながら、現代映画が時代社会や、そこに生きる人間を映像化していく新たな理論の可能性について考えていく。

【授業計画】

映画とテレビの表現方法の相違、海外での製作、プロデューサーの役割について探究する。

1. テレビドラマ「ウェディング・ベル」の鑑賞と分析
2. 映画とテレビ製作との相違について
3. 「シンガポール・スリング」鑑賞
4. 海外での映画製作の実態について
5. 「愛のコリーダ」鑑賞
6. プロデューサーの役割について
7. 映画の予算の組み立て方
8. 俳優を指導する方法
9. シナリオの役割について

【評価方法】

作品を分析したレポートで評価する。

ライフ・ライティング実作演習（随筆・自分史）

清水良典

【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、随筆あるいは自分史の実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

【授業計画】

講義内で文章を書きながら、そのつど相互批評をしていくが、第10回までに各自のモチーフに従った作品（10～20枚程度）を執筆提出する。

- 第1回 ライフ・ライティングとは何か
- 第2・3回 「記憶」を書く
- 第4回 相互批評
- 第5～7回 文体づくりの試み
- 第8・9回 相互批評
- 第10～11回 提出作品の相互批評
- 第12回 全体講評

【評価方法】

集中講義形式なので、皆出席を原則とし、提出された作品の質によって評価する。

なお、優秀作品は、大学院ホームページ等で公開する。

【テキスト】

自分づくりの文章術（清水良典著 ちくま新書）

【参考文献・資料】

新作文宣言（梅田卓夫著 ちくま学芸文庫）

フィクション実作演習Ⅰ（短篇小説）

清水良典

【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、短篇小説の実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

【授業計画】

第10回までに、短篇小説（20～30枚程度）を提出する。

- 第1回 短篇小説の特質
- 第2～6回 「描写」の練習
- 第7～9回 短篇小説の技術を読む
- 第10～12回 相互批評と講評

【評価方法】

集中講義形式なので、皆出席を原則とし、提出された作品の質によって評価する。

なお、優秀作品は、大学院ホームページ等で公開する。

【テキスト】

戦後短篇小説再発見10 表現の冒険（講談社文芸文庫）

【参考文献・資料】

戦後短篇小説再発見1～18（講談社文芸文庫）

フィクション実作演習Ⅱ(童話・ファンタジー)

酒井晶代

【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、童話あるいはファンタジーの実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する

【授業計画】

400字詰原稿用紙10～20枚程度の短編を完成させることを目標とする。構想から完成に至る一連の作業を通して、童話・児童文学の特質を体験的に学ぶ場としたい。また、合評会をはじめとする受講者間の共同作業と交流を通して、作品の推敲や批評の方法も身に付けていきたい。

第1回 授業の進め方、全体計画について

第2回～作品の構想・執筆・推敲

第12回 完成作品の合評会

執筆段階をいくつか区切って、課題を提出してもらう予定。授業は、各自の課題発表と相互批評を中心に進めていく。課題の執筆は自宅作業になる場合もあるので、注意すること。

【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、課題などにより総合的に評価する。

【テキスト】

未定。授業時に指示する。

【参考文献・資料】

未定。授業時に適宜指示する。

現代短歌実作演習

篠弘

【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、現代短歌の実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

【授業計画】

定型詩としての短歌、その機能と魅力を理解するところから、表現の基本をつかむ。提出された短歌の添削と批評を実施し、現代短歌のレベルを目指した実作の指導をおこなう。

1. 定型のなりたち
2. 叙事と叙情
3. 心情の具象化
4. 写実の役割
5. 発想の単純化
6. 用語の選択
7. 比喩の活用
8. 個性の発見
9. 生活態度の反映
10. 連作の試み
11. 作品鑑賞の要点

【評価方法】

出席状況、授業内に提出された短歌、さらに題詠の成果等を総合的に評価する。

【テキスト】

生き方の表現（篠弘著 日本放送出版協会）

疾走する女性歌人（篠弘著 集英社新書）

現代詩実作演習

荒川洋治

【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、現代詩の実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

【授業計画】

20編前後の「量的」詩作を試み、一冊の「詩集」を提示する。

- ・詩集の著者とは何か
- ・テーマについての考え方
- ・題名と配列
- ・割付と活字
- ・詩集の余白と美術
- ・詩集の形態と流通
- ・ことばはどこから、詩になるのか
- ・詩のつくり方と、こわし方
- ・発表と読者

【評価方法】

提出された作品で評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

特にない。

シナリオ実作演習

海上宏美

【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、シナリオの実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

【授業計画】

抽象的な思考と具体的な手法を往還する発想法を練習する。

- 1・主題を考える
- 2・物語の語り手は誰なのかを考える
- 3・叙情なのか叙事なのか語り口を考える
- 4・物語の場面構成を考える
- 5・ジェンダーを考える
- 6・台詞の役割と分量を考える
- 7・始まりと終わりを考える

【評価方法】

出席状況と提出作品で評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

適宜授業内で指示する。

創造表現特講Ⅰ（現代詩）

宮崎真素美

【授業の概要】

戦後から現在までの代表的な詩や詩論を主な手がかりとして、現代詩の変遷を検証するとともに、創作理論・主題・様式・修辞といった方法を多角的に検討し、詩は時代の問題をどのように作品化し得るか、あるいはどのように時代を超え得るかという創作方法について学ぶ。

【授業計画】

「荒地」派の詩と詩論をめぐる以下のような観点から、日本の戦後詩について考察する。

- 1 「荒地」派とは何か（1）
- 2 「荒地」派とは何か（2）
- 3 黒田三郎の詩と詩論（1）
- 4 黒田三郎の詩と詩論（2）
- 5 鮎川信夫の詩と詩論（1）
- 6 鮎川信夫の詩と詩論（2）
- 7 鮎川信夫の詩と詩論（3）
- 8 「荒地」派の周辺
- 9 「荒地」派の影響
- 10 「荒地」派をめぐる評価

【評価方法】

講義における発言内容、および学期末に課すレポートの双方によって総合的に評価する。

【テキスト】

プリント配布。

創造表現特講Ⅲ（現代小説）

清水良典

【授業の概要】

戦後から現在までの代表的な創作や評論を主な手がかりとして、現代小説の変遷を検証するとともに、文学理論・主題・モチーフ・人物造型・文体といった方法を多角的に検討し、小説は時代の病理や問題をどのように作品化し得るか、あるいはどのように時代を超え得るかという創作方法について学ぶ。

【授業計画】

テキスト購読と講義を主としつつ、相互の討議と調査・報告を課す。

- 第1回 現代文学概論
 - 第2～4回 村上春樹を解説する
 - 第5～7回 高橋源一郎を解説する
 - 第8～10回 村上龍を解説する
 - 第11～12回 総括と討議
- なお、指定テキスト以外にも、現代文学関係の書籍を大量に読む必要がある。

【評価方法】

出席は皆出席を前提とする。受講態度ならびに討議の積極性、調査・報告の質等を総合的に考慮して評価する。

【テキスト】

羊をめぐる冒険（村上春樹著 講談社文庫）
さようなら、ギャングたち（高橋源一郎著 講談社文芸文庫）
トパーズ（村上龍著 角川文庫）
上記以外は、指示する。

【参考文献・資料】

文学がどうした!?（清水良典著 毎日新聞社）

創造表現特講Ⅱ（現代短歌）

篠弘

【授業の概要】

戦後短歌から前衛短歌にいたる戦後短歌史を踏まえながら、主として1980年代以降の代表的歌人の作品を題材に、その創作理論・主題・修辞といった方法を多角的に検討し、現代をどのように作品化していくかという創作方法について学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 近代短歌から現代へ
- 第2回 戦後短歌の運動
- 第3回 第二芸術論議
- 第4回 民衆詩としての短歌
- 第5回 前衛短歌の時代
- 第6回 女性歌人の興隆
- 第7回 リアリズムの変質
- 第8回 主題の獲得
- 第9回 喩的表現の拡大
- 第10回 美意識の深化
- 第11回 文体の確立
- 第12回 口語的発想
- 第13回 アイロニカルトーン
- 第14回 アニミズムの浸透
- 第15回 自然観の変容

【評価方法】

出席状況、授業内の数回の小レポート、学期末の課題レポート等を総合的に評価する。

【テキスト】

現代の短歌-100人の名歌集（篠弘編著 三省堂）

創造表現特講Ⅳ（童話）

酒井晶代

【授業の概要】

近現代の代表的な創作や児童文学論を主な手がかりとして、日本児童文学史を検証するとともに、主題・モチーフ・文体等の方法のみならず、広く社会史や文化史の視点から子ども観の変容を検討し、「子どもの文学」の創作方法とその独自性について学ぶ。

【授業計画】

近年刊行された児童文学関係の理論書から一冊を選び、演習形式で講読していく。児童文学研究は、作家・作品論のほか、読者論やメディア論といった社会・文化史的なアプローチなど、さまざまな文学理論の影響下でその幅を広げつつある。一方で、研究の深まりや多様化とともに、従来の「文学」の枠組みを解体する、より大きな視座の必要性も指摘されるようになってきた。理論書の講読を通して、児童文学をめぐる言説の最前線と現代的課題を考える場としたい。

- 第1回 授業の進め方、全体計画について
 - 第2回 児童文学研究の現在
 - 第3回～理論書の講読
- 授業は、レポーターが調査・分析したことをレジュメにより報告し、受講者全員で討議する演習形式で進めていく。報告のまとめとして小論文の提出を求めることがある。

【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、課題などにより総合的に評価する。

【テキスト】

未定。授業時に指示する。

【参考文献・資料】

・研究＝日本の児童文学＜全5巻＞（日本児童文学学会編 東京書籍）
その他の参考文献は、授業時に適宜指示する。

創造表現特講V (アニメ・コミック)

とりいかずよし

【授業の概要】

手塚治虫作品とその影響下にある戦後漫画・コミックおよび宮崎駿などのアニメーション作品を主な題材として、広く社会史や文化史の視点も導入しながら、表象文化としてのアニメ・コミックの芸術的特質や機能を考察し、その可能性を生かした創作方法について学ぶ。

【授業計画】

実践的アニメ・コミックの習作

- A アニメ化するコミックとそうでないコミックとは？
- B 読者のピンポイント化するコミック界の現況

【評価方法】

感性、表現、創作、将来性等の巧拙

【テキスト】

その都度対応して作成

【参考文献・資料】

広範なコミック雑誌、単行本、アニメビデオ等
※入手可能な成否を精査し検討

創造表現各論II (シナリオ論)

海上宏美

【授業の概要】

近現代の代表的なシナリオ作品を主な手がかりとして、放送史をはじめとするメディアの変遷も念頭に置きながら、主題・ストーリー・人物造型・台詞・場面構成などの方法を多角的に検討し、シナリオ表現の特質や創作に関する諸方法について学ぶ。

【授業計画】

言葉であるシナリオに基づいて表現された作品構造全体において、その基盤となるシナリオの言葉がどのような機能を担っているのかを、構造(主義)・話法・技術(史)などの面から探っていく。

- 1・メディアの変遷
- 2・観客の変遷
- 3・テキスト(シナリオ)の位置
- 4・話法と人称性の問題
- 5・大きな物語と小さな物語の違い
- 6・台詞における口語的表現と文語的表現の違い
- 7・描く対象(主題)の選択が意味するもの
- 8・表象されるジェンダーについて
- 9・物語と無意識

【評価方法】

出席状況とレポート提出で評価する。

【テキスト】

授業内で適宜指示する。

【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

創造表現各論I (詩学)

宮崎真素美

【授業の概要】

近現代の詩作品を主な手がかりとして、「ことば」をめぐる哲学や現代思想の変遷も念頭に置きながら、詩の本質や詩的言語の規則・方法に関する批評的解読の方法について多角的かつ理論的に学ぶ。

【授業計画】

明治初期の詩作品に見られる伝統的古典詩歌に対する意識の錯綜を通して、その連続と切断のありよう、および詩学の確立への模索について、以下の観点から考察する。

- 1 『新体詩抄』の詩と思想(1)
- 2 『新体詩抄』の詩と思想(2)
- 3 『新体詩抄』の詩と思想(3)
- 4 近代詩と伝統歌謡(1)
- 5 近代詩と伝統歌謡(2)
- 6 近代詩と伝統歌謡(3)
- 7 『新体詩歌』の詩と思想(1)
- 8 『新体詩歌』の詩と思想(2)
- 9 『新体詩歌』の詩と思想(3)
- 10 鴉外の役割

【評価方法】

講義における発言内容、および学期末に課すレポートの双方によって総合的に評価する。

【テキスト】

プリント配布

創造表現各論III (舞台芸術論)

角田達朗

【授業の概要】

演劇の重要な構成要素である「舞台」の歴史的展開を主な手がかりとして、照明・音響・映像による舞台効果にも目配りしながら、演劇空間あるいは場面転換装置としての舞台の機能や特質とその解読方法について多角的かつ理論的に学ぶ。

【授業計画】

舞台芸術は生(ライブ)の芸術であり、生の上演に接することなしに舞台芸術への理解を深めることは不可能である。よって、この授業では鑑賞課題を2本設定し、鑑賞ノートの提出を課すものとする。課題を鑑賞するまでは、舞台芸術の歴史について、芸能や演劇がいかにして誕生したか、上演において舞台が果たす役割はどのようなものかを概説する。鑑賞ノート提出以降は、レポートを編集したプリントをテキストとして使用し、上演への理解を深めて行く。

【評価方法】

鑑賞ノート・劇評

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

国際交流研究 I (基礎)

榎田勝利

【授業の概要】

「非軍事的なあらゆる手段で途上国の人々を支援する試み」と定義されている国際協力の基礎的な理念、仕組みを検証するとともに、国際協力の新しいアプローチを作り出している背景要因を学ぶ。

【授業計画】

- 1 講義のねらいと評価の方法
- 2 国際協力の概念
- 3 国際協力の新しい潮流
- 4 国際協力のアクター I (国連、国際機関)
- 5 国際協力のアクター II (政府援助機関-JICA・OECD, USAID, AFD, CIDA, GTZ, DFID)
- 6 国際協力のアクター III (NGO, 欧米の NGO と日本の NGO)
- 7 国際協力の方法 I (政府開発援助-ODA)
- 8 国際協力の方法 II (地方自治体)
- 9 国際協力の方法 III (NGO, ボランティア)
- 10 開発課題と国際協力 (貧困、人口、食料、教育、保健、難民、ジェンダー、児童労働、少数民族、環境、都市スラム、開発と保存)
- 11 国際協力事業の評価
- 12 国際協力の果たす役割

【評価方法】

平常の出席・遅刻状況、毎回の講義の際の貢献度、最終課題レポートにて評価する。

【テキスト】

使用しない。毎回プリントを配付する。

【参考文献・資料】

国際協力 (下村・辻・稲田・深川著 有斐閣選書)
国際協力 (功川達郎編著 サイマル出版会)
国際連合の基礎知識 (国際連合広報局 世界の動き社)
政府開発援助 (ODA) 白書 (2001年版外務省・経済協力局発行)
UNDP・人間開発報告書 (2002年版 国連開発計画編 国際協力出版会)
国際協力用語集第2版 (国際開発ジャーナル社)
ボランティア学のすすめ (内海成治編著 昭和堂)

国際文化研究 A I (言語系基礎)

中野弘三

【授業の概要】

英語学の研究対象や研究分野を概観し、新言語学に基づく英語学研究的現状と言語を科学的に分析する視点を学ぶ。

【授業計画】

- <言語の構造>
1. 文の統語構造
 2. 文の意味構造
 3. 語の構造
 4. 語の音声構造
 5. 語の意味構造

<言語の機能>

6. 文の発話の機能
7. 文の構成要素の機能
8. 文の意味解釈
9. 文と談話
10. 談話標識の機能

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などにより評価する。

【テキスト】

英語学セミナー (高橋勝忠・福田稔 松柏社)

【参考文献・資料】

Linguistics: An Introduction to Language and Communication (4th Edition 1995 A. Akmajian, R.A. Demers, A.K. Farmer, and R.M. Harnish / The MIT Press)
Syntactic Theory and the Structure of English: A Minimalist Approach (1997 A. Radford / Cambridge University Press)
Morphology (1993 F. Katamba / Macmillan Press)
An Introduction to Functional Grammar (2nd Edition 1994 M.A.K. Halliday / Arnold)
Semantics (2000 K. Kearns / Macmillan Press)
Pragmatics (1996 G. Yule / Oxford University Press)

国際交流研究 II (発展)

皆川修吾

【授業の概要】

「国際秩序の統治」と定義されているグローバル・ガバナンスの概念の国際関係における有効性と限界について研究し、国際秩序が制度化されていくプロセスを経験的に学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 国際システムの構造とプロセス
- 第2講 バランス・オブ・パワーの教訓
- 第3講 集団安全保障の挫折
- 第4講 冷戦
- 第5講 権力と国際法
- 第6講 国際連合の役割
- 第7講 相互依存の管理体制の必要性
- 第8講 1) 開発政策
- 第9講 2) 世界経済
- 第10講 3) 国際協力
- 第11講 グローバル・ガバナンスの構造
- 第12講 国際秩序制度化の今後の課題
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況との総合評価による。

【参考文献・資料】

現代国際関係学 (新藤栄一著 有斐閣)
グローバル・ガバナンス：政府無き秩序の模索 (渡辺昭夫編著 東大出版)
グローバル化とは何か (デヴィット・ヘルド編著 法律文化社)
現代国際関係学 (新藤栄一著 有斐閣)
国際紛争 (ジョセフ・ナイ著 有斐閣)
地球政治の構想 (猪口孝著 NTT出版)
グローバル・ポリティクス (小林誠・遠藤誠治編著 有信堂)

国際文化研究 A II (言語系発展)

大野清幸

【授業の概要】

英語や日本語などにおける特定の研究対象を選択し、新言語学における特定の理論に基づき、言語を科学的に分析する実際の学び。

【授業計画】

- 第1講 PC実践教室において、授業計画指示など。必ず出席すること
- 第2講 PC実践教室において、認知言語学など関連分野の本物情報を検索・探索する。
- 第3講 学術論文などを利用して、演習を行う。

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。
授業においては、基本的に、学術論文を精読し、議論する。

学期末レポート：現代英語に関する研究題材を選び、
(1) 先行研究を調査し、
(2) 仮説をたて、
(3) データを採集・整理し、
(4) 理論の枠組みで分析し
(5) 論文としてまとめ、提出する。

【テキスト】

学術論文。ただし、未定。演習を中心に行う。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。
理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

【参考文献・資料】

認知文法論 (1995 山梨正明 ひつじ書房)
認知言語学原理 (2000 山梨正明 くろしお出版)
認知言語学論考 No.1 (2001 山梨正明編著 ひつじ書房)
認知言語学論考 No.2 (2002 山梨正明編著 ひつじ書房)
現代言語学の潮流 (2003 山梨正明編著 勁草書房)
認知意味論：英語動詞の多義と構造 (1990 田中茂範 三友社出版)
認知意味論 (1993 George Lakoff 著 池上嘉彦・河上誓作他訳 紀伊國屋書店)
認知意味論の原理 (1994 中右実 大修館書店)
認知意味論の方法：経験と動機の言語学 (1995 吉村公宏 人文書院)
認知言語学の基礎 (1996 河上誓作編著 研究社出版)
認知言語学の発展 (2000 坂原茂編 ひつじ書房)
認知言語論 (2000 定延利之 大修館書店)
認知意味論の展開：語源学から語用論まで (2000 Eve E. Sweetser 著 澤田治美訳 研究社出版)
ことばの認知科学事典 (2001 辻幸夫編 大修館書店)
認知意味論のしくみ (2002 榎山洋介 研究社)

国際文化研究 B I (文化系基礎)

平林美都子

【授業の概要】

20世紀に入って顕著になってきた異文化接触のコロナリズムやポストコロナリズムなどの諸問題を、様々な文化批評理論から系統的に学ぶ。

【授業計画】

Frantz Fanon, Homi Bhabha, Edward Said, Stuart Hallらの主要論文を読み、コロナリズム、ポスト・コロナリズム理論を理解する。

- 1 Frantz Fanon とコロナリズム
- 2 Homi Bhabha
- 3 Edward Said とオリエンタリズム
- 4 ポスト・コロナリズム

なお、英文原書の講読が中心のため、英語力が必要である。

【評価方法】

出席およびレポートによる。

【テキスト】

Patrick Williams and Laura Chrisman eds. *Colonial Discourse and Post-Colonial Theory* (Columbia University Press)

国際文化研究 B II (文化系発展)

杉本一直

【授業の概要】

ロシア亡命者の文学作品や芸術作品を講読・鑑賞し、「国文学」「伝統文化」という概念とは対極的ないわば「脱領域」的な表現様式、あるいはグローバルな普遍性を獲得しようとした亡命者たちの創作意識を考察する。

【授業計画】

英文による原典講読を中心とし、あわせて文学研究の方法論を学ぶ。原典講読のテキストとして、国外からアメリカへ移住した作家のなかでもっともアメリカの読者やアメリカ人作家に愛読された作家のひとり、ウラジーミル・ナボコフの代表作『ロリータ』を使用し、ヨーロッパ文化とアメリカ文化との相克を作品のなかに読み取っていく。また、サブテキストとして、ナボコフを含めた亡命作家たちの文学について論じた研究書や、20世紀アメリカ文学におけるコスモポリタニズムについて論じた研究書等を用い、現代アメリカ文学の根底に流れる形而上の本質、つまり脱領域的(extraterritorial)本質についての理解を促す。

- 第1回 概説
- 第2回～第4回 原典講読
- 第5回 サブテキスト解説
- 第6回～第8回 原典講読
- 第9回 サブテキスト解説
- 第10回～第13回 原典講読
- 第14回 サブテキスト解説
- 第15回 総論

【評価方法】

学期末レポートと平常点により評価する。

【テキスト】

Vladimir Nabokov "The Annotated Lolita" Random House Inc.

【参考文献・資料】

徹夜の魂／亡命文学論 (沼野充義著 作品社)
言語の都市 (トニー・タナー著 白水社)
脱領域の知性 (ジョージ・スタイナー著 河出書房新社)

国際交流特講 I

榎田勝利

【授業の概要】

国際協力の主要なアクターである国連・国際開発機関、政府開発援助(ODA)、非政府組織(NGO)の存在意義・役割・活動を研究するとともに、非営利組織の実践的なマネジメントを学ぶ。

【授業計画】

- 1 国際協力とは
- 2 国際協力の基本的な仕組み
- 3 国際協力活動の変遷(1) 1980年代まで～
 - ・国連開発の十年
 - ・新国際経済秩序
 - ・ベーシック・ヒューマン・ニーズ(BHN)
 - ・持続可能な開発の思想
- 4 国際協力の変遷(2) 1990年代～
 - ・人間の安全保障
 - ・21世紀の新開発戦略
 - ・包括的開発フレームワーク
- 5 開発課題への取組み(1)
 - ・人間の安全保障と貧困問題への取組み
- 6 開発課題への取組み(2)
 - ・持続可能な開発と地球環境問題への取組み
- 7 国際協力のあり方
 - ・オーナーシップとガバナンス
- 8 日本の援助政策(ODA)
- 9 欧米主要国の援助政策(ODA)
 - ・米国、イギリス、ドイツ、フランス
- 10 国連とNGO
- 11 日本のNGOと欧米のNGO
- 12 政府(ODA)とNGOとのパートナーシップ

【評価方法】

出席状況と最終の課題レポートにて評価する。

【テキスト】

使用しない。毎回プリントを配付する。

【参考文献・資料】

世界銀行・開発金融と環境・人権問題(鷲見一夫著 有斐閣)
ODA大綱の政治経済学・運用と援助理念(下村・中川・斎藤著 有斐閣)
社会開発・経済成長から人間中心型発展へ(西川潤編 有斐閣選書)
日本のODAをどうするか(渡辺利夫・草野厚著 日本放送出版会)
人間開発戦略・共生への挑戦(マプーブル・ハク著 日本評論社)
草の根環境会議・アメリカの新しい萌芽(マークダウイ著 戸田清訳 日本経済評論社)
地球環境対策(堀内行蔵編 有斐閣)
ハンドブックNGO(馬橋憲男・斎藤千広著 明石書店)
NGOとは何か(伊勢崎賢治著 藤原書店)、他